

# 目 次

## 総合教育科目

1. 人文科学関係	3
2. 社会科学関係	3
3. 自然科学関係	4
4. 系列外科目	6

## 語学科目

1. 英語	13
2. ドイツ語	25
3. フランス語	27
4. 中国語	29
5. スペイン語	32
6. イタリア語	35
7. 朝鮮語	36
8. ロシア語	37

## 専門科目

哲学専攻	39
倫理学専攻	45
哲学・倫理学専攻共通科目	51
美学美術史学専攻	55
日本史学専攻	71
東洋史学専攻	77
西洋史学専攻	85
民族学考古学専攻	93
国文学専攻	97
中国文学専攻	105
英米文学専攻	109
独文学専攻	125
仏文学専攻	133
図書館・情報学専攻	141
社会学専攻	155
心理学専攻	171
教育学専攻	179
人間科学専攻	189

全専攻共通科目	201
---------	-----

## 諸研究設置科目

教職課程	229
言語文化研究所特殊講座	230
メディア・コミュニケーション研究所	236
体育研究所設置講座	253
福澤研究センター設置講座	260
外国語教育研究センター設置講座	262
慶應義塾大学在学研修プログラム	265
国際センター設置講座	267
情報処理教育室設置講座	305
知的資産センター設置講座	308
日本語・日本文化教養センター設置講座	310

# 総合教育科目（系列科目）

## I 人文科学関係

### 【04】【93】美術(4)

西洋建築様式史

講師 金山 弘 昌

#### 授業科目の内容：

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドを使用します。

#### テキスト：

特に使用しません。プリントを配布します。

#### 参考書：

- ・『カラー版 西洋建築様式史』熊倉洋介・末永航他. 美術出版社, 1995.
- ・『ヨーロッパ建築史』西田雅嗣編. 昭和堂, 1998.

### 【04】【93】歴史(4)

江戸時代の社会と文化

講師 田原 昇

#### 授業科目の内容：

江戸時代の実像について、政治・経済・文化など、様々なテーマを設定して解説します。授業では、史実を年代順に概説するのではなく、「将軍の家族」「小伝馬町牢屋敷」「山村の暮らし」「江戸の火事」「御家人の生活」など、江戸時代に関する具体的なテーマを取りあげ、活字史料や図版をできるだけ多く提示して、生の江戸時代像を実感してもらえるようにします。

本講義を通じて、江戸時代が約二六〇年間にわたって安定した社会を謳歌し、ついには近代社会の母胎となった理由とは何か、考えてみたいとおもいます。

#### 参考書：

- ・尾藤正英『江戸時代とはなにか』（岩波書店, 1992年, 2800円）
- ・竹内誠・編『徳川幕府事典』（東京堂出版, 2003年, 5800円）

## II 社会科学関係

### 【04】【93】近代思想史(4)

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針谷 寛

#### 授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

#### テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

#### 参考書：

講義の中で紹介する。

### 【04】【93】経済学(4)

「経済学はなぜ必要か」 経済学部 教授 山田 太 門

#### 授業科目の内容：

今日の社会ではほとんど全ての生活が経済取引と関係している。そこで経済とは何かを明らかにするため経済学がどのように形成されているかを説明する。経済学で用いられる用語が一般の言葉とどのよう

に異なるかに注意しながら経済学な基本的な考え方を紹介する。次に経済学が現実の様々な現象を説明するためにどのように応用されているかを公共経済学を例として解説する。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

授業中に指示する予定。

### 【04】【93】法学（憲法を含む）(4)

現代社会と法

講師 松浦 聖子

#### 授業科目の内容：

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の間人は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」という法的人間関係は、現代社会が直面する諸問題と密接な関連がある。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

#### テキスト：

伊藤正巳・加藤一郎編 「現代法学入門」 有斐閣双書  
コンパクトタイプの六法（2005年度版）

#### 参考書：

碧海純一「法と社会」中公新書  
田中成明「法的空間」東京大学出版会

## III 自然科学関係

### 【04】基礎化学(2)(秋学期)

【93】化学(2)(秋学期) 【秋】教授 大場 茂

#### 授業科目の内容：

周期表をみてわかる通り、この宇宙に存在する元素は高々 100 種類にしかすぎません。そのうち、水素 H、炭素 C、窒素 N、酸素 O など特定のものが重要な働きをしています。化学物質は単体と化合物とに分類されますが、化合物の基本単位は一般には分子です。分子中の原子は電子を媒体として結合しています。有機化合物などについて、この原子と原子の結合の様式を端的に表わしたものが化学構造式です。これは化学を語る道具として非常に重要です。この講義の到達ゴールは、化学構造式の意味（原子間の結合様式や分子の立体構造）がわかるようになることです。また、環境問題やエネルギー問題についても解説します。

#### テキスト：

講義では毎回プリントを配布します。

### 【04】【93】人類学(4)

人類の過去・現在・未来

講師 吉田 俊 爾

#### 授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課

題（ヒトの起源と進化，変異，日本人の起源など），日常のトピックスについて解説します。

**テキスト：**

馬場悠男，高山博編：「人類の起源」集英社

**参考書：**

- (1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版
- (2) 片山一道著「古人骨は生きている」角川書店
- (3) 竹原直道編，坂下・藤田・松下・下山著：「むし歯の歴史」砂書房

---

**【04】【93】数 学 (4)**

行動科学における数学 講 師 松 岡 勝 男

---

**授業科目の内容：**

数学は，自然科学，工学はもとより，社会科学，人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで，テーマとしては，

- (1) 現代数学の最も重要な基礎をなし，哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2) 確率論をはじめとして，物理学，工学，統計学，制御理論，学習理論，OR など，非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3) 経済，社会，政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて，適宜選択の上，「行動科学における数学」という立場から講義する。

---

**【04】生命科学概論 (2) (春学期)**

**【93】生 物 学 (2) (春学期)**

命の巧みさを探る — 個体の統一を図る三つの制御システム

**【春】教授 中 島 陽 子**

---

**授業科目の内容：**

…… [転んですりむいたところが化膿して腫れて熱を持ってきて，痛い] といった子供時代の思い出を多くの人が持っているのではないのでしょうか。またその痛いという記憶があるから，痛い目にあわないように努める。もし痛みを感じられなかったらどうでしょう。想像したことがありますか。…

ここに述べたような [感じる] [腫れる] [熱がでる] [記憶する] [行動する] [想像する] ことをしながら，私たちは生きています。一見いやな，熱が出たり，痛かったりということも，制御システムとして個体の維持に機能しています。

一方で，すっかり一般にも定着した遺伝情報分子 DNA，これが私たちの生を規定しているとされています。この化学物質のことがわかれば，私たちのことはすっきり理解できるようになるのでしょうか。

この講義では，この情報分子と，私たちが一つの個体としてのハーモニーを保つための制御系；神経系・内分泌系・免疫系，生命をそれらの関係系として捉えた視点で解説をしていこうと考えています。私たちが特別意識することもなく【生きている】ことのおかげで営まれている生命活動が，いかに巧妙なシステムであるかを感じ取ってもらいたいと願っています。私たちが意識する【自己】の基礎にある，生物学的【自己】へ思いをはせてください。

**テキスト：**

使用しません

**参考書：**

【現代生命科学入門】 小比賀・中島著 慶応大学出版 2001年 2,200円

---

**【04】【93】統 計 学 (4)**

統計的「推定」と「検定」の基礎

教 授 糸 賀 雅 児

---

**授業科目の内容：**

テレビ視聴率の買収問題が報道されたとき，関東地区での視聴率が600世帯のモニター調査にもとづいて算出されていることが明らかに

されました。本当に600世帯程度の調査で，正確な視聴率が分かるのか疑問に思った人も多いことでしょう。

選挙報道では，投票終了後，開票作業が始まって間もなくして「当選確実」が出たりすることがあります。これは，投票所でのいわゆる「出口調査」にもとづくものなのですが，どうして早々と投票結果を予測できるのでしょうか。その精度は，はたしてどの程度のものなのでしょう。

こんな日常生活上のトピックを材料にして，統計学におけるものの見方，考え方を説明します。なかでも，「推定」と「検定」の基本的な考え方と手続きを習得することが主な目標です。統計データをコンピュータ処理するための技法について詳しく解説するわけではありませんので，ご注意ください。

**テキスト：**

P.G. ホーエル著，浅井晃・村上正康訳『初等統計学 原書第4版』培風館，1981年。

---

## Ⅳ 系列外科目

---

**【04】【93】基礎情報処理 (M) (2) (春学期)**

**【春】講 師 池 内 淳**

---

**授業科目の内容：**

Windows，および，主要なWindowsアプリケーションの操作方法について講義と演習を行います。

基本的に，これまでコンピュータにあまり触れたことのないという方を想定して，半期で，パソコンの入門レベルを一通り学習できるようにします。

---

**【04】【93】映画演劇論 I (2) (春学期)**

**【春】商学部 教授 橋 本 順 一**

---

**授業科目の内容：**

日本の時代劇映画を見る。2004年度は春・秋学期ともに活劇（チャンバラ）系の作品を主として扱ったが，今年の前半（春学期）は，非チャンバラ系時代劇を中心に，外国人とりわけ西洋人には理解されがたいと思われる非合理主義的な（日本固有の，というべきか）ドラマツルギーが，いかに日本映画の土壌を豊かにしていたか，また「国際性」を意識し始めた時からいかにそのドラマツルギーが失われていったか，を具体的な作品に即して考察する。なお，秋学期の講義との直接的な関連性はない。

**テキスト：**

特になし。

**参考書：**

『日本映画史』（全4巻，佐藤忠男著，岩波書店）ほか，随時授業で提示。

---

**【04】【93】映画演劇論 II (2) (秋学期)**

**【秋】商学部 教授 橋 本 順 一**

---

**授業科目の内容：**

日本の仁侠映画を見る。現代版チャンバラ映画というべきジャンルである「仁侠」ものを中心に，このジャンル固有のドラマツルギーを考察する。広義の「任侠もの」は『沓掛時次郎』や『関の弥太つべ』のような股旅ものをも含むが，ここではチョンマゲもの（時代劇）に属するものは扱わず，もっぱら明治維新以後の近代日本を背景とする，世間の「裏街道」に生きる人物たちを主人公に据えた作品を通して，正統映画史が冷遇視し目をそむけるこのジャンルに秘められている可能性を考えてみる。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

『日本映画の現場へ』（山根貞男著，筑摩書房，リュミエール叢書3）ほか随時授業で提示。

---

**【04】【93】映画演劇論Ⅲ(2)(春学期)**戯曲の面白さを知る **【春】講師 佐野 語郎****授業科目の内容：**

「劇的なものとは何か。劇的狀況とは…」を考えながら、紀元前の古典劇から現代劇までの代表作数本を対象に、その作品構造を解き明かします。その際、上演された舞台や映画化された作品についてもビデオ上映の機会を設け、より具体的かつ多角的に鑑賞できるようにします。また、創作現場の視点から、映画と演劇のモチーフ・構成・演出の技法の違いを同一の物語を用いて比較対照することでその独自性を考え、さらに、事件史実のドラマ化の例（『アンネの日記』）も紹介します。後半には、戯曲という文学の面白さを理解するために、現代劇の名作1本（『欲望という名の電車』）に時間を掛けてじっくり取り組み、鑑賞能力を高めます。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。文庫本1冊を教材として使用する予定です。

---

**【04】【93】映画演劇論Ⅳ(2)(秋学期)**感動の要因をつかむ **【秋】講師 佐野 語郎****授業科目の内容：**

優れた舞台や映画を観た時の強い感動はどこから来るのでしょうか？まず何よりも私たち自身の内奥に潜んでいるもの、そして劇作家や映画監督などのエネルギーや精神、さらに両者が共有する時代や社会状況にその源が在るに違いありません。この講義では、観客と創作者との関係にも着目しながら、「感動の要因」を探っていきます。まず数人の劇作家や演出家・映画監督の仕事を通して、創作の苦闘と喜びに触れ、さらに、日本および外国の名作映画や舞台のいくつかを選び、その作品の魅力を具体的に味わうために、ビデオ鑑賞もします。また、日本演劇学会／演劇教育プロジェクトにおいて発表した「単位制総合高校における演劇の授業」の実践指導内容を紹介します。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。

---

**【04】【93】ロシア文学(4)**19世紀ロシア文学の名作再読 **講師 沼野 恭子****授業科目の内容：**

あなたはどのタイプでしょうか？ドミートリイ、イワン、アリョーシャ（ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』）？オリガ、マーシャ、イリーナ（チェーホフ『三人姉妹』）？それとも、余計者オネーギン（プーシキン）、虚無主義者バザーロフ（ツルゲーネフ）、悲恋の美女アンナ・カレニナ（トルストイ）？

ロシア文学の名作をもう一度読み返してみましよう。

**テキスト：**

授業時に指示します。

**参考書：**

藤沼貴他『新版 ロシア文学案内』（岩波文庫、別冊2）800円

---

**【04】アラビア語Ⅰ(2)****【93】アラビア語(2)** **講師 ザルイ、マブルーカ**

---

**【04】アラビア語Ⅱ(2)****【93】アラビア語(2)**  
アラビア語入門（文法） **助教授 長谷部 史彦****授業科目の内容：**

アラビア語文法の基礎についてわかりやすく説明します。アラビア文字の書き方から始めます。アラビア語について基礎的な力をつけることが本講義のねらいです。

**テキスト：**

佐々木淑子『アラビア語入門（改訂版）』青山社、2000年（2300円）

**参考書：**

森伸生・山形洋一『アラビア文字の第一歩』国際語学社、1992年（2018円）

---

**【04】イタリア語中級A(2)****【93】特別イタリア語(2)** **講師 堤 康徳****授業科目の内容：**

昨年度まで「特別イタリア語」と称していた科目です。

対象は「イタリア語Ⅱ」既習者。あるいは「初級」または「入門」を履修したのち、使用テキストの未習部分を独習した学生で、とりわけイタリア語以外のロマンス系言語の知識があり、読解への意欲があれば履修可能です。

すでに習得した文法の知識を活かしながら、簡単な文献を講読します。この講読を通じて、イタリアの社会、歴史、文化への関心がさらに広がれば幸いです。

**テキスト：**

プリント

---

**【04】イタリア語中級B(2)****【93】イタリア語(中級)(2)** **講師 ビオンディ、マルコ****授業科目の内容：**

必修科目の「イタリア語Ⅱ」を履修した後、ひきつづきイタリア語との接触を保ち、運用力を維持しておくことを望む学生にふさわしい科目です。

レベルとしては、「初級B」「初級C」に続く会話クラスです。

**テキスト：**

《ESPRESSO》

**参考書：**

イラストいっぱい！イタリア語単語集（白水社）

---

**【04】イタリア語上級(2)****【93】イタリア語(上級)(2)**  
Confronti e lettura（読解と討論） **講師 ビオンディ、マルコ****授業科目の内容：**

必修科目の「イタリア語Ⅱ」で「*Bravissimo!*」を終了した学生、これまでに「中級」「特別イタリア語」を履修したレベルの学生が対象です。社会、文化、時事問題、あるいは文学、映画、音楽、美術などにまつわる幅広い領域のテキストを、まずは読解し、さらに、それに即してイタリア語で討論し、語彙を増やすとともに高度な会話力を身につけることを目指します。

**テキスト：**

プリント

**参考書：**

日本語から引く知っておきたいイタリア語（小学館）

---

**【04】英語インテンシブⅡA(4)** 月曜4限／水曜4限**【93】英語インテンシブⅡ(4)**  
Preparing for TOEFL **講師 高木 眞佐子****授業科目の内容：**

(月) This class will focus on listening and writing aspects of TOEFL. You are required to listen to conversations and lectures in natural speed, and answer the questions associated with them. You are also required to write essays for TWE. It is desirable that you have taken Computer-Based Toefl, or you are planning to do so in the near future.

**テキスト：**

(月)『書く英語・基礎編 書く英語』松本亨(著) 英友社 ¥1,890

【04】英語インテンシブⅡB(4) 月曜4限/水曜4限

【93】英語インテンシブⅡ(4) 講師 星 美 季

**授業科目の内容：**

星：実際に外国で暮らしたり、英語でコミュニケーションを計ろうとする学生を対象に、ティーム・ティーチングにより「使える英語」の習得を目指します。複数のテキストないし教材を使って、読解力を高める一方、語彙・語法に関する増強を行います。TOEFL受験のための準備講座ではありませんが、TOEFL受験を義務とし、TOEFL 210～250点(550～600)を目標とします。

**テキスト：**

初回の授業で提示します。その他各種プリントを配布します。

**参考書：**

初回の授業で提示します。

【04】英語インテンシブⅢA(4) 水曜2限/金曜2限

【93】英語インテンシブⅢ(4)

Intensive English 助教授 スネル, ウィリアム J.

**授業科目の内容：**

This will be a course in English debating, covering a number of issues relevant to the present day in Japan and the rest of the world. Topics will be given each week, which must be researched before debate activities in the classroom.

**テキスト：**

No set text is required for this course, but advice regarding how to research the above topics will be provided on a regular basis. Students will need to keep a notebook/file in which to record their research and notes in preparation for debates.

**参考書：**

Ditto the above, but a good English-Japanese/Japanese-English dictionary will be very useful.

【04】英語インテンシブⅢB(4) 水曜2限/金曜2限

【93】英語インテンシブⅢ(4)

Discussing and Writing About Donald Keene's Autobiography  
講師 ウェブスター, ダニエル

**授業科目の内容：**

Donald Keeneは、もっとも有名なそしてもっとも優れた日本文学の英訳者と言われています。また、日本および日本文化を英語圏の人々へ紹介する事でも第一級と呼ばれるうちの一人です。このクラスでは彼の自伝、On Familiar Terms: To Japan and Back, a Lifetime Across Culturesを読み、それについて書きディスカッションをします。日本の社会や文化また異文化コミュニケーションについて英語で書いたり話したりする力を向上させたい学生には、特に興味を持てるクラスになるのではないかと思います。

**テキスト：**

テキストについては、第一回目の授業の時にお話します。

【04】古典ギリシア語初級(2)

【93】古典ギリシア語(初級)(2) 講師 小池 和子

**授業科目の内容：**

古典ギリシア語の初等文法を学びます。

**テキスト：**

水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)。  
その他適宜補助プリントを配布。

【04】古典ギリシア語中級(2)

休講

【04】現代ギリシア語初級(2)

【93】現代ギリシア語(初級)(2)

教授 西村 太良

**授業の内容：**

現在ギリシアを中心に使用されている現代ギリシア語を初歩から学んでいく。現代ギリシア語は文法、語彙の点で古典ギリシア語を基とするが、発音、語法において違いも多い。東地中海地域の中世以降の複雑な歴史に興味を持つ人、カザンツァキスやセフェリスなどに代表される近現代ギリシア文学に関心のある人、そして単にギリシアを旅してみたい人にもぜひ学んでほしい。

授業はテサロニキ大学の外国人のための現代ギリシア語の教科書を使用して進めていく。語彙がついているので当面、辞書は必要ない。

**テキスト：**

「外国人のための現代ギリシア語」(テサロニキ大学)

【04】現代ギリシア語中級(2)

【93】現代ギリシア語(中級)(2) 教授 西村 太良

**授業科目の内容：**

初級に続いて現代ギリシア語の文法、読解、会話を学んでいく。教科書は初級と同じものを使用するが、随時プリントを配布し、生きたギリシア語に接する機会を設けていきたい。

**テキスト：**

「外国人のための現代ギリシア語」(テサロニキ大学)

**参考書：**

D.N.Stavropouiss: *Oxford Greek-English Learners Dictionary* (Oxford University Press)

【04】スペイン語中級(2)

【93】スペイン語(中級)(2)

ラテンアメリカの文化と社会(講読中級)

助教授(有期) 禪野 美帆

**授業科目の内容：**

この授業はスペイン語Ⅱを修了した学生、もしくはそれと同等の読解力を有する学生を対象とします。これまで得た文法の知識を応用し、おもに読解力を上げると同時に、ラテンアメリカの文化と社会を理解することを目的として、やや難易度の高い新聞や雑誌記事を読みます。折に触れ、書かれていること背景、すなわち、社会事情についても解説します。何回かはビデオも使用します。

教材については第一回目の授業でお話しますが、授業中に配布するプリントが中心となります。

授業は学生の予習が前提となります。また文法に関する宿題も出します。さらに年数回、スペイン語文の和訳およびスペイン語作文のレポートを出します。

成績評価は、おもに年数回の試験およびレポートの成績によりますが、授業中発揮される読解力および文法の理解度も考慮します。出席回数か年間3分の2に満たない場合は、成績評価の対象外とします。

**テキスト：**

なし。コピー教材を使用する。

**参考書：**

授業中に紹介する。

【04】中国語上級(2)

【93】中国語(上級)(2) 講師 陳 浩

**授業科目の内容：**

本講義はビデオ、オーディオ教材を用いて少し高いレベルの中国語会話を学んでいきます。学習者に中国語の社会状況、文化、風土、人情及び中国人の考え方などについて、中国語で議論出来る能力を身につけ、中国の世界を作り、豊富な表現力を養成したいです。

**テキスト：**

開講する時学習者のレベルによって決める。

参考書：  
なし

---

【04】中国語会話 A (2)  
【93】中国語会話 I (2) 講師 小松 嵐

---

**授業科目の内容：**

会話の習得を通じて、中国語の基礎を固め、聞く、話す能力のレベルアップを目指します。

授業時中国語を多く使用し、応対力、表現力を高めるための会話練習も多く取り入れる考えです。

テキスト：  
未定

---

【04】中国語会話 B (2)  
【93】中国語会話 II (2) 講師 蘇 英 霞

---

**授業科目の内容：**

本課程以提高学生の漢語听说能力为主，教学重点在于通过有针对性的训练帮助学习者掌握运用汉语围绕某一话题表达意见，展开讨论或进行辩论的方法。教材拟选用由北京语言大学教师最新编写的汉语会话课本《交流》(下)，课文内容以现代中国人的文化生活与社会问题为主，并根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

テキスト：  
プリント

---

【04】朝鮮語上級 (2)  
【93】朝鮮語 (上級) (2) 教授 野村 伸 一

---

**授業科目の内容：**

本塾文学部の朝鮮語 10 単位を終えたていどの学習者を対象とする。具体的には新聞や論文を自力で読み解けることが前提となる。授業では、映画などの映像資料をみながら、そのシナリオを読む。

テキスト：  
いくつかの映像作品・シナリオのなかから選定する。昨年度は「ラブストーリー」を使用。

---

【04】トルコ語 I (2)  
【93】トルコ語 (2) 初級会話 講師 ヤマンルール, アイドゥン

---

**授業科目の内容：**

初級文法を学習しながらトルコ語の初級会話を修得する。

テキスト：  
プリントを配布します。

---

【04】トルコ語 II (2)  
【93】トルコ語 (2) 教授 坂本 勉

---

**授業科目の内容：**

トルコ語とはユーラシア大陸一帯で広く使われている汎用性の高い言葉である。言語の系統からいうと、日本語もそのグループに入るといわれるウラル＝アルタイ語族に分類され、私たち日本人にはきわめて学びやすい言葉だといえる。この授業ではユーラシアに広く分布するトルコ系諸語のなかでもいちばん西、現在のトルコ共和国において使われている現代トルコ語をまったくの初歩から手ほどきしていく。イスラーム世界の歴史、トルコ民族史、オスマン帝国史に関心をもつ人ばかりでなく広くトルコの文化、言語の関心をもつ人なら誰でも歓迎する。東洋史専攻の二年生にとってはアイドゥン＝ヤマンルール先生担当の文学部設置のトルコ語の授業といっしょに履修すれば必修の第二語学として認められるが、その他の学生にとっては選択科目、自由科目としてとることが可能である。

テキスト：  
初回の授業のときに市販書を買ってもらうか、販売されてはいないテキストをコピーするか決めたい。

参考書：  
とくにないが、授業のなかで必要に応じて指示する。

---

【04】日本語 II A (2)  
【93】日本語第 II (2) 講師 菅野 高志

---

**授業科目の内容：**

ゼミ活動に必要な日本語力を身につけることが目標です。

テキスト：  
特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

---

【04】日本語 II B (2)  
【93】日本語第 II (2) 留学生のための日本語 講師 戸所 久美子

---

**授業科目の内容：**

- ・文学部専攻の学生として、知っておきたい日本の歴史や社会についての知識を身につける。
- ・上記内容の理解、発表、討論等を通して、留学生として必要な日本語能力の習得と向上をめざす。

テキスト：  
担当者作成教材

参考書：  
授業中、適宜指示する。

---

【04】ペルシア語 I (2)  
【93】ペルシア語 (2) 講師 ハギギ, セバンタ

---

**授業科目の内容：**

この授業は初めてペルシア語を学ぶ者を対象とし、ペルシア語の文字、発音から入り初歩的なペルシア語会話の習得を目標とします。実用会話ができるようになるには基本的な文法事項の習得も必要であり、授業の前半は文法、後半では会話の練習を考えています。

テキスト：  
岡崎正孝著 基礎ペルシア語 (大学書林, 4000 円)

---

【04】ラテン語初級 (2)  
【93】ラテン語 (初級) (2) 古典期のラテン語文法学習 講師 平田 真

---

**授業科目の内容：**

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト：  
樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』(研究社)

参考書：  
逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』(大修館書店)

---

【04】ラテン語中級 (2)  
【93】ラテン語 (中級) (2) 法学部 教授 マクリン, ニール B.

---

**授業科目の内容：**

This is an intermediate course, designed to help students already familiar with Latin grammar gain the confidence and skills necessary to master reading continuous texts. Materials will be decided at the start of the course, depending on the interests and level of the participants. Students will translate the Latin into Japanese, but must be prepared to have some explanations given in English (or at least, should not be afraid of the teacher's English or of his peculiar Japanese).

---

【04】ロシア語中級 (2)

【93】ロシア語 (中級) (2)

講 師 佐 野 朝 子

---

**授業科目の内容：**

ロシア語文法をひとつおわり終了した者を対象とするクラスです。文法を復習しながら現代ロシア語を正確に読む力をつけていきたいと思えます。

**テキスト：**

プリントを配布します。

**成績評価方法：**

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

---

【04】【93】研究情報処理 (社会科学) (社会科学) (4)

【04】【93】研究情報処理 (人文科学) (人文科学) (4)

---

休講

---

【04】【93】人の尊厳 (社会と人権) (2) (春学期)

[春] 教 授 関 場 武

教 授 安 藤 寿 康

---

**授業科目の内容：**

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

---

【04】【93】蒐集の科学 (4)

教 授 宮 坂 敬 造

教 授 巽 孝 之

助教授 岡 原 正 幸

助教授 坂 本 光

---

**授業科目の内容：**

人は何かを集めずにはいられない。有形無形を問わず、人は自分を取り巻く世界から次々と何かを選び出し、手元に留めようとする。意図してこれを行えば、それが蒐集の始まりである。芸術作品、歴史資料、科学標本、あるいは思い出のようなものであれ、それらは蒐集者とそれを取り巻く世界との接点の記録であり、蒐集者が手探りで描き出す世界の似姿となる。そして同時に蒐集者自身とその時代の姿、さらには限界をも映し出すだろう。ルネサンス期イタリアでは、メディチ家を始めとする有力者や教皇達が古典古代の美術品を蒐集し、18-19世紀には西欧列強の権勢のもと、地球上の各所から無数の標本・資料が持ち帰られた。前者が近代ヨーロッパの美意識形成に大きな影響を与えたこと、後者が博物学の興隆を支え、その中からラマルクやダーウィンの進化論が形成されたことは、いずれも良く知られるところである。

私たちのオムニバス講座では、2001年度「幸福の逆説」、2002年度「リスクの誘惑」に引き続き、過去2年間に渡り「情の技法Ⅰ・Ⅱ」として情を制御する営みに注目してきた。本年度タイトルにある「蒐集」とは、「情」が「知」と分かちがたく交錯する中で生まれる営みに他ならない。先人の蒐集の成果は、博物館、美術館、図書館といった施設や、辞典、全集、アンソロジーなどの形で、私たちの現在を構成した規定している。しかしこうしたコレクションも、静止したままではいられない。常に変化を強いられ、また同時に新たな蒐集の形

が生み出されているのである。蒐集という営みは、過去にどのようなメカニズムでいかなるヴィジョンを提示してきたのか、その痕跡たる蒐集物は現在にどのような作用を残しているのか、いま行われつつある蒐集はいかなる姿を取りつつあるのか、本年度も各回に塾の内外から講師を招き、蒐集をめぐる多面的な検討を行う。

**参考書：**

巽孝之他編著『幸福の逆説』(慶應義塾大学出版会, 2005)

# 語 学 科 目

## I 英語

【04】英語ⅡA(2) 水曜2限/金曜3限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

〈異文化に学ぶ〉の講読

助教授 足立健次

### 授業科目の内容：

著者はアメリカの高名な文化人類学者ですが、ここに取り上げたテキストは専門的な内容のものではなく、一般向けに書かれた啓蒙書です。決して易しい英文とはいえませんが、これを丹念に読むことがコミュニケーションの問題・マザリングの意義・無文字民族の自然観などについて考える契機になればと思います。

### テキスト：

Ashley Montague, *Humanity Speaking to Humankind* (Asahi Press)

【04】英語ⅡA(2) 木曜1限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

アメリカ短編小説を読み、オースターの映画を味わう

講師 有賀明子

### 授業科目の内容：

前期は、20世紀の代表的アメリカ作家による短編6編を読む。すべてに共通するテーマは「愛」であり、いずれも繰り返し読まれることに耐える傑作、佳作である。単に英文を正確に読みとるだけではなく、歴史的、文化的背景を踏まえたうえで言外の意味を汲み取ることが大切である。

後期は、やはり「愛」がテーマのひとつであると考えられる『ルル・オン・ザ・ブリッジ』の脚本を精読した上で映画を鑑賞する。これは現代アメリカの人気作家ポール・オースターが脚本、監督を手がけた「文学的な」仕上がりの映画である。くずれた俗語表現はほとんどなく、いわば全編が上質な会話教本である。リーディング中心の授業ではあるが、ペアワークなども取り入れてスピーキングの練習も一部行う。

また、季節の行事(ハロウィーンなど)、あるいは注目に値する出来事(昨年度は「イチローの最多安打記録達成」、「中越地震」など)に関する英字新聞の記事を、授業の一部を利用して読む。

### テキスト：

- ・岩元、森田 編注、『愛の珠玉作品集』(朝日出版社, 1984年)
- ・Paul Auster, *Lulu on the Bridge* (松柏社, 2001年)

【04】英語ⅡA(2) 月曜3限/月曜4限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

講師 石田名都子

### 授業科目の内容：

英字新聞や専門紙の記事を主に読みすすんでいきます。言語表現を正確に読みとる他に、paragraph構成や様々なreading strategiesも同時に学びます。取り上げるトピックは、文化、政治経済、環境、福祉、IT、エネルギー、国際協力、スポーツなど多岐にわたり、up-to-dateな情報を扱う予定です。readingの他にトピックに関連したlisteningやwritingも行います。これらの比率はreading関係70%、listening20%、writing10%の予定です。

### テキスト：

第1回目の授業時に指示します。新聞・雑誌からの切りぬき等もプリントにて配布予定。

【04】英語ⅡA(2) 水曜2限/水曜3限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

評論から読むアメリカ

教授 宇沢美子

### 授業科目の内容：

近現代の作家、批評家、歴史家の書いたアメリカ論のなかでも、特に人種を論じたものを中心に読み進めます。論理的な文章を多読し、その論点をまとめ、議論に役立てる練習をします。

### テキスト：

春学期はコピーテキストを使用。

【04】英語ⅡA(2) 金曜2限/金曜3限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

アメリカ短編小説を読む

教授 宇沢美子

### 授業科目の内容：

アメリカの代表的な作家の、代表的ではない面白い作品を選んで読みます。いろいろな文体にふれ、基本的な英語の読解力や理解力をのばすとともに、短篇小説のおもしろさを味わいたい。

### テキスト：

春学期はコピーテキストを使用。

【04】英語ⅡA(2) 月曜1限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

Sherwood Anderson を読む

講師 黒崎真由美

### 授業科目の内容：

1920年代のアメリカ文学を代表するSherwood Andersonの代表作 *Winesburg, Ohio* を読みます。英文の読解力養成が目的であるのはもちろんですが、文学作品としての鑑賞をも心がけます。

### テキスト：

Sherwood Anderson, *Winesburg, Ohio* (Penguin Books)

【04】英語ⅡA(2) 月曜2限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

アメリカ環境文学の古典を読む

講師 黒崎真由美

### 授業科目の内容：

アメリカの生物遺伝学者Rachel Carsonの *Silent Spring* を読みます。この作品は昨今頻りに議論されるようになった環境問題を最も早い時期に論じたものです。精読することによって英文の読解力を養成することが第一の目標ですが、同時にエコロジーや地球環境保護の問題を考えたいと思います。

### テキスト：

Rachel Carson, *Silent Spring* (英宝社)

【04】英語ⅡA(2) 月曜4限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

英文読解

助教授 坂本光

### 授業科目の内容：

論説文を中心に、多様なテキストを読む。文の構成、論理の構成を追いながら、テキストを正確に読み取る練習をする。またテキストの難易度に応じて、速読から熟読まで、柔軟に読み方を選択することも練習する。

### テキスト：

原則としてプリントにて配布する。スタート時のテキストは、Margaret Visser, *The Rituals of Dinner: The Origins, Evolution, Eccentricities, and Meaning of Table Manners* (1991)。学生の要望を取り入れながら、随時テキストを追加・変更して行く。

【04】英語ⅡA(2)	月曜5限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
短編小説読解	助教授 坂本 光

#### 授業科目の内容：

基礎的な学力を身につけたのち、さらに英語の読解力をつけなければ、簡単な文章を大量に読み散らすことと、出来のよい文章を綿密に読むことの双方が必要である。多読の方は他の機会(新聞、雑誌、インターネットのウェブ・ページを読むことなど)にまかせるとして、この授業ではすぐれた短編小説を精読する。それによって英文読解力の向上に努めるとともに、卓越した言語表現を理解することの楽しみを実感する一助としたい。また進度に余裕がある場合には、可能な限り発表形式を取り入れる。

#### テキスト：

現代英国を代表する小説家 A. S. Byatt が編集した短編小説集 *The Oxford Book of English Short Stories* (Oxford University Press, 2002) を中心的なテキストとして用いる。このアンソロジーは作品の選択が秀逸であるだけでなく、編者による序文がすぐれた短編小説論、入門への手引きとなっている。授業中に収録作品を読むだけでなく、夏期休暇中の課題も各自がその中から選ぶことになる(収録作品に関しては <http://www.amazon.co.jp> などでも検索し参照すること)。補助的なテキストは随時プリントにて配布する。

【04】英語ⅡA(2)	月曜3限/月曜4限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
英米評論講読	講師 佐藤達郎

#### 授業科目の内容：

現代の英米評論を精読することで、高度な英語表現の理解をめざしていく。Aldous Huxley の評論を読み進めていく予定だが、適宜専門分野と関連のある評論もとりあげていきたい。一回に約5頁の講読を予定。第一回目の授業で英英辞典について解説するので、予習時の参考にする。

【04】英語ⅡA(2)	木曜3限/金曜5限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
パラグラフ作品	講師 佐藤光重

#### 授業科目の内容：

英語による論文やエッセイなどを作成するのに基礎となる、8種類のパラグラフ(Cause and Effect, Comparison and Contrast, Process and Direction など)の書きかたを練習する。

#### テキスト：

適宜プリントを配布する。

#### 参考書：

- ・ Jimbo Hisatake, and Richard B. Murto, eds., *Paragraphs That Communicate* (MacMillan, 1990).
- ・ John Langan, *College Writing Skills. 5th ed.* (Mcgraw-Hill, 2000).

【04】英語ⅡA(2)	水曜1限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
「現代イギリスの名作を読む」	講師 高津昌宏

#### 授業科目の内容：

John Bayley の *Iris* (1998) を読む。Iris とはベイリーの妻であり、卓越した小説家であった Iris Murdoch のことである。彼女は晩年アルツハイマー病にかかり、夫妻は闘病生活を強いられた。だが、そのなかにあってベイリーは、文章を書くことで精神の安定を保ち、妻への愛を忘れずにいることができた。この書は、闘病の記録であるとともに、アイリスとの出会い、結婚生活を綴った回想録でもあり、何よりもアイリスへの愛の手紙だと言える。こくの有るベイリーの文章を味読していきたい。本年度は夫妻が住んだ家の話を軸に交友関係などを描く第一部6章と7章を読んでいきたい。

#### テキスト：

John Bayley, *Iris: A Memoir of Iris Murdoch* (ABACUS)

#### 参考書：

ジョン・ベイリー『愛のキャラクター』(高津昌宏監訳, 南雲堂フエニックス)

【04】英語ⅡA(2)	水曜5限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
日本人論	講師 立石弘道

#### 授業科目の内容：

グローバルな世界になりつつあるが、その際日本人の特質が外国人とどの点で違っているかを、構造主義的に分析したのが下記のテキストである。著者の単なる感想を述べたエッセイとは違って、研究対象をどのように分析するかというひとつの見本になると思う。

#### テキスト：

*Understanding the Japanese* (金星堂)

#### 参考書：

授業中に適時指示する。

【04】英語ⅡA(2)	水曜4限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
環境問題	講師 立石弘道

#### 授業科目の内容：

21世紀を乗り越えるには、地球環境と人口増も含めた民族問題を解決しなければならない。今年度は環境問題をいかにとらえ、解決するかを、日本より一歩進んだアメリカの現状を通して考察する。

#### テキスト：

*Thinking about the Environment* (マクミラン・ランゲージハウス)

#### 参考書：

授業で必要に応じて指示する

【04】英語ⅡA(2)	土曜2限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
サマセット・モームを読む	講師 千代田友久

#### 授業科目の内容：

この授業ではサマセット・モームの作品を読みたいと思います。英英辞典を丹念にひきながら精読します。辞典は *Oxford Advanced Learner's Dictionary* を使用します。授業に必ず持ってきて下さい。モームの作品に親しむとともに英英辞典を使いこなすことができるようにしたいと思います。

#### テキスト：

未定

【04】英語ⅡA(2)	土曜3限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
ラフカディオ・ハーンを読む	講師 千代田友久

#### 授業科目の内容：

この授業ではラフカディオ・ハーン作品を読みたいと思います。英英辞典を丹念にひきながら精読します。辞典は *Oxford Advanced Learner's Dictionary* を使用します。授業に必ず持ってきて下さい。ハーン作品に親しむとともに英英辞典を使いこなすことができるようにしたいと思います。

#### テキスト：

未定

【04】英語ⅡA(2)	木曜2限
【93】英語第Ⅱ(指定)(2)	
様々なスタイルの文章を読む	講師 中川千帆

#### 授業科目の内容：

小説、童話、学術専門書、*Time* のような雑誌記事などに載せられた多様なジャンルの文章を、Mind, Body, Love, Sexuality という4

つのテーマをもとに読んでいきます。さまざまなスタイルのテキストを精読することで、読解力を高めるとともに、ひとつのテーマをいろいろな角度から考えていくことを学んでいきます。

**テキスト：**

『Prism』（研究社、2001）

**参考書：**

授業中に紹介してゆきます。

---

【04】英語ⅡA(2) 金曜1限/金曜2限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

英文読解と Note-taking — (第2言語習得の背景を知る)

教授 中村優治

---

**授業科目の内容：**

このクラスでは、第2言語習得に関するテキスト及びプリントによる資料を用いた精読を通しての英文読解力の養成と、英語のレクチャーを聞きながら要点をまとめる Note-taking の訓練の2つを目標として授業を展開していきたいと思っています。

**テキスト：**

Rod Ellis, *Second Language Acquisition* (Oxford University Press 1997) 及びプリント配布

---

【04】英語ⅡA(2) 水曜1限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

英文読解と Note-taking — (言語テストの背景を知る)

教授 中村優治

---

**授業科目の内容：**

このクラスでは、言語テストに関するテキスト及びプリントによる資料を用いた精読を通しての英文読解力の養成と、英語のレクチャーを聞きながら要点をまとめる Note-taking の訓練の2つを目標として授業を展開していきたいと思っています。

**テキスト：**

Tim McNamara, *Language Testing* (Oxford University Press 2000) 及びプリント配布

---

【04】英語ⅡA(2) 月曜1限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

英文の読解力の養成

講師 東田敏夫

---

**授業科目の内容：**

人生、文化、コミュニケーション等を題材とした啓蒙的なエッセイを講読する。教材は比較的平明な英文(初級~中級程度)で書かれたものを使用する。授業は訳読形式で行うが、単なる英文和訳ではなく、内容理解を主眼とし文脈の流れを把握しながら、英文を速く正確に理解する訓練をする。

**テキスト：**

未定(現時点)

---

【04】英語ⅡA(2) 月曜2限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

イギリス小説講読

講師 三馬志伸

---

**授業科目の内容：**

Mary Elizabeth Braddon (1835-1915) の傑作ミステリ、*Lady Audley's Secret* (1862) を講読します。

1860年代、イギリスでは Sensation Novels と呼ばれるミステリ小説が大流行しましたが、『白衣の女』『月長石』で有名な Wilkie Collins と並び、Braddon はこのジャンルを代表する作家で、特にデビュー作となった *Lady Audley's Secret* は、当時のベストセラーとなった記念碑的作品です。日本ではほとんど知られていないこの19世紀のミステリの傑作をじっくりと読み進めたいと考えています。

**テキスト：**

Mary Elizabeth Braddon (David Skilton ed.), *Lady Audley's Secret*

(Oxford World's Classics).

**参考書：**

その都度指示します。

---

【04】英語ⅡA(2)

火曜1限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

カルチュラル・スタディーズを通じて読む英語

講師 茂市順子

---

**授業科目の内容：**

カルチュラル・スタディーズの一環として、作家や批評家によって「日常生活」をキーワードに書かれた様々なエッセイや批評を読んでいきます。題材はショッピング・モール、レジャー・パーク、料理からグローバリズムまで幅広いものを扱い、私たちの普段の生活を見つめなおし、テキストを読みこむ練習をしてきます。

英語の運用能力(特に読解と作文)と異文化コミュニケーション能力の養成を目指します。幅広い語彙と多様な文体・英語表現に接することで、柔軟な読解力が身につくようにしていきます。学生の皆さんにはエッセイの課題も与えられ、発表もしていただきます。

---

【04】英語ⅡA(2)

火曜2限

【93】英語第Ⅱ(指定)(2)

ユートピア文学を読む

講師 茂市順子

---

**授業科目の内容：**

本授業では、16世紀から現代に至るまでに生み出された様々なユートピア文学の作品の断片を読んでいきます。また、「ユートピア」をテーマにした映画、絵画、建築などについても触れ、それらについて書かれた批評やエッセイも読んでいきたいと思えます。

英語の運用能力(特に読解と作文)と異文化コミュニケーション能力の養成を目指します。多様な文体・英語表現に接することで、柔軟な読解力が身につくようにしていきます。ならびに、作品の歴史的、政治的、文化的背景も理解していくことを目指します。学生の皆さんにはエッセイの課題も与えられ、授業内での発表もしていただくことがあるかと思えます。

**テキスト：**

本テキストからのコピーをプリントとして配布します。その他にも、補助的なテキストをプリントとして随時追加していきます。

**参考書：**

必要に応じて授業で紹介します。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

---

【04】英語ⅡB(2)

金曜2限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

助教授 足立健次

---

**授業科目の内容：**

英語圏を代表する文芸評論家ジョージ・スタイナーが、BBC テレビで一般向けに行った講演に基づく文章を読みます。この中で、著者は、なぜこの地球上に何千と言われる数多くの言語が存在しているのか、そして将来人類共通の言語が生まれる可能性があるのか、そもそも私たちはそのような共通語を必要としているのか、という疑問を提示しています。この文章を丹念に読み解きながら、今声高に叫ばれている Globalization というものが抱えている問題を言語的側面から考えてみたいと思えます。

**テキスト：**

George Steiner, *The Tongues of Men* (南雲堂)

【04】英語ⅡB(2)	木曜2限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
多様な分野の英文を読む	講師 有賀明子

#### 授業科目の内容：

中級以上の英文を読み、各種の問題を解くことで読むためのスキルを身につけ、読解力の向上を目指すことがこの授業の目的である。

テキストは全12章には、歴史、心理、芸術、科学など多様な分野の英文がエッセイ、物語、詩、インタビューなどの形式で収められている。各章ごとに(つまり分野ごとに)必須語彙の小テストを実施し、関連のある記事を別途配布して学習の成果を確認したい。

また、季節の行事(ハロウィーンなど)、あるいは注目に値する出来事(昨年度は「イチローの最多安打記録達成」、「中越地震」など)に関する英字新聞の記事を、授業の一部を利用して読む。

#### テキスト：

Brenda Wegmann & Miki Knezevic, *Mosaic 1 Reading* (4th edition), (McGraw-Hill, 2002).

【04】英語ⅡB(2)	水曜1限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
中世キリスト教説話を読む	講師 石黒太郎

#### 授業科目の内容：

Charles Swan 訳の *Gesta Romanorum* を精読します。語法に注意しながら、中世の物語を味わいます。

#### テキスト：

Charles Swan, trans., *Gesta Romanorum* (弓プレス)

【04】英語ⅡB(2)	水曜2限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
キリスト教史の講読	講師 石黒太郎

#### 授業科目の内容：

この授業では、簡潔にまとめられたキリスト教の歴史を読みます。教科書の精読を通して、受講生が人文学の英語に慣れることを期待しています。

#### テキスト：

B. D. Tucker. 『キリスト教史への招待』(弓プレス)

【04】英語ⅡB(2)	火曜1限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
英国ファンタジーを読む	講師 伊藤 壘

#### 授業科目の内容：

2005年は昨年までに引き続き、英国ファンタジーの花盛り。その代表的な作家で、昨冬より日本で人気を得たファンタジー映画の原作を読みます。英語は平易ですが、予習が必要になるでしょう。自分の力で一冊読み切ることが出来た時の満足感を是非味わいましょう。

#### テキスト：

Diana Wynne Jones, *Howl's Moving Castle* (London: Collins Voyager, 2000).

【04】英語ⅡB(2)	金曜5限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
	講師 勝村仁子

#### 授業科目の内容：

通訳の訓練を取り入れたリーディングによって、総合的な読解力をつけることを目的とする。ただし、通訳養成を目的とした授業ではない。

#### テキスト：

歴史、自然科学、音楽、美術、時事問題(政治/経済)など幅広い内容のものを、学術論文、専門書、新聞記事などから抜粋して用いる予定であるが、最終的なテキストの決定については、履修した学生の専攻等を考慮する。

#### 参考書：

必要に応じて授業内に紹介します。

【04】英語ⅡB(2)	金曜4限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
日本の「近代」をめぐって	講師 勝村仁子

#### 授業科目の内容：

海外の日本研究者によって書かれた最近の論文の講読。日本の近代史について英語で書かれた文献を読むことにより、自国の歴史について再確認し、英語で日本を語ることについての認識を深める機会を提供することを目的とする。

#### テキスト：

論文のコピーを配付する。

#### 参考書：

必要に応じて授業内に紹介します。

【04】英語ⅡB(2)	木曜1限/木曜2限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
TV News を通して英語のスキルを鍛える	講師 木村和美

#### 授業科目の内容：

この授業ではアメリカ ABC 放送のニュースを教材として、listening を中心に、reading (関連のニュース記事を読む)、speaking (扱ったニュースのトピックについて discussion をする)、writing (そのトピックについて、自分の意見を書く)、oral presentation (更にその意見を皆の前で発表する)などの課題をこなし、英語のさまざまなスキルを鍛えることをめざします。また、時事英語を中心とした語彙の強化もはかり、毎授業の初めに、そのための小テストを行います。後期の後半に教科書が終わったら、ニュースの他に映画・インタビュー・スピーチ・歌などさまざまな、生きた英語に触れる機会も設けます。

原則として授業は英語で行い、日本語を媒体とせず、英語で受信し、英語で考え、英語で発信することを目標とします。

#### テキスト：

- ・Yamane & Yamane, *ABC World News 7* (金星堂 2005)
- ・プリント(授業中に適宜配布します)

#### 参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

#### 質問・相談：

メールにて受け付けます(初回の授業でメールアドレスを教えます)

【04】英語ⅡB(2)	木曜1限
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)	
Traveling the World Learning English while studying about different countries	講師 ゲーリング, リューベン M.

#### 授業科目の内容：

The class will be divided into groups. Each group will choose a country and will have to study that country in depth. You will have to know everything about this country using English sources.

There will be in-class discussions about the country you have chosen. You will then have to talk to the whole class and explain to them what you have learned.

#### テキスト：

Students will bring their own material from magazines, books and the Internet.

#### 参考書：

A good English-English Dictionary; an Atlas.

【04】英語ⅡB(2) 木曜2限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

Poetry in English—Learning Pronunciation—

講師 ゲーリング, リューベン M.

授業科目の内容:

This course is for students who wish to improve their English pronunciation.

We shall be working with one long poem and a number of short poems. This will give the students a chance to perform on a number of occasions.

We shall also write a number of poems in class, so students must be ready to work in class in a creative manner.

テキスト:

The text will be provided by the teacher

参考書:

A good English-English dictionary; a laptop with internet access

【04】英語ⅡB(2) 火曜2限/火曜3限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

Think, Write and Discuss in English!

講師 佐藤理佳

授業科目の内容:

“Are you happy with your English?”

The aim of this class is to help the student enliven his/her English which has been neatly memorized and stored in his/her brain but has not had an opportunity to be practiced in real life yet. We shall try to achieve this aim in a variety of ways, including group discussion, essay writing and speech making.

テキスト:

Roland Hindmarsh, ed., *Liar! and Other Modern Stories* (Cambridge University Press, 1979)

Additional materials will be provided by the instructor.

【04】英語ⅡB(2) 金曜1限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

映画を読む

講師 小路邦子

授業科目の内容:

2000年に没後100年を迎えたオスカー・ワイルドの喜劇 *An Ideal Husband* (1895) を映画化した監督による、完全シナリオを読んでいく。1999年のこの作品はハリウッドに英国旋風を巻き起こした。ワイルドの警句、逆説、批評、機知などに富む台詞や、ワイルド自身とその他の作品を取り込むという趣向をこらし、原作とはまた別の味わいをもつ作品となっている。

作品は1890年代を背景とした英国上流階級の華やかな社交界で、人々の注目を浴びている夫婦の危機とその克服を描いている。夫は清廉潔白な若手の国際政治家で、美貌で賢く潔癖な妻の理想と尊敬を体現した人物である。しかし、夫には妻には知られたくない一つの秘密があった。それを証拠だてる手紙を種に、自分の有利になるような議会演説を求める女性の出現に、秘密を妻に知られまいと苦しむ夫。秘密を知り、理想の崩れ去った妻。この夫婦の危機を救ったのが友人の独身の伊達男であった。

ここでは、理想とは何か、理想を持つということの功罪、理想の相対性と絶対性、夫婦の愛とは、といった普遍的な問題が世紀末の華やかな世界を背景として描かれている。文化論としても面白い作品である。良質の生きた綺麗な英国英語にも接する機会となるであろう。

テキスト:

Oliver Parker, *An Ideal Husband*, based on the play by Oscar Wilde (英宝社, 2001年).

【04】英語ⅡB(2) 金曜2限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

アーサー王伝説の起源をたどる

講師 小路邦子

授業科目の内容:

ブリテンの成り立ちから、アーサー王までの「歴史」を扱った12世紀のジェフリー・オブ・モンマスによる年代記の英訳を読む。原作はラテン語で書かれた「歴史書」として当時のヨーロッパ世界でのベストセラーとなり、大きな影響を与えた。シンペリンヤリア王などの、シェークスピアの戯曲の基ネタになった話も含まれている。そして、何よりも、この書によってマーリンとアーサー王の物語が世に広がるきっかけとなった。

テキスト:

Geoffrey of Monmouth, *The History of the Kings of Britain* (Penguin Classics, 1966).

【04】英語ⅡB(2) 水曜2限/水曜3限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

Understanding and Using Idioms

講師 ゴーリンジャー, アダム

授業科目の内容:

This course will aim at developing students' understanding of and proficiency in using idiomatic expressions. Based on a selection of target idioms, students will participate in comprehension exercises including weekly quizzes and the composition of original sentences and paragraphs to be presented orally in class. To emphasize communication, students will work together in pairs and small groups, to compose and practice dialogs, as well as to review and edit each other's writing and homework.

テキスト:

Helen Kalkstein Fragiadakis, *All Clear! Advanced: Idioms & Pronunciation in Context* (Heinle & Heinle, 2002)

【04】英語ⅡB(2) 水曜2限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

現代イギリスの映画・テレビ台本を読む

講師 高津昌宏

授業科目の内容:

日系英国作家 Kazuo Ishiguro によって平明な英語で書かれた(内容が浅いという意味ではない)映画・テレビ台本を読みたい。脚本はまずは発話されるために書かれたものであるということを入れ、口頭で表現する術も学んでもらえればと思っている。

テキスト:

プリントして配布する

参考書:

授業中に指示する

【04】英語ⅡB(2) 月曜3限

【93】英語第Ⅱ(選択)(2)

Integrated English

講師 竹中弥生

授業科目の内容:

語学は読む、書く、聞く、話す、の四つのスキルを其々バランスよく身につけ、十分な語彙と正しい文法に裏付けられて初めて自由に使えるようになる。この授業では、専門課程で必要となる原書講読のために必要な高度な言語表現の読解力を身に付けると同時に、授業で学んだ表現、単語などを正しい文章(話すときの文章を含む)の中で使えるように、またそれらが使われたときに聞き取れるよう、訓練する。

テキスト:

*New Headway* (Upper Intermediate) (Oxford University Press).

参考書:

---

【04】英語ⅡB(2) 月曜2限  
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)  
International English 講師 ハスケル, デル R.

---

**授業科目の内容：**

This course will focus on a variety of topics related and culture in Asia, Europe, Africa, North, South and Central America, Australia and the Pacific. Students will develop practical communication skills through English speaking, listening, reading and writing activities, focussing on travel and cross cultural studies.

Small group presentations each semester will involve worksheet preparation, presenting information and opinions in English about foreign travel destinations and foreign culture.

**テキスト：**

All material will be provided by the course instructor.

---

【04】英語ⅡB(2) 月曜4限  
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)  
Film Festival 講師 ハスケル, デル R.

---

**授業科目の内容：**

This course will focus on social and political issues presented in English language movies, Class activities will include watching movie scenes, focussing on setting, plot, characters, and themes, discussing relevant social and political issues, and reading movie reviews.

This course will also enable students to develop skills for oral audio-visual presentations using English language movie scenes. Presentation skills activities will include data collection, note taking, worksheet preparation, selecting movie scenes, and developing speaking and listening skills.

Student presentations each semester will involve working with a partner in worksheet preparation, selecting movie scenes, presenting information and opinions by speaking naturally using brief notes, and responding to questions from other students.

**テキスト：**

All material will be provided by the course instructor.

---

【04】英語ⅡB(2) 月曜5限  
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)  
Theme Music 講師 ハスケル, デル R.

---

**授業科目の内容：**

The focus of this course will be popular music from the 1960s to the 2000s, including rock, folk, pop, rap and reggae. We will be listening to the music of many composers, and studying social, political and cultural themes expressed in their songs.

Class activities will include listening, video viewing discussion, and presenting information and opinions in English. We will also be developing presentation skills, including data collection, note taking, worksheet design, and speaking using brief notes.

Student presentations each semester will involve working with partners in selecting a song, preparing a worksheet, presenting information and opinions in English, and responding to questions from other students.

**テキスト：**

All material will be provided by the course instructor.

---

【04】英語ⅡB(2) 金曜1限  
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)  
INTERACTIVE COMMUNICATION  
講師 ベデロ, サイモン

---

**授業科目の内容：**

**AIM & FOCUS**

This course is about interactive communication. The focus of the course is on speaking, listening and presentation. The course also involves debate and group discussions. It is designed to help students improve further their communication skills. At the end of the course, students should be able to hold a conversation in English with confidence and ease.

**METHODOLOGY**

The course is activity oriented. Topics are carefully selected to facilitate interaction among students and to let them feel confident when speaking out or expressing personal ideas.

**テキスト：**

The course has no textbook. A variety of sources will be used and the instructor will provide necessary materials for class activities.

**参考書：**

*Longman's English-English Dictionary.*

---

【04】英語ⅡB(2) 金曜2限  
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)  
EXPRESS YOURSELF IN ENGLISH  
講師 ベデロ, サイモン

---

**授業科目の内容：**

**Aim & Focus**

This course is about expressing oneself in English. The course involves reading, creative writing and multimedia presentation. The aim of the course is to help students improve the way they can formulate and communicate their personal ideas. At the end of the course, students should be able to express personal views with logic and clarity.

**Methodology**

The course follows a step-by-step method. Students learn the various elements of creative writing and multimedia presentation through pre-made samples of writing and other sketches.

**テキスト：**

The course uses a variety of sources. The instructor will provide materials for class activities.

**参考書：**

*Longman's English-English Dictionary*

---

【04】英語ⅡB(2) 火曜3限  
【93】英語第Ⅱ(選択)(2)  
Contemporary Topics to Think About (Reading)  
講師 松原 美智子

---

**授業科目の内容：**

This is a high-intermediate English course in which students will study contemporary topics covering a wide range of interests for all, from social to scientific to humanistic. Although emphasis will be placed on reading, students will also be given an opportunity to practice their listening and speaking skills.

**テキスト：**

Andrew K. English, Laura Monahan English, *North Star: Reading and Writing* (High Intermediate) 2nd Edition (Longman).

Text may be supplemented with additional material when appropriate.

**履修者へのコメント：**

Students will be expected to attend class regularly, be well prepared and ready to participate actively.

[04] 英語 II B (2) 火曜 4 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

Contemporary Topics to Think About (Listening and Speaking)

講師 松原 美智子

授業科目の内容：

This is a high-intermediate English course whose purpose is to improve the students' listening and speaking skills so that they may be better able to express their thoughts in English. Topics chosen will cover a wide range of interest for all, from social to scientific to humanistic.

テキスト：

Tess Ferree and Kim Sanabria, *North Star: Listening and Speaking* (High Intermediate) 2<sup>nd</sup> Edition (Longman).

Text may be supplemented with additional material when appropriate.

[04] 英語 II B (2) 金曜 4 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

British Studies

講師 マラバーン, キース

授業科目の内容：

The field of study is British people and aspects of their culture. The class will practise a range of study skills (such as reading, vocabulary building, listening to short lectures and videos, and note-taking) as they are introduced to British life.

テキスト：

Materials to be provided by the teacher.

[04] 英語 II B (2) 金曜 3 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

Speaking Up

講師 マラバーン, キース

授業科目の内容：

This course looks at contemporary issues both global topics and others closer to home. Many of these topics will be chosen by class members themselves. Students will use all of their language skills, but there will be a clear emphasis on discussion and analysis of the issues. Short comprehension tasks, speaking activities, vocabulary development and project work will form the basis of classwork.

テキスト：

Day & Yamanaka, *Impact Issues* (Longman, 1999).

[04] 英語 II B (2) 木曜 3 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

Oral Traditions in Europe and Americas

(春) 助手 吉田 恭子

(秋) 講師 伊藤 壘

授業科目の内容：

(春) 南北アメリカの口承物語伝統の系譜から、アメリカ原住民の神話・民話・創作文学、北米のほら話、近現代の小説で口承伝統の影響を受けた諸作品 (マジックリアリズムなど) を週一作品のペースで講読する。

(秋) 日本ではほとんど読まれないが、英国で一世を風靡した北欧の伝説集を講読する。リズムカルな英語の昔語りを味わい、朗読する楽しみを学ぼう。物語集に収められているものは、欧州の伝説の中でも特に現代のファンタジー文学や中世文学研究者にも知られ、中世英国にも広まっていた伝説もある。物語の背景についても講しながら学生諸君の理解を深めたい。

テキスト：

(春) コピーテキストを販売する

(秋) George Webbe Dasent, *Popular Tales from Norse Mythology*.

参考書：

(春) 和英辞書, または英英辞書を毎回必ず持参すること。(秋) 講義中に配布するリストを参照。

[04] 英語 II B (2) 月曜 3 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

Essays and Stories

[春] 助手 吉田 恭子

[秋] 講師 高木 眞佐子

授業科目の内容：

(春学期) アメリカ社会・文化のさまざまな側面についてのエッセーを講読する。アメリカの大学一年生向けに編纂された教科書から抜粋されたものなので、大学生にも読みごたえのある内容となっている。読解力, 理解力, レポート構成力, 文章力の総合的向上を目指す。

(秋学期) 英国の短編作家, 児童文学作家としても有名な Roald Dahl を扱う。英国人のユーモア感覚, 皮肉などを理解する上で重要な作家である。授業では発表形式を取り, 毎回数人に要約を発表してもらう。全体で内容についてのディスカッションをしたり, それについてレポートを書いたりすることになる。

テキスト：

(春) 江尻雅一 他編, *Reading American Cultural Myths* (大阪教育図書, 2000).

(秋) Roald Dahl, *The Umbrella Man and Other Stories: 1954 - 59.* (Puffin, 1996).

参考書：

英和辞典または英英辞典を毎回持参すること

[04] 英語 II B (2) 水曜 3 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

Essays and Stories

(春) 助手 吉田 恭子

(秋) 講師 星 美季

授業科目の内容：

(春学期) アメリカ社会・文化のさまざまな側面についてのエッセーを講読する。アメリカの大学一年生向けに編纂された教科書から抜粋されたものなので、大学生にも読みごたえのある内容となっている。読解力, 理解力, レポート構成力, 文章力の総合的向上を目指す。

(秋学期) 毎回授業の前半では, 社会の様々なトピックを扱ったビデオ教材を使い, リスニング, 語彙, 表現などの練習問題をしながら進める。後半は, 医療, 健康, 環境などに関する記事のテキストをベースにしながらリーディングストラテジーを学び, リスニングの向上を目指す。他にタイムやニューズウィークの記事や, 新聞等も補助教材として随時使用する。さらに英語を手段として自己表現を目的とする。パラグラフライティングも勉強する。

テキスト：

(春) 江尻雅一 他編, *Reading American Cultural Myths* (大阪教育図書, 2000).

(秋) 竹内典子 他編, *Close Up on Medical Topics* (三修社, 2000).

参考書：

英和辞典または英英辞典を毎回持参すること

[04] 英語 II B (2) 水曜 3 限

[93] 英語第 II (選択) (2)

Intermediate English

講師 ルイス, エイミー・リタ

授業科目の内容：

This course will focus on helping the student to continue to develop essential, practical skills, which will enable him/her to communicate clearly, concisely, and confidently in English. The course will stress communication skills.

Working in pairs or small groups, students will complete a variety of guided tasks which will center around a specific skill or skills.

教科書：

Textual material will be distributed in the class.

参考書：

suggested: a *thesaurus* (penguin publication).

---

【04】英語Ⅱ上級A(2)	月曜3限
【93】英語上級Ⅱ(2)	
DISCUSSION-Advanced course	
講師 ハスケル, デル R.	

---

**授業科目の内容：**

Students must be able to express themselves clearly and confidently in English to participate in this course. Admission to the course will depend on a self-introduction by each student in the first class. We will be discussing a variety of social, cultural and political topics, which will be selected by students at the start of the course.

Class activities will include video viewing, reading, discussion and exchanging opinions. Students presentations each semester will focus on topics chosen by students using a variety of media, presenting relevant information and expressing opinions.

**テキスト：**

All material will be provided by the course instructor.

---

【04】英語Ⅱ上級B(2)	木曜5限
【93】英語上級Ⅱ(2)	
Advanced English	
講師 ルイス, エイミー・リタ	

---

**授業科目の内容：**

This course provides the more advanced student with the opportunity to reinforce good speech habits, to expand his/her active vocabulary, and to improve his/her ability to express himself/herself clearly and concisely. This will be achieved through a variety of exercises and assignments, including audio-visual recordings, values, clarification, small group discussion, and presentations. Grammar review will be based upon the specific needs of the class.

**教科書：**

*Textural material will be distributed in the class.*

**参考書：**

*Suggested: Thesaurus.* (Penguin Publication).

---

【04】英語Ⅱ上級C(2)	金曜2限
【93】英語上級Ⅱ(2)	
Discussion & Analysis	
講師 マラバーン, キース	

---

**授業科目の内容：**

In this discussion course, video materials consisting of TV and movie extracts as well as recent news articles will form the basis for discussion. Together the class will consider their attitudes and values in relation to a variety of current issues in society. Classroom activities will also include text analysis, vocabulary development and project work. Students will be expected to choose many of the topics for discussion themselves.

**テキスト：**

Course materials to be provided by the teacher.

---

【04】英語Ⅱ上級D(2)	月曜4限
【93】英語上級Ⅱ(2)	
Understanding Drama	
講師 竹中 弥生	

---

**授業科目の内容：**

The ultimate goal of the course is to make students enjoy drama. However, in order to enjoy, one must be able to understand. Therefore, the course will focus on understanding what drama is and how it is made. Each semester, students will read and interpret two to three plays in English (or in English translation) written by world's leading playwrights. The classes will be conducted mainly through class discussion, oral report and group work. Further, students will be required to keep a record of each class to be submitted at the end of each semester.

**テキスト：**

- ・ Sophocles, *Oedipus Tyrannus* Eikoshia (英光社)
- ・ J.B. Priestly, *An Inspector Calls* Seibido (成美堂)
- ・ Other texts will be handed out or indicated during class.

---

【04】英語Ⅱ上級D(2)	金曜3限
【93】英語上級第Ⅱ(2)	
My View	
講師 ベデロ, サイモン	

---

**授業科目の内容：**

**Aim & Focus**

This course is about English communication strategies. The course is designed to help students improve the way they can formulate and argue their personal ideas in English. The focus of the course is on reading, writing and presentation. By the end of year, students will have acquired the skills that are necessary to express personal views with logic and objectivity.

**テキスト：**

The course has no textbook. The instructor will provide materials for class activities. Various sources will be used. They include news articles, documentaries and other video clips.

**参考書：**

*Longman's English-English Dictionary*

## Ⅱ ドイツ語

---

【04】ドイツ語ⅡA(2)	金曜5限
【93】ドイツ語第Ⅱ(2)	
「肖像」を読む	
講師 三ツ石 祐子	

---

**授業科目の内容：**

この授業では、ドイツ語の初級文法をひととおり終えた学部2年生を対象として、「肖像」をキーワードとして集めた、複数のテキストを読んでいきます。言葉というマテリアルを駆使しながら、作家たちはどのように人物を表現しているか？また、そこに描かれている人物は、どのような問題を提示しているのか？このようなことを一緒に考えながら、参加者がそれぞれ自分なりに、作品解釈の切り口を見つけてくれればと、願っています。

**テキスト：**

開講時に教室で配布します。

**参考書：**

必要に応じてコピーを配布します。

---

【04】ドイツ語ⅡB(2)	木曜3限
【93】ドイツ語第Ⅱ(2)	
講師 細井 直子	

---

**授業科目の内容：**

ドイツ人の生活を「ゆりかごから墓場まで」、すなわち誕生・学校・若者の余暇の過ごし方・職業・結婚・家族・男女の家事分担・老後の問題等、15のテーマに分けて紹介したテキストを使います。ごく平易に綴られた文章が、「ドイツ人ってどんな人たちなんだろう？どんなふう暮らしているんだろう？」といった基本的な関心に答えてくれるでしょう。

必要に応じて文法の確認を行い、練習問題等を取り入れていきます。

授業では通常の和訳の他に、あらかじめ分担を決めてテキストの一部を読み、内容を報告してもらうことも考えています。

**テキスト：**

Andrea Raab, 石井寿子著：Deutschland im Laufe des Lebens 「ドイツ人の一生」(朝日出版社), 2001年, 1900円

【04】ドイツ語ⅡC(2) 金曜4限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
ドイツ理解 講師 渡邊直樹

授業科目の内容：

今日のドイツについて地理、歴史、政治、経済、社会、文化、衣食住等のテーマを通して理解することを目的とします。

受講者全員と協力して実りある授業にするために、またドイツ語読解力が向上するよう努力します。

テキスト：

こんにちは！ドイツです。(Kennen Sie Deutschland?) 朝日出版社

質問・相談：

適宜応じます

【04】ドイツ語ⅡD(2) 金曜1限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
短編小説を読みましょう 講師 渡邊徳明

授業科目の内容：

初級文法を学び終えた皆さんと一緒に中級読本を読み進めてゆきます。テキストは、『マリー・アントワネット』などの人物伝によって世界的に有名なウィーン出身の作家シュテファン・ツヴァイク(1881-1942)の短編小説集の教科書版を用います。この教科書用テキストはデンマークの教科書会社とドイツの教科書会社大手Klett社との提携で作られており、原文に適宜の変更が加えられ、現代の学生にも比較的読みやすくなっています。それでいて、オリジナル本来の繊細な人物描写や、ユーモアと情緒を感じさせ、同時に知らず知らず読者を惹きつけるスピード感ある筆致も極力損なわれぬよう配慮されています。ですから、とりえず基本的な中級ドイツ語知識の習得を目指す皆さんにとっても、あるいは近々独力で本格的な小説を読みたいと意気込む皆さんにとっても、有益なテキストと言えましょう。

テキスト：

Stefan Zweig: Novellen (国外の出版社のものなので、手配に時間がかかる場合は、はじめのうちコピーを使用するかもしれません)

参考書：

必携 ドイツ文法総まとめ(中島・平尾・朝倉, 白水社)

【04】ドイツ語ⅡE(2) 月曜1限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2) 講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

日吉で習得したドイツ語を基礎に、単語・会話力のアップを目指します。授業中にさまざまなシチュエーションを想定して、会話のパターンを練習し、それに必要な文法も復習します。言うまでもありませんが、単語を知らないと話せませんので、毎回新しい単語を覚える必要があります。積極的な参加を求めます。宿題も出ます。

テキスト：

未定

【04】ドイツ語ⅡF(2) 金曜3限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容：

「Konversation」

Auf der Grundlage von landeskundlichen Materialien (Texte, Fotos, Audiokassetten) werden Übungen zur Ausdrucksfähigkeit, zum Hörverstehen und zur Grammatik angeboten. So sollen mit dem Lernen von Sprache zugleich auch Einblicke in die Alltagskultur, in aktuelle Themen und Probleme der deutschsprachigen Länder (Deutschland, Österreich, Schweiz) vermittelt werden.

テキスト：

プリント

【04】ドイツ語ⅡG(2) 水曜3限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
ハイネの詩による歌曲 講師 内田俊一

授業科目の内容：

ハイネ(Heinrich Heine 1797-1856)の詩をテキストにしたドイツ歌曲を鑑賞し、その詩を原語で精読します。

シューベルトやシューマン、メンデルスゾーンといった作曲家が活躍した19世紀前半は、ドイツ歌曲の黄金時代でした。詩人として、この時代を代表する人物は、なんとといってもハイネでしょう。「ローレライ」や「歌のつばさ」をはじめとして、シューマンの歌曲集『詩人の恋』や『リーダークライス』等に収められたハイネの詩による歌曲を順次取り上げ、CD等を使用して鑑賞しながら、詩を読んでいきたいと思えます。

この時代に歌曲が盛んに作られたのは、ドイツ語の詩による歌曲こそが、ドイツの国民文化の礎となるという発想があったからですが、その詩を代表する人物は、実はユダヤ人だったのです。

なお、ハイネの詩による有名な歌曲を一通り終えたら、ゲーテの詩による歌曲を取り上げる予定です。

テキスト：

志田他編『歌のつばさ 第3集(詩人の恋)』(第三書房, 1000円)

【04】ドイツ語ⅡH(2) 水曜4限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
ドイツ語の歌を歌ってみよう 講師 内田俊一

授業科目の内容：

ドイツの民謡や簡単な歌曲を鑑賞し、歌詞を原語で読み、できれば歌ってみたいと思えます。

ドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聞けば、ああ、あの曲かとわかるでしょう。

また「野ばら」や「菩提樹」、「ローレライ」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は、誰でも知っているでしょう。

そのような歌の数々を、CDやテープ、ビデオ等を使って鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしたいと思えます。取り上げる曲については、なるべく受講者の希望に添いたいと思っています。アンケートをとって、要望のあったものは、可能な限り取り上げるつもりです。

テキスト：

志田他編『歌のつばさ 第2集(歌曲編)』(第三書房, 800円)

【04】ドイツ語ⅡI(2) 木曜5限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
ベルリンの若手作家の作品を読む 講師 板倉 歌

授業科目の内容：

東西ドイツ統一後に頭角を現してきたベルリン在住の若い作家達の作品(短編小説・エッセー)をとりあげます。彼らの描くベルリンの日常生活や文化に注目したいと思います。作品は比較的平易なドイツ語で書かれています。文法事項を確認しながら読み進めます。

テキスト：

その都度指示します。

【04】ドイツ語ⅡJ(2) 月曜2限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)  
明治時代の日独、及び恋愛の情念について考える  
講師 鷗殿博喜

授業科目の内容：

ドイツ語テキストを読みながら、説明文、独白、会話表現など、多様なドイツ語に触れる。テキストが森鷗外の『舞姫』の映画シナリオなので、19世紀後半の日本とドイツ(ベルリン)の文化、風俗も学

ぶ。

テキスト：

『舞姫』朝日出版社

【04】ドイツ語ⅡK(2)

木曜4限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)

クライストの美学

講師 川島 建太郎

授業科目の内容：

クライストのエッセイ形式による美学論文『マリオネット劇場について』を読む。ハインリヒ・フォン・クライストは、ドイツにおける古典主義・ロマン主義期の作家である。原文を精読することに重点を置くので、ドイツ文学の最隆盛期の文章を味わっていただきたいと思う。ドイツ語Ⅰで学習した初級文法の知識を、各自が文章読解の実践において活用できるようになることを授業の目的とする。初級文法を復習しつつ、着実なテンポで進むつもりである。クライストは文法的な端正なドイツ語を書く作家なので、上記の趣旨に合っているはずである。

クライストのテキストは当時の文学のメインストロームからは逸脱し、激しい情念、狂気、夢遊状態、奇跡、カタストロフフィーを横断する。人間の踊り手に対する人形の優位を説く『マリオネット劇場について』もまた、シラーの観念論的美学を踏まえつつ、それに収まりきれない問題を多く内包している。そのようなクライスト美学の単独性は、ディコンストラクションやメディア論など、20世紀の「理論」によって盛んに論じられている。それらについても授業の中でおりにふれて紹介するつもりである。

テキスト：

初回にコピーを配布する

参考書：

マンフレート・シュナイダー「時空のゲヴァルト クライストの光学メディアと戦争劇」、マンフレート・シュナイダー『時空のゲヴァルト 宗教改革からプロスポーツまでをメディアから読む』、前田良三・原克・高木葉子訳、三元社、2001年、102-128頁に所収。

【04】ドイツ語ⅡL(2)

月曜1限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)

ドイツ語圏の現代を学ぶ

講師 鷓殿 博喜

授業科目の内容：

ドイツ語テキストを読みながら、ドイツ語圏の宗教、民族、環境について学ぶ。テキストの内容についてはできる限りの説明を行い、また文法の理解も深めたい。

テキスト：

『テーマで学ぶドイツ語圏の社会』白水社

【04】ドイツ語ⅡM(2)

金曜2限

【93】ドイツ語第Ⅱ(2)

講師 津崎 正行

授業科目の内容：

この授業では、初級文法をひとつおろし学び終えた学生を対象として、ドイツ語で書かれた文章を読んでいきます。主に、現在のドイツや日本に関する時事的なテキストを扱います。

テキスト：

最終的には参加者の希望も聞いたうえで決定しますが、今のところ『Neuigkeiten aus Deutschland '04』(朝日出版社)を使うことを予定しています。さほど長くない文章が多数収録されたアンソロジーなので、その中から参加者の専攻分野に近いもの、興味や関心を持ちやすいものを選んで読みたいと思います。

参考書：

必要に応じて紹介し、コピーを配布します。

【04】ドイツ語ⅠD(初級)(2)

月曜5限

【93】ドイツ語(初級)(2)

講師 中村 仁

授業科目の内容：

この授業では、初級文法の学習を通して、易しいドイツ語の文章を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりできるようになることを目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

### Ⅲ フランス語

【04】フランス語ⅡA(2)

【93】フランス語第ⅡA(2)

教授	小倉 孝 誠
助手	岑村 傑
講師	阿部 静子
講師	泉 邦寿
講師	岩崎 洋介
講師	篠原 洋治
講師	高橋 俊幸
講師	鳥居 珠江
講師	細貝 健司
講師	松村 剛子
講師	真屋 和子
講師	宮崎 康子

授業科目の内容：

フランス語ⅡAは、全クラス共通教科書を用います。まず、各課の冒頭には1年次で既に学習した文法事項がまとめられていますので、練習問題を活用しながらその定着を目指します。課の後半では、様々なジャンルの文章を基に「聞き取り」、「発話」、「読解」、「和文仏訳」、「作文」の練習を行って、実践的なフランス語感覚を磨きます。一年の終わりには、堅実な基盤の上に中級以上の実力が積み上げられて、「もっとフランス語を喋りたい」、「もっと読め、もっと書けるようになりたい」、「さらに上級を目指して勉強を」という気持ちが芽生えるはずです。

テキスト：

*Clique! Cliquez!* (中村敦子・加藤行男著、第三書房)。各自生協で購入してください。

【04】フランス語ⅡB(2)

木曜3限

【93】フランス語第ⅡB(2)

映画のシナリオを題材として、フランス語の日常会話表現を学ぶ

講師 阿部 静子

授業科目の内容：

日常使われているフランス語の会話表現を、映画のシナリオを通して学ぶ授業です。日本では遅れて評価されたヌーヴェル・バーグの監督、エリック・ロメルが描いたパリやヴァカンスの土地での恋愛模様や哲学的な会話を、映画のビデオを見ながらシナリオで追っていきます。

更に、こうして学んだフランス語を使って自分で表現する発表の機会も授業に盛り込んでいく予定です。

テキスト：

プリントを使用します。

【04】フランス語ⅡB(2)

水曜1限

【93】フランス語第ⅡB(2)

講読とリスニング

講師 泉 邦寿

授業科目の内容：

文法の確認と練習をしつつ、いろいろな種類のテキスト(歌を含

む)を読む予定です。発音, 読み方, リスニングの練習も合わせて行います。

テキスト:

未定 (プリント配布も視野に入れて考慮中)

参考書:

授業中に指示します。

---

【04】フランス語 II B (2) 月曜 3 限  
【93】フランス語第 II B (2) 講師 岩崎 洋介

---

授業科目の内容:

2004 年の主にフランス国内でのニュース記事のリライトを読みます。フランス社会を多角的に知る一助にもなりましょう。

テキスト:

「ヴァリエテ・フランセーズ 2005」(朝日出版)

---

【04】フランス語 II B (2) 金曜 5 限  
【93】フランス語第 II B (2)  
ボードレールの「散文詩抄」を読む  
講師 亀谷 乃里

---

授業科目の内容:

Charles Baudelaire (1821-67) の二大詩集のうち *Spleen de Paris* の題で親しまれている詩集を読みます。初級文法を終わってすぐに読める散文詩を選びました。現代性 (modernité) を象徴する美しいフランス語に触れてみましょう。Léo Ferré のシャンソン, *L'Etranger*, *L'Invitation au voyage* も聴きます。

テキスト:

山内義雄編「ボードレール散文詩抄」第三書房, 2002 年, 1200 円

---

【04】フランス語 II B (2) 水曜 4 限  
【93】フランス語第 II B (2)  
講師 シャルコフ, スヴェトラナ

---

テキスト:

Je lis, tu lis et j'écris, マルチヌ・カルトン, 西陽子 Daisan-Shobo, (第 3 書房)

---

【04】フランス語 II B (2) 火曜 3 限  
【93】フランス語第 II B (2) 講師 藤村 均

---

授業科目の内容:

主要な文法事項の修得, 基礎的な読解力の養成を目指します。将来フランス語の文献を読む者には, 特に有益だと思われます。

テキスト:

Bien Venue — 素顔のフランス—ヴァリエテ  
エヴリンヌ中村, 青山社 (1260 円)

---

【04】フランス語 II B (2) 木曜 5 限  
【93】フランス語第 II B (2) 講師 ボダン, エマニエル

---

授業科目の内容:

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

テキスト:

プリント

---

【04】フランス語 II B (2) 月曜 2 限/月曜 3 限/月曜 4 限  
【93】フランス語第 II B (2)  
TAXI2 講師 ペリセロ, クリスティアン・アンドレ

---

テキスト:

TAXI2  
ISBN 2011 552 370

---

【04】フランス語 II B (2) 金曜 3 限  
【93】フランス語第 II B (2) 講師 真屋 和子

---

授業科目の内容:

シャルル＝ルイ・フィリップの短編集を読みます。春学期は教材用テキストを用い, 文法説明を加えながら, ていねいに読みます。秋学期以降はプリントコピーによって, できる限り多く, フィリップの美しい文章に触れます。正しいフランス語の発音を身につけられるよう矯正しますが, 同時に, 聴く練習も行います。文学作品を精読することから入り, 話す, 聴く, 書くなど総合的な基礎力が身につくよう目指します。

テキスト:

Charles-Louis Philippe: *Contes* 『フィリップ短編集』田島宏編 (白水社, 850 円)

---

【04】フランス語 II B (2) 水曜 4 限  
【93】フランス語第 II B (2)  
フランス語の読解力をつける 講師 宮崎 康子

---

授業科目の内容:

初級文法の復習から始めて, より高度な文法事項を習得した後, 易しい詩や簡単な新聞記事を読むことから始めて, 文学作品の抜粋の講読へと進みます

テキスト:

プリント教材

参考書:

フランス語の練習帳 朝日出版社

---

【04】フランス語 I D (2) 木曜 5 限  
教授 鷲見 洋一

---

授業科目の内容:

履修者は, この科目の単位をとらないと, 3 学年に進級できない人達です。

この束縛を逆手にとり, 神から例外的に恵まれた「特権」と信じて, 頑張ってみようではないか。1 年間で, とりあえずフランス語文法の基本をきっちり身につけて貰います。

テキスト:

『フランス語の基本ルール』(駿河台出版社)

参考書:

最初の時間に辞書などを紹介する。

## IV 中国語

---

【04】中国語 II A (2) 水曜 3 限/水曜 5 限  
【93】中国語第 II (指定)(2) 講師 阿部 順子

---

授業科目の内容:

この授業の主な目標は, 1 年次の学習事項をふまえ, 更に中国語の読解・聴きとり・表現などにおける応用力を培っていくことです。

教科書の本文は, 会話モデルではなく, そう長くはない文章です。各課のテーマは, 自己紹介, 自分の大学, 日常生活, 友人, 趣味, 中国の文化・伝統的風習など多岐にわたっています。本文の後ろには, 常用表現の例文, ヒヤリング用・会話用の練習問題が付いています。

つまり、本文である文章によって朗読力と読解力を、常用表現の例文、ヒヤリング・会話練習問題によって会話能力を培うことができる構成になっています。

テキスト：

洪潔清・劉郷英著「听听說說」(白帝社, 2004年, 2500円)

---

【04】中国語ⅡA(2) 月曜5限

【93】中国語第Ⅱ(指定)(2) 講師 池澤 滋子

---

授業科目の内容：

授業はテキストに沿って1年学んだ重要な文法事項の復習と、自然なスピードの中国語を聞き取る訓練を中心に進めます。適宜プリントを配布し、作文や文法の練習問題を補う予定です。また課文については正しい発音で流暢に読むことができるよう訓練を行います。1課終了するごとに、その課で学んだ表現と単語の定着をはかるため、小テストを実施する予定です。

テキスト：

中国語中級テキスト 听听說說

---

【04】中国語ⅡA(2) 水曜4限

【93】中国語第Ⅱ(指定)(2) 講師 伊藤 晋太郎

---

授業科目の内容：

この授業では、一年次における学習内容の定着を進めながら、それらを正確に駆使して自ら中国語で表現する力を養うことを目標とします。具体的には、単純な反復練習の繰り返しによって中国語の組み立て方を身につけていきます。文法・作文が中心となりますが、適宜、文章読解や中国の歌の紹介なども織り交ぜていく予定です。

テキスト：

董燕・遠藤光暁『書く中国語』朝日出版社

---

【04】中国語ⅡA(2) 金曜5限

【93】中国語第Ⅱ(指定)(2) 講師 小沢 千代子

---

授業科目の内容：

現代中国の諸事情を会話文で、話し言葉の学習を中心にします。随時人民日報から最新ニュースも提供し、興味を深めると共に、文法練習問題を行います。

テキスト：

「新訂版 現代中国 走馬看花」(朝日出版社) 2000円+税。2003年4月1日発行。

参考書：

「whyにこたえるはじめての中国語の文法書」相原茂 同学社

---

【04】中国語ⅡA(2) 火曜4限/火曜5限

【93】中国語第Ⅱ(指定)(2) 講師 高橋 幸吉

---

授業科目の内容：

一年次に学習した内容の定着を図るとともに、より多くの表現と語彙を学習していきます。教科書は会話と読解が交互に載っていますので、バランスの良い中国語力の向上を目指します。教科書は中国を紹介する内容のもので、これを中心としながら、適宜プリントや映像資料を用いて中国に対する理解を深めたいと思います。

テキスト：

小川郁夫『中国を知るための中国語中級テキスト』(白帝社)

---

【04】中国語ⅡA(2) 火曜2限/火曜3限

【93】中国語第Ⅱ(指定)(2) 助手 吉永 壮介

---

授業科目の内容：

会話・作文の基礎となる表現力の習得を目標とします。発音や、初級で学習した文法事項を確認しつつ、類義表現のニュアンスの差を理解し、自分の伝えたい内容によりふさわしい表現ができるよう学習します。

テキスト：

董燕/遠藤光暁『書く中国語』(朝日出版社)

---

【04】中国語ⅡB(2) 月曜5限

【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 袁 英明

---

授業科目の内容：

会話練習とヒヤリングを中心に進めます。初級会話・文法の基礎の上に立ち、呼応表現を身につけ、語彙の増強と活用などにより、口語表現力および応用力を高めます。

テキスト：

『話す中国語北京篇3』董燕/遠藤光暁 朝日出版社

---

【04】中国語ⅡB(2) 木曜3限

【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 小川 隆

---

授業科目の内容：

文章の精読を行います。読解を進めながら初級文法の復習と中級以上の文法・文型の学習、および文脈把握力の習得を旨とします。教材は中国の新聞から採られた短い読み物で、ピンインと語注が附されています。教科書用に作られた文章ではないので難しいところもありますが、いかにも中国語らしい活きいきとした表現にであえます。

テキスト：

董紅俊《当代中国雑文集》(白帝社)

参考書：

初回に辞書の紹介をします。(電子辞書の中国語辞典は用例・文法説明が乏しく、あまりおすすめできません。)

---

【04】中国語ⅡB(2) 木曜4限

【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 小川 隆

---

授業科目の内容：

文章の精読を行います。教材は主に80年代(いわゆる「新时期」)の文学作品の抜粋で、ピンインと語注が附されています。作品の中からごく短い一段を切り取って来たもので、本物の文学作品ならではの精彩ある表現に目をみはられます。読解の作業を通じて、初級文法の復習、中級の文法・文型の学習、および文脈把握力の養成を旨とします。

テキスト：

牧田・楊《新選中国現代文》(同学社)

参考書：

初回に辞書の紹介をします。(電子辞書の中国語辞典は用例・文法説明が乏しく、あまりおすすめできません。)

---

【04】中国語ⅡB(2) 木曜5限

【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 呉 敏

---

授業科目の内容：

中国語の初級学習を終えた学生に対して、会話を中心に授業を行う。中国文化や社会現状に迫りながら、実用的な語彙とセンテンスを増やし、言葉の聞き取る力を育てる。また自分の意思を伝えるため、習った文を活用できるように学習を進めたい。これは本講義の目標です。

「生きた」中国語を気楽に学べるように北京で留学している日本人学生の見聞(ノミの市、映画学院あれこれ...)を教科書にする予定。

授業は主として中国語で行う。時には授業内容に応じるビデオを鑑賞。問答法のほか、グループに分けて対話や討論・ロールプレイといった方法を利用して授業の活発化をはかる。

テキスト：

話す中国語(北京編3) 著者:董燕/遠野光暁 朝日出版社 ¥2500(CD付き)

---

【04】中国語ⅡB(2) 金曜5限  
【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 趙 暉

---

**授業科目の内容：**

テキストは会話中心となっているが、充実した文法内容がおりこまれているので、その特徴を生かして、この講義を受講することによって会話をより高めると同時に、作文もより自由に書けるようになることが、本講義の目標です。

**テキスト：**

塚本慶一監修 劉穎著「2年生のコミュニケーション中国語」白水社

**参考書：**

小学館『日中辞典』(2003年版)(電子辞書の使用も認めます)

---

【04】中国語ⅡB(2) 火曜4限/火曜5限  
【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 林原千晶  
多聴多説

---

**授業科目の内容：**

聴解能力を高めるといのは、どういうことでしょうか。

聴解能力は聞く回数に比例するというものではありません。

声に出して読む“速読”(最終的には中国人並みの進度で)を重ねることによって効率よく習得できるものなのです。

本講座は(1)中国映画を教材にする(2)毎回選んだ名文の朗読(速読)暗誦という二本の柱をたてて、聴解能力の向上をめざします。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。

---

【04】中国語ⅡB(2) 火曜3限  
【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 松下淑子

---

**授業科目の内容：**

中級中国語の第一歩として、文法システムに沿って応用を展開していく。会話形式のテキストを使用する。既習の文法や文形を復習しながら、新たなフレーズを覚え、中国語の円滑なレベルアップをはかる。

また、中国旅行などを中心に、いろいろな場面設定をして、授業の中で多くのグループ会話を行う予定。活発な授業を行いたいので積極的に質問したり、会話練習に取り組んでほしい。

**テキスト：**

「中国を歩こう」金星堂 陳淑梅・蘇明著

**参考書：**

授業中に提示

---

【04】中国語ⅡB(2) 金曜4限  
【93】中国語第Ⅱ(選択)(2) 講師 山下 一夫

---

**授業科目の内容：**

ビデオ教材を用い、会話表現を学びながら、中国語の運用能力を養ってゆきたいと思います。

ディクテーションのほか、暗唱や短劇など、口頭での練習も行いますので、授業には積極的な参加が求められます。

**テキスト：**

初回の授業で提示します。

**参考書：**

初回の授業で提示します。

---

【04】中国語Ⅱ上級A(2) 水曜5限  
【93】中国語第Ⅱ(上級)(2) 講師 道上知弘

---

**授業科目の内容：**

やや高度な中国語会話のテキストを読みながら「中国語らしい」表現を身につけてゆくことを目指します。会話表現を豊かにするとともに、その骨格となる中国語文法概念も同時に学んでゆきます。

受講者にはあらかじめ基礎的な文法知識や語彙力が求められます。

授業初回時に指定する参考書の中から各自適宜を選んで熟読してください。

**テキスト：**

潘建華編著『漢語口語習慣用語教程』北京語言大学出版社

**参考書：**

随時指示します。

---

【04】中国語Ⅱ上級B(2) 木曜4限  
【93】中国語第Ⅱ(上級)(2) 講師 胡 志 昂

---

**授業科目の内容：**

中国で話題になった最近の新聞記事や小説などを取りあげて精読する。受講者の読解力の向上と異文化に対する理解を深めるのが目的。

**テキスト：**

プリントを使う

---

【04】中国語ⅠD(2) 水曜4限  
【04】中国語初級(2)  
【93】中国語(初級)(2) 講師 表野和江

---

**授業科目の内容：**

初級文法を学習します。覚えた文法を用いて会話・作文の反復練習を行い、定着を目指します。

**テキスト：**

スリム版 初級会話テキスト 表現する中国語(楊凱榮・白帝社)

**参考書：**

Why?にこたえるはじめての中国語の文法書

## V スペイン語

---

【04】スペイン語ⅡA(2) 金曜5限  
【93】スペイン語第Ⅱ(2) 教授 坂田幸子  
絵画を“読む”

---

**授業科目の内容：**

スペイン絵画と関係のある様々なテキストを読むことによって、読解力の向上をはかる講義の授業です。

スペイン絵画の名作を取り上げ、その絵に関する各種テキスト—作品解説、画家の伝記、文学作品の抜粋や歴史記述の断片など—を読むことにより、その絵画に描かれた世界への総合的アプローチを試みます。

**テキスト：**

プリント教材を使用

---

【04】スペイン語ⅡB(2) 金曜4限  
【93】スペイン語第Ⅱ(2) 講師 宮前安子  
スペイン語講読(中級)

---

**授業科目の内容：**

初級文法の学習を一通り終えた2年生以上の受講者を対象に講義に力を入れるクラス。スペイン語文献を通じて、スペインの文化、具体的には歴史を知ることに主眼をおく。原書講読に近いクラス。今年度は『ドン・キホーテ』の初版発刊から400年にあたり、スペインでは16世紀末から17世紀はじめの時代を対象としたさまざまな文化的行事が予定されているので、こうした時代を理解出来るテキストを選択の上、皆さんと共に読もうと思っている。絵画のカラーコピーやアップ・トゥ・デイトなビデオ録画など、ビジュアル面も取り入れて時代や社会背景の読みを中心に、スペインの歴史理解の一助になるようなクラスとなれば幸いである。受講者がスペインの歴史、文化に興味をもち、積極的にクラスに参加するように視覚的にも努力するつもりである。本クラスの主要目的は読解による理解力を高めることにあるから、受講者には辞書を多に活用していいいな予習は必須である。なるべく講師、学生の双方向の交流のあるクラスを目指したい。

### テキスト：

開講時に配布するがコピー（カラーコピーなどを使う場合には実費を徴収することを承知願いたい）。

### 参考書：

使用辞書は現代スペイン語辞典（白水社）または西和中辞典（小学館）が望ましい。

参考書は必要に応じてクラスのなかで紹介する。

### 授

---

【04】スペイン語ⅡC(2)	月曜4限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	講師 ガルシア, カルロス

---

### 授業科目の内容：

あらゆる場面で対応できる会話力をつけることを目的とします。文法、語彙は一つの道具として学びながら、日常生活における様々な状況においてすばやく、正しく受け答えができるようにします。

また、場面を想定してそれを展開してゆくなかで、会話表現の幅を広げてゆきます。

### テキスト：

Nuevo ELE inicial 2, Libro del alumno (Ediciones SM, 2001年, 3300円)

---

【04】スペイン語ⅡD(2)	月曜5限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	講師 ガルシア, カルロス

---

### 授業科目の内容：

あらゆる場面で対応できる会話力をつけることを目的とします。文法、語彙は一つの道具として学びながら、日常生活における様々な状況において、すばやく、正しく受け答えができるようにします。

また、場面を想定してそれを展開してゆくなかで、会話表現の幅を広げてゆきます。

### テキスト：

Nuevo ELE inicial 2, Libro del alumno (Ediciones SM, 2001年, 3300円)

---

【04】スペイン語ⅡE(2)	金曜5限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	講師 井関 睦美

---

### 授業科目の内容：

この授業は、論理的文章の読解力と表現力を高めることを目標に、講読と作文を中心にすすめていきます。これらの作業を通して、スペイン語→日本語、日本語→スペイン語という構文的な置き換えだけでなく、コンテキストを理解し、自分の言葉で説明する訓練をしていきます。講読用のテキストには、スペイン語圏や日本の歴史、文化、社会などに関する短い説明文を数多く取り上げる予定です。

### テキスト：

講師がハンドアウトを用意します。

### 参考書：

- ・西和中辞書（小学館西和中辞典，白水社現代スペイン語辞典）
- ・和西辞書（白水社，改訂版）

---

【04】スペイン語ⅡF(2)	月曜4限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	ラテンアメリカの文化と社会

---

助教授（有期） 禪野美帆

### 授業科目の内容：

この授業では、スペイン語初級文法を一通り学習した学生を対象に、読解を中心に進めていきます。教材としてラテンアメリカの社会事情を紹介したテキストおよびコピー教材を使用します。また何回かは世界の時事問題を取り上げた新聞記事等をスペイン語で読みます。毎回予習と文法に関する宿題を出しますので、必ず準備することが要求されます。さらに、年に数回、スペイン語の新聞記事を和訳して提出してもらいます。

成績評価については、年4回の試験と提出物の成績、および、予習を含む授業への参加度によって決定します。出席回数が年間3分の2

に満たない場合は、成績評価の対象外とします。

スペイン語圏の社会・文化を紹介したビデオも使用し、地域事情についても説明します。ラテンアメリカ社会および文化をスペイン語を通して学ぶ意欲のある学生の参加を望みます。

### テキスト：

国本伊代／クダ、アレハンドロ『スペイン語でニュースを読むーメキシコとアルゼンチンの記事よりー』東京、朝日出版社、2005年。

### 参考書：

授業中に紹介する

---

【04】スペイン語ⅡG(2)	金曜4限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	講師 竹下 淳子

---

### 授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。既に学習した文法事項を徹底的に復習、重要事項を確認、補足し、中級レベルに進みます。

毎回、問題集を中心に、なるべく多くの文法練習問題をこなしてゆきます。

また、適宜、動詞の活用、語彙、成句、聞き取り等の5分間ドリルも取り入れ、総合的な語学能力の向上も目指します。

成績評価は期末試験の成績のほかに、出席、平常点も考慮したいと思います。

参考書等については、授業で指示します。

### テキスト：

Carlos G. Medina Montero: Sin duda, nivel intermedio, SGEL. (練習問題集) およびプリント教材

### 参考書：

初回の授業で指示します

---

【04】スペイン語ⅡH(2)	月曜5限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	スペイン語を通じて、スペインの歴史と文化に親しむ。

---

講師 前田 伸人

### 授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の初級文法を一通り修了した学生を対象に、スペインの歴史や文化に親しみながら、読解力ならびに表現力の向上を通じて、中級スペイン語力の養成を目標とします。特定の分野をものにして、その語法や構文なりに親しむことで、スペイン語発信力の基礎にしたいと思います。

各回の授業では、歴史文化的背景を説明した後、文法や表現に留意しつつ、テキストを読み進めます。1回の授業につき1課分のペースです。そして読解を数回続ける毎に1回の割合で、文法のポイントを復習します。簡単な例文や作文を通じて、とりわけ、動詞の過去形の区別や接続法のさまざまな使い方を固めていきたいと考えます。

### テキスト：

西川喬、セフェリーノ・プエブラ（著）『スペインー歴史を訪ねてー』（第三書房、2500円＋税）

### 参考書：

授業中適宜指定します。

年表形式のものとしては、Justine Wintle, *History of Spain*, (Rough Guide, 2003), isbn コードは1-85828-936-X。

---

【04】スペイン語ⅡI(2)	金曜5限
【93】スペイン語第Ⅱ(2)	講師 竹下 淳子

---

### 授業科目の内容：

この授業では、主にラテンアメリカの文化・習慣・生活・音楽に関する様々なテキストの講読を通して、スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。

受講生の文法の習熟度に応じて適宜、文法ドリルなどの補助教材を取り入れ、基礎的な文法力の定着、強化を図りながら、中級レベルに進みます。

また、テキストを通して、ラテンアメリカに対する基礎的な知識を学ぶと同時に、ラテンアメリカ諸国への理解をより深める為に世界遺産の映像等も見たいと思います。

テキスト：

毎回授業時にプリントを配布します。

参考書：

初回の授業で指示します。

【04】スペイン語 I D (2) 月曜 5 限

【04】スペイン語初級 (2)

【93】スペイン語 (初級) (2) 講師 敦賀 公子

授業科目の内容：

この授業は、既に初級文法を一通り学習した学生や初めてスペイン語を学ぶ学生を対象として、文法の要点習得に主眼をおき、平易な内容の文章ならば辞書をひきながら訳読できるようになるのを目標とします。スペイン語を既に履修したことのある学生にとっては、文法の総復習となり、また初めて学ぶ学生にとってはスペイン語とスペイン語圏理解の導入となるよう進めていきたいと思っています。

テキスト：

・堀田英夫著『現代感覚でおぼえるスペイン語のエッセンス』(2004年、朝日出版)

・坂東省次・仲井邦佳・太田靖子・エレナ・ガジェゴ共著『コミュニケーションのためのスペイン語』(第三書房、2100円)

参考書：

宮本博司 著『超入門スペイン語』(大学書林)

『西和辞典』(小学館、白水社他)

## VI イタリア語

【04】イタリア語 II A (2)

【04】イタリア語 II B (2)

【93】イタリア語第 II (2) [A] 教授 白崎 容子

講師 望月 一史

講師 堤 康德

[B] 訪問講師 ジョエ, イニャツィオ

講師 竹内 マテルダ

講師 フォルミサノ, カルラ

授業科目の内容：

[A] 系列では、《Nuovo Passo a Passo》の項目にそって文法を最後まで学んだ後、やさしい文章を読んで書き言葉に慣れるようにします。文法の知識のさらなる充実も図ります。

[B] 系列では《LINEA DIRETTA》の後半にそって会話表現を学びます。

テキスト：

[A] 系列《Nuovo Passo a Passo》《Facciamo esercizi!》(いずれも「イタリア語 I」で使用) + プリント

[B] 系列《LINEA DIRETTA》(「イタリア語 I」で使用)

【04】イタリア語 I D (2) 木曜 3 限

【04】イタリア語初級 A (2)

【93】イタリア語 (初級) (2) 講師 堤 康德

授業科目の内容：

イタリア語初級文法をひととおり終わることを目標とします。

テキスト：

『らくらくマスターイタリア語』(郁文堂)

参考書：

ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

【04】イタリア語 I D (2)

火曜 3 限

【04】イタリア語初級 B (2)

【93】イタリア語 (初級) (2)

訪問講師 ジョエ, イニャツィオ

授業科目の内容：

初心者向けの会話クラス。日本語で文法の説明も行います。簡単な日常会話の表現を習得します。

テキスト：

プリント、《ESPRESSO》

参考書：

・イタリア語の ABC (白水社)

・1からはじめるイタリア語練習 (白水社)

・イタリア語を学ぶ (PHP 新書)

・日本語から引く知っておきたいイタリア語 (小学館)

・[辞書] ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

【04】イタリア語 I D (2)

木曜 2 限

【04】イタリア語初級 C (2)

【93】イタリア語 (初級) (2) 講師 フォルミサノ, カルラ

授業科目の内容：

Il corso si propone di sviluppare le abilità linguistiche dello studente per metterlo in grado di interagire con madrelingua italiani. Durante le lezioni si svolgeranno attività di dialogo a coppie, per ricordare alcuni pattern fondamentali, e giochi per migliorare la capacità comunicativa.

日吉開講の「イタリア語入門」を履修した学生、あるいは初歩的なイタリア語の知識を多少持っている学生を対象とします。レベルとしては初級ですが、実践的な会話練習をより多く行ないます。

テキスト：

《ESPRESSO》

参考書：

イタリア語の ABC (白水社)

1からはじめるイタリア語練習 (白水社)

イタリア語を学ぶ (PHP 新書)

イラストいっぱい! イタリア語単語集 (白水社)

[辞書] ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

## VII 朝鮮語

【04】朝鮮語 II A (2)

月曜 5 限

【93】朝鮮語 (中級) (2)

【93】朝鮮語第 II (2) 教授 野村 伸一

授業科目の内容：

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト：

慶應義塾外国語学校のテキスト (中級)

参考書：

・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版社

・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

授

【04】朝鮮語 II B (2)

金曜 5 限

【93】朝鮮語 (中級) (2)

【93】朝鮮語第 II (2) 講師 李 泰文

授業科目の内容：

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書き

ができる人を対象にしています。具体的には、すでに現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

そして、教科書の文型や表現だけでなく、自分の意見や考えを伝えることができるように身につけることを目的としています。

テキスト：

慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）

参考書：

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

---

【04】朝鮮語ⅠD(2)	火曜5限
【04】朝鮮語初級(2)	
【93】朝鮮語(初級)(2)	講師 崔鶴山

---

授業科目の内容：

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口頭表現及び文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

テキスト：

「はじめての韓国語」崔鶴山著、白水社

## Ⅷ ロシア語

---

【04】ロシア語ⅡA(2)	月曜5限
【93】ロシア語第Ⅱ(2)	講師 金沢大東

---

授業科目の内容：

初級で学習した語形変化と基礎単語力を足がかりとして、この中級コースでは、文型を扱う。特にロシア語の複文の内の従属複文を重点的に学習する。

テキスト：

《白い金》A. ナコルチェフスキー、金沢大東共著、慶応大学出版

---

【04】ロシア語ⅡB(2)	木曜5限
【93】ロシア語第Ⅱ(2)	助教授 ナコルチェフスキー、アンドリィ

---

---

【04】ロシア語ⅠD(2)	木曜3限
【04】ロシア語初級(2)	
【93】ロシア語(初級)(2)	講師 佐野朝子

---

授業科目の内容：

初めてロシア語を学ぶ者を対象とした週一回のクラスです。一年間で基礎文法を終了し、平易なテキストを辞書を使って読んでいきます。

# 専 門 科 目

## ○哲学専攻

### 必 修 科 目

#### 【04】【93】哲学概論 (4)

哲学入門

教 授 西 脇 与 作

##### 授業科目の内容：

哲学はどのようなものかを概説した上で、哲学の主要なテーマについて具体的に説明していく。哲学、倫理学専攻の二年生を対象にし、哲学への入門と考えてほしい。

##### テキスト：

『現代哲学入門』西脇与作、慶應義塾大学出版会

##### 参考書：

必要に応じて、プリントを配布する。

#### 【04】【93】西洋哲学倫理学史 I (4)

ギリシア哲学の諸問題

助教授 納 富 信 留

##### 授業科目の内容：

西洋古代哲学は、前六世紀初めのイオニア自然学から後六世紀初めの新プラトン主義まで、きわめて広い範囲と豊かな内容をもっている。本年度の講義では、哲学史の流れを意識しながら、いくつかの重要な問題を取り上げて、それにかかわる哲学者たちの議論を検討していく。

春学期には、「ある／ない」という基本語に関して、パルメニデス以来ギリシア哲学がかかわった存在論の問題を論じる。その際に、ギリシア語の動詞“einai”の振舞いについての諸研究などを考慮して、プラトンやアリストテレスが「無」（非存在）という問題をどう扱ったかを、一つの焦点としたい。主要なテキストは、プラトン『ソフィスト』（岩波全集第3巻、関連箇所はコピーで配布）となる。

また、秋学期には、アリストテレスに結実する「運動、時間、エネルギー」といった問題系を考えたいが、具体的な内容は授業の進行状況において決めていきたい。

##### テキスト：

納富信留『プラトン』（NHK出版、2002年）：授業で使うというより、五月までに各自が読んでくることを前提とする。読後に、簡単なレポートを提出してもらう（授業時に指示する）。

##### 参考書：

納富信留『ソフィストと哲学者の間』（名古屋大学出版会、2002年）他の参考文献は、授業時に指示する。

#### 【04】【93】西洋哲学倫理学史 II (4)

西洋近代の哲学・倫理学

助教授 柘 植 尚 則

##### 授業科目の内容：

この講義では西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学・倫理学専攻の学生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な近代西洋思想の基礎を習得することを目標とする。受講者は、上級年次に開講される専門科目に備えて、西洋近代哲学・倫理学史に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

##### テキスト：

宗像・中岡編『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房、1995年、2800円）

##### 参考書：

授業の中で紹介する。

#### 【04】【93】論理学入門 (4)

講 師 弓 削 隆 一

##### 授業科目の内容：

現代の記号論理学の基礎である、命題論理・述語論理について解説する。具体的内容としては、推論の妥当性を前提・結論の真理条件から規定しようとする方法（意味論）、「証明」の概念に基づいて規定しようとする方法、およびこの両者の関係（完全性定理）についての解説が含まれる。上記の内容の的確な理解のためには問題演習が不可欠なので、通常の講義科目よりは演習に近い授業形式を取ることになると思われる。

##### テキスト：

授業時にプリントを配布する。

#### 【04】哲学倫理学原典講読 (独) (4)

【93】原典講読 (独) (2)

教 授 小 松 光 彦

##### 授業科目の内容：

ドイツ語の読解力を養うことに主眼を置いた授業を行う。下記のテキストを使用する。講読する部分をコピーして配布する。

##### テキスト：

Gernot Böhme, *Einführung in die Philosophie*, Suhrkamp Taschenbuch 1142, 1994

#### 【04】哲学倫理学原典講読 (仏) (4)

【93】原典講読 (仏) (2)

教 授 岡 田 光 弘

##### 授業科目の内容：

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業のときに説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

##### テキスト：

プリントして配布

##### 参考書：

授業時に指定

#### 【04】哲学倫理学原典講読 (露) (4)

【93】原典講読 (露) (2)

教 授 谷 寿 美

##### 授業科目の内容：

受講者の語学力に応じたテキストを講読します。受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

##### テキスト：

語学力に応じて選択します。

#### 【04】【93】科学の哲学 (自然の哲学) (4)

科学哲学入門

教 授 西 脇 与 作

##### 授業科目の内容：

春学期は科学の哲学の基本的事柄について説明する。使用するテキストの第一部に相当する部分で、必要に応じてプリントも配布する。秋学期は各論でテキストの量子力学、進化生物等を中心に説明する。

##### テキスト：

『科学の哲学』慶應義塾大学出版会、2004

#### 【04】【93】中級論理学 (哲学倫理学特殊) (4)

数理論理学の基本定理の証明

【春】講 師 佐々木 昭 則

【秋】講 師 照 井 一 成

##### 授業科目の内容：

本講義は、論理学中級の講義である。主な内容としては、現代論理学における主要定理のうち、ゲーデルの完全性定理及び自然演繹の正規化定理 (normalization theorem) の証明を解説する。また、その応

用として、簡単な算術の無矛盾性証明についても解説したい。証明系としては自然演繹と式計算 (sequent calculus) を用いる。時間があれば、他の話題も取り上げたい。

これらの重要な基本定理の証明手法を理解することを通して、論理学のより高度な技法・知識を習得してもらうのが、本講義の狙いである。

#### テキスト：

教場でプリントを配布（前年度後期の講義ノートは、web サイト <http://research.nii.ac.jp/~terui/class.htm> よりダウンロード可）

#### 参考書：

- ・ Gaisi Takeuti, *Proof Theory*(2nd.Ed.)North-Holland, 1987
- ・ 松本和夫『数理論理学』共立出版 1970. (2001 年復刊)

---

### [04] [93] 知識の哲学 (行為の哲学) (4)

---

休 講

---

### [04] [93] 形而上学 (4) 教授 堀 江 聡

---

#### 授業科目の内容：

第 44 論改で展開されたプロティノスの範疇論・実体論を、原文を徹底的に分析することを通じて明らかにしたい。アリストテレスの『範疇論』もつねに参照し、プロティノスの革新（離脱基礎づけ実体論？）を見定めるとともに、それを機に、アリストテレス最頁の一面をもつポルフェリオスと決裂したのかという点も考えてみたい。古典ギリシア語一年以上の既習者もしくはイタリア語の注釈を読める者が理想だが、邦訳をもとに議論に加わってもらっても構わない。

#### テキスト：

プロティノス『エンネアデス』第 6 論集第 3 論文「存在者の諸類について—その 3—」。

原典、和訳、伊訳はコピーして配布する。

#### 参考書：

- ・ Plotino. *Enneadi VI 1-3*, a cura di M. Isnardi Parente, Napoli, 1994
- ・ Christoph Horn, *Plotin über Sein, Zahl und Einheit*, Stuttgart/Reipzig, 1995
- ・ S. K. Strange, *Plotinus' Treatise On the genera of being. A Historical and Philosophical Study, Diss.*, Univ. of Texas, Austin, 1981
- ・ K. Wurm, *Substanz und Qualität. Ein Beitrag zur Interpretation der plotinischen Traktate VI, 1, 2 und 3*, Berlin/New York, 1973
- ・ R. Chiaradonna. *Sostanza Movimento Analogia. Plotino critico di Aristotele*, Napoli, 2002.

---

### [04] [93] 現代論理学の諸問題 (4)

---

教授 岡 田 光 弘

#### 授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程(哲学特殊)との共通

(1)線形論理, 証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と, 論理哲学, 情報科学等への応用を行う。

(2)又, これと並行して, 「論理学研究」第 6 研究を中心としたフッサール論理学, 現象学的論理学の検討を現代的観点から進める。

#### テキスト：

プリントして配布

#### 参考書：

授業時に指定

---

### [04] [93] 心の哲学 (人間の哲学) (4)

---

【春】 講師 室 田 憲 司

【秋】 講師 木 原 弘 行

〔春学期〕

#### 授業科目の内容：

春学期は、室田が心身関係の諸理論（心身二元論、行動主義、心脳同一説、機能主義など）について概説します。存在論的枠組に注意を払いつつ、心的現象と物的現象との関係について考えていきたいと思

います。

#### テキスト：

特に指定しません。プリントを配布する予定です。

#### 参考書：

必要に応じて授業中に紹介します。

〔秋学期〕

#### 授業科目の内容：

秋学期は木原が担当します。前期の内容をふまえて、行為者の因果性について議論したいと思います。特に自由意志の問題に対するひとつの立場として、agent causation の是非を考えるつもりです。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

内容にあわせて紹介します。さしあたり、T. O'Conner(ed.), *Agents, Causes, and Events*(1995, OUP) をあげておきます。

---

### [04] [93] 言語の哲学 (4)

---

言語と認識のダイナミズム

講師 丹 治 信 春

#### 授業科目の内容：

後期ウイトゲンシュタインの（特に『確実性の問題』における）考え方と、「ホーリズム（全体論）」と呼ばれるクワインの考え方を比較・検討しながら、われわれの言語理解のあり方と、（世界についての）認識における言語の働き方について考察する。

#### テキスト：

丹治信春『言語と認識のダイナミズム』（勁草書房、1996 年）

#### 参考書：

授業の中で適宜指示する。

---

### [04] [93] 現象学 (4)

---

現象学と「理性」の問題

講師 田 口 茂

#### 授業科目の内容：

現代哲学における焦眉の課題の一つは、「理性」概念の新たな捉え直しにあるといえる。フッサール現象学は、二十世紀における「理性」概念の変貌に道を開いたという面をもつが、そこにおける微妙だが決定的な転換の意義をまず吟味する。次いでこの観点から、さらにレヴィナスとアドルノの思想を検討してみたい。フッサール研究から出発しつつフッサールを超えてゆくこの両者においても、やはりそれぞれ独特の仕方です「理性」概念の捉え直しが行われている。そこでは、「理性」と「倫理」との関係がとりわけ焦点となるであろう。これらの検討を通して、現代における「理性」の意義を受講者諸君と共に再考してみたい。

#### テキスト：

基本的にプリントを配布しますが、必要な場合教場で指示します。

#### 参考書：

教場で指示します。

---

### [04] [93] 宗教の哲学 (4)

---

宗教性の再検討

教授 中 川 純 男

#### 授業科目の内容：

宗教への主体的な関わりを信念や倫理の問題であると考え、形而上学や哲学から追放するのは近世的な理性であるが、この授業においてはこのような近世的理性批判を行う。そのために昨年度につづき、カントのいう「理論理性」と「実践理性」の相違について検討することから始める。実践理性とは何か、自由とは何かを、古代中世の哲学文献とカントとを比較しながら考える。受講者は授業に主体的に参加するとともに、授業内容についてのレポート提出を求められる。秋学期には提出されたレポートの発表を含めて授業を行う。

#### テキスト：

用いない。

#### 参考書：

・授業中に紹介する。

・ <http://phil.flet.keio.ac.jp/person/nakagawa/courses/> の当該科目の項でも公開する予定である。

【04】哲学原典研究 I (独) (4)

【93】原典研究 I (独) (4) 教授 堀江 聡

授業科目の内容：

M. Heidegger, *Sein und Zeit*, Tübingen, 2001 (1927) を冒頭から丁寧に読んでゆく。

同書の古代中世哲学の下地を浮彫にすることも一つの課題である。

テキスト：

初回に人数を確認のうえ、コピーを配布する。

参考書：

必要に応じて各自、和訳、英訳等用意しておくこと。

【04】哲学原典研究 II (仏) (4)

【93】原典研究 II (仏) (4)

『フッサール哲学に於ける発生の問題』

講師 荒金 直人

授業科目の内容：

フランス語の文章の読解力を身に付けると共に、ジャック・デリダの思想の道のりの出発点を確認することがこの授業の目的です。

デリダの最初期の著作 *Le problème de la genèse dans la philosophie de Husserl* を読みます。

テキスト：

Jacques Derrida, *Le problème de la genèse dans la philosophie de Husserl*, Paris, PUF, 1990

【04】哲学原典研究 III (英) (4) (春学期集中)

【93】原典研究 III (英) (4) (春学期集中)

Davidson on Self-Knowledge

【春】教授 飯田 隆

授業科目の内容：

Donald Davidson (1917-2003) の論文集 *Subjective, Intersubjective, Objective* (2001) に収められたいくつかの論文を読みます。とりわけ、自己知についての議論を中心に取り上げます。

テキスト：

Donald Davidson, *Subjective, Intersubjective, Objective*, 2001, Oxford University Press.

【04】哲学原典研究 IV (古典) (4)

【93】原典研究 IV (古典) (4)

教授 中川 純男

授業科目の内容：

中世後期から近世初期のラテン語哲学文献を講読する。ラテン語そのものは簡単なので初心者も受講可能である。授業時は、ラテン語の文法書を持参することが望ましい。たとえば、樋口勝彦・藤井昇共著『詳解ラテン文法』研究社、等。どのようなテキストを講読するかは、12月現在未定であるが、受講者の希望も尊重するので、希望するテキストがあればメール等で伝えてほしい。

テキスト：

授業時に配布する

参考書：

必要に応じて紹介する

【04】哲学研究会 I (2) (秋学期集中)

【04】哲学研究会 II (2) (秋学期集中)

【93】哲学研究会 I・II (2) (秋学期集中)

【秋】教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

秋学期集中で2コマつづけて行ないます。担当者の問題関心について

では、『文学部専任教員一覧』を参考にして下さい。四年生は卒論に関する研究発表を、三年生は現在自分が関心をもっている問題についての発表を、最低一回研究会でしていただくこと、そしてそれをめぐる討論に参加すること(つまり出席)を単位取得の条件とします。履修にあたってはこの点に特に留意して下さい。したがって研究会は、発表とそれをめぐる討論を中心に運営いたします。

なお、秋学期最初の授業日程については掲示に注意し、間違いのないようにして下さい。

【04】哲学研究会 I (2)

【04】哲学研究会 II (2)

【93】哲学研究会 I・II (2)

【カバラ】、【ネオ・プラトニズム】から【レヴィナス】へ

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

これまで *Encyclopaedia Judaica* 所収のショーレムの解説を通じてカバラの歴史的發展、十のセフィーロート体系、流出/創造論、悪の問題などを概観し、最初の基本文献『形成の書』(セーフェル・イエツィーラー)を読み合わせた。また、ついで取り上げるべき基本文献『清明の書』(セーフェル・ハ・バーヒール)は熱海ゼミ合宿に回し、中世カバラの頂点『光輝の書』(セーフェル・ハ・ゾーハル)を繙いてきた。今年度は、エマニュエル・レヴィナスの第二の主著『存在の彼方へ』を輪読し、レヴィナスの思想とカバラとの関係を探る。しかしじつは、両者を媒介する接点として、『ゾーハル』をユダヤ人の流涕と救済の壮大な神話へと展開したイツハーク・ルーリア (1534-1572) の三つの象徴 (1. 霊的空間を発生させるために深く隠された内へと収縮する神の自己限定ツイムツーム, 2. 器の破壊シェビラー, 3. 器の破壊によって生ずる世界の欠陥の修復ティクーン) に習熟する機会も模索する必要があるだろう。

さらに、参加者の希望により、J.M. ナルボンヌの新刊書 *Lévinas et l'héritage grec*, Paris/Québec, 2004 を通じて、「彼方のもの」を語る道をめぐり、古代ギリシア以来の伝統とレヴィナスとの異同を見究めるつもりである。

テキスト：

Emmanuel Lévinas, *Autrement qu'être ou au-delà de l'essence*, La Haya, 1974; *Jenseits des Seins oder anders als Sein geschieht*, übersetzt von Thomas Wiemer, München, 1998; エマニュエル・レヴィナス『存在の彼方へ』(合田正人訳), 講談社学術文庫 1383, 1999年。

参考書：

- ・ヨセフ・ダン「ユダヤ神秘主義—歴史的概観—」(市川裕訳), 岩波講座 東洋思想第二巻『ユダヤ思想2』, 1988年, 115~217頁
- ・井筒俊彦『意識と本質—精神的東洋を求めて—』, 岩波文庫, 1991年, 235~292頁
- ・永井晋「神名の現象学—レヴィナスとカバラの言語神秘主義—」『思想』874, 1997年4月号, 193~212頁
- ・永井晋「神の収縮—レヴィナスにおけるカバラ的メシアニズム—」『仏蘭西の智慧と藝術』(掛下栄一郎・富永厚共編), 行人社, 1994年, 169~188頁。Catherine Chalié, *La trace de l'infini, Emmanuel Lévinas et la source bébraïque*, Paris, 2002.

【04】哲学研究会 I (2)

【04】哲学研究会 II (2)

【93】哲学研究会 I・II (2)

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

推論やリーズニングに関する意味論、認知科学、脳科学、人工知能論、ロボット工学、情報科学、計算機科学基礎論、数学基礎論などについて哲学的問題を議論する。

研究会の詳しい進め方については初回に参加者と話し合って決定する。

テキスト：

プリントして配布する。

参考書：

授業時に指定する

- 【04】哲学研究会 I (2)  
【04】哲学研究会 II (2)  
【93】哲学研究会 I・II (2)

科学の歴史と哲学

教授 西脇 与作

**授業科目の内容：**

昨年は Richard Dewitt の *Worldviews* を読みながら、内容をレポートしてもらい、議論する形で授業がおこなわれた。まだ多くの部分が残っているので今年度も続行したいと思っている。しかし、最初の授業で受講者と相談の上で、変更の可能性もある。

**テキスト：**

R. Dewitt, *Worldviews*, Blackwell, 2004

- 【04】哲学研究会 I (2)  
【04】哲学研究会 II (2)  
【93】哲学研究会 I・II (2)

宗教性の再検討

教授 中川 純男

**授業科目の内容：**

トマス・アクィナスの『真理論』をテキストとして分析する。テキストは英訳あるいは邦訳を配布する。秋学期は、三・四年生の研究発表もあわせ行う。

**テキスト：**

トマス・アクィナス『真理論』第一問第九、一〇項を読む。初回の授業で配布する。

**参考書：**

<http://phil.flet.keio.ac.jp/person/nakagawa/courses/> の当該科目の項に掲載。

- 【04】哲学研究会 I (2)  
【04】哲学研究会 II (2)  
【93】哲学研究会 I・II (2)

プラトン・アリストテレスの倫理学

助教授 納 富 信 留

**授業科目の内容：**

本年度は、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を中心に、いくつかの哲学の問題にプラトンとアリストテレスがそれぞれどのような立場をとったかを、比較しながら検討する。

プラトンのアカデメイアで長らく研究したアリストテレスは、その哲学説に精通した上で、基本的な立場に修正や批判を加え、自らの哲学を打ち立てた。彼が明示的にプラトンの名を挙げている場合でも、そうでない場合でも、大枠としてはプラトンら同時代の哲学者への応答という性格を理解する必要がある。

研究会では、『ニコマコス倫理学』のいくつかの巻を日本語訳で検討した上で、それに対応するプラトンの対話篇（主に『国家』）の議論と比較対照させながら、問題そのものを議論していく。「善と幸福の位置づけ」「アクラシア問題」「正義の捉え方」「快樂の位置づけ」等が、議論する主なトピックである。

また、主題に応じて日本語・英語の研究論文を読み、それら最新の関心をフォローしながら、古代哲学の現代的な意義について参加者と一緒に考えていきたい。

**テキスト：**

アリストテレス『ニコマコス倫理学』（岩波全集版、加藤信朗訳が望ましいが、岩波文庫や西洋古典叢書の翻訳でも構わない。各自が用意しておくこと）

プラトン『国家』（岩波文庫、2巻）

**参考書：**

授業時に指示する。

## 選 択 科 目

- 【04】【93】印度哲学 (4)

インド的「知」の諸相

講 師 齋 藤 直 樹

**授業科目の内容：**

『リグ・ヴェーダ』というインド最古の文献の題名にある「ヴェーダ」は知識を意味する語である。その書物は多彩な神々への讃歌を主要部としつつ、宇宙開闢にかんする思弁的な詩節などをも盛りこんだ、祭祀のための韻文の集成であり、そこにはその後さまざまに展開していくインドの宗教的思想の萌芽がちりばめられている。『ヴェーダ』の聖典としての権威をみとめるか否かによって、インドの宗教的学派はバラモン正統派と非正統派とにわけられ、仏教やジャイナ教は非正統派に属するものと見なされることになるが、「知」へのつよい志向をその教理の基盤のうちにもつという点において、両学派もインド思想の大きな流れからはずれるものではない。本講義ではおもに正統派バラモンの思想の系譜をたどることになるが、インドの諸学派における「知」の重要性を意識しつつ、それぞれの学派の教説を哲学的、宗教学的、あるいは社会学的など、いくつかの観点から批判的に論じてみたい。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

授業中に適宜紹介する。

- 【04】【93】宗 教 学 (4)

現代社会と宗教

講 師 弓 山 達 也

**授業科目の内容：**

本講義では「宗教ブーム」「心の時代」と称せられる現代の社会・精神状況に対して、宗教学的なアプローチを試みる。そのために宗教学、社会学、精神医学などの諸理論を学びつつ、現代宗教の現状を探っていききたい。ポストモダンの社会変動のなかで宗教をとらえつつ、カルト、自分探し、ファンダメンタリズム、女性教祖、スピリチュアリティ、癒しなどの多岐に渡る現象を、その社会的・心理的背景を踏まえながら、扱うこととなる。

**テキスト：**

未定

**参考書：**

未定

## ○倫理学専攻

### 必修科目

#### 【04】【93】倫理学概論 (4) 教授 小松 光彦

##### 授業科目の内容：

今日、人間生活のさまざまな領域において「倫理」が求められている一方で、学としての倫理学の危機ないし懐疑が広く深く浸透していることもまた事実である。ここでは人間存在における倫理の問題のそもそもの成立根拠と、西洋思想史、とくに近代における倫理についての学問的探求（「倫理学の基礎づけ」）の企てに対する反省と再検討を通じて、今日倫理の問題に有意義な仕方であプローチしうる方法を模索する。

##### テキスト：

特定の教科書は使用しない。適宜資料プリントを配布する。

##### 参考書：

- ・ E. フィンク『人間存在の根本現象』千田義光訳、哲書房 1982 年。
- ・ U. グッツォーニ『変革する思考』拙訳、慶應義塾大学出版会 2000 年。
- その他、必要に応じて随時指示する。

#### 【04】【93】西洋哲学倫理学史 I (4) ギリシア哲学の諸問題 助教授 納 富 信 留

##### 授業科目の内容：

西洋古代哲学は、前六世紀初めのイオニア自然学から後六世紀初めの新プラトン主義まで、きわめて広い範囲と豊かな内容をもっている。本年度の講義では、哲学史の流れを意識しながら、いくつかの重要な問題を取り上げて、それにかかわる哲学者たちの議論を検討していく。

春学期には、「ある／ない」という基本語に関して、パルメニデス以来ギリシア哲学がかかわった存在論の問題を論じる。その際に、ギリシア語の動詞“einai”の振舞いについての諸研究などを考慮して、プラトンやアリストテレスが「無」（非存在）という問題をどう扱ったかを、一つの焦点としたい。主要なテキストは、プラトン『ソフィスト』（岩波全集第 3 巻、関連箇所はコピーで配布）となる。

また、秋学期には、アリストテレスに結実する「運動、時間、エネルギー」といった問題系を考えたいが、具体的な内容は授業の進行状況において決めていきたい。

##### テキスト：

納富信留『プラトン』（NHK 出版、2002 年）：授業で使うというより、五月までに各自が読んでくることを前提とする。読後に、簡単なレポートを提出してもらい（授業時に指示する）。

##### 参考書：

納富信留『ソフィストと哲学者の間』（名古屋大学出版会、2002 年）  
他の参考文献は、授業時に指示する。

#### 【04】【93】西洋哲学倫理学史 II (4) 西洋近代の哲学・倫理学 助教授 柘 植 尚 則

##### 授業科目の内容：

この講義では西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学・倫理学専攻の学生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な近代西洋思想の基礎を習得することを目標とする。受講者は、上級年次に開講される専門科目に備えて、西洋近代哲学・倫理学史に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

##### テキスト：

宗像・中岡編『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房、1995 年、2800 円）

##### 参考書：

授業の中で紹介する。

#### 【04】【93】倫理学の基礎 I (2) (春学期) 【春】教授 谷 寿 美

##### 授業科目の内容：

“意志”を中心的テーマとして、倫理学の基本文献を読みます。古代ギリシャ、及び、ヘブライ、キリスト教的精神に見出される、選択意志と自由意志のあり方の問題を、それぞれの文献に探りつつ考えていきます。春学期は古代ギリシャおよびヘブライのエートスに目を向けます。

##### テキスト：

プリントにて配布予定。（文庫本を指示する場合があります。）

##### 参考書：

授業時に指示します。

#### 【04】【93】倫理学の基礎 II (2) (秋学期) 【秋】教授 谷 寿 美

##### 授業科目の内容：

“意志”を中心的テーマとして、秋学期はキリスト教文献を読みます。時間的余裕があれば、東洋的、仏教的観点にも目を向けます。

##### テキスト：

プリントにて配布予定。（文庫本を指示する場合があります。）

##### 参考書：

授業時に指示します。

#### 【04】倫理学の課題 I A (2) (春学期) 【93】哲学的人間学 (4) 哲学的人間学 教授 樽 井 正 義

##### 授業科目の内容：

18 世紀の啓蒙思想は、知性をもつ人間を他の生物から截然と区別したが、19 世紀の進化論は人間と他の生物との連続性を指摘した。この連続と非連続とをどのように理解したらよいのか。こうしたかたちで「人間とはなにか」という問いを Max Sheler は 20 世紀に改めて提起した。哲学的人間学は、この問いに生物学の知見を踏まえて応えようとしている。そこで議論されている主要な概念のいくつかを検討する。授業は履修者の報告を中心にして進める。

##### 参考書：

エイズ&ソサエティー研究会議編：エイズを知る。角川書店 2001.

#### 【04】倫理学の課題 I B (2) (秋学期) 【93】哲学的人間学 (4) HIV/AIDS の倫理学的課題 教授 樽 井 正 義

##### 授業科目の内容：

HIV の抗体陽性者の 95 % は途上国に集中し、治療薬がないために年間 300 万人が犠牲になり、社会の存立すら危惧されている地域もある。治療薬のある日本ではこの 10 年間に新規感染は二倍、先進国では例のない急増傾向にありながら、問題が正視されているとは言えない。この感染症は、南北間の命の軽重という問題を先鋭にするとともに、病氣と病氣の人の黙殺という北にも南にも共通する問題を提起している。そうした事態の検討を通して、人間にとって病氣とは何か、病氣に対して求められる倫理的対応は何かを考察する。

##### 参考書：

エイズ&ソサエティー研究会議編：エイズを知る。角川書店 2001.

#### 【04】倫理学の課題 II (2) (秋学期) 【04】【93】情報と倫理 I (2) (秋学期) 【93】生活と倫理 (2) (秋学期) 情報倫理学の検討 【秋】講師 中 川 雅 博

##### 授業科目の内容：

ダニエル・ベルが「脱工業化社会」の到来を宣言して以来はや 30 年、パーソナル・コンピュータが一般に普及しはじめて 25 年以上、

インターネットが一般に普及しはじめて10年が経過しました。これにともない情報通信分野において新たな倫理的問題が発生しているのが現代です。しかし、「情報」をめぐる問題は情報通信分野に限らず、医療現場、放送通信分野などでも見られ、社会制度の変革にまで及んでいます。こうした状況をふまえ、本講義では「情報」をめぐる諸問題を具体的に検討しつつ、そこにはどのような行動原則が働いていたか、欠如していたりするのかを検討していきます。

**テキスト：**

特に指定しない。

**参考書：**

越智貢他編『情報倫理学』（ナカニシヤ出版、2000年、ISBN: 4888485739）

---

**【04】倫理学の課題Ⅲ（2）（秋学期）**

**【93】社会と倫理（2）（秋学期）**

ビジネスと倫理

**【秋】** 助教授 柘植尚則

---

**授業科目の内容：**

この講義ではビジネス倫理学を取り上げる。ビジネス倫理学（企業倫理学・経営倫理学）は、応用倫理学の一部門として、近年、急速に発展した分野である。講義では、ビジネスにおける倫理問題を紹介しながら、ビジネスと倫理のあり方について考えることにしたい。

**テキスト：**

田中・柘植編『ビジネス倫理学—哲学的アプローチ—』（ナカニシヤ出版、2004年、2500円）

**参考書：**

授業の中で紹介する。

---

**【04】倫理学の課題Ⅳ（2）（春学期）**

**【93】文化と倫理（2）（春学期）**

性と社会：エイズを通して考察する

**【春】** 講師 池上千寿子

---

**授業科目の内容：**

HIV感染は21世紀の最大の課題のひとつです。治療法のない疾患というだけでなく、人間の性の姿、社会の構造、政治、経済、文化と深くつながっています。エイズへのとりくみを通して、性・社会・文化をみなおし倫理的課題を検討します。

---

**【04】【93】哲学概論（4）**

哲学入門

教授 西脇与作

---

**授業科目の内容：**

哲学はどのようなものかを概説した上で、哲学の主要なテーマについて具体的に説明していく。哲学、倫理学専攻の二年生を対象にし、哲学への入門と考えてほしい。

**テキスト：**

『現代哲学入門』西脇与作、慶應義塾大学出版会

**参考書：**

必要に応じて、プリントを配布する。

---

**【04】【93】日本倫理思想（4）**

江戸儒学と国民道徳

講師 菅野覚明

---

**授業科目の内容：**

明治時代の国民道徳思想の特質、形成過程などを、江戸時代後期の儒学思想との関連で考えていく。

**テキスト：**

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

**参考書：**

講義時にその都度指示する。

---

**【04】【93】東洋倫理思想（4）**

講師 森

由利亜

---

**授業科目の内容：**

この授業では前近代の中国の思想史を概括的にお話します。ここでは、それぞれの時代を動かす力となった主な思想傾向に注目しながら、中国史全体を大きな思想の流れとして捉えるように努力します。単に知識を羅列するような理解のしかたではなく、なぜ彼らはそう考えるのか、なぜある考え方と別の考え方は対立するのかといった点に配慮しながら、できるかぎり平明にお話したいと思います。

**テキスト：**

教材はプリントで配布。教科書は特に定めません。

**参考書：**

参考書は教場で指示します。

---

**【04】【93】キリスト教概論（4）**

聖書と哲学思想にもとづくキリスト教理解の試み

講師 リーゼンフーパー、クラウス

---

**授業科目の内容：**

本講義では、現代の問題意識から出発し、人間の本来的実存を宗教哲学的に理解した上で、キリスト教の教え全体を聖書に基づいて解明する。毎週キリスト教の根本テーマのひとつを取り扱うが、その理解の可能性を開くために、人間存在そのものに含まれる問いを探り、それに対する聖書の答えを、キリスト教思想史と教会史を参考にしながら、哲学的・神学的に考察する。具体的には、超越関係と自己実現、神体験と神認識、自然・創造・歴史の意義、史的イエスの生き方とその生涯の主な出来事、イエスの説く福音、そこに含まれる神理解、イエスの死と復活の意味、悪と救い、「父と子と聖霊」の教義の背景、キリスト論の発展、祈り、信仰・神への愛と隣人愛の構造、教会の成立、キリスト教内の多様性、他宗教との関係、人間の苦しみ・弱さと人生の完成、等のテーマを取り上げる。

**参考書：**

その都度、紹介する。

---

**【04】【93】仏教学概論（4）**

休講

---

**【04】哲学倫理学原典講読（独）（4）**

**【93】原典講読（独）（2）**

教授 小松光彦

---

**授業科目の内容：**

ドイツ語の読解力を養うことに主眼を置いた授業を行う。下記のテキストを使用する。講読する部分をコピーして配布する。

**テキスト：**

Gernot Böhme, *Einführung in die Philosophie*, Suhrkamp Taschenbuch 1142, 1994

---

**【04】哲学倫理学原典講読（仏）（4）**

**【93】原典講読（仏）（2）**

教授 岡田光弘

---

**授業科目の内容：**

哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業のときに説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

**テキスト：**

プリントして配布

**参考書：**

授業時に指定

---

**【04】哲学倫理学原典講読（露）（4）**

**【93】原典講読（露）（2）**

教授 谷 寿美

---

**授業科目の内容：**

受講者の語学力に応じたテキストを講読します。

受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

**テキスト：**

語学力に応じて選択します。

【04】哲学倫理学原典講読 (英) (4)

【93】原典講読 (英) (2)

近代イギリスのモラリストたち 助教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この授業では、近代イギリスのモラリスト（道徳思想家）のうち著名な人物をいくらか取り上げて、その思想を紹介しながら原典（抜粋）を講読する。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』（研究社出版、2005年、1900円）

その他、授業の中で紹介する。

【04】倫理学研究会 I (3年) (2)

【04】倫理学研究会 II (4年) (2)

【93】倫理学研究会 I・II (2)

「カントと現代」 教授 小松光彦

授業科目の内容：

「カントと現代」という問題枠の中で、とくに倫理的な意味で重要であると思われる諸主題をとりあげる。今年度はカントの著作のほかに下記のテキストを使用して、広義の哲学のうちにおける人間学と倫理学との関係という視角から、実存哲学の果たした役割ないし意義を検証してみたいと考えている。本研究会では原典重視と自立的思考との両立を目指すつもりであるが、そのためには履修者諸君の授業への積極的参加が不可欠の条件となるので銘記されたい。

テキスト：

H. Fahrenbach, *Existenzphilosophie und Ethik*, Frankfurt am Main 1970 (邦訳：H. ファーレンバッハ『実存哲学と倫理学』上妻精監訳、哲書房 1983年)

参考書：

必要に応じて随時指示する。

【04】倫理学研究会 I (3年) (2)

【04】倫理学研究会 II (4年) (2)

【93】倫理学研究会 I・II (2)

休講

【04】倫理学研究会 I (3年) (2)

【04】倫理学研究会 II (4年) (2)

【93】倫理学研究会 I・II (2)

近代イギリス道徳哲学研究 助教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この研究会では近代イギリス道徳哲学について考察する（学生による報告と討論という形で進める）。本年度はロック『統治二論』を取り上げる。

また、この研究会は近代イギリス道徳哲学の個人研究を最終の目標とする。受講者は各自でテーマを決めて思想家を選び、原典を読んで研究し、その成果を研究会で発表して論文を作成する（テーマは自由であるが、思想家については原則として近代イギリスに限る）。なお、必要に応じて個別指導も行う。

テキスト：

初回の授業で指示する。

参考書：

寺中・大久保編『イギリス哲学の基本問題』（研究社出版、2005年、1900円）

その他、授業の中で紹介する。

【04】倫理学研究会 I (3年) (2)

【04】倫理学研究会 II (4年) (2)

【93】倫理学研究会 I・II (2) 教授 谷 寿美

授業科目の内容：

Vladimir Soloviev: *La Jastification du Bien — Essai de philosophie morale* — (Aubier, 1939) 英訳, *The Justification of good* (London, 1918) 露語原典 *Оправдание Добра* (Москва, 1897) の講読を通して善の理念を中心とする倫理的諸問題を考えます。

【04】倫理学研究会 I (3年) (2)

【04】倫理学研究会 II (4年) (2)

【93】倫理学研究会 I・II (2)

正義論をこえて 教授 樽井正義

授業科目の内容：

この研究会では、一昨年、昨年と、John Rawls の正義論を検討の中心に据えてきた。正義論はその第一の課題として、一つの国家社会に帰属する成員間の問題を扱うが、同時に Rawls 自身も示しているように、国家の枠を超えることを要請する。地球規模化、南北格差という言葉で総称される現代の課題に応える一つの視点として、今年度は transnational および international な正義に関する議論を検討する。

テキスト：

- ・ Thomas Pogge: *Realizing Rawls*. Cornell University Press 1989.
- ・ Onora O'Neill: *Bounds of Justice*. Cambridge University Press 2000.

【93】自然と倫理 (2)

休講

## 選択科目

【04】倫理学洋書講読 (4)

【93】洋書講読 (4)

Readings in ethics 助教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

We are going to look at a number of passages from core texts of the Western ethical tradition. This course serves a threefold purpose: it is meant (i) to introduce key thinkers and main developments in the history of ethics, (ii) to discuss typical strategies of argumentation both in normative ethics and metaethics which continue to exert their influence to this day, (iii) to provide an opportunity of dealing with these matters in English, although students are strongly encouraged to read the relevant texts in Japanese translation as well (and of course in the original, if possible), since the main emphasis will be put on arguments. The relevant texts will be made available during class; students are asked to familiarise themselves with as many of the topics indicated below as possible before the beginning of the course. Needless to add that none of these issues can be treated in depth, since each deserves a course in its own right. All that can be achieved is being a guide for further thoughts and enquiries.

参考書：

- ・ Blackburn, Simon: *Being Good. A short introduction to ethics*. Oxford et al.: Oxford University Press 2001. (available in paperback)
- ・ LaFollette, Hugh (ed.): *The Blackwell Guide to Ethical Theory*. Oxford, Malden (Mass.): Blackwell 2000. (available in paperback)

【04】中国哲学 (4)

講師 森 由利亚

授業科目の内容：

この授業では、中国の伝統思想にユニークな特色を与えている老荘思想と、老荘思想とも深い関連のある宗教として紹介されることの多

い道教について、その歴史的な展開と特色を整理しながら、講義形式でお話します。

老荘思想は、万物の「自然」（ありのまま）を重視し、人は「天」のしくみにのっとり、「無為自然」に生きるべきであると説く哲学です。そうした自然や天の道理を「道」と呼んで尊重するため「道家」（どうか）ともよばれます。他方、道教は、不老不死の生命に憧れる神仙信仰のなかから登場する、人の靈魂の救済を求める宗教です。両者はともに「道」という観念を非常に重視し、確かに密接に関係もしているのですが、これらはどのように結びつき、またどのように異なるのでしょうか。

この授業では、一方に哲学としての「老荘」、他方に宗教としての「道教」という対象を設定しながら、この両者を理解する試みをめぐって中国の伝統思想と宗教の関係を考える視点を提供したいと考えています。

**テキスト：**

楠山春樹著『「老子」を読む』PHP文庫。金谷治『莊子』(1) 岩波文庫（以上春学期）。丸山宏・増尾真一郎編『道教の経典を読む』（あじあブックス）大修館書店。（以上秋学期）

**参考書：**

金谷治『老子：無知無欲のすすめ』講談社学術文庫、栗田直躬『中国思想における自然と人間』岩波書店、小林正美『中国の道教』（中国学芸叢書、創文社）。他（詳しくは授業中に指示します）

## 哲学・倫理学専攻 共通科目

### [04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)

カント『プロレゴメナ』の読解と分析

講師 大橋 容一郎

#### 授業科目の内容：

例年の通り、カントの批判期主要著作を読解し分析します。本年は、『純粹理性批判』の完成後に、その「設計図」として著された『プロレゴメナ』を通読することで、カントの認識論および理性批判の全体像に迫りたいと思います。

#### テキスト：

テキストは各自購入し、毎回の授業に持参すること。ドイツ語原典 Immanuel Kant, *Prolegomena zu einer jeden kuenftigen Metaphysik*, 1783. 日本語訳を使用してもよいが、その場合にも必ずドイツ語原典（版は問わない。またドイツ語が読めない場合は英語訳、フランス語訳でもよい）を持参すること。

#### 参考書：

高峯一愚『カント純粹理性批判入門』

### [04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)

ソフィスト研究

助教授 納 富 信 留

#### 授業科目の内容：

古代哲学研究において、「ソフィスト」や「弁論」といった主題は、長らく無視されるか周縁に追いやられてきた。しかし、この分野への本格的な考察なしでは、古代ギリシアに成立して今日に伝えられた「哲学」の本質もわからないままとなってしまう。

本授業では、前5～4世紀の代表的なソフィストを何人か取り上げ、彼らの活動をさまざまな証言や残された著作断片から復元していく。資料の多さから、まずはゴルギアスを取り上げて検討していく。

資料の検討には、当然ながらギリシア語のテキストを詳細に読む必要がある。本授業では、納富が用意した翻訳を、原文や他の翻訳、英・独・仏・伊語などの注釈書と対照させながら、その内容を検討していく。

#### テキスト：

講読するテキストは授業時にコピーで配布する。

#### 参考書：

内山勝利編『ソクラテス以前哲学者断片集 第V分冊』（岩波）に検討するテキストの翻訳が収められている（必要な者はコピーをとること）。他の文献については、授業時に指示する。

### [04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)

マインドサイエンスの考古学

講師 河野 哲也

#### 授業科目の内容：

この講義では、心の哲学と心理学の哲学にかかわる先端的議論を紹介します。心理学の哲学とは、心理学（認知科学やコンピュータ科学なども含む）研究についてメタ理論的あるいは歴史的に考察する一種の科学哲学です。本年度は、心の哲学について導入的な議論を紹介した後、心理学について科学哲学的に考察します。

通常、私達は、知能・感情・動機・学習・人格などといった心理学用語が指している対象は、自然にあたえられていると暗黙裡に仮定していないでしょうか。心の科学のカテゴリーは、酸素や水素のように、自然に区別された対象だと信じていないでしょうか。近年の心理学の哲学では、それら社会的に構築された人為的な区別にすぎないと考えられています。現在私たちが用いている心理学言語がいかんして成立したのか、その出自と来歴を明らかにする心の科学（マインドサイエンス）の考古学を展開します。

#### テキスト：

テキスト K. ダンジガー 『心の名づけること：心理学言語の社会的構築』 上・下、勁草書房。

#### 参考書：

石川幹人・渡辺恒夫編 『マインドサイエンスの思想：心の科学をめぐる現代哲学の論争』 新曜社。

### [04] [93] 哲学倫理学特殊 (4) 講師 高橋 英海

#### 授業科目の内容：

中東で誕生した宗教であるキリスト教とその思想は主にギリシア語とラテン語を介して世界に広まっていったが、中東およびその周辺にはギリシア語、ラテン語ではなくシリア語、コプト語、アルメニア語、エチオピア語、アラビア語等を媒体として広まっていったキリスト教がある。中でもその時間的、空間的な広がり（西は地中海沿岸から東はインド、中国まで）において最も重要なのはシリア語を媒体とするキリスト教であり、キリスト教の発展の正確な理解にはシリア語文献の研究が欠かせない。また、シリア語およびシリア系キリスト教徒はギリシア哲学・科学のイスラム圏への伝達にも大きな役割を果たしており、哲学史、科学史の分野でもシリア語文献の研究が重要となる。本講ではシリア語が用いられた世界の歴史と文化について概観するとともに、シリア語文献の講読に必要な知識を習得し、受講者の関心に合わせて選んだ文献の講読を試みる。（シリア語はセム語の中では比較的容易な言語であり、18世紀のオリエント研究者の間ではアラビア語やヘブライ語を学ぶ際にはシリア語から始めるのが適切であるとされていたこともここに付け加えておく）。

#### テキスト：

W.M. Thackston, *Introduction to Syriac*, Bethesda (Md.): Ibx Publishers, 1999.

その他、受講者ま関心を考慮して選定、配布します。

#### 参考書：

授業中に適宜紹介します。

### [04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)

意味、真理条件、解釈

言語文化研究所 教授 西山 佑 司

#### 授業科目の内容：

言語表現の意味かかわる哲学的な問題を検討する。言語表現の意味については、(i) 言語表現と世界との関係で論じる立場、(ii) 言語表現と使用（とくに言語行為）との関係で論じる立場、(iii) 言語表現と話者の知識との関係で論じる立場などがあるが、それらの立場を比較しながら、人間言語なるものが、世界、心、論理といかに関係しているかを理解していただく。

#### テキスト：

当方でハンドアウトを用意する。特定のトピックについては英文のモノグラフを読んでいただく。

#### 参考書：

授業中に随時指示する。

### [04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)

現象学と解釈学

—ニーチェ、ハイデガー、ガダマー、ベンヤミン

講師 村井 則 夫

#### 授業科目の内容：

現代ドイツ思想の理解にとって前提となる現象学と解釈学を、その起源ともいえるニーチェから始めて、ハイデガー、ガダマー、ベンヤミンへと繋げて吟味する。

#### テキスト：

プリントを配布すると同時に、適宜、必要な文献を指示するので、そのたびごとに各自用意するように要望する。

#### 参考書：

適宜指示する。

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

チベット仏教入門

講師 齋藤直樹

**授業科目の内容：**

日本への仏教伝来から二世紀ほどおくれ、チベットでは八世紀後半に仏教が本格的に受容されはじめた。そのさいチベット人はインドからもたらされる諸典籍のすべてを自国のことばに翻訳するという壮大な事業に取りかかる。三百余巻に五千を越える数の著作を収めるチベット大蔵経として、その翻訳事業は結実することとなる。チベット語の海のなかではぐくまれ、かの地で独自の発展をとげたことになった仏教の特色や意義を、本講座では、チベット語原典の講読を軸としながらさぐっていく。また原典の理解の充実を図るため、講読に平行して、インドおよびチベットの仏教思想における諸問題にかんする解説をくわえていく。

**テキスト：**

受講生の関心を考慮のうえ選定し、授業中にコピーを配布する。

**参考書：**

授業中に適宜紹介する。

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

ミシェル・フーコーの講義録を読む

理工学部 専任講師 (有期) 高 衆 和 巳

**授業科目の内容：**

20世紀後半のフランスにおける歴史学・哲学を代表するミシェル・フーコーの講義録を読みましょう。フーコー個人の思考ならびに時代状況に触れるとともに、生きたフランス語を少しでも読みこなせるようになることを目標とします。

**テキスト：**

Michel Foucault, *Sécurité, territoire, population* (Paris: Gallimard / Seuil, 2004).

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

講師 三 浦 謙

**授業科目の内容：**

知識の問題は、その源泉や根拠、具体性あるいは抽象性などに関連していろいろな側面がある。この授業では、日常的な信念形成のあり方と対比される知識の特徴として、数学・論理学における真理と、実験科学における検証の方法を取り上げ、認識や知識の現代的な位置付けと哲学的問題を考える。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

授業でプリント等で紹介する。

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

計算・証明・不完全性

講師 照 井 一 成

**授業科目の内容：**

再帰的関数論 (recursion theory) および算術のメタ理論の入門的解説を行う。

まずはどのような関数や述語が計算可能であるか、それらについてどのような性質が (算術の形式的理論において) 証明可能であるかといった初歩的な話題からはじめ、最終的にはゲーデル=ロッサーの第一不完全性定理 (おおざっぱに言って、「数学的真理を単一の形式的体系によって完全に特徴づけることはできない」)、ゲーデルの第二不完全性定理 (おおざっぱに言って、「無矛盾な数学理論は自分自身の無矛盾性を確立することができない」) まで到達することを目標とする。

両不完全性定理は、数学の基礎付けに対する形式的アプローチによって否定的な意味合いを持つ結果であるため、定理の文面だけを聞きかじっていると過剰にネガティブな形式的体系観に陥りがちである。しかしその証明 (特に第二不完全性定理の証明!) を詳しく見れば、それがいかに多くのポジティブな結果により支えられているかがわか

るだろう。

本講義では、まず再帰的関数や算術の体系についての様々な肯定的な事実をおさえ、その上で不完全性定理の証明を現代的な観点から解説する。そうすることで、なるべくバランスの取れた形式的体系観を確立することができればと思う。

**テキスト：**

初回に指示する。

**参考書：**

- ・田中一之 (編著), 数学基礎論講義, 日本評論社, 1997
- ・P. Hajek and P. Pudlak, *Metamathematics of First-Order Arithmetic*, Springer, 1993

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

教授 堀 江 聡

**授業科目の内容：**

ゲルマン民族大移動で数世紀に亘り文化的に低迷したヨーロッパ大陸を蘇生させる一翼を担ったのはギリシア・ローマの学芸が却ってよく保存されていたアイルランドからの学者であった。9世紀、カール二世の宮廷学校で活躍し、カロリング・ルネサンスに華を添えたヨハネス・エリウゲナもその一人である。西洋中世が生んだ最初の独創的哲学体系とも評される名著『ペリフェセオン (自然について)』(全五巻)は、存在と非存在を包括する自然の四区分から始まる。(1) 創造するが創造されない自然 (第一巻), (2) 創造され創造する自然 (第二巻), (3) 創造されるが創造しない自然 (第三巻), (4) 創造せず創造されもしない自然 (第四, 五巻) の四種は、イデア的原因を通じて万有として顕在し、再び自己へと還帰する神の円環運動の諸契機である。今年度は全巻からのアンソロジーを読み、証聖者マクシモス (ca. 580-662年) の主著『アンビグア』(難問集) との比較研究も行う。テーマに興味があれば、ラテン語を零から始める場として利用することも可能であろう。独訳、英訳、部分的に邦訳もある。

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

一神教の歴史と思想

講師 市 川 裕

**授業科目の内容：**

一神教に属する3つの宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の特徴を把握するに当たり、ユダヤ教からの視点を中心に据えて、地中海を挟んだ地域の宗教文化史を古代、中世、近現代にわたって通覧する。

視点は、私がユダヤ教を専門としていることから、ユダヤ教を通して、他の2つの宗教の特徴を引き出すというやり方を採用する。ユダヤ教は、旧約聖書を唯一の「聖書」として、キリスト教とは異なる信仰態度を示し、法秩序を包摂する点でイスラム教と類似した宗教共同体を形成して今日に至ったからである。

また、日本に生きている以上、一神教とは異なる特徴をもつ宗教伝統との比較考察に留意して特徴を把握したい。

宗教儀礼や美術、歴史的事件などを知るために、できるだけビデオやCDなど視聴覚教材を使いたい。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

全体の構想は、拙著『ユダヤ教の精神構造』(東大出版会 2004) に基づいているが、個別には講義で指示する。

---

**[04] [93] 哲学倫理学特殊 (4)**

ケアの倫理と制度

講師 川 本 隆 史

**授業科目の内容：**

心理学者キャロル・ギリガンが話題作『もうひとつの声』(1982年)で「正義の倫理」と対置した「ケアの倫理」。これは「すべての人が他人から応えられ仲間に入れてもらえ、一人ぼっちで置き去りにされ傷つけられるような人はいない」状態を理想とするもので、葛藤状態にある複数の責任と人間関係のネットワークを重視し、「文脈を踏まえた物語的な思考様式」によって目前の苦しみの緩和を図ろうとする。本講義では、ギリガンの問題提起を受けて始まった「正義 vs

ケア」論争を手がかりにしながら、両者の統合を心理的な成熟目標に定めるのではなく、正義を「正しい・まともな」という形容詞に差し戻すことによって、「まともなケア」あるいは「ケアの正しい分かち合い」をサポートする諸制度を構想する理路を探りたいと思う。可能な限り、日本の医療、教育、福祉の諸制度の検討も織り込むつもりである。

**テキスト：**

特に指定しない。適宜プリント資料を配布する。

**参考書：**

- ・川本隆史『現代倫理学の冒険 ― 社会理論のネットワークへ』(創文社 1995 年)
- ・同編岩波新・哲学講義⑥『共に生きる』(岩波書店 1998 年)

---

**【93】哲学倫理学特殊（原典研究Ⅲ（露））(4)**

---

休 講

---

**【04】【93】哲学倫理学特殊（歴史の哲学）(4)**

---

休 講

## ○美学美術史学専攻

### 必修科目

【04】【93】美学概論(4) 教授 大石昌史

#### 授業科目の内容：

美学および一般芸術学の基礎的知識の習得を目的として、以下のⅣ部14項目について講義する。

第Ⅰ部：美学の方法と対象（美学と芸術学、美学の主要な流れ、美とその位相、自然・芸術・技術）。

第Ⅱ部：芸術の体系（芸術概念の歴史の変遷、芸術の体系的分類、芸術史の概要）。

第Ⅲ部：芸術現象の原理的考察（芸術現象の構成要素、表現と創造、芸術作品の存在論、美的体験と作品解釈）。

第Ⅳ部：現代の芸術状況（芸術と社会、芸術記号論、芸術の終焉と美への回帰）。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

授業中に指示する。

【04】【93】芸術研究基礎(2) 教授 前田富士男  
教授 大石昌史  
教授 林温  
アートセンター 特別研究助手 柳井康弘

#### 授業科目の内容：

この授業は、3年間の専門領域の勉強を開始する2年生に、将来の各自の関心領域の如何を問わず、本専攻学生として必要不可欠な基礎知識、基本的技術を修得してもらう必修科目である。その内容は、以下のような課題にわかれる。専門研究への取り組み方、研究方法、文献の種類と検索、論文作成法。作品資料（絵画・彫刻・工芸）の実際的な調査作業と調査書の作成。作品の時代様式の判別と確認。作品の題材や内容に関するイコノグラフィー（図像学）の理解、作品解釈の方法。「芸術作品とは」、「美しいとは」といった美学的基礎概念の検討。作品の展示や上演に関する実践的知見の習得、など。調査作業時にはクラスを分割して演習形式をとる。

#### テキスト：

毎時間にプリントを配布する。

#### 参考書：

旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

【04】【93】芸術学(2)(春学期)  
作品分析の方法(1) [春] 講師 一條和彦

#### 授業科目の内容：

美術作品を解釈する際に用いられる諸方法を概観する。造形芸術作品に対するアプローチとしては、形式分析、内容分析、機能運用論などが考えられるが、本講では特に、形式分析や様式論を扱う。実際の作品に即しながら、具体的に、ヴェルフリン、ヴォリンガー、グリーンバーグなどの方法を検討する。

#### テキスト：

特になし。

#### 参考書：

必要に応じ、授業中にそのつど指示する。

【04】【93】芸術学(2)(秋学期)  
作品分析の方法(2) [秋] 講師 一條和彦

#### 授業科目の内容：

春学期にひきつづき、美術作品を解釈する際に用いられる諸方法を

概観する。本講では特に、内容分析や機能運用論を扱う。実際の作品に即しながら、具体的に、ヴァールブルク、パノフスキーなどの方法を考察するほか、美術作品に対する社会的アプローチも検討する。また、美術教育などの側面も重視したい。

#### テキスト：

特になし。

#### 参考書：

必要に応じ、授業中にそのつど指示する。

【04】美学美術史学原典講読Ⅰ(英)A(2)

【93】原典講読Ⅰ(英)A(2)

美術史における「モダニズム」

特別研究専任講師 加藤明子

#### 授業科目の内容：

美術史研究に関する英語論文の読解を通じて、美術史学の基本的概念の理解と研究方法の習得をめざします。英語文献の講読とともに、参加者が小発表を行い、その内容に基づいて皆で討議します。春学期中は、C・ハリソンの著作をとりあげ、近代美術史における「モダニズム」概念を把握して、印象主義以降の芸術動向を知るための手がかりとします。あわせて関連文献を参照します。

#### テキスト：

Harrison, Charles, *Modernism*. London: Tate Gallery Publishing, 1997.

最初の授業でコピーを配布します（コピー代を別途徴収）。秋学期に講読する文献については、春学期の進み具合を考慮して決定します。

#### 参考書：

授業中に指示します。

【04】美学美術史学原典講読Ⅰ(英)B(2)

【93】原典講読Ⅰ(英)B(2) 教授 大石昌史

#### 授業科目の内容：

美学あるいは芸術理論に関する文献の講読を通じて、学問研究の基本的な方法の習得を目的とする。授業形態は、テキストの輪読（翻訳）、注釈的解説、問題点の指摘、それに対する参加者の討論という形をとる。

#### テキスト：

ガイダンス時に説明する。

【04】美学美術史学原典講読Ⅰ(英)C(2)

【93】原典講読Ⅰ(英)C(2) 助教授 遠山公一

#### 授業科目の内容：

今年度は、Evelyn Welch, *Art and Society in Italy 1350-1500* を読む予定。ここでは、次年度からのゼミにおける研究方法、心得を学ぶことが目的である。

#### テキスト：

Evelyn Welch, *Art and Society in Italy 1350-1500*, Oxford-New York, 1997. この書物の一部を取り上げて講読する予定。最初の授業にコピーを配布する。コピー代を徴収。

#### 参考書：

授業中に指示。

【04】美学美術史学原典講読Ⅰ(英)D(2)

【93】原典講読Ⅰ(英)D(2)

講師 藤井孝一

#### 授業科目の内容：

文化理論やテキストの問題など、変わりゆく知の枠組みにおける音楽批評・音楽研究の有り様について書かれた論文の講読を通して、音楽研究の視座について考える。

同時に、外国語の音楽関係の文献を読み解くために必要な基礎知識についても折に触れて補足する。また音楽学の基礎的な文献（抜粋）

にも触れてもらいたいと考えている。

テキスト：

Goodwin, A. Popular Music and Postmodern Theory. *Cultural Studies* 5(2), 1991:174-90.

Stratton, J. Beyond Art: Postmodernism and the Case of Popular Music. *Theory Culture & Society* 6(1), 1989:31-57.

参考書：

『ポケット音楽辞典』音楽之友社 1998 年。  
その他授業中に指示する。

---

【04】美学美術史学原典講読 I (英) E (2)

【93】原典講読 I (英) E (2) 講師 福田 弥

---

授業科目の内容：

19 世紀後半のドイツ音楽界では、ヴァイマルを拠点とする革新的な「新ドイツ派」(当時の前衛音楽)と保守的なライプツィヒ一派との対立という構図があったと一般に言われている。ここでは、そのライプツィヒにおける新ドイツ派の受容という問題を扱う。このテキストを通じて、「前衛芸術」のあり方についても考えていきたい。音楽作品だけでなく、美学、社会学などのさまざまな観点から、この時代の音楽観についても考察する。また、このテキストを通じて芸術研究の方法論を身に付けることも目標のひとつである。

テキスト：

James Deaville, The New-German School and the Euterpe Concerts, 1860-1862: A Tjojan Horse in Leipzig, in: Festschrift Christoph-Hellmut Mahling zum 65. Geburtstag, ed. Axel Beer, Tutzing 1997, pp. 253-270.

参考書：

授業時に指示する

---

【04】美学美術史学原典講読 I (英) F (2)

【93】原典講読 I (英) F (2) 教授 末吉雄二

---

授業科目の内容：

英語で書かれた西洋美術史関係の論文を読めるようにする。

テキスト：

“ONLY CONNECT: art and the spectator in the Italian Renaissance”, by John Shearman, The A.W.Mellon lectures in the fine arts; 1988. Princeton University Press, New Jersey, 1992.

Chapter 3' Portraits and poets

参考書：

アルベルティの『絵画論』三輪福松訳 中央公論美術出版

---

【04】美学美術史学原典講読 II (伊) (2)

【93】原典講読 II (伊) (2) 講師 金山弘昌

---

授業科目の内容：

イタリア語論文の読解力養成を主目的に、美術史・建築史に関する文献を訳読する。一年間をかけて、少なくとも十数ページの短いテキスト二本程度は読みたい。テキストは未定だが、15-18 世紀のイタリア美術に関するものを予定している。なお参考までに、昨年度は以下の文献を読んだ。

- ・ L. Impelluso, *Eroi e Dei dell' antichità*, Electa(Milano), 2002.
- ・ A. Bentili, *Giovanni Bellini*, Giunti (Firenze), 1998.
- ・ F. Pedrocco, *Tiepolo*, Giunti (Firenze), 1996.

テキスト：

特に指定しない。授業でコピーを配布する。

参考書：

授業で指示する。

---

【04】美学美術史学原典講読 II (独) (2)

【93】原典講読 II (独) (2) 教授 前田 富士男

---

授業科目の内容：

美術史研究のドイツ語論文を読む演習。初級中級文法と芸術学的基础概念や理論的背景を説明する。講読にとどまらず、参加者による小レポート発表や討論をおこない、少人数によるプロゼミ(初級ゼミ)形式で運営する。1 年間で、ドイツ語の美術史論文の読み方を身につけ、基本的概念のニュアンスを理解できるようにしたい。本年のテキストは、ドイツ表現主義の画家キルヒナーの作品に関するモノグラフィ。1 作品を多面的に、平易に分析する。

テキスト：

Th. Röske, Kirchner, Tanz zwischen den Frauen, F.a.M, 1993.

参考書：

『美術史を語る言葉』ほか。  
旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の前田研究会分。

---

【04】美学美術史学原典講読 II (日) (2)

【93】原典講読 II (日) (2) 講師 樋口 一貴

---

授業科目の内容：

江戸時代に出版された地誌である『江戸名所図会』を講読する。同書は、江戸神田の町名主であった齊藤幸雄、幸孝、孝成(月岑)が三代にわたり江戸およびその近郊の名所旧跡を実際に歩いて記述・編集したもので、天保 5 年(1834)、同 7 年に刊行された。原文は変体が多量に書かれており、テキストはこれをコピーして用いる。本授業では変体が多量に読む力を身につけるとともに、その内容を理解することを目的とする。教室での講読にくわえて随時見学会を実施し、テキストに記されていることと現状との相違点を、体験を通じて比較したい。

テキスト：

コピーを配布する。

参考書：

- ・鈴木棠三, 朝倉治彦校訂『江戸名所図会』角川書店, 1966
- ・市古夏生, 鈴木健一校訂『新訂 江戸名所図会』筑摩書店, 2000
- ・川田寿『江戸名所図会を読む』(正・続)東京堂出版, 1990・1995

---

【04】美学美術史学原典講読 II (仏) (2)

【93】原典講読 II (仏) (2) 講師 原田 操

---

授業科目の内容：

テキストの読解を通して、フランス語文献を読むための基礎的な力を身につけることを目標とします。

20 世紀の芸術運動であるシュルレアリスムとその周辺をテーマとします。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

最初の授業で指示します。

---

【04】【93】美学美術史学演習 (2)

日本美術史に関する基礎演習 教授 林 温

---

授業科目の内容：

日本美術史の通史的な理解とともに、史資料の読解、作品の見方や解釈の仕方など日本美術史研究に必要な基礎的方法を学ぶ。時代の様式基準となる作品の把握。それにとともなう文字資料の読解等を履修者とともに学ぶ。授業は履修者による発表および討議を中心に進めることで基礎演習の実をあげたい。したがって、履修者は、出席が常であり、授業中に出される課題や作業に積極的に参加する意欲が求められる。

テキスト：

必要に応じてプリントコピーを配布する。

参考書：

- ・赤井達郎ほか編「資料日本美術史〈増補改訂〉」(京都松柏社, 1993)
- ・辻惟雄編「カラー版日本美術史」(美術出版社, 1995), 「日本美術館」(小学館, 1997)
- ・中田日佐夫監修「すぐわかる日本の美術」(東京美術, 1999)

【04】【93】美学美術史学演習(2)

助教授 遠山 公一

授業科目の内容:

専門性の高い各論に至る前に必要な西洋美術史の基礎知識(建築・彫刻・絵画)を一通り身につけることを目的とする。ゴシック美術から19世紀近代美術までの通史を、駆け足で見えていくことになる。様式史が基本とはなるが、図像学の知識、図像解釈学の実例、作品の社会的機能やパトロンについてなど社会的コンテクストにおける美術の役割にも言及する。これによって、各時代についての一定の知識と問題意識が得られるはずである。

テキスト:

毎回、プリントを配布する

参考書:

ゴンブリッチ『美術の歩み』美術出版社、高階・三浦編『西洋美術史ハンドブック』新書館、『新潮世界美術事典』、小学館『世界美術大全集』、ジェームズ・ホール『西洋美術解説辞典』河出書房新社など。その他、毎回指定する。

【04】【93】美学美術史学演習(2) 教授 大石 昌史

授業科目の内容:

前期(春学期)には、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲルの美学・芸術哲学について、後期(秋学期)には、十九世紀以降の心理学的、現象学的、存在論的、解釈学的、記号論的、社会学的な美学・芸術哲学について、美学事典、哲学事典等の項目を参照しつつ解説する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業中に指示する。

【04】【93】美学美術史学演習(2)

音楽学の基礎訓練 教授 三宅 幸夫

授業科目の内容:

本演習では、西洋の芸術音楽を研究する際に避けて通れない作品を具体例として、楽譜を読み解く基礎的な能力を養います。作曲技法や時代様式の把握が主たる目的ですが、さらに音楽をその時代の文化のなかに位置づけることも試みます。音楽の基礎知識(「楽典」程度)を有していることが前提となりますので、これが欠けている受講生は遅くとも連休明けまでに「楽典」を自学自習しておく必要があります。

テキスト:

毎回、楽譜資料のプリントを配布します。

参考書:

授業時に適宜指示します。

【04】【93】東洋美術史概説A(4)

日本美術史—絵画史を中心に— 教授 林 温

授業科目の内容:

日本美術史を、代表的な項目とそれを代表する作品を中心に据えて概説する。趣味的な鑑賞ではなく、美術作品の美術史的な見方を学習する。

テキスト:

特になし

参考書:

適宜、授業中に指示する

【04】【93】東洋美術史概説B(4)

休講

【04】【93】西洋美術史概説A(4)

ジョットとルネサンスの絵画 教授 末吉 雄二

授業科目の内容:

イタリア絵画、ルネサンスの絵画は「自然から学んだ」ジョットから始まる、ジョットが絵画をギリシア(ビザンティン)様式からラテン様式に変えた、と言われていました。しかし、何がジョットの作品なのかということを含めて、13世紀末から14世紀初頭に活躍したこの画家の実像はかなり不明確ですし、ルネサンスの絵画との関係も「ルネサンス観」の変化に伴って、さまざまな議論があります。この授業は、14世紀初頭のイタリアの社会における絵画の役割は何か、という観点から「工房」を含めたジョットの活動を検討して、通説的ジョット像を少し変化させることを目指す。それに伴って、1400年代のフィレンツェ絵画とジョットの「関係」にも、新しい観点が得られるかもしれません。

テキスト:

特に指定しません。授業では参考資料のプリントを配布します。

参考書:

『イタリア・ルネサンスの文化』ブルクハルト著、『ジョットの芸術—スクロヴェーニ礼拝堂壁画を中心として—』と『聖痕印刻—ジョットの後期壁画をめぐる—』佐々木英也著、中央公論美術出版。『中世末期の図像学』エミール・マール著、国書刊行会。『ルネサンス画人伝』、白水社。そのほか、一般的な美術史として『ルネサンスの春』パノフスキー著、などを参照してほしいし、美術作品の見方を教えるものとして示唆に富む『美術への洞察』オットー・ペヒト、岩波書店。など。貪欲に読書して欲しい。

【04】【93】西洋美術史概説B(4) 教授 前田 富士男

授業科目の内容:

近代美術の成立を考察する。フランス革命期から印象主義の時代にいる美術の展開をあつづけつつ、風景画の変容、色彩論の登場、リアリズムへの関心、崇高概念などを作品に即して検討してゆく。

概説の講義なので、作品解釈、美術史学における基本概念も適宜、解説・紹介する。スライド使用。

参考書:

講談社『名画への旅』第16~20巻ほか。

旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。

【04】【93】西洋音楽史概説A(4)

西洋音楽の形成にかんする基本的な問題

教授 美山 良夫

授業科目の内容:

西洋音楽の特徴であるハーモニーやリズム、長調や短調といったシステムは、バロック初期までにほとんど形成された。それは今や西洋にかぎらず世界の音楽語法の標準となっている。その卓越性はどこにあったのか、成立の過程をさかのぼって検討する。10世紀をこえる過程を詳説することはできないので、プロセスのなかで特に重要な点にかぎって、実際の作品に即して楽譜、録音などをまじえて説明することにしよう。内容はおのずから中世とルネサンスの音楽が主体となるが、最後にバッハの音楽が持つ歴史的な位置にふれることになろう。

参考書:

- ・グラウト、パリスカ『新西洋音楽史(上)』音楽之友社1998(リザーブブックにあり)。
- ・美山良夫ほか『音楽史の名曲』春秋社(リザーブブックにあり)

【04】【93】西洋音楽史概説B(4)

ワーグナー《ラインの黄金》 教授 三宅 幸夫

授業科目の内容:

リヒャルト・ワーグナー(1813-1883)の舞台祝祭劇《ニーベルングの指輪》4部作から、今年度は序夜《ラインの黄金》を主たる対象と

して、台本と音楽の関係を読み解き、音楽が音楽外の思想・文学・美術・演劇等といかに関わっているかを明らかにします。

テキスト：

ワグナー《ラインの黄金》（日本ワグナー協会監修，1992年，白水社）

参考書：

授業時に適宜指示します。

---

#### [04] [93] 美学特殊 A (4)

美学における基礎概念の研究 講師 佐々木 健一

---

授業科目の内容：

参考書に挙げてある『美学辞典』の内容を発展させる形で、美学上の基礎概念を講ずる。すなわちこの本でとり上げていない重要概念を毎回1つずつ取り上げる。

参考書：

佐々木健一『美学辞典』東京大学出版会

---

#### [04] [93] 美学特殊 B (4)

「物語る絵」のナラトロジー 講師 西村 清和

---

授業科目の内容：

ことばとイメージ（想像的イメージ、画像、映像）の関係をめぐる議論は、古典的な格言「詩は絵のごとく」や近代のレッシング『ラオコーン』に見られるようにさまざまである。さまざまな視覚メディアがあらたな文化環境となりつつある現代にとって、この古典的な問題は再考を要する。昨年度の講義では、読書とイメージ、視覚的隠喩を論じたが、今年度は歴史画や挿絵のような「物語る絵」のナラトロジー分析をつうじてこのテーマをあつかうことで、ことばとはちがったイメージに特有の表現方式について学ぶ。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中に指示する

---

#### [04] [93] 美学特殊 C (4)

ことばのあやの美学 講師 松尾 大

---

授業科目の内容：

レトリック（修辞学）の中心主題であるフィギュール（文彩、言葉のあや）について、最初に概説します。

次に、主として古今東西の文学作品を資料として、そこに含まれたフィギュールを見つけだし、それを理論化する作業を練習します。言語感覚を鋭くするとともに、藝術について理論化する力の養成も目指します。

特に予備知識は必要としません。フィギュールの理論化には、修辞学や言語学、文藝理論や論理学などの知識も必要ですが、それらは授業の進行に従って身に付くことと思います。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

授業の進行に応じて適宜紹介します。

---

#### [04] [93] 美学特殊 D (4)

演劇論／演技論 理工学部 助教授 小菅 隼人

---

授業科目の内容：

本講義では、“演劇は、演技によってイベント化されるドラマである”という基本認識にたつて、演劇をめぐる諸問題を「ドラマ性」、「イベント性」、「演技術」を常に視野に入れつつ講義します。春学期は演劇の基本4要素（俳優、観客、戯曲、劇場）、アリストテレースの基本概念の確認に続いて、戯曲論および観客論について講義します。秋学期は演技術の歴史の変遷を中心に講義します。

テキスト：

プリン配布

参考書：

講義中指示します

---

#### [04] [93] 美術史特殊 A (4)

天平・平安初期の彫刻 名誉教授 紺野 敏文

---

授業科目の内容：

今年度は8世紀から9世紀初めにいたる彫刻史上の展開をテーマに講義します。いうまでもなく、8世紀を彩る天平時代の造像はアジア諸国と同時代な潮流に乗って、際立って芸術性の高い表現・技法を示しました。奈良の大寺を中心に競うように現われた乾漆像や塑像の名作がそれですが、東大寺の大盧舎那仏像の造立こそは国内外にとっての事件でした。その思想的・政治的・宗教美術的意味や造立過程をめぐって、近年改めて議論が高まっておりますので、その論題を提供しつつ考察しますが、盧舎那仏の思想は9世紀の密教思想・美術に連動します。また、天平後期の唐招提寺などの造像と平安初期の木彫像がどのようにつながるのか、外来の美術思想と日本の山林に根づいた造形法との関連を神護寺や延暦寺等の宗教的空間にさぐります。一方、8世紀に顕かになるカミとホトケの交わりは、新たな神仏習合を進めて、平安前期の神像彫刻の顕現に結びつくという、注目すべき段階に入ります。講義は歴史軸をすえて進めますが、「授業計画」にあるようなテーマで展開するつもりです。これらを通じて彫刻作品の多義的な意味の解説法が学べればと希望します。

参考書：

- ・紺野敏文『日本彫刻史の視座』中央公論美術出版 04年
- ・宮治昭『仏像学入門』春秋社 04年
- ・浅井和春『天平の彫刻』（『日本の美術』456）至文堂 04年
- ・岩佐光春『平安時代前期の彫刻』（『日本の美術』457）至文堂 04年

---

#### [04] [93] 美術史特殊 B (4)

建築の歴史と地域マネジメント  
政策・メディア研究科 教授 三宅 理一

---

授業科目の内容：

広く「建築」全般を理解するため、建築に関わるさまざまな領域について横断的に講義を行う。建築を理解するためには、時系列で建築の変遷を追う建築史的理解、構造や設備などの技術的な仕組みを知るための工法的理解、都市の成り立ちと実態を掌握するための都市史・都市論的理解、環境との関わりを論ずるための環境論的理解など、さまざまな視点からのアプローチなどがあるが、まずはみずからの眼と身体で建築空間を楽しみ、体験的に理解する姿勢が必要である。春学期は人と建築の関わりの中でもっとも根源的な「住まい」の問題をメインテーマに、「家」の社会的意味や空間的構造、歴史的な系譜、近代の集住の問題などを論じていく。秋学期は遺産学と地域マネジメント、アートとの関わりを軸にさまざまな分野や対象に応じて講義を行う。レポートを何回か提出し、その都度、議論を行う。また、授業に平行して各地で行われている展覧会やイベントを訪れ、また実際の建築を訪れる機会を設ける。また夏季休暇などを利用して、海外等の建築を訪れることも理解をおおいに助ける。

テキスト：

授業中に指示する。

---

#### [04] [93] 美術史特殊 C (4)

1950年代以降の美術 理工学部 助教授 近藤 幸夫

---

授業科目の内容：

本講義は、主として第二次大戦後の日本の現代美術を様々な角度から考えようとするものである。ヨーロッパ、アメリカの同時代の動きや、歴史的な事象については、すでに多くの概説書がでているので、本講義では、そのような基礎的な知識を前提として、さらに各論的、個別的なテーマへと踏み込むと考えてもらいたい。そこでは、必然的にモダニズムの直線的な発展史観や還元主義が相対化されてくるはずである。授業は、開催中の重要な展覧会、画廊などの見学会やゲストを招いての講演なども行う予定なので、積極的に授業に参加する学生の受講を希望する。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指示する

---

**【04】【93】美術史特殊 D (4)**

イタリア・ルネサンス、マニエリスム彫刻史

助教授 遠山 公一

---

授業科目の内容：

イタリア 16 世紀における彫刻の歴史を見ていく。彫刻の見方から始め、主要なルネサンス彫刻家による作品群をなるべく大きなテーマやモニュメントに従って概観する。特にミケランジェロの問題、さらにフィレンツェにおける彫刻と政治や社会との関わりを見ていきたい。

テキスト：

特に定めず。毎回、資料やスライド・リストを配布して授業を行う。

参考書：

J. Pope-Hennessy, *An Introduction to Italian Sculpture*, vol. III *Italian High Renaissance & Baroque Sculpture*, 4th ed., London, 1996.

---

**【04】【93】美術史特殊 E (4)**

江戸浮世絵の世界

講師 内藤 正人

---

授業科目の内容：

江戸時代の絵画のうち、浮世絵について論じる。

浮世絵とは、十九世紀以降の欧米世界にあまねく知れわたった、日本近世期の絵画・版画作品のことである。西洋絵画では風俗画に相当するとされるこの浮世絵の研究については、明治期以降の欧米や日本でおこなわれてはきたが、残念ながらその蓄積はいまだしの感がある。たとえば、歌麿や北斎といった著名な浮世絵師でも、版画や版本、それに肉筆画をも含めた総作品目録（カタログレゾネ）の底本ができてはおらず、基礎的な研究は今後によく委ねられている。さらに、従来の浮世絵研究では、多分に趣味的な言説も多く含まれていたことの反省も多い。

こうした視点からすれば、浮世絵研究とは、まさに未開の豊穰なる沃野であると評することができるだろう。今後もさまざまな学問的アプローチが可能なのである。

本講義では、まず前期は著名な浮世絵師ひとりを選んでとりあげ、その人と作品について考察する。ついで後期は、最新の浮世絵研究におけるトピックスのなかから興味深いテーマを選んで、深く掘り下げていく予定である。

テキスト：

授業時に指示する

参考書：

『浮世絵の歴史』、小林忠監修、美術出版社、1998、2500 円

---

**【04】【93】美術史特殊 F (4)**

曼荼羅の歴史的発展

講師 田中 公明

---

授業科目の内容：

インドで成立した仏教は、その長い歴史の中で、多様なアイコン（聖像）をつくりだし、仏教の図像とそのシンボリズムは、わが国の文化全般にも大きな影響を与えた。本講義では、インドにおける仏教美術の成立から説きおこし、仏教図像の集大成ともいべき曼荼羅の歴史的発展を概観する。昨年は、講義の教科書として春秋社から『両界曼荼羅の誕生』を刊行したが、完成が 8 月にずれ込んだため、一年を通じて教科書に沿った講義を進めるのは、今年度が初めてとなる。仏教の歴史的発展や、図像の哲学的・思想的解釈にも触れることになるので、美学・美術史だけでなく、哲学・宗教・歴史系の学生諸君の受講も歓迎したい。

テキスト：

田中公明著『両界曼荼羅の誕生』（春秋社 2004 年）

---

---

**【04】【93】美術史特殊 G (4)**

遺響論—オランダの光

講師 幸福 輝

---

授業科目の内容：

レンブラントやフェルメールに代表される 17 世紀オランダ絵画は、レンブラントの没年（1669 年）頃から大きくその姿を変えていく。古典主義の浸透とともに、洗練された優美な表現への嗜好が、庶民的で粗野な表現を駆逐していくようになるからである。その後、19 世紀の半ばまで、オランダでは古典主義的傾向が支配的であったため、例えば、ヤン・ファン・ホイエンやオスターデ、あるいは、フランス・ハルスなど庶民的な表現を得意とする画家たちは、全く忘れ去られるか、あるいは、低い評価に甘んじるようになった。フェルメールの忘却もこのような趣味の変遷と無関係ではないし、オランダ絵画そのものと見なされるレンブラントでさえ、その時々でかなり異なった理解をされてきたのである。本講義では、オランダ絵画が 19 世紀に—とりわけフランスで一どのようにして再発見されていったのかを探っていく。毎回、スライドで絵画を鑑賞しながら、17 世紀オランダ絵画が放つ光が 19 世紀に再び輝きだす歴史の過程を明らかにしたい。まず、前半に 17 世紀オランダ絵画がどのような美術であったかを概観し、次いで、これがどのように評価されていったのかを検証していく。

テキスト：

特になし。

参考書：

特になし。

---

**【04】【93】美術史特殊 H (4)**

18 世紀フランスの美術と社会

講師 大野 芳材

---

授業科目の内容：

ルイ 14 世の治世後、フランスは経済的繁栄の中で、美術は新しい展開をみせた。国王、教会、貴族という旧来の庇護者に加えて、豊かなブルジョワジーが、あらたな鑑賞者として登場したのである。こうした背景の中で、どのように美術制作が行われたかと、公的・私的なパトロンとの関係で、具体的に考えたい。

テキスト：

授業時に指示

参考書：

授業時に指示

---

**【04】【93】美術史特殊 I (4)**

芸術における先端技術

講師 内田 まほろ

---

授業科目の内容：

美術分野の研究、仕事におけるデジタルメディア利用方法の解説と実践的な技術習得。

「デジタル」「メディア」「テクノロジー」「サイエンス」を利用した芸術の研究。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業の中で紹介

---

**【04】【93】美術史特殊 J (4)**

スペイン美術

講師 木下 亮

---

授業科目の内容：

春学科は、18 世紀のスペイン・ブルボン家の芸術擁護とその宮廷美術の成立について確認し、さらにゴヤの絵画・版画について詳述します。

秋学期は、エル・グレコからベラスケス、さらに 17 世紀スペインのバロック美術について考察していきます。また王室絵画コレクションの充実の過程とプラド美術館の開館についても講じます。

テキスト：

特になし

参考書：

ジャンヌ・A・トムリンソン『ゴヤとその時代』昭和堂、2002、¥3,800

#### 【04】【93】美術史特殊 K (4)

【春】 やきものの方

【秋】 近代工芸論—西洋と日本

【春】 講師 荒川 正明

【秋】 講師 金子 賢治

授業科目の内容：

〔春学期〕

日本の豊かなやきもの文化を知っていただくつもりである。単に知識としてではなく、やきものに表現された造形から、何かを積極的に読み込んでいく訓練をしていきたい。日本人の独特の美意識が、やきものという素材を通じて立ち上ってくると思われる。

〔秋学期〕

単なる手工業として出発した近代工芸が、モダンデザインの理論と実践、近代的な意味での個人作家的工芸制作へと発展的に展開していく歴史と、そのなかから出てきた西洋近代の美術概念とは異なる日本の工芸制作理論を考察する。特に陶芸を中心に上げ、近代的な意味での個人作家的工芸制作、言い換えると純粋美術を構成する概念としての絵画、彫刻と同じように工芸制作を行う歴史と理論を、その発生時期である大正後半から昭和初期、そして戦後、現代へと跡付ける。

テキスト：

（春）『やきものの方』（角川選書）荒川正明著

（秋）「近代工芸案内—東京国立近代美術館工芸館所蔵品を中心として」、2005年3月、東京国立近代美術館

参考書：

（秋）「現代陶芸の造形志向」、2001年12月、阿部出版

#### 【04】【93】美術史特殊 L (4)

日本の近代美術 岡倉天心から現代まで

教授（有期） 鍵岡 正 謹

授業科目の内容：

日本の近代美術における基本的な知識を身につける。とりわけ日本の美術に関して近代の先覚者であった岡倉天心の仕事を読み解きながら、日本の近代から現代までを理解できるようにしたい

テキスト：

特になし。講義のテーマにより、プリントを必要に応じて配布する

参考書：

岡倉天心「茶の本」「東洋の理想」「日本美術史」などの文庫本

#### 【04】【93】音楽史特殊 A (4)

フランツ・リストの音楽世界

講師 福田 弥

授業科目の内容：

「リストは19世紀の音楽生活の縮図である」と言われるように、彼の音楽活動は、同時代の西洋音楽におけるさまざまな問題と結びついている。リストの生涯と作品を理解することは、とりもなおさず、19世紀の音楽史を知ることに通ずる。たとえばそれは、彼がサリエリの弟子でありながら、最晩年には無調音楽にまで手を染めていることから窺い知れよう。ヴィルトゥオーソ・ピアニスト、交響詩の創始者、教会音楽の改革者、20世紀音楽の先駆者、そして教育者、著述家としても活躍したリストが19世紀の音楽史に果たした役割と、彼が目指した壮大な音楽世界を考えていきたい。

テキスト：

・拙著『作曲家 人と作品 リスト』音楽之友社、2005年。

・随時プリント（楽譜を含む）を配付する。

参考書：

講義時に指示する。

#### 【04】【93】音楽史特殊 B (4)

バロック時代のドイツ音楽

講師 今谷 和徳

授業科目の内容：

17、18世紀のバロック時代のドイツ音楽について概観する。ヨーロッパの音楽は、一般にJ.S. バッハに始まり、ドイツを中心に展開したといわれるが、それは誤りで、実際には遠く中世の時代からフランスを中心に展開されてきた。16世紀からはイタリアも重要な音楽活動の中心地となっていたが、ドイツは、そうしたフランスやイタリアの影響を受けながら、徐々に独自の音楽を確立してゆくのである。ここでは、バッハに至るバロック時代のドイツ音楽を、当時の政治的、宗教的、社会的な背景を踏まえながら眺めてゆきたい。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に紹介する。

#### 【04】【93】音楽史特殊 C (4)

20世紀および21世紀の音楽

講師 岡部 真一郎

授業科目の内容：

本講座では、20世紀、および21世紀の音楽を様々な角度から考察します。本年度春学期は、特に、20世紀音楽の一つの集約点であったともいべきアントン・フォン・ヴェーベルンの音楽を参照点として、同時代音楽の諸相を読み解いて行きます。秋学期は、現代のオペラをテーマに諸問題を扱います。

テキスト：

岡部真一郎著『ヴェーベルン』（春秋社）

参考書：

授業時に随時、指示します

#### 【04】【93】音楽史特殊 D (4)

講師 平野 昭

授業科目の内容：

音楽受容史あるいは音楽鑑賞という観点から、いわゆるクラシック音楽と言えば交響曲がその代名詞となっているとあって過言ではないでしょう。歴史的な位置からすれば交響曲は18世紀に誕生した新しい様式ですが、21世紀の今日にいたるまでオーケストラ音楽の主流を維持しつづけているきわめて稀な芸術様式であると言えます。本年度の講義では交響曲の誕生からその様式変遷を年代を追って概観してゆきます。いわゆる前古典派と呼ばれる18世紀半ばから、盛期古典派、初期ロマン主義、盛期ロマン主義さらに後期ロマン主義、民族主義的ロマン主義、20世紀初頭、兩次大戦間、第二次大戦後、20世紀後半の代表的作品をとりあげながらおよそ2世紀半にわたる交響曲の様式変遷を見てゆきます。

春学期はベートーヴェンまで、秋学期はシューベルト以後。

1 交響曲の誕生（導入として交響曲概念の確認）

2 後期バロックから前古典派まで（2回：バッハの息子世代とマンハイム楽派）

3 ハイドンの交響曲（3回）

4 モーツァルトの交響曲（3回）

5 ベートーヴェンの交響曲（4回）

6 シューベルトの交響曲

7 メンデルスゾーン、シューマンの交響曲（2回）

8 ブルックナーとブラームスの交響曲（2回）

9 マラーとリヒャルト・シュトラウスの交響曲（3回）

10 チャイコフスキーとドヴォルザークの交響曲（2回）

11 ショスタコーヴィッチとプロコフィエフの交響曲（2回）

12 新ウィーン楽派とストラヴィンスキー、メシアン他（2回）

テキスト：

教科書は使わない。講義ごとにレジュメ資料を配布予定。参考書は講義中に紹介する。

---

**【04】【93】音楽史特殊 E (4)**

日本人と音楽

講師 千葉優子

**授業科目の内容：**

日本人の音楽的感性や美意識、またそれに基づく能や歌舞伎などの伝統芸能について、西洋やアジア諸国と比較しながら考察する。

日本の伝統的な音楽では、リズムや音階はもとより、音楽を構成する第一歩である音自体、つまり音色に対する嗜好までもが、西洋のいわゆるクラシック音楽とは全く異なる。西洋音楽では楽音が基本だが、日本人は噪音的要素を多く含んだ音色を好む。そして、こうした傾向は現代のポップスなどにも大きく影響していると同時に、絵画など日本の美術にも相通する美意識によるものである。また、西洋と日本では音楽史のあり方、脳における音の認知の仕方なども異なる。

なぜ、こうした違いが生ずるかを、日本人の自然観、言語、生活様式などから、CD やビデオ等で実例を示しつつ多角的に検証する。

**テキスト：**

千葉優子著「日本音楽がわかる本」(音楽之友社, 2005年)

**参考書：**

授業内で適宜指示。

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

教授 大石昌史

**授業科目の内容：**

美ならびに芸術一般に関する原理的研究を主題とする研究会。個々の作品解釈や作家研究ではなく、芸術思想・芸術理論の研究を行う。それ故、哲学者(美学者)や芸術理論家の著作が研究対象の中心となる。

授業形態は、講読および討論演習の形をとり、問題提起となるテキストや参加者の口頭発表に対して、全員で討論する。

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

20世紀作家研究

理工学部 助教授 近藤幸夫

**授業科目の内容：**

現代美術ならびに20世紀美術を制度的な側面も視野にいれながら研究しようとする学生のための研究会。卒業論文作成のための指導に主眼をおくが、また一方で各自が自分のテーマだけではなく近・現代美術研究全体への知見を広げることも目的とする。

卒業論文のテーマの選定にあたっては作家研究が望ましく、時間をかけて丁寧に文献資料を調査する基本的作業を重視したい。卒業論文作成にあたっては、レポート、口頭発表などにより段階的に論点を明確にしていく方法をとりたい。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

授業中に指示する

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

教授 末吉雄二

**授業科目の内容：**

3年の研究会(I)は年間レポート、4年の研究会(II)は卒業論文の作成を目指して、各人が自分の問題を発見し、問題を追及する。研究した結果を論文としてまとめるのはもちろんですが、研究会ではそのプロセスを参加者全員が協力して、議論し、作業して身につけてゆくことが重要です。最初のうちは教師が提示する具体的な課題に対

して、研究の成果を発表する練習。ついで、各人の問題の選択・設定に関して発表し、質疑応答する。これらの発表を通じて美術史研究の課題と方法を学びます。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

なし 課題や発表に関連する著書や文献に関しては授業時に指示。

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

教授 林 温

**授業科目の内容：**

テーマを設定し、美術史的なアプローチを実践することによって、研究方法を学習する場としたい。本年は、下記のテーマとする予定。授業は参加学生と研究計画を立て、学生による分担課題についての研究発表を主軸に進める。なお、卒業論文を作成する者には個別指導を行い、適宜発表してもらう。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

授業中に指示する。

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

音楽学の方法論

教授 三宅幸夫

**授業科目の内容：**

本演習は、音楽学で卒業論文を書くための研究会です。論文の題目は自由ですが、基礎的や方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、卒業論文の個別指導もおこないます。

**テキスト：**

特に指定しません。

**参考書：**

授業時に適宜指示します。

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

教授 前田 富士男

**授業科目の内容：**

近現代の芸術論・芸術史研究を中心に、卒業論文の指導をおこなう。春学期は4年生の、秋学期は3年生の口頭発表と討論によって授業を進める。秋学期は統一テーマを設け、参加者と相談のうえ各自の発表内容を決める。レポートやグループ発表、美術館見学を随時おこなう。

**参考書：**

『美術史を語る言葉』ほか。

旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の本科目該当のもの。

---

**【04】美学美術史学研究会 I (2)****【04】美学美術史学研究会 II (2)****【93】美学美術史学研究会 I・II (2)**

演劇学/演劇史

理工学部 助教授 小菅隼人

**授業科目の内容：**

上演芸術のうち、特に演劇を対象とする研究会。演劇芸術の境界内であれば、各自の関心による対象・テーマの自由度を最大限に認めます。演劇上演の実践に携わる諸君の参加を歓迎しますが、アカデミズムの立場から演劇研究を志す学生諸君のための研究会ですから、資料

調査・資料批判・論文作成のための地道な作業を覚悟して参加して下さい。本研究会においては、参加者による報告と討論を通して、問題点を明確にしてゆく作業の積み重ねを授業の中心にします。1回程度、一緒に観劇をします。

**テキスト：**

『ベスト・プレイズ』, (白風社, 2000).  
ジョゼフ・ジバルディ, 原田敬一監修, 『MLA 英語論文の手引き (第5版)』, (北星堂, 2002).

**参考書：**

授業中指示します。

---

**[04] 美学美術史学研究会 I (2)**

**[04] 美学美術史学研究会 II (2)**

**[93] 美学美術史学研究会 I・II (2)**

助教授 遠山公一

---

**授業科目の内容：**

卒論作成のために必要な知識や方法を学ぶ。

担当者の専門は、ルネサンス美術の特に絵画と彫刻であるが、なるべく専門にとらわれずに指導を行いたい。卒論作成のために発表を4年生だけでなく全員に課す。また、作品のディスクリプション、参考文献表を全員に提出してもらうほか、3年生には学期末にレポートを出してもらう。

**テキスト：**

授業中にプリントを配布

**参考書：**

授業中に指示

---

**[04] 美学美術史学研究会 I (2)**

**[04] 美学美術史学研究会 II (2)**

**[93] 美学美術史学研究会 I・II (2)**

教授 美山良夫

---

**授業科目の内容：**

音楽および音楽をともなった舞台芸術諸分野（オペラ、バレエなど）を対象とする研究会。内容が多岐にわたるため、自発的に多くのジャンルについて関心もち体験を重ねる努力が必要。また上演芸術の研究資料はわが国では検索入手が困難であることも多く、相当の時間と熱意が欠かせない。

春学期は論文の購読を最初におこなう。次に4年生が卒業論文の概要と研究計画を発表する。3年生は2ないし数名によるグループ研究を課し、発表をおこなう。秋学期は、夏休みに中に進めた3年生の個人発表が主体になる。その間に4年生の卒論発表がある。

発表に関しては、全員がコメントし、調査研究の対象や方法について討論する。そのなかで、自分の研究に資する情報や課題の明確化を進める。個々の発表やグループ研究に関しては、個人面談を経たのちにレジメの作成を課している。そのなかで卒業論文作成のポイントを習得することが求められる。また共通の問題に関してはレポートを課すことがある。

**参考書：**

ウェンジェル『音楽の文章術』春秋社 1994

---

**[04] アート・マネジメント (4)**

**[93] 芸術運営論 (93 学則) (アート・マネジメント) (4)**

教授 美山良夫

DMC 教授 岩 潤 子

講師 南 条 史 生

---

全専攻共通科目「アート・マネジメント」を参照

---

**[04] アート・プロデュース (4)**

**[93] 芸術運営論 (93 学則) (アート・プロデュース) (4)**

教授 美山良夫

DMC 教授 金子哲理

---

全専攻共通科目「アート・プロデュース」を参照

## ○日本史学専攻

### 必修科目

【04】【93】史学概論(4) 教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

【04】【93】日本史概説Ⅰ(4)  
都市からみた中世日本 助教授 中 島 圭 一

#### 授業科目の内容：

12～16世紀の日本では、朝廷や幕府が所在した京都・鎌倉を初めとして、さまざまな種類の都市や町が各地に発達しました。本講義では、それらの都市や町の実像を史料に基づいて確かめながら、背景にある政治や社会・文化のあり方を考えていきます。

#### テキスト：

特にありません。プリントを配布します。

#### 参考書：

授業中に適宜提示します。

【04】日本史概説Ⅱ(4)  
【93】日本史概説Ⅲ(4) 教授 柳 田 利 夫

#### 授業科目の内容：

現代と切れ目なく繋がっている近代という時代の特徴を、政治史や経済史を縦糸に、社会史、文化史、思想史を横糸にしつつ考えてゆきたいと思っています。講義では、個別具体的な出来事を素材に、研究史の紹介や要約にとどまることなく、同時代の原史料を実際に読みすすめることを通じて、考察してみたいと思っています。

【04】【93】古文書学(4)  
中世の文献史料の読み方・扱い方 講師 西 岡 芳 文

#### 授業科目の内容：

「古文書」を中心として、中世史の素材となる文献史料の読み方と扱い方を講義します。

近世以降の古文書に比べると、中世の古文書は数も少なく、博物館などに行かないと見られないのが普通です。書体が定型化した近世以降の古文書と異なり、中世のくずし字は難読なものが多いうえに、見慣れない用語や様式が用いられているため、まるで外国語を見るような感じがするかも知れません。そのような古文書を歴史の素材とするためには、さまざまな知識と、くずし字を解読する技術が必要です。本講義では、できるだけ実践的に、中世の文献史料を解読・処理するための技術を指導いたします。

#### テキスト：

『日本中世史研究事典』第四章・特論「日本中世史 史料の手引」(東京堂出版、1995年刊。215～227頁)

\*第2回までに該当部分をご用意ください。必要な古文書図版などは講義中に配布する予定です。

#### 参考書：

- ・佐藤進一著『〔新版〕古文書学入門』(法政大学出版局、1997年刊)
- ・日本歴史学会編『概説古文書学』(吉川弘文館、1983年刊)
- ・伊木寿一著『古文書学』(慶應義塾大学出版会)

【04】【93】古文書学(4)  
江戸時代の文書を古文書学的に読む 講師 鶴 田 啓

#### 授業科目の内容：

歴史を研究し再構成するための材料を「史料」と呼ぶが、日本史の場合、その中心をなすのが文字史料(文献)、とりわけ古文書(差出

人と受取人を備える)や古記録(日記など)である。古代中世と比較して、日本近世の古文書学は未確立だと言われる。たしかに、古代中世文書と比較して量的に膨大な、また近代文書と比較すれば体系化されていない近世文書は、分析の対象としてやっかいな存在である。しかし、既存の説を批判したり新しい説をたてたりする際に、文書(古文書)に対する理解が重要であることには変わりがない。

この授業では、近世古文書学のいわば基礎として、古文書について分類、様式、機能、読解などの面から説明して行く。なお授業では、狭義の文書だけでなく、個人や組織がそれぞれの目的のために作成した日記や記録、編さん物についても取り上げる予定である。

#### テキスト：

講義資料プリントを配布します。

#### 参考書：

- ・日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』(吉川弘文館1989)
- ・高木昭作『日本文化研究』(放送大学教育振興会2002)

【04】【93】日本史特殊(4) 教授 長谷山 彰

#### 授業科目の内容：

7世紀以降の日本古代国家の法と制度について講義する。我が国における律令法の成立とその背景を探ると共に中国律令法に対する日本律令法の特色を明らかにしたい。又裁判制度を中心に律令法運用の実態を検討する。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

- ・牧 英正・藤原 明久『日本法制史』(青林書院新社)
- ・利光 三津夫・長谷山 彰『新裁判の歴史』(成文堂)
- ・長谷山 彰『日本古代の法と裁判』(創文社)

【04】【93】日本史特殊(4)  
古代・中世の日記を読む 講師 尾 上 陽 介

#### 授業科目の内容：

日記は、その記主(筆者)をとりまく環境を生々しく伝える貴重な史料です。本講義では、およそ平安時代中期から室町時代頃までの貴族が書き残したさまざまな日記を材料として、多様な記事から読みとれる内容について紹介しつつ、個人の記録である日記の史料の特性や、「日記を書く」という営みのもつ意味について学びます。

#### テキスト：

講義資料プリントを配布します。

#### 参考書：

- ・斎木一馬『古記録学概論』(吉川弘文館、1990年、2,200円)
- ・尾上陽介『中世の日記の世界』(山川出版社、2003年、800円)

【04】【93】日本史特殊(4)  
武家政権の成立と発展 講師 高 橋 典 幸

#### 授業科目の内容：

鎌倉幕府を中心的論題としてとりあげ、それに先行する平氏政権や、室町幕府、さらには高麗の武家政権などと比較しつつ、日本中世における武家政権の特質を解説します。

#### テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを適宜配布します。

#### 参考書：

なし

【04】【93】日本史特殊(4)  
日本鉄道史研究の諸問題 講師 中 村 尚 史

#### 授業科目の内容：

「鉄道」という典型的な移植産業を通して、近代日本が包摂していた諸問題について考えてみたいと思います。講義内容は、経済史、経営史にとどまらず、時間意識や規律、文化といった社会史的な要素を含みます。

**テキスト：**

中村尚史『日本鉄道業の形成』（日本経済評論社，1998年，5,700円）

**【04】【93】日本史特殊（4）**

七世紀の王権と都城 講師 仁藤敦史

**授業科目の内容：**

七世紀の古代史を王権と都城成立の諸段階として再構成して講義する。時代は継体・欽明期までを前史として、推古期から大化期、天智期、天武・持統期の四期に大きく区分し、近年の聖徳太子論、女帝論、大化改新論、大藤原京論など、論争的な内容を紹介したうえで、私見を述べる。大化前代における古代史史料の扱い方にも言及する。

**テキスト：**

適宜プリントを配布するが、『日本書紀』をしばしば使用する。

**参考書：**

仁藤敦史『古代王権と都城』吉川弘文館，1998年

**【04】【93】日本史特殊（4）**

資料の新しい見方 講師 高橋裕次

**授業科目の内容：**

歴史研究の対象となるさまざまな史料を、「もの」としてとらえ、その形態・材質・伝来などから、情報を引き出す方法を、テーマごとに解説する。また文献資料の古文書や典籍については、料紙の科学的分析などの最新の研究成果を紹介し、今後の課題にも言及する。授業は、具体的に画像を示しながら、講義形式で進めていく。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**【04】【93】日本史特殊（4）**

維新のなかの普遍 講師 三谷博

**授業科目の内容：**

明治維新とその前後の時代を手がかりに、日本史の中に普遍的なものを見出す努力を試みる。ただし、歴史の基本は史料を読むことだから、前半では幕末の二人の政治家の史料を読み、後半ではそれを前提に様々な角度から日本と東アジアの歴史を見直してみたい。

**テキスト：**

プリントを毎回配布します。

**参考書：**

三谷・山口『19世紀日本の歴史』放送大学教育振興会

**【04】【93】日本史特殊（4）**

キリシタン史 助教授 浅見雅一

**授業科目の内容：**

昨年度に引き続き、キリシタン時代の偶像崇拜について、インド、日本、中国における対応の相違を検討したい。中国では、偶像崇拜をめぐる問題は典札論争という形に発展しているため、これについては特に詳しく見ていきたいと思う。

**参考書：**

授業中に適宜紹介する。

**【04】日本史史料講読 A（2）**

**【04】日本史史料講読 B（2）**

**【93】原典講読 A（2）**

**【93】原典講読 B（2）** [春] 教授 田代和生

[春] 助教授 中島圭一

[秋] 教授 長谷山 彰

[秋] 教授 柳田 利夫

**授業科目の内容：**

古代・中世・近世・近代の史料（刊本）の講読と、史料解読のための基本ツールの利用法を修得する。

**テキスト：**

授業の際に配布する。

**参考書：**

授業の際に指示する。

**【04】【93】日本史演習（2）**

近世古文書講読（初級クラス） 教授 田代和生  
講師 原 淳一郎

**授業科目の内容：**

近世古文書講読の初級クラスである。初めは「ひらがな」の読み方からはいり、漢字交じりの平易な文章からさらに難度の高いものへと進んでいく。史料はできるだけ書体の異なったものを選び、初心者古文書に慣れることに主眼をおきたい。この間、解説辞典のひき方を指導し、さらに近世史への関心を深めるために、講読史料と関連するテーマについての、討論や発表もあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。

**テキスト：**

授業中にプリントを配布します。

**参考書：**

辞書：『くずし字解読辞典』（東京堂出版）、『くずし字用例辞典』（東京堂出版）

**【04】【93】日本史演習（2）**

助教 中島圭一  
講師 丸島和洋

**授業科目の内容：**

中世史料の解読演習です。中世史料はくずし字で書かれている上、独特の文体が用いられているので、解読には地道な修練を必要です。授業では古文書の写真版を用い、基礎的な解読／読解能力を身に付けることを目的とします。あわせて、研究を進めていくために必要な辞書・参考書等についても適宜紹介を行います。幅広い史料に触れる機会をつくるため、特定の史料・文献をとりあげる事はしません。テキストは授業時に配付する形をとるため、受講者には初回からの出席をお願いします。

**テキスト：**

授業時にコピー史料を配付します。

**参考書：**

『くずし字用例辞典』（東京堂出版）  
佐藤進一『古文書学入門』（法政大学出版会）

**【04】【93】日本史演習（2）**

近世古文書講読（上級クラス） 教授 田代和生

**授業科目の内容：**

近世古文書講読の上級クラスである。この授業を履修する者は、すでに古文書講読の初級クラスの単位を修得するか、あるいは同程度の講読能力を有する者に限られる。講読史料は、歴史研究のための興味ある特定のテーマから選び、生の史料の分析・活用方法なども指導する。

**テキスト：**

授業中にプリントを配付します

**参考書：**

『図録古文書入門事典』（若尾俊平編著，柏書房）

**【04】【93】日本史演習（2）**

教授 長谷山 彰

**授業科目の内容：**

弘仁・貞観・延喜の三代の格を集大成した『類聚三代格』を講読する。

特に巻19禁制事に収められた格を対象として、京内外で起こるさまざまな社会事象について律令国家がどのような対応を示したのかを明らかにすると共に、政策決定の背景について考察してみたい。

**テキスト：**

新訂増補国史大系『類聚三代格』（コピーを配布する）

**参考書：**

- ・日本思想大系『律令』（岩波書店）
- ・『国史大系書目解題』上（吉川弘文館）

**【04】【93】日本史演習（2）**

近代文書解読 教授 柳田利夫  
講師 吉岡拓

**授業科目の内容：**

近代の公文書、私文書、雑誌類を主なテキストとして、文書解読能力の基礎（くずし字判読の基礎力）を身につけることを目指す。

授業の進め方としては、まず変体仮名の学習を行い、あわせて主要な部首のくずれ方についても学びながら、徐々に漢字を中心とする学習へと入っていく。

**テキスト：**

授業時に適宜指示，配布。

**参考書：**

辞書：『くずし字用例辞典』『くずし字解読辞典』（共に東京堂出版）

**【04】【93】日本史演習（2）**

『出雲国風土記』を読む 教授 三宅和朗

**授業科目の内容：**

『出雲国風土記』は和銅六年（713）の詔によって出雲国造らが編纂し、完本として伝来する唯一の風土記である。有名な国引き伝承を始めとする諸伝承、産物・地形・駅路・神社・寺院などが詳細に記されている。『出雲国風土記』の講読を通して古代社会の具体像に迫っていきたい。

**テキスト：**

荻原千鶴『出雲国風土記』（講談社学術文庫）

**参考書：**

加藤義成「校訂出雲国風土記参究」（今井書店）

**【04】【93】日本史演習（2）**

教授 柳田利夫  
講師 堀和孝

**授業科目の内容：**

本講義は、明治期の史料の読解能力を養成することを目標とする。テキストには、竹越与三郎の『新日本史 上・中』（民友社、1891、92年）を用いる。本書は、『明治文学全集 77 明治史論集（一）』（筑摩書房、1965年）にも収録されているが、講義では出版当時の活字に慣れるため、原本のコピーを使用する。

**【04】【93】日本史演習（2）**

近世対外関係史 助教授 浅見雅一

**授業科目の内容：**

近世史料の講読を行なう。

**テキスト：**

受講者と相談のうえで決めたい。

**【04】【93】日本史演習（2）**

室町期の荘園制と地域社会 講師 湯浅治久

**授業科目の内容：**

日本中世史の研究方法を身につけることができます。具体的には、室町時代の東海地域のまとまった荘園史料を徹底的に読み、あわせて現在の研究状況を関連論文から学びます。折にふれて、フィールド・ワーク（現地調査）の演習もところどころあります。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』4・5（2004年刊）など。

**【04】日本史研究会 I (A) (2)**

**【04】日本史研究会 II (A) (2)**

**【93】日本史研究会 I・II (2) 教授 柳田利夫**

**授業科目の内容：**

近代日本史に関する文献講読と卒業論文指導

**【04】日本史研究会 I (B) (2)**

**【04】日本史研究会 II (B) (2)**

**【93】日本史研究会 I・II (2) 教授 田代和生**

**授業科目の内容：**

この研究会の目的は、江戸時代の政治・経済・文化など多方面にわたる課題と取り組みながら、近世史研究を行なうための基礎能力を養うことにある。具体的な研究方法としては、年度ごとの共通テーマ（今年度は「近世日本経済史」）を設定し、グループでの発表・討論を中心に、専門文献や史料への接近の仕方、あるいはそれらの評価・活用方法などを学ぶ。またこれと並行して、四年生の卒業論文指導、三年生の個別テーマのレポート作成指導を行なう。なお三年生は、近世古文書講読の初級クラス（日本史演習）を必ず履修すること。

**テキスト：**

磯田道史『武士の家計簿』（新潮社、2003年）

**【04】日本史研究会 I (C) (2)**

**【04】日本史研究会 II (C) (2)**

**【93】日本史研究会 I・II (2) 教授 三宅和朗**

**授業科目の内容：**

4年生については卒業論文の指導を行う。3年生については春学期にいくつかの共通のテーマを定めて共同研究を行う。

**【04】日本史研究会 I (D) (2)**

**【04】日本史研究会 II (D) (2)**

**【93】日本史研究会 I・II (2) 教授 長谷山 彰**

**授業科目の内容：**

4年生については卒業論文の指導を行う。

3年生も各自のテーマについて報告を予定しているが、そのほかに共通のテーマを決めて史料の講読も行いたい。

**テキスト：**

適宜コピー史料を配布する。

**【04】日本史研究会 I (F) (2)**

**【04】日本史研究会 II (F) (2)**

**【93】日本史研究会 I・II (2) 助教授 浅見雅一**

**授業科目の内容：**

中世末期から近世にかけての対外関係史を中心としたテーマで、参加者には卒業論文を視野に入れながら各自の関心に沿った研究報告をしてもらう。それと同時に、対外関係史に関する研究論文を参加者と一緒に読み、それを素材としてひとつのテーマについて自由に議論することも考えている。

**【04】日本史研究会 I (E) (2)**

**【04】日本史研究会 II (E) (2)**

**【93】日本史研究会 I・II (2) 助教授 中島圭一**

**授業科目の内容：**

中世史料の講読に、適宜、各自のテーマに基づく報告を交えながら、研究と論文執筆の能力を養ってもらいます。

**テキスト：**

初回の授業で提示します。

---

【04】 日本史洋書講読 (2)

【93】 洋書講読 (2)

マイノリティのアイデンティティ形成と白人性

講師 丸山悦子

---

**授業科目の内容：**

授業ではアメリカ合衆国を扱った文献を読み、英文読解に慣れるとともに、合衆国のエスニック・マイノリティが主流社会との関わりの中で、どのようなアイデンティティを形成していくのか考察します。テキストはフィールドワークに基づく具体的事例に富んだ興味深い本です。現代の米国社会とエスニック・マイノリティを巡る状況が主題ですが、それらの事例が依拠する歴史的背景も説明されています。アイデンティティは流動的であり、「アメリカ人」、「アジア系アメリカ人」、或いは「ラテン系アメリカ人」という意識は一定ではなく、時代とその集団の政治力によって変化するというテーマです。

**テキスト：**

Leland T. Saito, *Race and Politics: Asian Americans, Latinos, and Whites in a Los Angeles Suburb*. (University of Illinois Press, 1998)

**参考書：**

授業で随時紹介します。

## ○東洋史学専攻

### 必修科目

【04】【93】史学概論(4) 教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照

【04】東洋史研究入門(2)

【93】原典講読(2)

東洋史研究入門

教授 坂本 勉

教授 山本 英史

教授 吉原 和男

教授 桐本 東太

助教授 長谷部 史彦

商学部 教授 湯川 武

#### 授業科目の内容：

東洋史ほど間口が広く、かつ奥行き深い分野は少ないのではないだろうか。それだけにどの地域、どの時代、いかなる方法で歴史を学んでいくかについて思い悩んでいる人も多いはずである。こうしたことを考慮して設けたのがこの授業である。原則としてゼミを持つ教員が担当し、オムニバス形式ですすめられていくが、その蘊蓄を傾けた話のなかから将来の道をさぐるよすがを見つけてもらいたい。講義は、以下のように東アジアから西のイスラーム世界へ、時代は古い方から新しい方へという順で組み立てられている。

#### 「東洋史の『組み立て方』」

一般に「東洋史」の名前でくられる時代と空間は、想像を絶する深みと広がりを持っているが、本講ではその中から、私の力がおよぶ領域を選択し、「東洋史」に取り組む際の研究方法を具体的に説明しようと思う。こちらがある事例の解析法を示し、それによって学生諸君に他の事例を同じ視角から分析するとどのようなかを考えてもらう、といった授業の進め方を予定している。(桐本 東太)

#### 「中国近世近代史研究法」

中国の近世近代史を中心に①なぜ中国の歴史を学ぶのか、②中国近世近代史研究の過去と現在、③中国近世近代史のための史料、④実践：史料読解—歴史はどのように作られるのか、という4つのテーマで講じる。(山本英史)

#### 「華僑華人の研究史」

日本における中国移民の研究についての主要文献を紹介しながら、アジア移民研究における方法と課題を論じる。(吉原和男)

#### 「イスラーム世界史研究法」

イスラーム世界史の研究法についての基本的な説明からはじめ、続いてイブン・パットゥータ著『大旅行記』(家島彦一訳、平凡社東洋文庫)の部分的な講読を試みることで、学生諸君をイスラーム世界史研究へと誘うことにしたい。(長谷部史彦)

#### 「イスラーム文化史入門」

イスラームとイスラーム文化の歴史をテーマとする。イスラームという宗教と、その価値観に基づいて形成されたイスラーム文化・文明を理解するためのもっとも基本的な知見を得る目的で、井筒俊彦博士の著作の中から『イスラーム文化』(岩波書店)などをテキストとして使いたい。(湯川武)

#### 「巨視のイスラーム史理解にむけて」

イスラーム世界の歴史はしばしば時代も地域も輪切りにされて研究されていく場合が多い。しかし、ここではそれとはちがった地域横断的な視点からする歴史の切り口について次の順序で話していくことにしたい。

1. イスラーム世界のイメージ
2. 統合のシンボル—メッカ巡礼
3. トルコ民族史からみるイスタンブールの都市史
4. モノを通してみる社会史(坂本勉)

【04】東洋史講読 A(2)

アメリカ華人社会の歴史

教授 吉原 和男

#### 授業科目の内容：

19世紀後半以降に中国広東省からアメリカ西海岸へ出稼ぎ移民として入国した中国人の歴史を、自らもアメリカ華人である筆者によって書かれた英文テキストを使用して学ぶ。

#### テキスト：

Him Mark Lai, *Becoming Chinese American: A History of Communities and Insitutions*. Altamira Press. 2004

#### 参考書：

ユエンフォン・ウーン著、吉原和男監修、池田年穂訳『生寡婦』風響社、2003年

【04】東洋史講読 B(2)

漢文(中国古典)を読む

講師 水間 大輔

#### 授業科目の内容：

漢文を読むことは、中国はもちろんのこと、日本・朝鮮・ヴェトナム・モンゴル・チベットなど、中国の周辺地域の歴史・思想・文化・宗教などを知るうえでも必要不可欠です。特に、卒業論文の課題としてこれらの地域を選ぶのであれば、漢文は避けて通ることができません。そこで、この講義では主に漢文の初心者・初級者を対象として基礎から学習させ、漢文の読解力を身につけさせることを目指します。また、漢文を読むうえで必要な中国の歴史・思想・文化・宗教などに関する知識についても、適宜講義する予定です。

#### テキスト：

なし。毎回資料を配布します。

#### 参考書：

講義の中で適宜提示します。

【04】東洋史講読 C(2)

華僑・華人の世界

講師 廖 赤陽

#### 授業科目の内容：

少子化・高齢化が進んでいる日本。未来50年間、3千万もの外国移民を受け入れざるを得ないと指摘されている。一方、地球全体の状況を見ると、情報ネットワークや資金の流れによる一体化が進む中で、宗教・民族などに基づく自己主張がかえって強まっている。この授業は、中国語の文字史料および音声・映像データを取り上げ、その内容の読解を行いながら、華僑・華人史の基本を学ぶ。これを通して、ネットワークとアイデンティティの緊張を生み出す時代状況を認識し、さらに、世界の中の日本における多文化・多民族社会の構築を考える。

#### テキスト：

・潘翎主編、崔貴強訳『華僑華人百科全書』(中国語版)香港 三聯書店、1998年(授業内プリントを配布)。

・ス波義信『華僑』岩波新書、1995年、777円(各自が書店で買い求める)。

#### 参考書：

・游仲勳『華僑』講談社新書、1990年、693円。

・映像：『尋找他鄉的故事』(香港アジアテレビ連続ドキュメンタリー、中国語)

【04】東洋史講読 D(2)

アラブ史関連文獻講読

講師 佐藤 健太郎

#### 授業科目の内容：

アラブ世界の歴史にかかわる様々な文献を読むことを通して、受講者各自が自身の問題関心にしたがって独力で学習を進めるための基礎的な力を身につける。まずは日本語の論文を数本読んで学術論文の作法などにふれてもらった後、英語による研究文献の講読に進みたい。

#### テキスト：

初回授業時に指定する。

**参考書：**

初回授業時に参考文献表を配布する。

---

**【04】東洋史講読 E (2)**

近代オスマン社会の変容 講師 石丸由美

---

**授業科目の内容：**

19世紀オスマン帝国は政治、社会システムを始め、思想、文化の世界においても大きな変革の時代であった。こうした変化の様子を、日本語及び英語による文献講読を通して概観する。

**テキスト：**

初回授業時に提示します

---

**【04】【93】東洋史概説 I (4)**

中国古代史概説 教授 桐本東太

---

**授業科目の内容：**

中国初の統一国家である秦漢帝国について、主として文献史学の立場にたちながら、最近の出土資料にも配慮して授業を進める。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

適宜指示する

---

**【04】【93】東洋史概説 II (4)**

中国近世近代史 教授 山本英史

---

**授業科目の内容：**

この講義では中国の歴史全体を「伝統の形成・発展・変容」という観点から論じていきます。この講義を通して過去から現在に至るまでの中国の苦悩の歴史の一端に触れていただければ幸いです。

**テキスト：**

山本英史『現代中国の履歴書』慶應義塾大学出版会 2003年

**参考書：**

尾形勇・岸本美緒『中国史』山川出版社 1998年

---

**【04】【93】東洋史概説 III (4)**

宗教・民族からみるイスラーム世界史 教授 坂本 勉

---

**授業科目の内容：**

イスラーム世界とは多様な民族とエスニック集団からなる広大な歴史的世界である。宗教的にもイスラームのみならずそれと兄弟関係にあるセム的一神教たるユダヤ、キリスト教を内に含みつつ共存をはかってきたところだ。この講義ではこうしたイスラーム世界の多様性と複合性を春学期においてはアラブ、トルコ系諸民族の15世紀あたりまでの歴史を軸に焦点をしばらくながら話をしていく。ついで秋学期では16世紀から近代の時期にかけてのオスマン帝国の歴史を例にトルコ、アラブ、バルカンの人びとがいかにして民族の意識をもつようになってきたのか、その文化的、政治的ナショナリズムの過程について国際関係を視野に入れながら考えていくことにしたい。他専攻、他学部の学生でも理解できるようにできるだけかみくだいて話すつもりである。また、政治史に偏らずに社会史、文化史にも重点をおいていく。イスラーム世界についての知識はこれからますますグローバル化する国際社会で生きていく上で絶対に必要な分野であると思われるが、志のある学生を歓迎したい。

**テキスト：**

とくに指定せず。春秋それぞれの学期に一回ずつまとまった文献目録を配布。

---

**【04】【93】東洋史特殊 A (4)**

前近代のアラブ都市と知識人 助教授 長谷部 史彦

---

**授業科目の内容：**

11～18世紀のアラブ地域（特に東アラブ地域）の都市社会とそこ

で活動したムスリムや非ムスリムの「知識人」について多面的に考えてゆきたい。

ここでの「知識人」には学者（アーリム）と文人だけでなく行者（スーフィー）や聖者も含まれる。春学期には都市社会を、秋学期には知識人を論じる。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

佐藤次高編『西アジア史 I アラブ』山川出版社、2002年

---

**【04】【93】東洋史特殊 B (4)**

イランの映画と社会 講師 鈴木 均

---

**授業科目の内容：**

イラン映画の名作（ビデオ）を、春学期・秋学期それぞれ3本ずつ選んで現代イラン社会との関わりを考えつつ鑑賞し、議論していく。取り上げる映画は字幕付きのものを選び、各学期の最初の授業の際に出席者と相談する。

**参考書：**

授業中に適宜指示する。

---

**【04】【93】東洋史特殊 C (4)**

オスマン帝国史概説 講師 鈴木 董

---

**授業科目の内容：**

13世紀末より18世紀末に至るオスマン帝国の歴史を、政治と外交、社会と経済、文化と生活の各側面にわたり、概説したい。その試みの中で、世界史におけるイスラーム世界の奇抜な位置づけと西洋中心史観についての見直しも試みたい。

教科書は特に用いないが、下記の必読参考書は必ず目を通すこと。参考文献は随時紹介する。

**参考書：**

教科書ではないが次の書物を必読参考書とする。

鈴木董『オスマン帝国 — イスラーム世界の柔らかな専制』講談社現代新書、1992年

---

**【04】【93】東洋史特殊 D (4)**

西方イスラーム世界の国家と社会 講師 佐藤 健太郎

---

**授業科目の内容：**

西地中海に面した西方イスラーム世界（北アフリカおよびイベリア半島）は、より東方の中東と不断で密接な関係を取り結びながらも、独自の特徴を少なからず有する地域である。わが国においてこの地域は、時にアンダルス（イスラーム・スペイン）にまつわるトピックがいくつか断片的に取り上げられることがあるものの、一般にはイスラーム史の片隅に追いやられることが多かったように思われる。本講義では、このような西方イスラーム世界の前近代史について、さまざまなトピックを取り上げつつ、解説する。その際、西方イスラーム世界の内部に埋没するのではなく、隣接諸地域（中東はもちろんのこと、西欧やサハラ以南アフリカも含む）との関連も常に視野に入れるつもりである。

**テキスト：**

特になし。授業中にプリントを配布する。

**参考書：**

初回授業時に参考文献表を配布する。

---

**【04】【93】東洋史特殊 E (4)**

秦漢時代社会経済史研究 講師 小嶋 茂稔

---

**授業科目の内容：**

近年、中国古代史研究、とりわけ秦漢史研究は、中国の国内で多数発見される「出土資料」の増加により、その様相を大きく変えつつあります。

この講義では、そうした新出の出土資料に依拠しながらも、従来の

文献史料の精読も兼ねて行うことを通して、古代中国（今年の講義では戦国期から後漢期までを対象とします）における土地所有のあり方と、それに対する国家の関わり方について検討していきます。そうした作業を通して、中国古代の国家と社会の関わり方についての認識を深めていきたいと思えます。

講義の理解のためには、これまでに蓄積されてきた、秦漢時代の社会経済史研究の主要な成果を学んでいくことも必要となりますので、講義の前半では、税制・財政制度などについての概説的な内容についても講述します。

受講者の皆さんが、独力で秦漢期を中心とする中国古代史の研究を進めていく一助となるように努力して、講義を進めていきたいと考えています。

#### テキスト：

特に指定しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

#### 参考書：

講義の理解に資する参考文献については、講義中に適宜紹介します。

---

### 【04】【93】東洋史特殊 F (4)

中国明清時代の民間宗教史 講師 浅井 紀

---

#### 授業科目の内容：

この講義は、中国明清時代の宝巻を經典とする民間宗教の諸教派の形成と展開を論じます。明清時代は宝巻という形式の經典を持つ民間宗教結社の成立と発展が顕著な歴史現象となりました。講義では、(1) このような民間宗教の諸教派がどのように形成されたか、(2) どのように発展・展開したか、(3) どのような教義を説いたか、(4) どのような社会的活動をしたか、といった諸点を明らかにします。

この講義を通して、明清王朝支配下の民衆社会の歴史像を知ることができると思えます。

#### テキスト：

なし。

#### 参考書：

授業開始時に参考書の目録を配布します。

---

### 【04】【93】東洋史特殊 G (4)

近代中国の国家建設と社会の変化 講師 田中比呂志

---

#### 授業科目の内容：

本講義は、20世紀初等に欧米や日本にならって近代化を達成しようとした中国を素材とし、その過程を追跡する中で日中関係や、現代中国の推し進める近代化の問題を考察するための視座を養うことを目的とする。立憲制や地方自治を、当時の中国人等はどうのようにとらえて理解していたのか、それらを導入しようとした結果、国家や社会のシステムはどのように変化していくことになったのかを考察し、現代中国とのつながりを考えてみたい。

#### テキスト：

特に指定しません。講義用のプリントを配布します。

#### 参考書：

授業時に随時紹介します。

---

### 【04】【93】東洋史特殊 H (4)

タイの歴史 講師 柿崎 一郎

---

#### 授業科目の内容：

この授業では、東南アジアのタイに焦点を当てて、この地域の歴史を理解することを目標とします。タイは東南アジアで唯一独立を維持した国であり、現在は東南アジアの中でも順調な経済発展を遂げている「勝ち組」の一国となっています。しかしながら、現在のタイが存在する背景には、固有の歴史が存在しており、その歴史から生じた問題も現在に至るまで継承されています。この授業では、そのタイの歴史を学ぶことで、更なるタイ、あるいは東南アジア理解の一助となることを目指します。

#### テキスト：

指定しませんが、毎回簡単なレジュメを配布します。

#### 参考書：

初回時に提示します。

---

### 【04】【93】東洋史特殊 I (4)

世界の華人社会の比較考察 講師 山下 清海

---

#### 授業科目の内容：

中国から世界各地に移住して行った華人が、移住先でどのような社会を形成し、そこでどのような生活様式を展開してきたかについて、東南アジア・北アフリカ・ヨーロッパ・オセアニアなどの具体的事例を比較しながら考察します。

とくに華人が形成したチャイナタウンの各地における地域的特色とその要因について解説します。

また、日本国内の事例や、中国の「僑郷」（華僑の故郷）についても取り上げます。

本講義では、地理学的な視点も加えて、「地域を視る目」を養うことにも重点を置いています。

#### テキスト：

山下清海著「チャイナタウン—世界に広がる華人ネットワーク」（丸善、2000年、2300円）

#### 参考書：

- ・山下清海著「東南アジアのチャイナタウン」（古今書院、1987年、1890円）
- ・山下清海著「シンガポールの華人社会」（大明堂、1988年）
- ・山下清海著「東南アジア華人社会と中国僑郷—華人・チャイナタウンの人文地理学的考察—」（古今書院、2002年、6825円）

---

### 【04】【93】東洋史特殊 J (4)

タイ華人社会における「伝統」と「近代」 教授 吉原 和男

---

#### 授業科目の内容：

授業内容：20世紀初頭にはタイの総人口約830万人の1割近くを華僑とその子孫が占めていた。しかしその後、中国に共産党政権が成立したことにより新たな移民流入がほぼ途絶え、また現地国籍取得が進んで「華人社会」へと変化していった。20世紀後半におけるタイの経済発展に伴う社会変動がタイ華人社会の内側からの視点ではどのように捉えられ、また彼らはその社会変動にどのように適応したのか。移民によって中国から伝えられた民衆宗教、現地で新たに発達した親族類似の同姓団体を事例として考察する。

#### テキスト：

なし

#### 参考書：

- ・吉原和男、鈴木正崇、末成道男 編『〈血縁〉の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社、2000年
- ・吉原和男、鈴木正崇 編『拡大する中国世界と文化創造：アジア太平洋の底流』弘文堂、2002年
- ・大塚 関 編『宗教学入門』弘文堂、2004年

---

### 【04】【93】東洋史特殊 K (4)

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

---

#### 授業科目の内容：

東南アジアの歴史について様々な視座から実証的に検討する。マクロなスケールで地域世界の成り立ちを考える一方で、ムラの世界まで降りて具体的に人々の実践に迫ってみる。切り口は一つに限定しない。

前半は、東南アジア全体に関わる概論的な問題を取り扱う。「自然環境」「国家・政体」「外文明」「交易ネットワーク」など。後半は、ベトナム史に焦点を当てる。「農業・農村から見た歴史」「儒教をめぐる問題（葬礼、女性問題）」「医療」「戦争」など。

#### テキスト：

特に指定しません。講義中に資料プリントを配布します。

#### 参考書：

上智大学アジア文化研究所編『新版・入門東南アジア研究』（めこん、1999年）

【04】東洋史研究会 I A (3年)(2)

【04】東洋史研究会 II A (4年)(2)

【93】東洋史研究会 I・II (2)

中国近世・近代史研究の方法と課題

教授 山本 英史

#### 授業科目の内容：

この研究会は、受講者にとっては中国史—特に文献を史料として用いた10世紀以降の政治史および社会経済史—についての研究を行うための基礎能力を養うことに、また特に4年生にとっては卒業論文作成の準備をすることに目的があります。

本年度は上記の目的に沿い、前期は3年生を中心とする自分に興味がある自由なテーマにもとづく報告をひとりずつ行ってもらいそれを批判・討論していくという形態で進めます。また、後期は4年生を中心に卒業論文の中間報告とその検討を行います。

#### 参考書：

- ・山根幸夫編『中国史研究入門』（増補改訂版）山川出版社、1995年。
- ・小島晋治・並木頼寿編『近代中国研究案内』岩波書店、1993年。
- ・『世界歴史大系・中国史』4 明清、山川出版社、1999年。
- ・山本英史編『伝統中国の地域像』慶應義塾大学出版会、2000年。

【04】東洋史研究会 I B (3年)(2)

【04】東洋史研究会 II B (4年)(2)

【93】東洋史研究会 I・II (2)

イスラーム社会史への途

教授 坂本 勉

#### 授業科目の内容：

まず最初に共通のテキストとして生活観にあふれた社会史、文化史について扱う本と一緒に読んでいながら中東イスラーム世界についての認識を深めていきたい。これが済んだ後、出席者にそれぞれ自由課題を与え、その結果をレジュメにして発表していくという形式で授業をすすめていくことにする。このゼミに出席する者は、まず自分が何をやるかとしているのか、徹底的に考えてほしい。そして、しかるのちにやるべき事柄にかんする周到なビブリオグラフィーをつくりそれにもとづく意欲的な発表を期待する。

#### テキスト：

初回の授業で指示する。

【04】東洋史研究会 I C (3年)(2)

【04】東洋史研究会 II C (4年)(2)

【93】東洋史研究会 I・II (2)

商学部 教授 湯川 武

#### 授業科目の内容：

本研究会は、中東、広くはイスラーム世界の歴史と文化という枠内で、卒業論文を書こうとする学生を対象とする。授業の目的は、まず第一に中東およびイスラーム世界の歴史や文化についての知識と理解を広げ深めることにある。そして第二に、その学習を通じて、自らテーマを選択し、調べ、整理・分析し、卒業論文にまとめる、というプロセスを学ぶことにある。その過程で発表を繰り返すことにより、プレゼンテーション能力を高めることも含まれる。

卒業論文は「論文」であるから、それなりの内容と形式をきちんと備えていなければならない。その準備の過程を通じて、中東やイスラーム世界について、より幅広く、より深く学ぶことができることを期待する。

#### テキスト：

特に指定しない

#### 参考書：

初回の授業で参考文献リストを配布する

【04】東洋史研究会 I D (3年)(2)

【04】東洋史研究会 II D (4年)(2)

【93】東洋史研究会 I・II (2)

イスラーム社会史研究

助教授 長谷部 史彦

#### 授業科目の内容：

7～19世紀の中東・イスラーム世界について、社会史・文化史の視点から考え、演習形式で学んでゆきたい。本年度は都市社会、民衆文化、聖者信仰、スーフイズムに関する文献を講読し、これと並行して卒業論文の作成に向けた自由研究発表とディスカッションを行なう。下記テキストを講読した後に英語文献に進みたい。

#### テキスト：

アーネスト・ゲルナー（宮治美江子ほか訳）『イスラーム社会』紀伊国屋書店、1991年

【04】東洋史研究会 I E (3年)(2)

【04】東洋史研究会 II E (4年)(2)

【93】東洋史研究会 I・II (2)

中国人ならびにアジア人の国際移動

教授 吉原 和男

#### 授業科目の内容：

- (1) アジアにおける、あるいはアジアから他地域への国際人口移動の歴史人類学的研究を行う。中国人だけではなく、日本人、韓国人、タイ人、マレー人、ビルマ人、インド人なども視野にいれて比較研究する。移民の故郷、移民に関する法制、プロセス、適応と文化変容、エスニシティなどについて総合的に考える。たとえば、グローバリゼーション、トランスナショナリズム、華僑華人、チャイナタウン、移民の宗教、外国人労働者、難民などがキーワードである。
- (2) 中国の近・現代史において中国人の国際移動と関連する事象の研究
- (3) 北米、ヨーロッパ、東南アジア、オーストラリアそして日本などにおける中国系以外のアジア移民の研究。

#### テキスト：

- ・岩波講座文化人類学第7巻『移動の民族誌』岩波書店、1996年
- ・岩波講座世界歴史第19巻『移動と移民』岩波書店、1999年
- ・五十嵐武士編『アメリカの多民族体制』東京大学出版会、2000年
- ・吉原ほか編『〈血縁〉の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社、2000年
- ・吉原ほか編『アジア移民のエスニシティと宗教』風響社、2001年
- ・吉原ほか編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002年

【04】東洋史研究会 I F (3年)(2)

【04】東洋史研究会 II F (4年)(2)

【93】東洋史研究会 I・II (2)

中国古代史の諸問題

教授 桐本 東太

#### 授業科目の内容：

中国古代史で卒論を書きたいと思っている人の研究会。特定のテキストを選んで講読したり、学生諸君に発表してもらったりしながら授業を進めたい。

#### テキスト：

なし

#### 参考書：

適宜指示する

## 選 択 科 目

---

### 【04】【93】東洋史演習 A (2)

オスマン朝と地中海世界 講 師 宮 武 志 郎

---

#### 授業科目の内容：

オスマン朝が国家として発展してゆく過程で、様々な変容が見られた。その変化の様子を様々な文献を読みながら理解することを目的とする。また、地中海世界に起った国際情勢の変化も同時に考察したい。

#### テキスト：

適宜プリントして配布する。

#### 参考書：

授業中に指示する。

---

### 【04】【93】東洋史演習 B (2)

休講

---

### 【04】【93】東洋史演習 C (2)

漢王朝の建国 — 『史記』高祖本紀・呂太后本紀を読む —

講 師 水 間 大 輔

---

#### 授業科目の内容：

春秋時代以前より続く秦は、紀元前 221 年に「六国」（秦以外の六か国）を統一するに至ります。しかし、その苛酷な法律による支配体制は旧六国の民衆の反感を買い、各地で反乱が起り、秦は統一後わずか十五年で滅亡してしまいます。秦を滅ぼした劉邦は漢を建国し、項羽を滅ぼして中国を再統一します。漢は統一後、匈奴に敗れたり、諸侯の反乱や政争に悩まされますが、徐々に政権の安定化へと向かいます。そこで、この講義では前漢の司馬遷が著した『史記』のうち、主に高祖本紀と呂太后本紀を読むことによって、漢文読解力のさらなる向上を目指すとともに、以上のような漢の建国の過程が実際にどのように記されているか検証し、当時の国家・社会・制度・法律・文化などについて、受講者と一緒に考えてみたいと思います。

#### テキスト：

中華書局標点本『史記』を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません。資料は毎回配布します。

#### 参考書：

講義の中で適宜提示します。

---

### 【93】洋書講読 A (2)

休講

---

### 【93】洋書講読 B (2)

休講

---

### 【93】洋書講読 C (2)

休講

---

### 【93】洋書講読 D (2)

休講

---

### 【93】洋書講読 E (2)

休講

---

## ○西洋史学専攻

### 必修科目

【04】【93】史学概論(4) 教授 神田 順 司

#### 授業科目の内容：

歴史の「事実」とは何か。それは揺るぎなき真実として発見されるのか、それとも歴史家の解釈によって作られるのか。そしてもし歴史家によって作られるとすれば、その「事実」認識の客観性はいったいどこに求められるのか。歴史の個別研究から一歩退いて、歴史がどのように認識されるのかを考えてみる時、我々は様々な理論上の問題に直面する。本講義では、そうした歴史学における認識論の諸問題を取り上げ、それらを実証研究との連関において考察する。

#### テキスト：

E. H. カー、『歴史とは何か』岩波新書

#### 参考書：

授業の中で指示する。

【04】西洋史学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 助教授 神崎 忠 昭

David Herlihy, *The black death and the transformation of the West*, edited and with an introduction by Samuel K. Cohn, Jr. Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1997, 117p. を講読します。

#### 参考書：

授業において、その都度指示します。

【04】西洋史学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 教授 大森 雄 太郎

#### 授業科目の内容：

Jack P. Greene, *Understanding the American Revolution; Issues and Actors* (Charlottesville and London: University Press of Virginia, 1995)の中から、いくつかの論文を選んで読みます。本書は初期アメリカ史の碩学であるジャック・グリーンが、長年にわたって発表してきた多数の論文のうち、アメリカ革命を扱い、かつ影響力の大きかったものを選んで一冊にまとめた論文集です。「原典講読」では、多くの人の関心にとって公平であるように、概説書ないし総合研究をテキストとすることが多いようです。しかし、担当者(大森)は、無味乾燥な概説書でなく、むしろあえて個別的な問題を扱った文献を用いることで、英語(この場合はアメリカ語)で展開される論理をたどる訓練を行った方が、学生諸君の将来の役に立つと考えております。本書の研究対象はたまたまアメリカ革命です。しかし授業の目的は、ジャック・グリーン明晰な論理展開を読み解くことを通じて、英語で書かれた歴史のモノグラフを独力で読むための基礎を作ることにあります。なお、技術的には、高校英文解釈的なセンテンス読みから、パラグラフ全体を最小単位とするパラグラフ読みへの転換を目指します。

出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで何らかの成績が保証されるのは合理的でないと考えからです。各学期末に1回ずつ、合計2回のテストを行い、その合計点のみで成績評価を行います。テストは採点後参加メンバーに必ず返却し、採点に疑問のある場合は担当者にクレームをつけることができますようにします。担当者がクレームを無視して教務に成績を提出することはしません。

本書のうちテキストとして用いる論文は、担当者がコピーを作って配布します。特に本書の内容に関心のある人は、ペーパーバック版が\$24.50で入手可能なので、個人で購入して下さい。

#### テキスト：

上記

#### 参考書：

特にありません。

【04】西洋史学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 教授 清水 祐 司

#### 授業科目の内容：

西洋史研究に不可欠な洋書の読み方を指導する授業です。テキストの講読を通じて、辞書・辞典・事典等の使い方等になれ、洋書を理解するためには語学力はもとより、その洋書に直接・間接に関わる十分な知識(場合によっては学説史に関わる知識までも含みます)がなければ読みこなせないことを認識してもらうことが目標です。

#### テキスト：

Philip Edward, *The Making of the Modern English State, 1460-1660*, London, 2001

#### 参考書：

授業中に適時紹介します。

【04】【93】西洋史演習(独)(2) 教授 神田 順 司

#### 授業科目の内容：

ドイツ近代史に関するドイツ語テキストの講読を通してドイツ近代の基本的性格を学ぶ。

#### テキスト：

Rürup, Reinhard, *Deutschland im 19. Jahrhundert 1815-1871*. (Deutsche Geschichte, hrsg. von J. Leuschner, Bd.8) Göttingen 1984.

【04】【93】西洋史演習(仏)(2)

フランス語文献講読 講師 前田 更 子

#### 授業科目の内容：

19~20世紀フランス社会・文化に関するフランス語文献を講読します。

#### テキスト：

コピーを配布します。

#### 参考書：

辞書を指定します：大修館『新スタンダード 仏和辞典』

【04】【93】西洋史演習(伊)(2) 講師 三 森 のぞみ

#### 授業科目の内容：

中世・ルネサンス期のイタリア史に関する文献を講読します。

#### テキスト：

プリントを配布します。

#### 参考書：

授業中に適宜紹介します。

【04】【93】西洋史演習(西)(2)

ブランコ・ホワイトを読む 助教授 山 道 佳 子

#### 授業科目の内容：

ブランコ・ホワイト『スペインからの手紙』(Blanco White, *Cartas de Espan*)を教材として、平易なスペイン語の史料を読む練習をします。筆者は19世紀初頭の自由主義者で無神論者(スペイン国民は例外なくカトリック教徒だった時代です)。『スペインからの手紙』は亡命先のロンドンからスペインに一時帰国した際、彼がロンドンの新聞に書き送った紀行文で、当時のスペインの風俗や独立戦争前後の政治状況が鮮やかに描かれています。

1年間の演習を通して、スペイン語の読解力をつけるだけでなく、どのような背景の勉強をすれば史料が読めるようになるのかということを得得して欲しいと思います。そして祖国を離れた一人の思想家の思いに触れることができれば言うことがありません。

#### テキスト：

プリント配布

#### 参考書：

授業中に指示する。

---

**[04] [93] 西洋史演習 (露) (2)**ロシア中世史に関する文献講読 講師 田 辺 三千広

---

**授業科目の内容：**

ロシア史に関するロシア語文献の講読を行います。今年度は、A. A. Зимин, РоссиянарубежеXV-XVI столетий (15世紀から16世紀への転換期におけるロシア) をテキストとして使用します。原著の講読をすすめると共に、その内容について解説を加えます。

なお、テキストはこちらで用意します。

---

**[04] [93] 西洋史概説 I (4)**助教授 神 崎 忠 昭

---

**授業科目の内容：**

古典古代末期から中世の終わりまでのヨーロッパの歴史を概観します。

**テキスト：**

参考資料のコピーを適宜配布します。

**参考書：**

山本茂他編『西洋の歴史 (古代・中世編)』ミネルヴァ書房 1988年

---

**[04] [93] 西洋史概説 II (4)**教授 清 水 祐 司

---

**授業科目の内容：**

近代前期 (early modern) の歴史を概観します。しかし、一般的な概説のように、諸事件を総花的に時系列に従って述べることはしません。近代前期全般を理解するうえでぜひ認識しておいてもらいたいと思ういくつかの事柄についてお話しします。

なお、できるだけたくさん関連の文献を読んでもらうことも、この授業の重要な目標です。

**テキスト：**

特になし。

**参考書：**

「読書リスト」を配布します。

---

**[04] [93] 西洋史概説 III (4)**イギリス領植民地期北アメリカ史 教授 大 森 雄 太 郎

---

**授業科目の内容：**

概説Ⅲは北米アメリカ史を扱います。ジェームズタウン (1607年) からフィラデルフィア (1776年) に至るイギリス領植民地期アメリカ史を、政治史、社会史、経済史、宗教史、思想史等、多角的な観点から概観します。「アメリカ」はたかだか200年余の歴史しか持っていないとしばしば言われます。しかしこれは間違いであって、合州国が成立する以前に170年にわたる植民地期の歴史があります。そしてこの間に、北アメリカに特有の諸条件によって、特殊アメリカ的な特性が形成され、合州国の歴史は多分にしてこの特性の上に成り立っています。その意味で、イギリス領植民地期アメリカ史 (前半) の知識は、合州国の歴史 (後半) の理解にとって不可欠であると言えます。授業はまず、後の独立時に13のステイツとなる個別植民地の成立の事情と歴史を概観します。その後17・18世紀全植民地を通じての、いくつかのトピックスをとりあげて検討します。最後に、イギリス本国からの分離・独立にいたる、アメリカ革命前半期を簡単に見てゆきます。

参加希望者は第2週の授業日までに、生協購買部でこの授業の「プリント教材」を購入して、授業に持ってきて下さい。

成績評価は学年末に行う完全持ち込み不可のエッセイ・テストによって行います。テストを完全持ち込み不可とするのは、個別的事象にこだわるよりは、全体としての歴史の理解を重要視し、よりよく授業を理解している参加メンバーに、よりよい成績がつくようにしたいためです。従って、他人のノートを借用してテストに対応しようとしても無駄です。また、出席を強要するような方策はとりません。本来なすべきことの外見だけで、何らかの成績が保証されるのは合理的ではない、と考えるからです。テストは試験期間ではなく、最終授業日の1週間前に行い、成績評価と簡単なコメントをつけて最終授業日に返

却します。欠席回数が5回以内であれば (自己申告)、成績に疑問のある場合は、クレームを申し出て下さい。クレームが正当か否かを判断せずに、成績を教務に提出することはしません。欠席が6回以上であれば、もはや授業に参加したとは見なせないの、クレーム権を認めません。そのような人は、多少とも誠実であるならば、テストを受けなくて下さい。

**テキスト：**

ありません。

**参考書：**

文献リストを適時ハンドアウトします。

---

**[04] [93] 西洋史特殊 A (4)**

1930年代の欧米諸国

講師 原 信 芳

---

**授業科目の内容：**

昨年のテーマ「1920年代の欧米諸国」につづいて、本年は「1930年代の欧米諸国」を取り上げる。1930年代の世界は、1929年10月にウォール街でおきた株価大暴落を機に発生した Great Depression と各国の対応によって規定されるといっても過言ではない。

本講義は大不況の推移と米英仏独の恐慌対策について解説する。そして大不況の経験が、第2次世界大戦後の市場経済と先進諸国の経済政策に与えた影響を考える。

**テキスト：**

1冊のテキストにしぼりません。この時代の概論としては、参考書にあげた木村氏のものがよいと思います。

**参考書：**

木村靖二『世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社 2524円) 岩田規久男『マクロ経済学を学ぶ』(ちくま新書 680円) 岩田規久男『インフレとデフレ』(講談社現代新書 550円)

---

**[04] [93] 西洋史特殊 B (4)**講師 北 田 よ 志 子

---

**授業科目の内容：**

17世紀スペインの社会、文化、特に宗教、思想に関して、アンダルシア地方の大商人で貴族であった人物を軸にして考察します。バリエーションの一つがオペラにもなった小説のモデルとされた前半生、全私財を投じて慈善事業を行い、修道者であった後半生の様々な断面から、「衰退」がその代名詞である17世紀スペイン社会の諸局面を見ていきます。人物という最小の単位を中心に、時代精神にふれるまで視野を広げていきたいと考えています。

**テキスト：**

特に指定しません。必要に応じて、授業で配布します。

---

**[04] [93] 西洋史特殊 C (4)**

16Cドイツとスイスの宗教改革運動について

講師 野々瀬 浩 司

---

**授業科目の内容：**

16C初のドイツとスイスの歴史を中心に講義する。まず、当時の時代的背景について概観し、その次にルター、ツヴィングリ、ミュンツァー、再洗礼派などの神学思想に関して、カトリックと比較して、言及する。夏休み以後は、社会史的な視点から、その思想がどのような形で受容され、どの階層に受け入れられ、どのような影響を社会や歴史に与えたのかについて、説明する。通時的な事件史よりも、共時的な社会史や思想史的な叙述になるので、ある程度内容上は難しいテーマとなるであろう。イギリスやフランスの宗教改革史については、あまり言及しない。

**テキスト：**

なし

授業中に資料を配布する

**参考書：**

- ・野々瀬浩司『ドイツ農民戦争と宗教改革』(慶大出版会)
- ・ブリックレ『ドイツの宗教改革』(教文館)
- ・メラ『帝国都市と宗教改革』(教文館)
- ・渡辺伸『宗教改革と社会』(京大出版会)

---

**【04】【93】西洋史特殊 D (4)**東欧とロシアの宗教と社会 講師 黒川 知文

---

**授業科目の内容：**

東欧、特にロシアの宗教と社会について歴史的に考察する。  
春学期には、東欧とロシアのユダヤ史について、秋学期にはロシア正教史について扱う。歴史映画や記録フィルムも上映する。

**テキスト：**

拙著 『ロシア社会とユダヤ人』(ヨルダン社, 2003年)  
『ロシア・キリスト教史』(教文館, 1999年)

**参考書：**

拙著『ユダヤ人迫害史』(教文館, 1997年)

---

**【04】【93】西洋史特殊 E (4)**修道院から見た西洋中世の世界 講師 舟橋 倫子

---

**授業科目の内容：**

西洋中世の世界を、修道院という視角から具体的に分析します。  
ここでは、修道院内部での神学的な成果を検討課題とはしません。  
修道院を1つの理想の下で共同生活を行う人間集団と考え、それが、外部世界とのどのような相互依存関係の中で成立していたのかを考察していきます。

**参考書：**

授業中に必要に応じて指示します。

---

**【04】【93】西洋史特殊 F (4)**Herodotus and Greek History  
法学部 教授 マクリン, ニール B.

---

**授業科目の内容：**

We shall read the Histories of Herodotus, using a Japanese translation, and examine the questions that arise from this work concerning both the history of early Greece and Herodotus' own purposes as an author. The class will be based on a close reading of the text, and will be student-led: that is, each week pairs of students will be each assigned a particular topic based on a particular part of the text, arguing for and against a particular interpretation of this; they must then research their position, and try to persuade the class to accept their conclusions the following week. These debates will be conducted in Japanese, but the teacher's comments will often be in English.

**テキスト：**

ヘロドトス「歴史」(松平千秋訳)(岩波文庫, 1972年) 3 volumes

---

**【04】【93】西洋史特殊 G (4)**19世紀フランスの教育と社会 講師 前田 更子

---

**授業科目の内容：**

人間形成にかかわる教育という領域は、あるべき社会像を模索する近代国民国家の指導者たちの理念がもっとも端的に反映される場のひとつであった。政治的指導者たちはどのような社会や国家の創設をめざし、一方で、現実の社会・人々は学校教育制度をどのように受容していったのか。

フランス革命後の学校教育をめぐる諸問題を通して、近代フランス社会に関する理解を深めることを目的とします。

**テキスト：**

テキストはありません。

**参考書：**

谷川稔『十字架と三色旗』(山川出版社, 1997年)。・その他の参考書については、講義の進行にあわせて、随時、提示します。

---

**【04】【93】西洋史特殊 H (4)**ヨーロッパ近現代と祭り—スペインを中心に—  
助教授 山道 佳子

---

**授業科目の内容：**

文化や伝統と呼ばれるものは常に流動的であるということ、そしてきわめて政治的な現象であるということ、「祭り」を題材として考えます。歴史学の視点から祭りを考察するための前提として、まず政治文化史研究の基礎理論を学ぶことと、ヨーロッパの祭りや歳時記についての基本的な知識を獲得することを春学期の目標とし、次にこれらの基礎の上に立って、ヨーロッパ近現代における祭りの変容とその時代状況について理解を深めることを、秋学期の目標とします。

**テキスト：**

特に指定しない。講義資料はプリントを配布する

**参考書：**

授業中に紹介する

---

**【04】【93】西洋史特殊 I (4)**托鉢修道会の説教  
—活版印刷以前のマス・コミュニケーション—  
講師 赤江 雄一

---

**授業科目の内容：**

15世紀中葉のヨーロッパにグーテンベルクが導入した活版印刷術は、手書きよりも速く大量に同一の書物をつくることを可能にした。活版印刷術は文字の発明以来のコミュニケーション革命であったといわれるが、言説の均質的大量流布を可能にしていたという意味でのマス・メディアが存在していなかったと考えるのは誤りである。

13世紀にフランシスコ会・ドミニコ会を代表とする托鉢修道会は、パリ大学を頂点とし地方の末端の修道院を底辺とする教育システムを整備し、説教者を支援する様々なジャンルの著作を著述・大量筆写すると同時に多数の訓練された説教者を養成した。托鉢修道会が発達させた、こうした体系的な説教支援システムは、活版印刷以前の西ヨーロッパ全域を覆う上に述べたような意味でのマス・メディアであった。本講義の主な目的は1)このような観点から、托鉢修道士の説教システムを多角的に考察すること、2)具体的史料から議論することにより歴史研究の方法論および実践に関して理解を深めることである。

本講義は托鉢修道士の説教システムに関する講義を縦糸とするが、同時に横糸として教会史・修道制史の基礎知識を抑えつつ、アルファベット化の進展、読書形式の変化といった西欧中世におけるコミュニケーション・メディア上の諸発展についても扱う。

教科書は特に指定しないが、参考文献は必要に応じて講義の際に指示する。

---

**【04】【93】西洋史特殊 J (4)**アメリカ合衆国のネイティヴィズム, 19世紀中期~20世紀初頭  
講師 綾 辺 昌 朋

---

**授業科目の内容：**

John Higham, *Stangers in the Land: Patterns of American Nativism, 1860-1925* (New Brunswick: Rutgers University Press, 2002) を読みながら、合衆国のネイティヴィズムについて考えてゆきます。一応、上記のテキストを用いますが、この科目は「原典講読」的ではなく、必要に応じて講義を行うこととなります。ネイティヴィズムは「排外主義」などと訳されますが、単なる「外国人嫌い」や「人種・民族・宗教差別主義」とは異なります。授業では、Higham の定義するネイティヴィズムを理解し、それがいかにして合衆国内で表出したかを具体例を通して学びます。

**テキスト：**

上記。授業では、担当者がコピーを用意し、履習者全員に配布します。(ペーパーバック版が \$30 前後で入手可能です。)

---

---

**【04】【93】西洋史特殊 K (4)**

東欧史

講師 川名 隆 史

**授業科目の内容：**

ポーランドを中心に、東欧の歴史から興味深い（と思われる）様々なトピックを拾い出して解説して行きます。東欧は西欧の辺境でもなければ、得体のしれない異界でもありません。東と西の世界が様々な形で交流し合い、混淆して出来上がった独特の雰囲気を持った世界です。本講義では、宗教、民族、政治、その他多様な観点から、この東欧の歴史をひも解いてゆくつもりです。

**テキスト：**

特定のテキストは使用しません。最低限必要な材料は、配布するか Web 上に公開します。

**参考書：**

基本的に東欧に関する書物はすべて参考書と考えてください。その他必要があれば講義中に示します。

---

**【04】【93】西洋史特殊 L (4)**

転換期の集合心性とピエティスムス

講師 森 涼 子

**授業科目の内容：**

17 世紀末ドイツは、三十年戦争の混乱から、絶対主義による規律化された社会への移行期にあたる。同時代人たちは戦争・飢饉・疫病など生命の危機に怯え、同時にまた絶対主義形式に伴う社会再編成がうみだした文化的危機にもさらされていた。この時代におこってくる新宗教運動ピエティスムスが掲げた「敬虔」とは、現実離れた宗教理念だったのではなく、時代の物心両面にわたる二重の危機を生きぬいていくためのきわめて現実的な処世術だった。ピエティスムス運動に焦点をあてることによって、転換期を生きた人びとの心性を浮かびあがらせるのが本講義の目的である。

**テキスト：**

特に指定しない。参考資料は順次配布する

**参考書：**

授業中にあげる

---

**【04】西洋史研究会 I (A) (3 年) (2)****【04】西洋史研究会 II (A) (4 年) (2)****【93】西洋史研究会 I・II (2) 教授 神田 順 司****授業科目の内容：**

1848 年までのマルクスの思想発展を取り上げ、それを同時代のコンテクストに沿って歴史的批判的に考察する。研究会では下記文献の講読を前提に、関連テーマについての学生諸君の自主的研究にもとづいた報告が中心となる。三月前期の政治状況や社会問題、思想家集団や職人の結社などについて、できるだけ多面的に考察し、そのような歴史的社会的、思想史的ならびに運動史的な文脈の中で、マルクスの思想的発展を位置づけ、その思想の虚構性と現実性について共に考えてゆきたい。

**テキスト：**

David MacLellan, *Marx before Marxism*, London and Basingstoke: Macmillan 1980.

**参考書：**

・良知 力『マルクスと批判者群像』平凡社 1971.  
・良知 力『資料ドイツ初期社会主義—義人同盟とヘーゲル左派』平凡社 1974.  
他の参考文献については、授業のなかで指示する。

---

**【04】西洋史研究会 I (B) (3 年) (2)****【04】西洋史研究会 II (B) (4 年) (2)****【93】西洋史研究会 I・II (2) 教授 清水 祐 司****授業科目の内容：**

(3 年生) 卒論のテーマを決め、文献を読み、「卒論概要」を書く。

(4 年生) 個別指導により、「卒論概要」に肉づけして卒論を完成する。

**テキスト：**

3 年生—「日本人論」「日本文化論」に関する複数の文献 (1 回目の授業で「文献リスト」を配布)

**参考書：**

1 回目の授業で「文献リスト」を配布します。

---

**【04】西洋史研究会 I (C) (3 年) (2)****【04】西洋史研究会 II (C) (4 年) (2)****【93】西洋史研究会 I・II (2) 助教授 神崎 忠 昭****授業科目の内容：**

よりよい卒業論文が書けることを目的にします。3 年生には、テーマを絞って、文献検索のイロハを習い、「読むこと」を学び、発表することを経験してもらいます。それらを基礎にして、4 年生には卒業論文を仕上げてもらいます。「青春のモニュメント」になるような卒業論文を期待しています。

---

**【04】西洋史研究会 I (D) (3 年) (2)****【04】西洋史研究会 II (D) (4 年) (2)****【93】西洋史研究会 I・II (2)****休講**

---

**【04】西洋史研究会 I (E) (3 年) (2)****【04】西洋史研究会 II (E) (4 年) (2)****【93】西洋史研究会 I・II (2) 教授 吉武 憲 司****授業科目の内容：**

授業中に Emily Albu, *The Normans in their Histories* (Woodbridge, 2002) を講読しつつ、個人的に卒業論文作成のための指導を行います。

---

**【04】西洋史研究会 I (F) (3 年) (2)****【04】西洋史研究会 II (F) (4 年) (2)****【93】西洋史研究会 I・II (2)**

北米アメリカ史・リサーチ・セミナー

教授 大森 雄太郎

**授業科目の内容：**

北米アメリカ史を中心とする、西洋史学専攻・学部上級のリサーチ・セミナーです。セミナー・マネージメントは下記のとおりです。

- 1) 徹底的にリサーチ・セミナーであって、いわゆる「文献講読」は行いません。ゼミから「文献講読」的な要素を完全に排除します。この点が他のゼミとは違っているので注意して下さい。なお、いわゆる「サブゼミ」も行いません。
- 2) メンバー各自が自分の扱う問題 (テーマ) で書いて来るペーパーと、そのペーパーについてのディスカッションによって、セミナーの時間が成り立ちます。各自が自分に固有の勉強を持つことと、ディスカッションでの発言を通じて、他のメンバーの勉強にも貢献することが要求されます。他のメンバーのペーパーを事前に読んでおくことを前提に、セミナーはいきなりディスカッションから始まります。
- 3) (2) のペーパーを書くための下作業として、3 年生には各自の扱う問題での文献リストの提出を義務づけます。3 年生の 1 月に、このリストに基づいて個別の口頭試験を行います。
- 4) (2) のディスカッションを支える方策として、他のメンバーのペーパーに対するコメントの提出を義務づけます。この点での最低限の義務は、全ペーパーの約四分の一程度に対してコメントを書く事です。コメントは事前にペーパー著者と大森に送ることになっております。E-メールを利用します。
- 5) 成績評価基準は前もって大森が示します。この点は完全にガラス張りです。従って、成績はメンバー各自が選び取るものになります (その意味では鏡張り)。更に、教務に成績を提出する前に、成績評価案をメンバーに示して、クレイムを受け付けます。

クレームが正当であれば、成績が変わります。なお、出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで、なんらかの成績が保証されるのは合理的ではないからと考えるからです。

**テキスト：**

ありません。

**参考書：**

一定のものはありません。

---

【04】西洋史研究会 I (G)(3年)(2)

【04】西洋史研究会 II (G)(4年)(2)

【93】西洋史研究会 I・II (2)

フランス革命史 商学部 教授 宮崎 洋

---

**授業科目の内容：**

今年のテーマはフランス革命史です。その時代に関する英語の論文を講読し、さらに出席者各人が選択したフランス革命時代のさまざまなテーマについて調べて報告してもらいます。出席者は講読、研究報告、討論と積極的に取組んでもらうことになります。テキストはこちらで用意します。

**テキスト：**

*Dr RIGBY'S LETTERS form France &c. in 1789, London, 1880.*

**参考書：**

その都度紹介します。

## ○民族学考古学専攻

### 必修科目

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 A (4)

休講

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 B (4)

考古学, 民族学, 人類学における数値処理とその実際

教授 高山 博

##### 授業科目の内容:

考古学, 民族学, 人類学への応用を前提に, 統計とその適切な使い方について演習形式で進める。

パソコン上でのソフトウェア (表計算, スライド作成, 統計など) の動かし方も実習していく。統計学そのものの講義ではないので, パソコンのいろは, 統計学の基礎知識などはすでに充当していることが前提となる。

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 C (4)

レヴァントの考古学

助教授 杉本 智俊

講師 徳永 里砂

##### 授業科目の内容:

石器時代からローマ時代のレヴァント (シリア・パレスチナ) 考古学を概観する。各時代の文化を考古学的に復元することはもちろんのこと, 旧新約聖書をはじめとする文献資料も活用する。できる限りトピカルなテーマ (古代オリエントの神々, 死海文書等) も取り上げたい。またレヴァントの歴史とエジプト文明, メソポタミア文明, ギリシア・ローマ文明との関わりについても随時触れるようにする。今期は特にアラビア半島の考古学についても集中的に扱う。

##### 参考書:

A. マザール (杉本・牧野訳) 『聖書の世界の考古学』(リトン, 2003年)

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 D (4)

動物考古学概論

助教授 佐藤 孝雄

講師 姉崎 智子

##### 授業科目の内容:

遺跡から出土する動物遺体から過去の人々の活動や行為, 心性を読み解く「動物考古学 (Zooarchaeology)」の方法論を概説する。主に前期を資料の採集や同定・分析法の説明に, 後期をそれらを経て展開される個別・具体的な調査・研究事例の紹介に当てたい。

講義に際しては, 実物を含めた標本資料と画像を数多く提示し, また時折, 実習的な内容を盛り込むことも考えている。ともすれば, “ゴミ扱い” されかねない骨や貝殻も, 扱い方次第では貴重な文化財となり得る。この点を理解してもらうことが本講義の狙いである。

##### テキスト:

使用しない。

##### 参考書:

講義中に適宜指示する。

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 E (4)

助教授 山口 徹

##### 授業科目の内容:

オセアニア (南太平洋) の島々はしばしば「楽園」として語られる。しかし, 今見るその景観は, 島に備わる自然の営力と, 人間の到来以降数千年のあいだに加えられてきた人為的改変の産物である。講義ではオセアニアの島嶼世界を紹介しながら, 自然と人間の狭間ともいえるこうした現象の具体例に焦点をあててゆく。また, 考古学・自

然地理学・地形学・民族誌・人文主義地理学の多分野に渡る成果や議論を通して, 「生態史」の視点から空間・場所・文化景観といった普遍的なテーマにアプローチしたい。

##### 参考書:

講義にて適宜指示する。

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 F (4)

比べ考える

斯道文庫 助教授 大沼 晴暉

##### 授業科目の内容:

日本の民俗学の中で, 一見傍流に見える南方熊楠・渋沢敬三・山中共古の著作を取上げ, 皆さんにレポートしてもらいながら, 民俗・博物の諸問題や面白さを考えてゆこうと思います。その前にガイダンスとして, 日本の民俗学の歴史について話すつもりです。

また継続して宮本常一の著作を読んでゆきます。

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 G (4)

東北地方縄文時代～弥生時代移行期の諸問題

助教授 安藤 広道

##### 授業科目の内容:

慶應義塾所蔵の八戸市剣吉遺跡出土遺物の整理・分析を行いながら, 東北地方における縄文時代～弥生時代移行期の問題について考える。

##### テキスト:

使用しない

##### 参考書:

必要に応じて講義の中で紹介する。

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 H (4)

考古学と地域社会

助教授 (有期)

櫻井 準也

##### 授業科目の内容:

現在, わが国では遺跡や遺物を埋蔵文化財 (国民共有の財産) として捉えて保護するという従来の啓蒙主義的な考え方では対応できない段階をむかえている。これに対し, 最近では町おこしや村おこしに遺跡や遺物を活用する傾向がみられるようになり, 新たな伝統の創出に考古学が一定の役割を演じつつある。本講義では, 考古学だけでなく, 人類学・民俗学・歴史学の現状も参考にしながら, 実際に現地調査を行い, 考古学と地域社会のあるべき姿について学生諸君と考えていきたい。

##### テキスト:

使用しない

##### 参考書:

『岩波講座 日本考古学 7 現代と考古学』岩波書店, 山下晋司編『観光人類学』新曜社, ホブズボウム・レンジャー編『創られた伝統』紀伊国屋書店, 木原啓吉『歴史的環境』岩波書店など

#### 【04】【93】民族学考古学特殊 I (4)

歴史考古学と物質文化研究

講師 朽木 量

##### 授業科目の内容:

近年, 物質文化への注目が高まっている。本講義では人文・社会科学と比較しながら理論考古学及び歴史考古学の流れを理解し, それらを物質文化研究という新たな形に発展させていきたいと考えている。より具体的なテーマとしては, 近現代考古学や欧米の Material Culture Studies を取りあげ, モノと人の関わりを多角的に論じていく。モノから生活文化をいかに読むかという問題は考古学・民俗学・民族学・民具学・社会学など様々な学問で論じられてきた。本講義ではこうした諸学の成果を踏まえつつ, 我々の身の回りのモノ (植木鉢やランプなどの生活財, 家の構造など) の実態を具体的に検討する。ともすれば定式化しがちな考古学や民俗学の解釈を物質文化研究という形で「脱構築」していきたいと考えている。

##### テキスト:

特に指定しない

**参考書：**

詳細なリストを初回授業時に提示する

**【04】【93】民族学考古学特殊 J (4)**

ウガリトの言語と文化と宗教 講師 津村俊夫

**授業科目の内容：**

紀元前 1200 年に滅亡したウガリト王国の遺蹟（現在、シリアのラス・シヤムラ）から出土した楔形文字アルファベット文書にもとづいて、その言語と文化について学びます。

ウガリトの歴史を概観し、文法を学んだのちに、「バアル神話」の一部を講読します。その際に、旧約聖書の文化的・宗教的背景についても考察します。ヘブル語（ヘブライ語）又は、アラビア語の基礎知識があることを前提として授業を進めます。

**テキスト：**

Cyrus H. Gordon, *Ugaritic Textbook*, Biblical Institute Press, 1998 (約 1 万円)

**【04】【93】民族学考古学特殊 K (4)**

休講

**【04】【93】史学概論 (4)**

教授 神田順司

西洋史学専攻参照

**【04】民族学考古学原典講読 (2)**

**【93】原典講読 (2)**

[春] 助教授 杉本智俊

[秋] 助教授 佐藤孝雄

**授業科目の内容：**

主に、考古学の基本に関わる英文の文献を講読する。学術英語を読みこなせるよう英語力の向上をはかるとともに、考古学・民族学の基本概念について日英両語で理解できるようになることを目指す。履修者全員が毎回の分を読んだ上で授業に臨んでもらう。中型以上の辞書を座右に用意すること。

**テキスト：**

授業内において指示する

**参考書：**

授業内において指示する

**【04】【93】民族学考古学実習 (2)**

助教授 佐藤孝雄

助教授 山口徹

助教授 安藤広道

**授業科目の内容：**

民族学考古学の研究に必要な不可欠な物質資料の記録、取り扱いの実際を室内外で体験してもらう。欠席・遅刻は許されない。また、なるべく 2 年時に履修を済ませること。

**【04】【93】考古学 (4)**

教授 阿部祥人

**授業科目の内容：**

考古学の基礎的な講義を行う。

特に、日本列島における先史考古学な研究の流れや特殊性に触れる。また、自然界におけるヒトの歴史の研究という視点から、この分野の研究の枠組みや方法について述べる。

**テキスト：**

鈴木公雄「考古学入門」東京大学出版会

**【04】【93】民族学 (4)**

助教授 山口徹

**授業科目の内容：**

民族学は、人間や文化の総合的な理解を求める学問である。前期は、民族学と関連諸学とのつながりに目配りしながら、文化研究にお

ける「歴史」の取り扱いについて複数のアプローチを解説する。次いで後期は、さまざまな事象の背後にある「目に見えないもの」への視座として「文化の諸理論」を解説する。

**参考書：**

講義にて適宜指示する。

**【04】人類学概論 (4)**

**【93】人類学 (4)**

人類進化学概説

教授 高山博

**授業科目の内容：**

ヒト (*Homo sapiens*) の進化について、実際の標本（骨格標本、化石模型、生体など）を用いて考えてゆく。講義は隔年で、「人体各器官から見たヒトの成り立ち」と、「化石人類の発見史から見たヒトの進化」とを行っている。本年度は、前者の「人体各器官から見たヒトの成り立ち」をテーマに講義を進める。人体諸器官（頭骨・骨格・歯・脳など）に残された種々の形態・機能を、脊椎動物の進化にしたがって比較・検討し、脊椎動物門、哺乳綱、霊長目、ヒト（科、属、種）の進化の特異性について学ぶ講義としたい。

**テキスト：**

指定しません。

**参考書：**

指定しません。適宜プリントを配布します。

**【04】【93】民族学考古学研究法 (4)**

[春] 助教授 安藤広道

[秋] 助教授 山口徹

[春学期]

**授業科目の内容：**

考古資料を用いて過去の人々の諸活動を理解するために必要な、基本的な方法について解説する。

**参考書：**

鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会

[秋学期]

**授業科目の内容：**

考古資料を用いて過去の人々の諸活動を理解するために必要な、基本的な方法について解説する。

**テキスト：**

使用しない

**参考書：**

・鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会

・他は講義の中で紹介する。

**【04】民族学考古学研究会 I (A) (3 年) (2)**

**【04】民族学考古学研究会 II (A) (4 年) (2)**

**【93】民族学考古学研究会 I・II (2)**

教授 阿部祥人

**授業科目の内容：**

4 年生に関しては卒業論文の指導を行う。3 年生以下については、各自の目ざす専門分野で特に注目すべき内容や興味のある分析方法などを含む最近の論文を取り上げてもらい、それに対するコメント等を土台として演習を行う。

**【04】民族学考古学研究会 I (B) (3 年) (2)**

**【04】民族学考古学研究会 II (B) (4 年) (2)**

**【93】民族学考古学研究会 I・II (2)**

助教授 山口徹

**授業科目の内容：**

卒業論文に向けた実践的な研究指導を軸に据える。受講生にとって文化研究にかかわる多様なテーマの設定が可能だが、研究会における議論のための共通基盤として、フィールドワーク、ブックワーク、調査報告、歴史研究の要素が各人に求められる。報告に際しては、フィ

ールドで自らが記録した写真等の映像資料を提示することが望ましい。

---

[04] 民族学考古学研究会 I (C) (3年) (2)

[04] 民族学考古学研究会 II (C) (4年) (2)

[93] 民族学考古学研究会 I・II (2)

助教授 佐藤孝雄

---

**授業科目の内容：**

4年生に対しては卒業論文作成に向けての指導を行う。3年生以下の諸君には、卒業論文で扱うテーマを絞り込んでもらうために、それぞれ関心の分野の先行研究を整理・批判する作業を課す。履修者には順次、自らの調査・研究成果を報告してもらう。また、毎回各人の発表を受け、皆で討論を行う形をとるので、積極的な発言を期待する。

**授業の計画：**

開講時に履修者と相談の上、決定する。

**成績評価方法：**

平常点（出席状況および発表の内容、ディスカッションに対する参加度。）

**質問・相談：**

授業終了時に受け付ける

---

[04] 民族学考古学研究会 I (D) (3年) (2)

[04] 民族学考古学研究会 II (D) (4年) (2)

[93] 民族学考古学研究会 I・II (2)

助教授 杉本智俊

---

**授業科目の内容：**

古代オリエント世界及び地中海世界の考古学に関心のある学生を対象に卒業論文作製の指導を行う。最初にテーマの設定、論理の組み立て、調査の仕方等方法論を簡単に解説する。その後、各自に自分の研究テーマについて発表してもらう。4年生は卒業論文の中間発表、3年生以下はそれぞれ関心のある分野の研究の紹介と評価を行い、それについて履修者全員で検討を加える。積極的な議論参加を期待する。

**参考書：**

各人の必要に合わせて適宜紹介する

---

[04] 民族学考古学研究会 I (E) (3年) (2)

[04] 民族学考古学研究会 II (E) (4年) (2)

[93] 民族学考古学研究会 I・II (2)

助教授 安藤広道

---

**授業科目の内容：**

2年生：それぞれの興味・関心を考慮した課題を与える。1年間その課題に取り組み、成果を発表してもらう。

3年生：それぞれの興味・関心に基づき、卒論を視野に入れた課題を自ら設定して取り組み、やはり成果発表をしてもらう。

4年生：主に卒業論文の指導をする。

**テキスト：**

使用しない

**参考書：**

必要に応じて講義の中で紹介する。

## ○国文学専攻

### 必修科目

#### 【04】国語学Ⅰ(2)(春学期)

#### 【93】国語学A(2)(春学期)

音韻・文字

【春】講師 半沢幹一

#### 授業科目の内容：

現代日本語を中心として、その特質と歴史について、具体例に即しながら検討してゆく。とくに日本語の音韻・文字を取り上げる。

#### テキスト：

『ケーススタディ日本語の歴史』(おうふう)

#### 参考書：

必要に応じてその都度紹介する。

#### 【04】国語学Ⅱ(2)(秋学期)

#### 【93】国語学B(2)(秋学期)

語彙・文法

【秋】講師 半沢幹一

#### 授業科目の内容：

現代日本語を中心として、その特質と歴史について、具体的に即しながら検討してゆく。とくに日本語の語彙・文法を取り上げる。

#### テキスト：

『ケーススタディ日本語の歴史』(おうふう)

#### 参考書：

必要に応じてその都度紹介する。

#### 【04】【93】国文学Ⅰ(4)

『源氏物語』第三部の世界

講師 原岡文子

#### 授業科目の内容：

『源氏物語』の第三部宇治十帖の世界について、その方法、表現、思想をめぐって考察します。具体的には、橋姫の巻を中心に、仏道をめぐる人間関係にまず注目しながら、物語世界の奥行きを顧み、その魅力の一端を読み解く予定です。

#### テキスト：

玉上琢弥訳注『源氏物語』八(角川文庫)

#### 参考書：

阿部秋生他校注『源氏物語』五(新編日本古典文学全集(小学館))など。

#### 【04】【93】国文学Ⅱ(4)

日本芸能の発生と展開

講師 伊藤好英

#### 授業科目の内容：

折口信夫の芸能学の理論を通じて、日本とその周辺の国々の芸能をめぐる民俗現象を比較・考察する。講義の柱は次の通り。

- ① 折口信夫の芸能学がどのような特徴を持っているものであるかを考える。
- ② 折口の「まれびと」と「よりしろ」の理論を理解し、日本の芸能民俗の中にその現象を具体的に探る。
- ③ 近隣諸国である韓国・中国の民俗の中に「まれびと」と「よりしろ」の現象を具体的に探る。

#### テキスト：

特に定めず、配布資料を活用する。

#### 参考書：

折口信夫『日本芸能史六講』(講談社学術文庫)、折口信夫『古代研究』ⅠⅡⅢ(中公クラシック、中央公論新社)

#### 【04】【93】国文学Ⅲ(4)

催馬楽と風俗

教授 藤原茂樹

#### 授業科目の内容：

平安時代になって催馬楽という名をもつようになった歌謡は、数度の譜の整理を経て大きな差異を見せない程度に固定した。その調査を進めている中で、催馬楽固定以前の様子を後代まで残している歌が少なからずあることを分析していく。そこには、いろいろな素性をもった、決して高貴ではない性質や出自を示すものが見出される。ゆっくりとした作業だが、従来の研究では現れてこなかった地方や庶民の古い風俗を伝える世界を析出するつもりである。

#### テキスト：

授業内指示

#### 参考書：

折口信夫全集ノート編 18巻・日本古典文学全集古代歌謡集・新編日本古典文学全集神楽催馬楽梁塵秘抄閑吟集・鑑賞日本古典文学歌謡Ⅰ

#### 【04】【93】国文学Ⅳ(4)

「和歌」とは何か

教授 岩松研吉郎

#### 授業科目の内容：

日本「古典」の基軸のひとつとしての「和歌」につき、この制度的文芸の構造と原理の総論。「和歌」という語、ウタ一般、歌謡などの区別、「個別作者性」といった項から整理してゆく。

#### テキスト：

『堀河百首』(『新編国歌大観』第四巻 26 を複写すればよい)

#### 参考書：

・久保田・川村『合本 八代集』(三弥井書店、'86年)  
・樋口・後藤『定家八代抄一統王朝秀歌選』上・下(岩波文庫、'96年)

#### 【04】【93】国文学Ⅴ(4)

『建礼門院右京大夫集』を読む

講師 田淵句美子

#### 授業科目の内容：

『建礼門院右京大夫集』は、建礼門院徳子に仕え、源平動乱を目のあたりにした右京大夫という女房の歌集である。私家集であるが日記的性格も強い。多くの人々に愛読されるこの作品を読みながら、その表現の特質、構成、和歌史的背景、作者の生涯などについて考察を加え、新たな読みと文学史的位置づけを試みる。

#### テキスト：

建礼門院右京大夫集(久松潜一・久保田淳校注、岩波文庫)

#### 参考書：

講義中に指示する。

#### 【04】【93】国文学Ⅵ(4)

慶応義塾図書館蔵御伽草子講読

教授 石川透

#### 授業科目の内容：

慶応義塾図書館蔵御伽草子を活字本で講読し、挿絵を鑑賞する。

#### テキスト：

授業時に指示する。

#### 参考書：

授業時に指示する。

#### 【04】【93】国文学Ⅶ(4)

教授 川村晃生

#### 授業科目の内容：

人はどう生きたか、そして私たちはどう生きるか。かつて日本人はどう生きたのだろうか。また私たちは、それから何を学ぶことができるのだろうか。この講義では、日本の文学者(古典、近代問わず)を中心として、さまざまな生のありようと思想を学び、この混迷の時代を生きる私たちの指標を探してみたい。話題はいきおい、過度に工業

化し、文明化した近・現代社会や、戦争と無関係ではいられなくなった現代的状況への批判にも及ぶので、しばしば文学の域を脱することがあるが、あらかじめ了解させられたい。また講義は、講師のみによって成立するのではなく、受講者の意志をも反映させたいと考える立場に立つので、一年間の講義計画の見通しは全く立っていない。

**テキスト：**  
プリントを配布する。

**参考書：**  
必要に応じてふれる。

---

**[04] [93] 国文学Ⅷ (4)**  
すぐ使える近代小説の読み方      講 師 小 平 麻 衣 子

---

**授業科目の内容：**  
小説を分析するとはどのようなことだろうか。漠然とした感動や苛立ちだけでは、人になかなか伝わらない。この講義では、作品を読む際に注目すべきいくつかのポイントを探る。前期は作品ごとに、〈作家〉とは何か、語りの形式、幻想の条件などを考える。後期は物語内の時代、あるいは作品が発表された時代の資料を調べることによって、作品の読みがどのように変わるのかを見る。専門としているジェンダー・セクシュアリティについてもふれる予定である。

**テキスト：**  
川上弘美「蛇を踏む」(中公文庫)、泉鏡花「高野聖・眉かくしの霊」(岩波文庫)、他は主にプリントを用いる。

**参考書：**  
授業内で指示する。

---

**[04] [93] 国文学Ⅸ (4)**  
江戸文化とサブカルチャー      講 師 渡 辺 憲 司

---

**授業科目の内容：**  
現代日本のサブカルチャーの近況は今世界の注目を集めている。それはおそらくポストモダンの文化状況にも大きな影響を与えるであろう。現代日本のサブカルチャーは、日本の伝統的文化、殊に江戸の文化が培ってきた大衆文化から影響を考えずして語ることは出来ない。本授業の目的は、この事を再認識し、さらなるサブカルチャーの行方を照射することを目論んだものである。日本のサブカルチャーが江戸時代以来の伝統的枠組みの継承であると強調されてきたにもかかわらず、まとまった形で、歴史的側面から日本のサブカルチャーを検証しようとするところみはほとんど行われていないようである。ここでは、その一つの試みとして授業を展開することにした。

**テキスト：**  
「江戸文化とサブカルチャー」(渡辺憲司編・国文学解釈と鑑賞 増刊号・2005年1月刊・至文堂・2600円)と作品プリント

---

**[04] [93] 国文学Ⅹ (4)**  
近代作家の幻想小説      教 授 松 村 友 視

---

**授業科目の内容：**  
近代日本文学はその出発期からリアリズムを基本的な方法として選択した。だが、森鷗外・夏目漱石をはじめとして、リアリズムを基本的な方法として選択した主要な作家たちも、時に幻想的な作品を書き残している。そうした作品をたどることで、リアリズムと合理を前提とするパラダイムの中であえて「幻想」に託されたものについて考える。

**テキスト：**  
コピー資料を配布する

**参考書：**  
講義中に示す

---

**[04] [93] 国文学Ⅺ**      教 授 佐 藤 道 生

---

**授業科目の内容：**  
『和漢朗詠集』は平安時代中期、藤原公任によって編纂された上下二巻から成る詩歌のアンソロジーである。日本の伝統的美意識を具現

する書として近代に至るまで広く愛読された。授業では本書の内包する様々な問題(例えば項目の立て方、依拠資料、書式など)について詳細に考察を加え、新たな視点から文学史上の位置づけを試みたい。

**テキスト：**  
こちらで用意する。

**参考書：**  
教室で適宜指示する。

---

**[04] [93] 国文学Ⅻ (4)**  
近代小説〈異界〉を読む      講 師 須 田 喜 代 次

---

**授業科目の内容：**  
下記テキスト収録の近代短篇小説を素材に、作品世界の時空間に降り立つつもりで作品世界に分け入り、さまざまな角度から照明を当て、近代文学研究のさまざまなアプローチを試みたい。

**テキスト：**  
東郷克美他編『近代小説〈異界〉を読む』双文社出版 2100円

---

**[04] [93] 国文学Ⅼ (4)**

---

休講

---

**[04] [93] 国文学ⅭⅣ (4)**

---

休講

---

**[04] [93] 国文学ⅭⅤ (4)**

---

休講

---

**[04] 国文学史Ⅰ (2) (春学期)**  
**[93] 国文学史A (2) (春学期)**  
環境文学史      【春】教 授 川 村 晃 生

---

**授業科目の内容：**  
古典文学から近代文学に至る各時代の文学作品は、おのずとそれぞれの時代の自然環境を、意識的にまた無意識的に映し出している。そうした文学作品の内容に触れつつ、また、現代社会が抱える環境問題自体にも触れたいし、さらに受講者の意志を反映させるような形で講義をすすめていきたいので、年間の講義計画の見通しは、全く立っていない。

**テキスト：**  
なし

**参考書：**  
必要に応じてふれる。

---

**[04] 国文学史Ⅱ (2) (秋学期)**  
**[93] 国文学史B (2) (秋学期)**  
      【秋】教 授 川 村 晃 生

---

**授業科目の内容：**  
国文学史A(春学期)の続きです。

**テキスト：**  
なし

**参考書：**  
必要に応じてふれる。

---

**[04] 国文学史Ⅲ (2) (秋学期)**  
**[93] 国文学史C (2) (秋学期)**  
古代文学の黎明期      【秋】教 授 藤 原 茂 樹

---

**授業科目の内容：**  
古事記中巻を主として読み、万葉集の歌を参照しつつ古代文学の奥行きをたどる。

**テキスト：**

古事記原文の掲載されているもの たとえば、岩波文庫古事記など

参考書：

授業内にて紹介

【04】国文学史Ⅳ(2)(春学期)

【93】国文学史D(2)(春学期)

明治後期文学史

【春】教授 松村友視

授業科目の内容：

明治以降の急激な近代化を様々なレベルで反映することによって成立した近代文学は、同時代の社会状況・文化状況と密接に関わる錯綜した性格をもっている。このような観点に立ち、昨年度を引き継ぐ形で同時代状況を視野に入れながら明治後半期の主要な文学作品・事項を概観し、その文化的な意味を考える。

テキスト：

コピー資料を配布する

参考書：

講義中に示す

【04】国文学史Ⅴ(2)(春学期)

【93】国文学史E(2)(春学期)

「判官物」芸芸史

【春】教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

九郎判官源義経をめぐる、今日まで800年間に大量のテキストがつくられてきた。これを通時的に整理しながら、諸主題の分析、諸ジャンルの解説をしつつのべてゆく。

テキスト：

講義の中で逐次しめす。一部は資料コピーをくばる。

参考書：

講義の中であげてゆくが、『平家物語』諸本、『義経記』は基本だ。

【04】国文学史Ⅵ(2)(秋学期)

【93】国文学史F(2)(秋学期)

「吉野」の芸芸史

【秋】教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

「歌書よりも軍書にかなし」というけれども、それらにかぎらず、「吉野」は、「山」にもかぎらず千数百年にわたって、「み」吉野とよばれるように、特殊に重要なトピクスでありつづけてきた。芸芸諸テキストでの展開を軸にしつつ、その信仰・思想・生活習俗を通観する。

テキスト：

講義の中で逐次しめす。一部は資料コピーをくばる。

参考書：

講義の中であげてゆく。

【04】【93】国文学演習Ⅰ(2)

古代文学の素材

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

日本古代文学の素材について調査報告を行う。対象は 古事記・風土記・万葉集。

【04】【93】国文学演習Ⅱ(2)

長編室町物語講読

教授 石川透

授業科目の内容：

約四百編現存する室町物語(御伽草子)、あるいは、その周辺の作品のうち、長編のものを、影印版で講読する。

テキスト：

最初の授業時に指示する

【04】【93】国文学演習Ⅲ(2)

中世文学評論読解

教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

近代以前の文学批評・芸芸論は、和歌についてとりわけ蓄積されてきた。いわゆる「歌学」「歌論」である。これを丁寧によみとくことは、古典芸芸とその場の理解のためだけでなく、古典研究法の体得にも有益な筈だ。そこで、歌学・歌論の概観をおこなった上で、具体的に数種のテキストから適宜の章段をえらんで、調査・分析・発表・討論をゼミナール形式ですすめる。

テキスト：

逐次影印等を配布する。(今年度は『無名抄』『後鳥羽院口伝』を主とする)

参考書：

初回に指示する。

【04】【93】国文学演習Ⅳ(2)

教授 川村晃生

授業科目の内容：

自然環境・戦争と平和・人権と差別など、現代社会が抱える諸問題を対象として、日本文学その他を考察資料に用いる。演習の進め方については、開講時に相談したいが、それまでにテーマを考えておいてほしい。

テキスト：

なし

参考書：

必要に応じてふれる。

【04】【93】国文学演習Ⅴ(2)

明治大正期の近代戯曲

教授 松村友視

授業科目の内容：

日本の近代演劇成立期にあたる明治末から大正期にかけて書かれた代表的な戯曲を取り上げ、詳細な注釈作業・作品分析を通じて、同時代の文学状況や社会状況との関わりを考察する。具体的には、各作品の担当グループごとに、共同作業によって本文校異・注釈・事実関係の調査・上演記録や劇評の調査・先行研究の整理・総合分析などの作業を行う。

テキスト：

戯曲本文についてはコピー資料を配付する

参考書：

開講時に示す

【04】【93】国文学演習Ⅵ(2)

教授 佐藤道生

授業科目の内容：

『詩序集』(宮内庁書陵部蔵。平安後期の詩序四十六篇を収める)を講読する。詩序は詩宴開催の趣旨を叙べる文体であり、その多くは大学寮の紀伝道に学んだ者が執筆した。絢爛たる四六駢儷文によって書かれ、詩宴に於いては詩の披講に先立って読み上げられた。当時の公家日記や説話集やに閱しても明らかのように、その出来映えによっては文人としての名声が得られる絶好の機会であったから、序者は自らの持てる出来得るかぎり駆使してその執筆に当たった。詩序はまさに王朝漢文学の真髓と言っても言い過ぎではない。授業では履修者の会読というかたちで本書を読み進め、詩序の文学的意義を考察する。

テキスト：

こちらで用意する。

参考書：

教室で適宜指示する。

---

**【04】【93】国語学演習 (2)**

(春学期) 書簡作法の諸相  
(秋学期) 洋学の世界—語学書を中心に—

教授 関場 武

---

**授業科目の内容：**

春学期は、前年度からの流れで、まず江戸期の往来物の概観をし、次に明治期以降昭和前期に至る書簡礼式・作法書類を取り上げ読んで行く。その際、福澤論吉の書簡や、児童向けの啓蒙書：たとえば「啓蒙手習の文」や「文字之教」等も題材とする予定である。秋学期は、「挿訳英和用文章」から、明治初期の英学啓蒙書へと移り、入門書・綴り字書等も含め、その普及の様相を眺めたい。

**テキスト：**

原本や翻刻本より採ったコピーを適宜使用。

**参考書：**

岩波文庫「福澤論吉の手紙」(2004年)ほか、その都度適宜紹介する。

---

**【04】【93】国文学研究会 I (2)**

卒業論文作成研究会 教授 藤原茂樹

---

**授業科目の内容：**

古代文学・芸能・民俗などにつき研究対象とする卒業論文作成のために必要なことを、半期で学び、後期に調査した成果を書きこんでいく。

中間報告3回 仕上げるまでに最低2回書きなおす

題目・目次・関連書籍論文目録作成

---

**【04】【93】国文学研究会 II (2) 教授 川村晃生****授業科目の内容：**

古典文学、近代文学の別を問わず、文学作品の中に見られる自然環境、人権・差別、戦争・平和といった、いわば人間や社会の根本的な問題をとり上げ、そうした問題に先人たちがどう関わってきたか、またそれについて私たちが何を考えるべきなのか、といった点を中心的なテーマとして論文を書かれることに共感します。

---

**【04】【93】国文学研究会 III (2) 教授 佐藤道生****授業科目の内容：**

卒業論文指導。諸芸道を含め、古典文化に関わるテーマで執筆しようとする者を対象とする。論文指導は授業時間外に個別に行ない、授業では文献資料の調査方法について教授する。

---

**【04】【93】国文学研究会 IV (2)**

卒業論文ゼミナール・日本中世文芸  
教授 岩松研吉郎

---

**授業科目の内容：**

院政期から、鎌倉・南北朝・室町時代まで、つまり中世の諸作家・諸テキスト・諸テーマについて論文をかこうとおもう学生のための研究会であるが、近現代等のテーマでも、言語文化としての分析をおこなうものならかわない。

はじめの時間に、すでによんだテキスト、参考文献の提示・報告をもとめるから準備しておくこと。

なお、論文の作成のための指導は、何回かの発表・討論をのぞき、原則として時間外の面接ですすめ、授業時間には、中世のテキストひとつないし数篇の全部または一部を演習形式で、学年末までよみすすめる(何をよむかは、参加者の希望をきいてきめる)。夏の合宿では、他にもひとつテキストをよむ。

---

---

**【04】【93】国文学研究会 V (2)**

卒業論文指導 教授 石川 透

---

**授業科目の内容：**

古典文学を中心に論文を書こうとする者を対象とする。これら以外では、絵巻物等の絵画資料と文学との関わり、昔話等の伝承資料と文学との関わり、古典と現代文化との関わり、等の異文化と文学との接点について書こうとする者も対象とする。

---

**【04】【93】国文学研究会 VI (2) 教授 関場 武****授業科目の内容：**

卒業論文作成指導。学生諸君が自己の責任に於いて選択したテーマに関する論文について、助言と指導を行う。担当者の守備範囲は、本来、中世・近世文芸、児童文学、日本語学であるが、近年専ら行っている辞書史の研究がそうであるように、時代や分野には拘泥しない。広く日本語・日本文化に関わるものであるならば、都市論であろうとオペラ・オペレッタ・ミュージカル、比較文化、漫画、挿絵、服飾、食物、本草、科学史であろうと、真面目に取り組んでくれるのなら、こだわらない。但し最新の文芸理論、それに古代学・折口流については、指導できるほど読み切れたり理解できたりしていないので、ご遠慮願いたい。

---

**【04】【93】国文学研究会 VII (2)**

近・現代の文学・文化を対象とする卒業論文指導  
教授 松村友視

---

**授業科目の内容：**

テーマの決定、資料調査、参考文献の整理、研究方法の選択、論の構築等、卒業論文作成にいたるまでの基本的な手続きについて、各自のテーマ方法を相互に検討しながら学んでいく場としたい。

---

**【04】国文学原典講読 (A) (2)****【93】原典講読 IA (2)**

【春】教授 藤原茂樹

【秋】教授 佐藤道生

---

〔春学期〕万葉集講読

**授業科目の内容：**

万葉集巻十一の歌について 割り当てをきめ、その諸説を整理し発表する。

**テキスト：**

授業内で指示

〔秋学期〕

**授業科目の内容：**

平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

**テキスト：**

授業内指示

**参考書：**

授業内指示

---

**【04】国文学原典講読 (B) (2)****【93】原典講読 IB (2)**

【春】教授 佐藤道生

【秋】教授 松村友視

---

〔春学期〕

**授業科目の内容：**

平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行うことは例年どおり。

**テキスト：**

授業内指示

**参考書：**

授業内指示

---

## 選 択 科 目

[秋学期] 志賀直哉の短編小説

### 授業科目の内容：

志賀直哉の短編小説に詳細な注釈・分析をほどこす作業を通じて、文学研究の基本的な方法・手続きを確認する。対象作品および担当分担任については開講時に指示・決定する。

### テキスト：

開講時に指示する

### 参考書：

開講時に示す

[04] 国文学原典講読 (C) (2)

[93] 原典講読 IC (2) [春] 教 授 松 村 友 視  
[秋] 教 授 石 川 透

[春学期] 志賀直哉の短篇小説

### 授業科目の内容：

志賀直哉の短篇小説に詳細な注釈・分析をほどこす作業を通じて、文学研究の基本的な方法・手続きを確認する。対象作品および担当分担任については開講時に指示・決定する。

### テキスト：

開講時に指示する

### 参考書：

開講時に示す

[秋学期] 短編室町物語講読

### 授業科目の内容：

室町物語(御伽草子)は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本か影印版で講読する。

### テキスト：

最初の授業時に指示する

[04] 国文学原典講読 (D) (2)

[93] 原典講読 ID (2) [春] 教 授 石 川 透  
[秋] 教 授 藤 原 茂 樹

[春学期] 短編室町物語講読

### 授業科目の内容：

室町物語(御伽草子)は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本か影印版で講読する。

### テキスト：

最初の授業時に指示する

[秋学期] 万葉集講読

### 授業科目の内容：

万葉集巻十一の歌について 割り当てをきめ、その諸説を整理し発表する。

### テキスト：

授業内で指示

[04] 漢文講読 III (2)

[93] 漢文講読 (国文) (2) 教 授 佐 藤 道 生

### 授業科目の内容：

漢語文獻に読解するのに必要な基礎知識を修得することを目的とする。漢語文法と漢文訓読法とについて講義する。

### テキスト：

こちらで用意する。

### 参考書：

教室で適宜指示する。

[04] [93] 日本語学 I (2) (春学期)

[春] 国際センター 専任講師 岬 里 美

### 授業科目の内容：

日本語の母語話者である我々が外国語として日本語を教えることには、予想以上の困難が存在している。本講義では日本語学の概説を通じて、母語を外国語の視点から客観化する作業を紹介し、後期の「日本語教授法」への導入としたい。

### テキスト：

開講時に指示する

[04] [93] 日本語学 II (2) (春学期)

[春] 国際センター 教 授 松 岡 弘

### 授業科目の内容：

本講義では、外国人のための日本語教育において「日本語」がどのように分析され、規則づけられ、体系化され、そして伝えられるかを、主に文法に焦点を当てて解説します。日本語教育のための文法は、教師が教えるにも学習者が学ぶにも無理がなく、それを習得することで学習者の論理的思考力が高められ、かつ実際のコミュニケーションに真に役立つものでなければなりません。こうした文法は「教育文法」、あるいは「実用文法」、さらには教育方法や思考の展開を重んじて「文型文法」とも呼ばれます。文法をこのように、教育、実用、そして文型の相のもとにとらえることは、これまでも優れた文法学者が行ってきたことですが、これら先人の思想や文法観にも学びつつ、日本語教育によって培われた「日本語学・日本語文法」の魅力と特質を論じたいと思います。この科目は従って、秋学期の「日本語教授法」に直接つながる内容です。

### テキスト：

開講時に説明します

### 参考書：

『開かれた日本語教育の扉』

[04] [93] 日本語教授法 I (2)

[秋] 国際センター 教 授 野 沢 素 子

### 授業科目の内容：

日本語を母語としない日本語学習者に対する初級文法項目とその教授法を概観する。

### テキスト：

担当者作成教材 (コピーにて配布)

### 参考書：

授業時に指示

[04] [93] 日本語教授法 II (2) (秋学期)

[秋] 国際センター 教 授 村 田 年

### 授業科目の内容：

日本語教育とは、日本語を母国語としない学習者に対して行われる日本語教育のことである。日本語教育を行う場合、国語教育(日本語を母語とする者に対する教育)とは異なる視点が必要となる。本講義では、外国語教授法の歴史と日本語教授法の歴史を概観し、さらに主要な教授法による文法の扱い方を通じて、国語教育の視点とは異なる日本語教育方法を学ぶ。

### テキスト：

担当者作成教材 (コピーにて配布)

『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

### 参考書：

授業時に指示します。

---

**【04】【93】日本語文法 (2)**

品詞

講師 半沢 幹一

---

**授業科目の内容：**

現代日本語を中心として、今年度はとくに品詞に重点を置き、その分類概念・方法や各品詞ごとの特色・問題点を、具体的に挙げてゆく。

**テキスト：**

使用しない。

**参考書：**

必要に応じてその都度紹介する。

---

**【04】【93】仏教学概論 (4)**

---

休講

## ○中国文学専攻

### 必修科目

【04】【93】中国語学概論(4) 教授 山下輝彦

#### 授業科目の内容：

声調言語である中国語は、シナチベット語族に属し、皆さんが勉強してきた英語や日本語とかなり異なる性質を持つ言語です。この授業では、中国語の音韻、文法、語彙の三つの面について概説します。音韻については、現代語の音韻体系のみならず、中国語の音韻の歴史についても触れたいと思っています。

#### 参考書：

藤堂明保・相原茂「新訂・中国語概論」1985年大修館

【04】【93】中国語学特殊(4)  
総合政策学部 助教授 田島英一

#### 授業科目の内容：

本年度は、主に中国語諸方言と少数民族言語に焦点を置きます。中華人民共和国領内の分布する各言語の諸特徴、歴史的背景と現代の使用状況、国による言語政策との関連などが主なトピックになる予定です。

授業形式：講義、文献講読、プレゼンテーションの複合型。

#### テキスト：

追って連絡します。

#### 参考書：

下記の拙著に目を通していただくと、どのような話をするのかイメージがつかめると思います。

- ・「中国の言語政策」(KEIO SFC REVIEW No.5 所収)
- ・「後発国民国家のナショナリズムとガバナンス」(梅垣理郎編『総合政策学の最先端』所収、慶応義塾大学出版会)

【04】【93】中国文学史Ⅰ(4)  
中国古典文学の概説と作品選読 教授 八木章好

#### 授業科目の内容：

先秦から清代に至るまでの中国古典文学を詩・文・小説・戯曲に分けて、各ジャンルの主要な項目を時代順に概説する。概説に加えて、代表的な個々の作品を原典で読む。取り上げる項目は以下の通り。

- (1) 詩経
- (2) 楚辞
- (3) 漢代の詩
- (4) 魏晋の詩
- (5) 陶淵明
- (6) 南北朝の詩
- (7) 初唐・盛唐の詩
- (8) 李白
- (9) 杜甫
- (10) 中唐・晩唐の詩
- (11) 宋代以降の詩
- (12) 論語
- (13) 孟子・荀子
- (14) 老子・荘子
- (15) 史記
- (16) 十八史略
- (17) 辞賦・駢文・古文
- (18) 文言小説
- (19) 白話小説
- (20) 戯曲

#### テキスト：

八木章好編著『中国古典文学二十講』(白帝社, 2003年, 2000円)

【04】中国文学史Ⅱ(4)  
【93】近代中国文学(中国文学史Ⅱ(A))(4)  
助教授 杉野元子

#### 授業科目の内容：

前期は清末から中華人民共和国建国以前までの時期、後期は建国以後から現在までの時期を対象として、主だった文学者の経歴や作品、文学思潮や論争などについて講義する。

#### テキスト：

中国文芸研究会編『図説中国20世紀文学』(白帝社)

【04】【93】中国文学特殊(4)  
『楚辞』を朱子の注釈によって読む  
商学部 助教授 植村和史

#### 授業科目の内容：

中国の古典においては、古典に注釈をつけるというかたちで自身の研究成果を世に問うことが、歴代の学者によって広く行われてきました。現代の我々が古典を研究するときには、先人の成果を咀嚼した上で自己の考察を展開しなければなりません。そのためには、まず代表的な注釈を読み解き、先学が古典をどのように解釈しているかを正しく理解することが基礎作業として求められます。

本授業では、古典文学に対する注釈の典型例として、南宋・朱熹の『楚辞集注』をとりあげ、中国古典解釈学の概要を知ると同時に、注釈に基づいて古典を読み進める訓練をしたいと思います。あわせて、中国古典文学およびその関連分野に関する基礎的知識・研究方法についての講義を随時行います。

#### テキスト：

朱熹『楚辞集注』(テキストは準備します)

【04】中国語表現演習Ⅰ(2)  
【93】中国語古典演習Ⅰ(A)(中国語表現演習Ⅰ)(2)  
講師 松下淑子

#### 授業科目の内容：

ある話題について自分の意思や見解を自由自在に述べることを練習する。コトバのみならず中国文化にも多く触れていく。比較的難度の高い文章を聞き、それについて議論を展開していく。また定期的にテーマを決め、討論会を行う予定。テキストは『中国は今』という中国の現在を外国人の視点で紹介する文章を扱っているもの。

ヒアリングと会話を中心とする授業なので積極的に発言したり、質問したり、討論に参加してほしい。

#### テキスト：

「中国は今」白水社 孟広学他

#### 参考書：

授業中に提示

【04】中国語表現演習Ⅱ(2)  
【93】中国古典演習Ⅰ(B)(中国語表現演習Ⅱ)(2)  
講師 蘇英霞

#### 授業科目の内容：

本課程以培养学生的汉语听说能力为主，通过多种方式的听说训练帮助学习者熟练掌握汉语的常用词汇，基本句式与中国人惯用的口语表达方法，培养学生运用汉语进行实际交际的能力。教材拟选用由北京语言大学教师最新编写的汉语会话课本《交流》(上)，课文内容以中国人日常生活会话为主，并根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

#### テキスト：

プリント

---

【04】中国語表現演習Ⅲ(2)

【93】中国語学演習Ⅰ(中国語表現演習Ⅲ)(2)

講師 蘇 英霞

---

**授業科目の内容：**

本課程以提高学生の漢語听说能力为主，通过多种方式的听说训练帮助学习者熟练掌握汉语口语常用词汇，句式，惯用语等，提高学习者在不同场合，针对不同对象以及根据不同的交际目的运用汉语进行得体表达的能力。教材拟选用由北京语言大学出版社的汉语听说训练课本《中级汉语听和说》，课文内容以现代中国人的文化生活与社会问题为主，并根据学生的实际水平及学习要求进行适当调整。

**テキスト：**

プリント

---

【04】中国語表現演習Ⅳ(2)

【93】中国語学演習Ⅱ(中国語表現演習Ⅳ)(2)

教授 山下輝彦

---

**授業科目の内容：**

中国語の特質や言語と文化との関わりを理解する上で必要と思われる中国語の文献を講読します。今年度は、前期は音韻論に関する文献を、後期は、文法や中国語の本質について書かれた文献を読みます。順番と範囲を決めて、一人ずつ当ててやってもらいます。

**テキスト：**

- ・董同和「漢語音韻学」1972年 台湾書局
  - ・趙元任「語言問題」1980年 商務印書館
- 

【04】中国文学演習Ⅰ(2)

【93】原典講読Ⅰ(中国文学演習Ⅰ)(2)

中国古典詩を読む 教授 渋谷 誉一郎

---

**授業科目の内容：**

中国古典詩の基本知識を習得することを目的として、有名作品を選んで精読します。春学期は中国語で注釈，現代語訳，解説，鑑賞の付された作品のプリント教材を用いて講読します。今年度は、『読経』、『楽府』，陶淵明，陳子昂，杜甫，李白，王維，李商隱，杜牧等の作品を読む予定です。秋学期は各自が適当な作品を選び，語句の解釈，翻訳，鑑賞等を発表してもらいます。また，年間を通じて隔週に中国文学関連書の書評，夏期休暇には中国古典詩史の基礎術語についてのレポートを課題として提出してもらいます。課題についての詳細は最初の授業時に伝えます。

**テキスト：**

プリント教材。開講時に配布します。

**参考書：**

- 松枝茂夫『中国名詩選』(上・中・下) 岩波文庫。
  - 受講者は開講時に入手しておいてください。その他の参考書や工具書等は随時紹介します。
- 

【04】中国文学演習Ⅱ(2)

【93】原典講読Ⅱ(中国文学演習Ⅱ)(2)

斯道文庫 助教授 高橋 智

---

**授業科目の内容：**

「論語」の講読を行います。

**テキスト：**

授業時に指示

**参考書：**

授業時に指示

---

---

【04】中国文学演習Ⅲ(2)

【93】中国古典演習Ⅱ(A)(中国文学演習Ⅲ)(2)

講師 山下 一夫

---

**授業科目の内容：**

『搜神記』などの志怪小説集の中から，後世の俗文学や習俗信仰と関連の深い話を中心にとりあげ，漢文訓読および現代中国音で読みすすめていきます。関係する資料や研究なども紹介し，考察してきたいと思います。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

初回の授業で提示します。

---

【04】中国文学演習Ⅳ(2)

【93】中国古典演習Ⅱ(B)(中国文学演習Ⅳ)(2)

講師 岡 晴夫

---

**授業科目の内容：**

中国の古典小説・散文のなかから適宜選んで講読する。

**テキスト：**

プリント使用。

---

【04】中国文学演習Ⅴ(2)

【93】中国古典演習Ⅲ(A)(中国文学演習Ⅴ)(2)

教授 関 根 謙

---

**授業科目の内容：**

中国当代の作品から，全体主義的社会を拒否して「個」の尊厳を迫及した小説を取り上げ，精読する。

**テキスト：**

史鉄生著『記憶與印象』(北京出版社，2004，北京)

**参考書：**

季刊「中国現代小説」

---

【04】中国文学演習Ⅵ(2)

【93】中国古典演習Ⅲ(B)(中国文学演習Ⅵ)(2)

女性文学研究 講師 白水紀子

---

**授業科目の内容：**

この授業は，文学研究にジェンダーの視点を導入する有効性について，主として1920年代以降の中国の女性作家の作品分析を通して考えていこうとするものです。具体的には，近代家族，母と娘，セクシュアリティなどテーマごとに作品をとりあげていきます。

**テキスト：**

丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説3 女性作家集』(二玄社，2001年) 1800円

**参考書：**

白水紀子『中国女性の20世紀』(明石書店，2001年) 2500円

---

【04】中国語学研究会Ⅰ(1)(春学期)

【04】中国語学研究会Ⅱ(1)(秋学期)

【93】中国語学研究会Ⅰ(3年)(2)

教授 山下輝彦

---

**授業科目の内容：**

中国語という言葉について様々な角度からその特質を検討し，次にあげるテーマの中で各々が興味あるものを選択し，さらに理解を深め研究することを希望する場合，資料収集の方法，文献の扱い方などについて指導する。

- (1) 文法。現代文法，歴史文法，日中対照研究など
- (2) 語彙(外来語など)の特徴や文化と関係の深い問題など
- (3) 音声。特に現代語の発音の諸問題
- (4) 方言。豊かな中国の方言に関する諸問題

【04】中国語学研究会 Ⅲ (1) (春学期)  
 【04】中国語学研究会 Ⅳ (1) (秋学期)  
 【93】中国語学研究会 Ⅱ (4年) (2)

教授 山下輝彦

中国語学研究会 I, II を参照

【04】中国古典文学研究会 I (A)(B)(C) (3年) (1) (春学期)  
 【04】中国古典文学研究会 II (A)(B)(C) (3年) (1) (秋学期)  
 【93】中国古典文学研究会 I (3年) (2)

教授 八木章好  
 教授 渋谷誉一郎  
 講師 吉永壮介

**授業科目の内容：**

中国古典文学を学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

【04】中国古典文学研究会 Ⅲ (A)(B)(C) (4年) (1) (春学期)  
 【04】中国古典文学研究会 Ⅳ (A)(B)(C) (4年) (1) (秋学期)  
 【93】中国古典文学研究会 Ⅱ (4年) (2)

教授 八木章好  
 教授 渋谷誉一郎  
 講師 吉永壮介

中国古典文学研究会 I, II を参照

【04】中国現代文学研究会 I (A)(B) (3年) (1) (春学期)  
 【04】中国現代文学研究会 II (A)(B) (3年) (1) (秋学期)  
 【93】中国現代文学研究会 I (3年) (2)

教授 関根謙  
 助教授 杉野元子

**授業科目の内容：**

- ① 20世紀の中国文化について多角的に検討する。
- ② 小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。
- ③ 中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。
- ④ 授業を通じて口頭発表の仕方、論文作成などを学ぶ。

【04】中国現代文学研究会 Ⅲ (A)(B) (4年) (1) (春学期)  
 【04】中国現代文学研究会 Ⅳ (A)(B) (4年) (1) (秋学期)  
 【93】中国現代文学研究会 Ⅱ (4年) (2)

教授 関根謙  
 助教授 杉野元子

中国現代文学研究会 I, II を参照

## ○英米文学専攻

### 必修科目

#### [04] [93] 英語史 (4)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

##### 授業科目の内容:

A knowledge of the history of English is important for understanding the vocabulary, grammar and pronunciation of Present-Day English. The course will begin by considering the varieties of English found around the world today, and their historical relationships. This will lead to a survey of the history of Modern English, back to the time of Shakespeare. In Semester Two the lectures will look at the earlier stages of the language and its origins: Middle and Old English, and the Germanic and Indo-European Language families.

##### テキスト:

Myers & Hoffman, *The Roots of Modern English* (Kinseido)

##### 参考書:

7 class tests + 1 examination

#### [04] 英文学史 (4)

#### [93] 英文学史 I (4)

[春] 教授 高宮利行

[秋] 教授 河内恵子

##### [春学期]

##### 授業科目の内容:

主に英米文学専攻の2年生を対象に、春学期は中期から17世紀までの英文学の歴史の流れを追う。できるだけヴィジュアルな資料を用いて、立体的な講義を心がけたい。

##### テキスト:

・Abrams, M.H, et al., eds., *The Norton Anthology of English Literature* Vols. 1 & 2, 7th ed., Norton, 2000. (教室で販売する)

##### 参考書:

・教室で指示する。

##### [秋学期]

##### 授業科目の内容:

18世紀から現代までのイギリスの社会や文化を理解したうえで、文学史を把握してほしい。

##### テキスト:

Abrams, M.H, et al., eds., *The Norton Anthology of English Literature* Vols. 1 & 2, 7th ed., Norton, 2000. (教室で販売する)

##### 参考書:

教室で指示する

#### [04] 米文学史 (4)

#### [93] 米文学史 I (4)

教授 巽 孝之

##### 授業科目の内容:

ピューリタン植民地時代からポストモダニズム文学の時代へ至る「アメリカ文学史の常識」をふまえながら、その準拠枠からはこぼれ落ちかねない多様な「非常識の文学史」をも考察していく。

##### テキスト:

・Peter High, *An Outline of American Literature* (Longman, 1986)  
・George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2001).

##### 参考書:

巽孝之『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』(慶應義塾大学出版会)

#### [04] [93] 現代英語学 (4)

教授 唐須 教光

##### 授業科目の内容:

現代英語の諸相について講義する。

一般言語学の枠組で英語の共時態をとり扱います。

##### テキスト:

Akmajian et al. *Linguistics*. 2nd ed. MIT Press

電子掲示板(私のホームページ)に示してあります。

##### 参考書:

授業時に指示します。

#### [04] 英語英米文学基礎講読 A (2)

[93] 原典講読 A (2) 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

#### [04] 英語英米文学基礎講読 B (2)

[93] 原典講読 B (2) 教授 高宮利行

#### [04] 英語英米文学基礎講読 C (2)

[93] 原典講読 C (2) 教授 唐須 教光

#### [04] 英語英米文学基礎講読 D (2)

[93] 原典講読 D (2) 教授 河内 恵子

#### [04] 英語英米文学基礎講読 E (2)

[93] 原典講読 E (2) 教授 巽 孝之

#### [04] 英語英米文学基礎講読 F (2)

[93] 原典講読 F (2) 教授 松田 隆美

##### 授業科目の内容:

3年生において、各学生は各々が専門とする研究会や特別演習クラスに所属するが、いずれの分野においても英語文献を読むことは研究の基本である。「英語英米文学基礎講読」は基礎的な文献を正確に読み、その内容を分析しうる能力を養うための演習科目である。担当者によって扱うテキストは異なるが、その授業目的は同一である。尚、共通テストが実施される。

##### テキスト:

追って指示する。

#### [04] [93] 古代中世英語学 (4)

教授 松田 隆美

##### 授業科目の内容:

この講義の目的は、Old English, Middle English のテキストに実際に触れることで、イギリス中世の文学とその思想的背景について具体的に学ぶことである。春学期には、Old English への導入をするとともに、アングロ・サクソン期のイギリス文学についてテキストを実際に読みつつ解説する。秋学期には、Middle English の特徴を説明し、チョーサーなどの作品を通じて、中世後期イギリスの文学とその背景について、さまざまな角度から考察する。

##### テキスト:

春学期は主にプリントを使用。秋学期は、L.D.Benson, gen.ed., *The Riverside Chaucer*, 3rd edn (Oxford, 1988)を使用する予定。

#### [04] [93] 英語音声学 (4)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

##### 授業科目の内容:

This course will introduce the fundamental concepts of phonetics and phonology, and analyse the vowels, consonants, stress, rhythm and intonation of English.

##### テキスト:

ピーター・ローチ著『英語音声学・音韻論』(大修館書店)

#### [04] [93] 英語学演習 A (2)

Sir Thomas Malory, *Le Morte Darthur* の書誌学的研究

教授 高宮利行

##### 授業科目の内容:

大学院修士課程の中世英語英文学特殊講義と共通科目。Sir Thomas

Malory, *Le Morte Darthur* を Winchester MS と Caxton 版の比較研究によって、書誌学的に解明する。中世英語、古写本学、書誌学、本文校訂学の基礎からはじめて、Caxton 版『アーサー王の死』を中心に扱う予定である。2学期に行われる個人発表には、綿密な予習が必要である。

テキスト：

・ロッセ・ヘリング著『キヤクストン印刷の謎』（雄松堂・1991年）

---

**[04] [93] 英語学演習 B (2)**

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミアン

授業科目の内容：

Students will learn the elements of Old English, and read simple texts against the background of Anglo-saxon culture.

テキスト：

Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

---

**[04] [93] 英語学演習 C (2)**

休講

---

**[04] [93] 英語学演習 D (2)**

社会言語学

講師 阿部 圭子

授業科目の内容：

Gumperz によって提唱された相互作用社会言語学は「言語と社会の相関を見るマクロ社会言語学」と「個人レベルのコミュニケーションからその関係性を分析するミクロ社会言語学」の融合を唱えている。

本講ではこの Gumperz の視点から文化の異なる人々（国、民俗、人種その他性別、年代、職業などの下位概念も含む）のミスコミュニケーションの要因をその背景となる社会や文化とのかかわりにおいて考察する。

テキスト：

授業開始時に指示する。

参考書：

・唐須教光（編）『英語学文献解題 言語学Ⅱ』（研究社、2000）  
・小池生夫（編）『応用言語学事典』（研究社、2003）

---

**[04] [93] 英語学演習 E (2)**

文体論の基礎と実践

講師 奥 聡一郎

授業科目の内容：

文体論の基本文献の抜粋を読み、文学テキストの分析を実際に行うことによって文体論と呼ばれる分野の概観を試みる。後半は認知言語学やコーパス言語学、文章理解などの言語学の潮流を視野に入れながら、代表的な論文の講読を通してどのような手法が分析に望ましいかを検討していく。受講者によっては文体論の基本に立ち戻っていくことも考える。

テキスト：

特に定めない。以下の文献の抜粋を使用する。

参考書：

斎藤兆史著「英語の作法」（東京大学出版会、2000）

---

**[04] [93] 英語学演習 F (2)**

英語（外国語）教授法概論

講師 寺田 優子

授業科目の内容：

外国語教授法について、基礎的な知識をつけることが本コースの目標です。授業はすべて学生によるプレゼンテーション（ロールプレイ）とディスカッション形式で行います。前期は各教授法の大まかな内容を、後期はそれぞれの教授法の背後にある理論を学びます。

参考書：

初回の授業で文献リストを配布します。

---

**[04] [93] 英語学演習 G (2)**

CREATIVE WRITING: "Written from the Heart"

講師 ドネガン, パトリシア

授業科目の内容：

COURSE: (20 students) A workshop course in creative writing (poetry/prose) taught by a published American writer/poet. Practice English rhythms & feel the sacred, passionate power of words. Get in touch with feelings & let your inner voice out. Read love poems, *haiku*, *haibun* (prose & haiku), imagist poetry, long beat poetry, poetry series, journal & poetic prose and mini-stories. Using these as samples, we will write our memories, dreams & visions. We will share our work after feed-back from the teacher. Feast on your creativity! Materials for the class provided: bring only an English to English dictionary, pen & paper & an open heart.

テキスト：

NO TEXT

---

**[04] [93] 英語学演習 H (2)**

隷属言語から帝国言語へ

講師 吉野 利弘

授業科目の内容：

辺地の一地方の土着語にすぎなかった英語の国内的には国語化、対外的には帝国の言語化はどのような歴史的、文化的、社会的状況下に展開したのか、それにより、Modern English はどのような特質を備えるに至ったのか、さらにそれを支える英語学はどのように生じ、どのような identity を備えるに至ったか、そこにはどのような問題が内在するかなどを日本語の国語化を参考にしながら考える。

テキスト：

Dick Leith. *A Social History of English*. 2<sup>nd</sup> ed. Routledge, 1997 or more recent ed. (生協扱い)

参考書：

開講時に教室で呈示。

---

**[04] [93] 英文学演習 A (2)**

**[04] 英文学特別演習 I (3年)(2)**

**[04] 英文学特別演習 II (4年)(2)**

**[93] 英文学特別演習 I・II (2)**

英文学と映画

— 『フランス軍中尉の女』『抱擁』『めぐりあう時間たち』

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

本年度はヴィクトリア朝およびエドワード朝と時代を錯綜させるハイパーテキスト的に書かれた3つの時代小説を取り上げ、その映画化作品を通じて、小説と映画の技巧の比較を試みたい。取り上げるのは以下の作品である。

1. John Fowles, *The French Lieutenant's Woman*, 1969. 映画『フランス軍中尉の女』は Karel reisz 監督, Harold Pinter 脚本, Meryl Streep と Jeremy Irons の共演で、1981年アカデミー賞5部門で候補となった。舞台は1960年代と1980年のイギリス。
2. A. S. Byatt, *Prossession: A Romance*, 1990. 同年のブッカー賞受賞。映画『抱擁』は Neil LaBute 監督・脚本, Gwyneth Paltrow と Aaron Eckhart の共演で2002年製作。舞台は1960年代と現代のイギリス。
3. Michael Cunningham, *The Hours*, 1998. 1999年のピューリッツァ賞受賞。映画『めぐりあう時間たち』は Stephen Daldry 監督, David Hare 脚本, Meryl Streep, Julianne Moore, Nicole Kidman の共演により2003年アカデミー賞9部門で候補にあり、主演女優賞(Kidman)を受賞。舞台は1923年のイギリス, 1951年のロサンゼルス, 2001年のニューヨークを交錯させ、その元に Virginia Woolf が意識の流れの手法で書いた小説 Mrs Dalloway (1925) がある。

テキスト：

上記4小説の英語版（ペーパーバックでも初版ハードカバーでもよし）を、各自インターネットなどの方法で安価に入手すること。なおこれらには邦訳があるが、授業ではあくまでも英語版を用いる。

---

**【04】【93】英文学演習 B (2)**

**【04】英文学特別演習 I (3年) (2)**

**【04】英文学特別演習 II (4年) (2)**

**【93】英文学特別演習 I・II (2)**

Kazuo Ishiguro 世界

教授 河内 恵子

---

**授業科目の内容：**

現代イギリスを代表する日本生まれの小説家、Kazuo Ishiguro の小説作品を読む。Ishiguro の文学世界を考察するのはもちろんだが、ここを出発して、イギリス小説の現代性をとらえてみたい。

**テキスト：**

Ishiguro, Kazuo. *When We Were Orphans* (London: Faber, 2000)

**参考書：**

教室で指示する。

---

**【04】【93】英文学演習 C (2)**

**【04】英文学特別演習 I (3年) (2)**

**【04】英文学特別演習 II (4年) (2)**

**【93】英文学特別演習 I・II (2)**

イギリス・ルネサンスの詩の世界

教授 松田 隆美

---

**授業科目の内容：**

Spenser, Shakespeare, Donne, Marvell, Milton など、16-17 世紀を代表する詩人の短詩を精読することで、ルネッサンス期の詩の主題的特徴、詩的コンベンション、視覚芸術との密接な関連などについて考察する。

**テキスト：**

プリント配布。

〈春学期〉

1. Early Modern English の特徴
2. Spenser, *Amoretti*
3. Wyatt, Surrey によるペトルルカの英訳
4. Sydney, *Astrophel and Stella*
5. Shakespeare, *Sonnets*

〈秋学期〉

1. Donne, *Songs and Sonets*, 他。
  2. Marvell
  3. Milton, *Paradise Lost* 他。
- 

**【04】【93】英文学演習 D (2)**

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田 範行

---

**授業科目の内容：**

イギリス 18 世紀の文学作品の精読・演習を通じて、まず、当時の英文学作品の原典を正確に読みこなせる実力を培うこと、そしてその上で、文学研究の基本的な方法や論点を整理し、作品解釈の可能性についての思考力を養ってもらうことが本演習の目標です。18 世紀は、詩、小説、伝記、批評などのさまざまな文学ジャンルが変化、分化、確立してくる時期であり、また印刷出版文化（ジャーナリズムや著作権論争を含む）が今日的相貌を帯び始める時期でもありますから、履修者の皆さんは、本演習を通じて、英語力の向上とともに、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。本年度は『ガリヴァー旅行記』を取り上げます。

**テキスト：**

Jonathan Swift, *Gulliver's Travels* を教材とします。使用する版については、開講時に指示します。

**参考書：**

開講時に詳しく説明します。

---

---

**【04】【93】英文学演習 E (2)**

英詩入門：W. B. Yeats と アイルランドの詩を読む

講師 阿部 公彦

---

**授業科目の内容：**

この授業では英詩をほとんど読んだことのない人のための入門となるような解説・練習を行います。詩を読むとはどういうことか？どんなところに気をつければいいのか？詩について語り論ずるためには何をすべきなのか？といったことを、実際のディスカッションなど通して学ぶ予定です。今回は素材として現代英語詩のもっともエネルギー的な成果ともいわれるアイルランド詩を使います。

**テキスト：**

特になし。作品は授業時にハンドアウトを配ります。

**参考書：**

*The Yeats Reader: A Portable Compendium of Poetry, Drama and Prose* など。

---

**【04】【93】英文学演習 F (2)**

講師 小林 宣子

---

**授業科目の内容：**

中世から初期近代にかけて書かれた様々な短詩を、その背景となる文学的伝統や作品が生み出された当時の歴史的状況などを考察しながら原文で精読します。短詩と一口に言っても、その種類は作者不詳の中世詩歌（宗教詩もしくは恋愛詩）、中世後期のバラード、「嘆きの歌」、ソネットなど多岐にわたります。それぞれの詩の形式的特徴を理解したうえで、どのような文学的伝統に則って書かれているのか、どのような形で流布したのか、いかなる意味を伝え、いかなる情緒を表現しているのか、どのような社会的役割を果たしているのか、どのような政治的意図がその裏に隠されているのかなど、二次資料を用いながら多角的な視点から解釈を試みます。

**テキスト：**

*Chaucer to Spenser: An Anthology of Writings in English, 1375-1575*, edited by Derek Pearsall (Blackwell, 1999) 等から必要箇所（原文テキストおよび注釈）を抜粋してプリントで配布します。

**参考書：**

授業内に指示します。

---

**【04】【93】英文学演習 G (2)**

初めて読むシェイクスピア

講師 井出 新

---

**授業科目の内容：**

この演習では前・後期を通して『冬物語』を講読し、シェイクスピア等のエリザベス朝の台本を読むための基礎力習得を目指します。テキストは本文校訂と学問的注釈がきちんと施されたものを選ぶので、本文は勿論、注釈についても丁寧に目を通してもらう予定です。

**テキスト：**

Stephen Orgel, ed. *The Winter's Tale* (Oxford Univ. Pr., 1996)

---

**【04】【93】英文学演習 H (2)**

外国人が見たヴィクトリア朝のイギリス

助教授 高橋 宣也

---

**授業科目の内容：**

繁栄を謳歌した 19 世紀ヴィクトリア朝のイギリスは、多くの外国人が訪問する地でもあった。そうした人々の行動を綿密に活写して、新しい角度からイギリス社会の姿を浮かび上がらせたテキストを読む。画家のジェリコー、作曲家のワーグナー、哲学者のエマソンらが登場する。

**テキスト：**

Rupert Christiansen, *The Visitors: Culture Shock in Nineteenth-Century Britain* (London: Chatto & Windus, 2000)

---

## 【04】【93】英文学演習 I (2)

Virginia Woolf, *To the Lighthouse* (1927) を精読する。

講師 遠藤 不比人

## 授業科目の内容：

Virginia Woolf (1882~1941) の *To the Lighthouse* (1927) を精読します。難解で知られるこのテキストをまずは語学的に正確に読み、同時にそれを前提にして卒業論文レベルの一読書感想文ではない一「解釈」を各自試みてもらいます。そのために必要な知識として、このテキストをめぐる歴史的コンテキスト、先行研究、また最新の批評理論などを適宜紹介します。後期の後半にはこのテキストに関する優れた論文をいくつか教室で読みます。ウルフの言語の濃密なテクスチュアリティを官能的に享受しながら、同時にアカデミックな「批評」をも目指しましょう。

## テキスト：

Penguin 版を使用の予定。開講時に指示します。

## 参考書：

複数を講義中に紹介します。

## 【04】【93】英語学演習 J (2)

休講

## 【04】【93】英文学演習 K (2)

変身譚を読む

助教授 坂本 光

## 授業科目の内容：

Stevenson による *Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde* (1886) を基本テキストとして、19 世紀から現在にいたるまでに書かれた変身の物語について考える。

人間が別の何かへと姿を変える物語は、神話の時代から枚挙に暇がない。その中でもジキル博士とハイド氏の物語は、人間が一時的に怪物へと姿を変える物語、つまり lycanthropy (狼男への変身) を扱う物語の一大典型として今に至るまで大きな影響を残している。また人間の姿をしていながら異質で理解不能な存在という人物設定、たとえばレクター博士を始めとする虚構の人物像、あるいは報道される現実の異常者像の中に、この類型のヴァリエーションを見て取ることも出来るだろう。これらはいずれも人間がみずからの内にある暗闇に恐怖し、その恐怖に手探りで形を与えようとした試みの結果である。この段階では、Stevenson 作品が書かれた 19 世紀後半を手始めに、そうした試みがそれぞれの時代・環境においてどのように行われたかを検討したい。

## テキスト：

Robert Louis Steevson, *Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde: An Authoritative Text, Backgrounds and Context, Performance Applications, Criticism* (New York: Norton, 2002) 巻末が手頃な二次文献抜粋となっているので、その部分にも一通り目を通すこと。

## 参考書：

基本参考文献一覧を初回授業にて配布する。

## 【04】【93】英文学演習 L (2)

中英語ロマンス *Sir Orfeo* を読む 助教授 辺見 葉子

## 授業科目の内容：

前半は Middle English で書かれたロマンス *Sir Orfeo* の精読、後半はオルフェウス伝説全般に視野を広げて、参加者各自にテーマを考えていただき発表形式で進めます。なお、最初に中英語を読むための簡単な手引きをします。

## テキスト：

テキストは入手がむずかしいのでコピーを使います。

## 参考書：

授業中に随時紹介します。

## 【04】【93】米文学演習 A (2)

【04】米文学特別演習 I (3 年) (2)

【04】米文学特別演習 II (4 年) (2)

【93】米文学特別演習 I・II (2)

アメリカン・ルネッサンスの文学

教授 巽 孝之

## 授業科目の内容：

アメリカン・ルネッサンスはアメリカ文学思想史上、最初の黄金時代であった。その代表的文学者の作品群を 1 年間かけて読む。

## テキスト：

George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2001). その他追って指示する。

## 参考書：

・David Reynolds, *Beneath the American Renaissance* (1988; Cambridge: Harvard UP, 1989)

・巽孝之『ニュー・アメリカニズム』(青土社, 1995 年)

・同『アメリカン・ソドム』(研究社, 2001 年)

## 【04】【93】米文学演習 B (2)

19 世紀アメリカ詩

商学部 助教授 朝比奈

緑

## 授業科目の内容：

春学期には、「Emily Dickinson と他の 19 世紀女性詩人」を比較しながら精読する。秋学期には、「Walt Whitman と〈超絶主義〉の詩人たち」をとりあげる。19 世紀の歴史・文化のなかでの位置づけを考えるとともに、詩のことばの魅力をくみとっていきたい。また現代においてこれらの詩人たちがどのように読まれているのか、主な批評も考察する。

## テキスト：

*Poetry of the American Renaissance: A Diverse Anthology from the Romantic Period*. Ed. Paul Kane. New York: George Braziller, 1995.

## 参考書：

授業時にリストを配布する。

## 【04】【93】米文学演習 C (2)

翻訳実技演習

講師 嶋田 洋一

## 授業科目の内容：

フィクションおよびノンフィクション作品の英日翻訳を実際に体験してもらい、英語読解力と日本語表現力の向上を目指します。

## テキスト：

毎回コピーを配布します。

## 【04】【93】米文学演習 D (2)

William Styron の *The Confessions of Nat Turner* を読む

講師 白川 恵子

## 授業科目の内容：

現代南部作家 William Styron の *The Confessions of Nat Turner* (1967) を読みます。この作品は、南部白人作家が、一人称の視点から、実際の奴隷反乱首謀者ターナーの生涯を描いた歴史小説として非常に話題になったものです。African-American の歴史、1960 年代の文化的背景、史実と小説をめぐる論議、作品の表象に対する賛否両論等、本作をめぐる話題は事欠きません。通年で読了しますが、その過程で、本作に関連する事象を様々な角度から考察していきたいと思えます。なお、本授業では、前期・後期とも、レポートを提出して頂きますが、夏休み明けに提出してもらおう前期レポートに関しては、同作家の短編 ("Shadrack") を各自読んでもらい、それについての考察をまとめてもらう予定です。

## テキスト：

Styron, William. *The Confessions of Nat Turner*. 1967. NY: Vintage, 1993

## 参考書：

必要に応じて適宜配布します。

---

**【04】【93】米文学演習 E (2)**

19世紀末 20世紀初めの女性作家とその作品

講師 松川 祐子

---

**授業科目の内容：**

19世紀末 20世紀初めに活躍した様々なバックグラウンドをもつアメリカの女性作家の作品を読み、ディスカッションを通じて解釈を深めます。違った人種、民族、階級、宗教、教育、出身地やセクシュアリティの作家たちとその作品を通して、世紀転換期のアメリカの文学と文化、特に multiculturalism について考えます。

主に短編小説と中編小説を読みます。扱う作家は Rebecca Harding Davis, Louisa May Alcott, Sarah Orne Jewett, Mary E. Willkins Freeman, Charlotte Perkins Gilman, Kate Chopin, Edith Wharton, Sui Sin Far, Onoto Watanna, Zitkala-Sa, Maria Cristina Mena, Djuna Barnes, Zora Neale Hurston, Nella Larsen, Susan Glaspell, Constance Fenimore Woolson, Pauline Hopkins 等を含みます。

**テキスト：**

Candance Ward, ed. *Great Short Stories by American Women*. Dover, 1996. (教室で販売。) その他に評論, エッセイ, 短編小説のプリントを授業中に配る。

**参考書：**

授業中に紹介します。

---

**【04】【93】米文学演習 F (2)**

アメリカと“Intolerance (不寛容)”

講師 村上 由見子

---

**授業科目の内容：**

同時多発テロ以降のアメリカ社会では、異分子排除の動きが加速化し、「不寛容」の空気が色濃くなっていますが、文学作品などではこのテーマをどう扱ってきたか、考えていきます。人種、宗教、セクシュアリティなど、「不寛容」は広範囲にまたがりますが、戯曲を訳して演じたり、映像作品に「日本語字幕」をつける作業を通して、このテーマの深さを検証していきます。

**テキスト：**

コピー教材として各自購入の予定。

---

**【04】【93】米文学演習 G (2)**

レズビアン文学

講師 渡部 桃子

---

**授業科目の内容：**

「女が愛する女」は、ギリシア時代から存在していたが、医師や弁護士、性科学者などによって「レズビアン」というカテゴリーが「発明」されたのは、19世紀末であった。この授業では、その後の文学、つまり「レズビアン」が「女を愛する女」たちのアイデンティティとなった後の「レズビアン文学」を読んでいく。

**テキスト：**

- ・ *The Well of Loneliness* by Radclyffe Hall
- ・ *Orlando: A Biography* by Virginia Woolf
- ・ *Journey to a Woman* by Ann Bannon
- ・ *Desert of the Heart* by Rita Mae Brown
- ・ *Loving Her* by Ann Allen Shockley

**参考書：**

初回の授業で提示

---

---

**【04】【93】米文学演習 H (2)**

**【04】米文学特別演習 I (3年) (2)**

**【04】米文学特別演習 II (4年) (2)**

**【93】米文学特別演習 I・II (2)**

越境・融合・共有：現代アメリカにおける

マイノリティーをめぐる記憶表現と文化創造

法学部 教授 鈴木 透

---

**授業科目の内容：**

現代アメリカでは、パブリック・メモリーの再構築ともいうべき現象が、様々な領域で進行しています。その中でもとりわけ、これまであまり日の目を見ることのなかったマイノリティーの人々の側の記憶を復権し、公共の場でそれらを共有できるような記憶装置を開発していかうとする動きが顕著に見られます。そこで、この授業では、文学や映画などの文化表現媒体から、史跡管理や博物館展示、歴史教育など、「過去の見せ方・語り方」に関わる諸現象を「新たな記憶装置の開発」という共通の分析枠に手繰り寄せ、マイノリティーの側のイメージーションや記憶表現が、現代アメリカにおける新たな文化創造にいかなるインパクトを与えてきているのかを考えていきます。各学期の内容は以下のとおりです。

**テキスト：**

Helena Grice, et.al, *Beginning Ethnic American Literatures* (2001)

他の文献の入手方法については、開講後に指示します。

**参考書：**

- ・ 鈴木透『実験国家アメリカの履歴書：社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』（慶應義塾大学出版会 2003）
  - ・ 鈴木透『現代アメリカを観る：映画が描く超大国の鼓動』（丸善ライブラリー1998）
- 

**【04】【93】米文学演習 I (2)**

ポストモダニズム小説（短編）を読む

講師 麻生 享志

---

**授業科目の内容：**

ポストモダニズム小説（短編）を読みながら、1960年代以降のアメリカ文学の歩みを概観、そして理解する。前期は主に、1960年代に書かれたピンチョン、パース、バーセルミらによる実験的作品を扱う。後期にはオースター、ソントグラの1980年代以降に書かれた作品から、変容するポストモダニズムの姿を追う。

**テキスト：**

主にプリントを配布する予定。

**参考書：**

適宜指示する。

---

**【04】英語学研究会 I (3年)**

**【04】英語学研究会 II (4年)**

**【93】英語学研究会 I・II (2)**

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

---

**授業科目の内容：**

This seminar will look at the ways in which English is changing as a result of internationalisation.

**テキスト：**

Melchers & Shaw, *World Englishes* (Arnold)

---

**【04】英語学研究会 I (3年) (2)**

**【04】英語学研究会 II (4年) (2)**

**【93】英語学研究会 I・II (2)**

教授 唐 須 教 光

---

**授業科目の内容：**

英語学・言語学に関する卒業論文指導

**テキスト：**

特になし

---

参考書：  
特になし

---

【04】英語学特別演習 I (3年)(2)  
【04】英語学特別演習 II (4年)(2)  
【93】英語学特別演習 I・II (2)

The Human Condition

教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容：

This course is for students majoring in British/American literature and related fields. There are no special restrictions on subject choice, but all instruction and discussion will be in English so students should have some confidence in both speaking and writing English.

テキスト：

Students will be presented with materials in class or via a website (www.armour.cc/zemi.htm).

---

【04】英語学特別演習 I (3年)(2)  
【04】英語学特別演習 II (4年)(2)  
【93】英語学特別演習 I・II (2)

教授 唐須 教 光

授業科目の内容：

英語の運用のスキルの訓練

テキスト：

特になし

参考書：

特になし (授業時に指示する)

---

【04】英語学特別演習 I (3年)(2)  
【04】英語学特別演習 II (4年)(2)  
【93】英語学特別演習 I・II (2)

Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミアン

授業科目の内容：

This course will introduce Old English language and read a variety of texts. Each student will give two presentations on the culture of Anglo-Saxon England.

参考書：

Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

---

【04】英文学研究会 I (3年)(2)  
【04】英文学研究会 II (4年)(2)  
【93】英文学研究会 I・II (2)

教授 松田 隆 美

授業科目の内容：

イギリス文学に関する卒業論文を英語で執筆する学生を対象として、研究発表を主体とした論文指導を行う。授業計画については、学期毎にプリントおよびHPで知らせる。

---

【04】英文学研究会 I (3年)(2)  
【04】英文学研究会 II (4年)(2)  
【93】英文学研究会 I・II (2)

卒業論文指導

教授 高宮 利 行

授業科目の内容：

英文学・イギリス文化関係で卒業論文を執筆するか卒業制作を行う学生のためのゼミナール演習

参考書：

「MLA 英語論文の書き方」最新版 北星堂

---

【04】英文学研究会 I (3年)(2)  
【04】英文学研究会 II (4年)(2)  
【93】英文学研究会 I・II (2)

イギリス文学 (18世紀~現代)

教授 河内 恵 子

授業科目の内容：

18世紀から現代にいたる英文学に関する卒業論文を提出する学生のためのゼミナール演習。

参考書：

教室で指示する。

---

【04】米文学研究会 I (3年)(2)  
【04】米文学研究会 II (4年)(2)  
【93】米文学研究会 I・II (2)

教授 巽 孝 之

授業科目の内容：

春学期はアメリカ文学研究の基礎理論修得に費し、4年の卒業制作経過報告に重点を置く。

秋学期より3年の卒業制作準備段階に入る。英語圏学術誌を含め少なからぬ文献を読むことになるため、相当の覚悟が必要。

テキスト：

・PMLA; Jonathan Culler, *Literary Theory*

参考書：

・巽孝之 & 渡部桃子編『物語のゆらめき—アメリカン・ナラティブの意識史』(南雲堂, 1998年)。

・ジョナサン・カラー『文学理論』(岩波書店, 2003年)ほか MLA 論文作成の手引きなど。

---

【04】米文学研究会 I (3年)(2)  
【04】米文学研究会 II (4年)(2)  
【93】米文学研究会 I・II (2)

法学部 教授 鈴木 透

授業科目の内容：

アメリカ文学/アメリカ文化研究に関する卒業論文を書く予定の学生を対象とする研究会です。授業では、卒業論文の指導のほか、著名な研究書をテキストに用いて、

① アメリカ文学研究が蓄積してきた方法や問題意識を、昨今のカルチュラル・スタディーズと接合させながら、広く社会現象・文化現象の解説に応用すること

② 総合的なアメリカ研究という観点から、既存の学問的枠組みにとらわれない、領域横断的なアメリカ研究のあり方を考えること

の二点を中心に勉強します。

今年度は、T. J. Jackson Lears の *No Place of Grace: Antimodernism and the Transformation of American Culture, 1880-1920* (1981) をテキストにします。この著作は、優れたアメリカ文化論の一つとして知られているもので、先進国中の先進国たるアメリカにおいて、実はいかに「反近代的」なイマジネーションが流布してきたか、そして、それが特に20世紀初頭の段階でいかにアメリカ文化のあり方を方向づけたのかを論じたものです。説教や日記や手紙など、意表をつく資料を駆使しながら、宗教、工芸、文学、消費社会など様々な事象を領域横断的に扱ったユニークなアメリカ論です。他の先進国とは違って現在でも宗教の影響力が強いとか、銃の氾濫に顕著なように社会内部における武器の普及という面では近代国家というよりある種中世封建主義の時代を彷彿させる武装国家であるといった、一見「前近代的」で不可解な現代アメリカの特徴の持つ意味を理解する上でも、リアーズの提起している観点は非常に重要といえるでしょう。

テキスト：

T. J. Jackson Lears, *No Place of Grace: Antimodernism and the Transformation of American Culture, 1880-1920* (1981)

テキストの入手方法については指示します。

参考書：

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書：社会・文化・歴史にみる統

## 選 択 科 目

### 【04】【93】英語学 A (4)

英米系言語学からコミュニケーションの学としての社会言語学へ  
法学部 教授 井上逸兵

#### 授業科目の内容：

まず、英米系の言語学でどのようなことが議論されているか、どのようなことが問題となっているかを概観する。それを議論の土台として、「自律性」を旨とするそれらの言語研究からある意味で逸脱した形で発展してきた語用論、社会言語学等の系譜を学びながら、いわゆる「コミュニケーション」とよばれる諸現象に対する言語学、英語学的アプローチの意義を考える。

#### テキスト：

なし

#### 参考書：

- ・ジョン・ガンパーズ『認知と相互行為の社会言語学』(松柏社)
  - ・井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』(南雲堂)
  - ・井上逸兵『ことばの生態系 — コミュニケーションは何でできているか —』(慶應義塾大学出版会)
- その他、授業中に指示する。

### 【04】【93】英語学 B (4)

社会言語学 講師 阿部圭子

#### 授業科目の内容：

本講では社会言語学の起源と定義、研究方法、変異研究、言語行動、社会的ステレオタイプ、多言語主義、相互作用社会言語学、言語と文化などに関する諸論文を取り上げ考察する。

#### テキスト：

授業開始時に指示する。

#### 参考書：

- Ronald Wardhaugh 著『社会言語学入門』(リーベル出版, 1994)
- 小池生夫(編)『応用言語学事典』(研究社, 2003)

### 【04】【93】英語学 C (4)

社会言語学入門 講師 寺田優子

#### 授業科目の内容：

1つの言語には、性別・年齢・地域・社会的地位等の要因により、様々な変異(バラエティー)が存在します。また、その言語が話される場面・状況や、話し相手によっても影響を受けます。本講義では、このような言語と社会の関わりについて、基礎的な知識を身に付けることを目標とします。はじめて社会言語学を学ぶ人のための概論です。

#### 参考書：

初回の授業で文献リストを配布します。

### 【04】【93】英語学 D (4)

英語(学)の発達と Englishness の確立  
講師 吉野利弘

#### 授業科目の内容：

Modern English の基本的特質は cosmopolitan vocabulary, inflectional simplicity, natural gender といわれる。このような特質を英語が獲得するには、どのような歴史的、文化的、社会的状況がかわるのかを考える。併せて、辺地の一地方の土着語にすぎなかった English の国語化、帝国言語化とそれを支えるイデオロギーとはどのようなものか考える。

#### テキスト：

Charles Barber. *The English Language: A Historical Introduction* Cambridge U.P., 2002 (paperback ed.) (生協扱い)

#### 参考書：

N.F.Blake. *A History of the English Language*. Routledge, 1996 他

### 【04】【93】英語学 E (4)

語形成のしくみ 経済学部 教授 杉岡洋子

#### 授業科目の内容：

言語の基本単位である語は、その形と意味の結びつきが私達の頭の中の辞書に入っているものが多い。しかし、un-kind-ness、「不親切さ」のように複数の要素からなる語について調べてみると、そこには語を形成する規則があり、その規則性は「ワン切り」「キモい」のように最近できたばかりの語にも当てはまることがわかる。この科目では、さまざまな語の形成についての理論的な分析方法や、語形成と心的辞書(メンタルレキシコン)の関わりについて勉強する。講義と演習形式の両方を使い、英語の語形成に関する練習問題や日本語データを各自が集め分析する課題を通して、語形成理論の基礎と文法理論における位置づけを理解出切るようにしたい。

#### テキスト：

Ingo Plag, *Word Formation in English* (Cambridge UP, 2003)

#### 参考書：

授業内で指示する。

### 【04】【93】英語学 F (4)

接続詞の言語学 英文法を読み直す  
講師 奥 聡一郎

#### 授業科目の内容：

さまざまな機能を持つ接続詞を素材に、英米や日本で刊行された代表的な英文法書の記述を比較、検討していく。これまで学んできた学校文法から英語学における最新の知見への橋渡しとしたい。また、英文法の確認という観点から課題の理解度を小テスト(平常点)で測るので欠席と遅刻はしないこと。

#### テキスト：

特に定めない。授業計画における文献の指定箇所をコピーして講読することになる。

#### 参考書：

特に定めない。

### 【04】【93】英語学 G (4)

休講

### 【04】【93】英文学 A (4)

十八世紀イギリス文学を考える 講師 草光俊雄

#### 授業科目の内容：

英文学を歴史、社会、政治、思想などと関連させながら読んでいこうと思います。とくに18世紀イギリスの文学を考えています。

#### テキスト：

開講時指示します。

#### 参考書：

開講時指示します。

### 【04】【93】英文学 B (4)

『ロード・オブ・ザ・リング』のファンタジー理解  
講師 伊藤 壘

#### 授業科目の内容：

映画『ロード・オブ・ザ・リング』の原作(*The Lord of the Rings* (邦題『指輪物語』))は、その後のファンタジーというジャンルに対してあまりにも大きな影響を与え、現在に至っている。さらに、その序章ともなる『ホビットの冒険』にはイングランドを巡る文化的な背景が織り込まれていた。原作者 J. R. R. トールキンはオクスフォード大学の中世英語文献学者であり、作品世界には中世の英文学、北歐文学についての深い知識が詰め込まれている。その精緻な創作のネタやツボを知らないと、せっかくの傑作を味わい尽くしたとは言えない。

そこで、中世英文学から、現代イギリス・ファンタジー文学に至る長い文学の系譜を通観しよう。扱う作品は、マザー・グースのような童話、北欧神話・サガ、中世ロマンス、英国の民話や伝説、近代ヨーロッパ文学まで幅広い。一気に見聞を拡げてみようではないか。

テキスト：

Shippey, T. A. *The Road to Middle-Earth: How J. R. R. Tolkien Created a New Mythology* (London: Grafton, 1992)

参考書：

授業内に指示。

---

#### 【04】【93】英文学 C (4)

モダニズム小説とその後 講師 麻生 えりか

授業科目の内容：

前期は、イギリスのモダニズム作家 Virginia Woolf の *Mrs. Dalloway* (1925) と、この作品に想を得て現代アメリカ作家 Michael Cunningham が書いた *The Hours* (1998) を読み、ウルフの提示した問題は何か、それらをカニンガムがいかに継承、変容したかを考える。両作品の映画も適宜活用する。後期は、ニュージーランド出身でイギリスで活躍したモダニズム作家 Katherine Mansfield と、現代ニュージーランド作家の Janet Frame の作品を読み、女性作家とモダニズム、ポストモダニズムについて考える。授業は演習形式で行う。

テキスト：

Virginia Woolf, *Mrs. Dalloway*. ed. Stella McNichol. Penguin Modern Classics, その他のテキストは授業中に指示する。

---

#### 【04】【93】英文学 D (4)

二十世紀イギリス詩演習 講師 富士川 義之

授業科目の内容：

二十世紀イギリス詩のアンソロジーを読む。トーマス・ハーディ、W. B. イエイツ、T. S. エリオット、D. H. ロレンス、W. H. オーデンなどの代表作を精読しながら、二十世紀イギリス詩の歴史を概観するとともに、詩の面白さ、魅力を少しでも伝えられるような授業にしたいと考えている。

テキスト：

*Modern English Poetry: A Selection* (開文社)

参考書：

随時指示する。

---

#### 【04】【93】英文学 E (4)

書物史から見た英文学 教授 高宮 利行  
三田の英米文学専攻の専任教員ほか

授業科目の内容：

昨今アメリカを中心に、書物の社会史ともいべき書物史が盛んとなり、例えばペンシルヴァニア州立大学には書物史学部が誕生し、書物史学会 (SHARP) や初期書物学会は定期的に国際会議を主催、研究所の数も増大の一途である。

そこで今回、三田の英米文学専攻の教員を中心として、英米文学における書物史をオムニバスで展開することとした。なお、デジタル書物学に関心のある諸君はHUMIプロジェクトのメンバーによる「英文学 I」もあわせて履修することをお奨めしたい。

参考書：

教室で適宜指示します。

---

#### 【04】【93】英文学 F (4)

*Sir Gawain and the Green Knight* 講読 教授 高宮 利行

授業科目の内容：

Tolkien も *The Lord of the Rings* の執筆に影響を受けた中英語アーサー王ロマンスの傑作を講読します。この難解な詩の原典を丹念にグロッサリーを引きながらひもときましょう。

テキスト：

E. V. Gordon & J. R. R. Tolkien, eds, *Sir Gawain and the Green Knight* 2nd edition, revised by Norman Davis, Oxford: U.P., 1967.

参考書：

適宜指示します。

---

#### 【04】【93】英文学 G (4)

Oscar Wilde の世界：*The Picture of Dorian Gray* を中心に  
教授 河内 恵子

授業科目の内容：

イギリス文学史上、「問題作」のひとつとされる *The Picture of Dorian Gray* を読むことを出発点とし、ここから後期ヴィクトリア朝文学の特質を把握する。芸術至上主義、デカダンス、ゴシック小説、ホモセクシュアリズム etc. の問題を他の作品とも関連付けて考えてみたい。

テキスト：

Wilde, Oscar. *The Picture of Dorian Gray* (New York: Norton, 1988)

参考書：

河内恵子『深淵の旅人たち』(慶應義塾大学出版会：2004)

---

#### 【04】【93】英文学 H (4)

イギリス文学・絵画・イタリア 教授 松田 隆美

授業科目の内容：

イギリス文学と絵画の関連性を様々な視点から考察し、特にイタリアに具体的題材として注目することで、イギリス文学を広くヨーロッパ文化の文脈のなかで考える。

ルネッサンス期には、詩は、‘speaking picture’ で絵画は ‘dumb poesy’ であるという表現があるが、文学と絵画はしばしば題材を共有し、またテキストと挿し絵は相互補完的な関係を保ってきた。また、たとえば美術史における図像学的アプローチは、文学研究への有効性など、さまざまなトピックスについて考える。

そのように文学と絵画の関係性を考えるにおいて、特にイギリス文学とイタリアの交流に注目する。16, 17 世紀のイタリア絵画は、現実のイタリアの風景とともに「グランド・ツアー」でイタリアを訪れたイギリス人を魅了し、それらの実物や複製は大量にイギリスに持ち込まれ、いわゆる「ピクチャレスク」の流行を生んだ。また、イタリアは、中世以来イギリス文学に舞台を提供し続けてきたが、19 世紀になると、イタリアの風景を題材にした絵画集が盛んに制作された。その意味でイタリアは、常にヴィジュアルなイギリス文学史の重要な一要素であったのである。

テキスト：

主にプリントを配布。

---

#### 【04】【93】英文学 I (4)

HUMI プロジェクトのデジタル情報処理  
教授 高宮 利行  
教授 松田 隆美  
教授 アーマー、アンドルー  
DMC 特別研究助教授 櫻村 雅章

授業科目の内容：

本講座は、人文科学分野における情報処理の基本手法を、実習を通じて修得できることを目的としている。思想、芸術、文学、歴史などの分野における網羅的な専門情報を収集して整理・分析し、わかりやすい形で公開することは、文学部が社会から要請されている活動であるという認識のもとに、実際 HUMI プロジェクトで貴重書を対象としてそうした活動を続けている担当者らが、西洋の書物史や英文学の分野で具体的な課題を設定して、人文科学的な基礎知識や技術背景に関する講義、ディスカッション、パソコンやデジタル画像入力機器などを用いたデジタル・コンテンツの製作実習、発表会 (プレゼンテーション) などさまざまな形での授業によって、実践的に指導を進めていく。

実習は次のような内容で行う予定である。

・ワープロを用いたテキスト (文章) 情報の整理や、持論の展開

(Microsoft Word や Adobe Acrobat を使用)

- ・デジタル画像やグラフィックスと、専用ツールを用いたオンスクリーン・プレゼンテーション (Adobe Photoshop や Microsoft PowerPoint などを使用)
- ・データベースソフトを用いた情報のより高度な整理や、Web コンテンツの制作とインターネットを利用した公開 (Filemaker Pro や Web ページ制作ソフトを使用)

---

#### [04] [93] 米文学 A (4)

アメリカ文学における宗教と倫理 講師 佐藤光重

---

##### 授業科目の内容:

春学期は17~18世紀、植民地時代におけるピューリタン文学を解説する。

秋学期は主としてH. D. Thoreau の *Walden* (初版1854年、邦訳『森の生活』) を読み進め、代表的な自然文学者 (Gilbert White, Rachel Carson, Aldo Leopold, Anne M. Lindbergh など) を適宜取り上げる。

時間が許せば、近年話題を集めるエコ・ツーリズムや観光論、レジャー論などを通してアメリカ文学における自然・環境の諸問題を考えてみたい。

##### テキスト:

Carl Bode, ed., *The Portable Thoreau* (Penguin 1982).

##### 参考書:

- ・Lorraine Anderson, et al. eds., *Literature and the Environment* (Addison Wesley-Longman, 1999).
- ・Gilles Gun, ed., *Early American Writing* (Penguin, 1994).
- ・Perry Miller, *Errand into the Wilderness* (Harvard up, 1956) (邦訳『ウィルダネスへの使命』向井照彦訳、英宝社、2002年)。
- ・伊藤詔子『よみがえるソロー—ネイチャーライティングとアメリカ社会』(柏書房、1998年)

---

#### [04] [93] 米文学 B (4)

アメリカ演劇文化史にみるマイノリティの諸相  
法学部 助教授 常山 菜穂子

---

##### 授業科目の内容:

「演劇」はもともと社会的な芸術と称されます。日本語で「演劇」と一語で表される表現形態は drama (戯曲テキスト) と theater (興行、上演) の二要素からなっており、theaterは時代の流れと観客の要求を強く反映するものだからです。その意味で、こんにち知りうる演劇史はすべて時代の鏡だと言え、演劇文化の考察はそれを生み出した国家、国民、政治・経済、精神を知る手がかりを提供するでしょう。本授業では、従来の演劇研究のようにテキスト分析にのみ重点を置くのではなく、個々の時代を特徴づける社会思潮とそれに伴う舞台活動の関係を考察します。

特に今回は、アメリカ演劇の内に意識的・無意識的に織り込まれた「差別」に注目します。アメリカは本当に「自由」の国なのか? アメリカン・ドリームは本当に「平等」なのか? といった問いをもとに、美名の下に隠された権力構造をあぶり出します。

##### テキスト:

プリントを配布し、ビデオ資料を使います。

##### 参考書:

授業中に指示します。「アメリカ演劇・参考文献リスト」(<http://www.hc.keio.ac.jp/america>) を参照。

---

#### [04] [93] 米文学 C (4)

オリエンタリズム再考 講師 村上由見子

---

##### 授業科目の内容:

今再び「オリエンタリズム」を考え、私たちを取り巻く状況を併せて考えていきます。サイドの著書をテキストにし、授業では特に「アラブ・ムスリムをめぐる表象」について、文学、絵画、写真、ハリウッド映画など欧米の表象史から具体的に検証していく予定です。私たちの知らないアラブ・ムスリムを探る機会とし、夏休みのレポー

トは個人のテーマを深めるのを目的とした上で、学んだことを広く共有していく場としましょう。

##### テキスト:

エドワード・W・サイド『オリエンタリズム (上) (下)』(平凡社ライブラリー、各1500円)

---

#### [04] [93] 米文学 D (4)

ピューリタニズムとアメリカン・ナラティヴ  
講師 難波雅紀

---

##### 授業科目の内容:

17世紀ニューイングランドに根付いたピューリタニズムが、後のアメリカ文化の形成にどう関わっていったか考えます。ピューリタニズムの神学を理解した上で、その宗教言説が精神的自叙伝という文学ジャンルに変容していく経緯を中心に考察します。

##### テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

##### 参考書:

秋山健監修『アメリカの嘆き—英文学史の中のピューリタニズム』(松柏社、1999)

---

#### [04] [93] 米文学 E (4)

アメリカの女性文学 講師 渡部桃子

---

##### 授業科目の内容:

女性文学とは、いったいなんだろうか。イギリス文学、アメリカ文学、あるいは南部文学、黒人文学、アジア系アメリカ文学というものがあるとするば、女性文学というものがあるのではないか。それでは「北部文学」、「白人文学」、「男性文学」というものも想定できるのか。そんなことを考えながら、アメリカの様々な女性作家・詩人によって書かれた作品を読んでいきたい。また女性文学というものが想定されるきっかけとなったアメリカのフェミニズム、フェミニスト批評についても触れる。

##### テキスト:

プリントで配布

##### 参考書:

初回の授業で提示

---

#### [04] [93] 米文学 F (4)

ポピュラー音楽研究 講師 大和田俊之

---

##### 授業科目の内容:

ブルース、ジャズ、R&B、ロック、ヒップホップなどのポピュラー音楽を学術的に分析、研究する方法論を考察する。春学期はテキスト所収の論文(産業論、文化研究、フェミニズム、セクシュアリティ論、アメリカ研究など)を精読し、ポピュラー音楽が歴史的にどのように論じられてきたかを概観する。また、秋学期には履修者の興味や関心にあわせて、実際に音源や映像資料を用いてそうした方法論を実践に移したい。

##### テキスト:

Simon Frith and Andrew Goodwin, eds. *On Record: Rock, Pop and the Written Word* (1990)

##### 参考書:

適宜指示する。

---

#### [04] [93] アカデミック・ライティング A (2)

Academic Writing A 助教授 スネル、ウィリアム J.

---

##### 授業科目の内容:

The aim of this course is to introduce and develop skills in academic written English for students who are required to complete their graduation thesis in that language.

##### テキスト:

A. Armour, 河内恵子, 松田隆美, W. Snell『アカデミックライティング応用編—文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版

会 発行年：1999年 本体価格：2,000円。

In addition to this text, photocopied materials will be used.

参考書：

To be announced at an early stage in the course.

---

**[04] [93] アカデミック・ライティング B (2)**

【春・秋】 助手 高橋 勇

【秋】 助手 大串 尚代

---

授業科目の内容：

英語で卒業論文をはじめとしたアカデミックな論文を書く学生のために、論文の執筆の準備方法、図書館の使用法、書式 (MLA)、論理構成などを、基礎から詳しく指導する。春学期はパラグラフ・ライティングを中心に授業を進め、秋学期は実際に論文を執筆して互いに検討・批判を行う。

テキスト：

・Gibaldi, Joseph. *MLA Handbook for Writers of Research Papers* 6th ed. New York: MLA, 2003

・ジョセフ・ジバルディ 『MLA英語論文の手引』第6版 (北星堂書店, 2005年)

参考書：

授業中に適宜指示する。

---

**[04] [93] アカデミック・ライティング C (2)**

講師 松川 祐子

---

授業科目の内容：

どのようにして自分の意見を明確な英語で文章にして読み手を説得するのかを勉強し、練習します。与えられたテーマについての自分の意見や主張を探るためのアイデア引き出し方法から始まります。その次に意見と分析方法を示す *thesis statement* の書き方、段落の構造、論理の組み立て方、*conclusion* の書き方等を学びます。その他には読者説得術、引用方法や参考文献リストの作成法、自分のライティングの手直し方法なども取り上げます。授業は、ディスカッションに加え、個人及びグループでの作業が行われます。

テキスト：

未定。(履修者と相談の上、適切なものを選び、教室で販売します)

参考書：

授業中に紹介します。

---

**[04] [93] アカデミック・ライティング D (2)**

Academic Writing 講師 ドネガン, パトリシア

---

授業科目の内容：

Course: (Limited 12 students) A workshop course in writing focusing on the process of writing a research paper; freewriting will be practiced, to aid the process. Clarity & relaxation is the key to writing power. Students will learn to relax and express themselves clearly by writing short pieces with a clear thesis (and support) with a simple/direct beginning, middle and end. Later we will cover the basic methods of support including example, definition, comparison and contrast, argument, etc. to make the writing stronger, especially for doing a longer research paper.

テキスト：

T. B. A

参考書：

No textbook except English to English dictionary & Jap-Eng/Eng-Jap dictionary recommended: *The Merriam Webster Webster Dictionary* ISBN: 0-87779-9113; paper or e-dictionary okay

---

**[04] [93] アカデミック・ライティング E (2)**

論文を英語で書く 講師 狩野 みき

---

授業科目の内容：

英語で論文を書くためのクラスです。もともとの英語力の高低は問

いませんが、とにかくやる気のある人のみ受講して下さい。各々、ある程度の長さのエッセーを毎回提出してもらい、皆でその内容を詳しく検討し、どうすればより良いものができるかを考えていきます。まな板の上のコイになることは決して気持ちのいいものではありませんが、他人の発表する内容を批判的に見ることで、自分の英語力・構成力を自分なりのペースで高めていって下さい。

## ○独文学専攻

### 必修科目

【04】テキスト研究中級(2)

【93】作品研究 I (2)

読解のテクニック

教授 和泉雅人

#### 授業科目の内容：

本年度はロマン派の作家 Ludwig Tieck の Kunstmarchen “Der blonde Eckbert” を購読する。基礎文法を一応終了した者を対象とする。基礎文法を終了したとはいえ、実はまだなにも分かっていない場合が多いので、ところどころ基礎文法の復習を織り交ぜながら授業を進めていく。この授業の主眼は、何よりも読解のテクニックを磨くところにある。これは中級文法の語法知識と文法知識から成り立つものであり、さらに上級レベルの読解への橋渡しをする役目をもつ。話す能力など発信型の語学能力形成は重要だが、やはり情報を得るための重要な柱である読解能力は鍛えておかなければならない。このような能力がきちんと段階づけられて発展していくというのはおそらく幻想であって、現場のオリジナルのテキストを対象としてあがいていくほかはない。「水泳の仕方」という本を何百冊読むよりは、実際に泳いでみたほうがはるかに技能訓練になる。そういう意味で、この授業は予習を非常に重視する。出席を重視することはもちろんである。自分を鍛えて、ドイツ語の実力を向上させたいという気持ちをもつ人であれば、どなたでも歓迎する。他専攻からの受講希望者で、一年生のときにドイツ語を履修していない者は、開講までに基礎文法を終了させてきてもらいたい。

#### テキスト：

Der blonde Eckbert Reclam 版を使用する。生協に入れておくので各自調達すること。

#### 参考書：

学習参考書等については開講時に指示する

【04】テキスト研究上級 A (2)

【93】作品研究 II (2)

「ヴォルフガング・ボルヒェルト研究」

教授 柴田陽弘

#### 授業科目の内容：

ヴォルフガング・ボルヒェルト

1921年ハンブルクに生まれ、47年バーゼルに死す。享年26歳。18歳で1度、20歳で2度、逮捕される。反国家的という理由で。20歳で戦車部隊に入隊し苛酷なロシア戦線へ送られる。この体験がかずかずの詩と短編に結実する。かれの珠玉の作品を精読しながらその精神世界を考察する。

#### テキスト：

Wolfgang Borchert: Das Gesamtwerk. Hamburg 1949

#### 参考書：

Peter Ruehmkorf: Wolfgang Borchert. Reinbek bei Hamburg 1961

【04】テキスト研究上級 B (2)

【93】作品研究 III (2)

さまざまな文体にふれる

教授 斎藤太郎

#### 授業科目の内容：

春学期は18世紀から20世紀後半までの多様な文学テキストを集めた下記の教科書を読むことによって、文法知識の再確認と正確な読解能力の向上をめざす。秋学期は参加者との話し合いによって読むべきテキストをきめたい。積極的な提案を期待したい。

#### テキスト：

岩崎英二郎：中級ドイツ語文法読本（郁文堂）

【04】ドイツ語作文初級(2)

【93】ドイツ語表現演習 I (初級作文)(2)

Schreiben für Anfänger

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

#### 授業科目の内容：

In diesem Kurs lernen die Teilnehmer, kurze Texte (Nachrichten, Reportagen, Interviews, kleine Geschichten) zu schreiben. Ziel ist es, einen Aufsatz für den Schreibwettbewerb ‘Schreib doch mal Deutsch’ zu verfassen. Im zweiten Halbjahr schreiben wir Briefe und nehmen damit an einem Internet-Suchspiel teil.

#### テキスト：

プリントを配布します。

【04】ドイツ語作文中級(2)

【93】ドイツ語表現演習 III (中級作文)(2)

講師 シュミット、ウーテ

#### 授業科目の内容：

ドイツ語の表現力のアップを目指し、小テキスト作成の練習をします。Zentrale Mittelstufenprüfung のときに試験の一部としてプライベートな手紙・オフィシャルな手紙・読者の意見・小レポートを書くことが要求されます。このテキストの種類を作成するための書き方や表現も練習します。ネタになるドイツ語のテキスト・グラフ・表などはドイツの新聞やインターネットから取りますので、時事ドイツ語に役立ちます。テキストを書くことはどうしても時間がかかりますのでテキストの作成は宿題となります。テキストの長さは長い場合 A4 1 枚までです。提出した宿題は評価します。試験はありません。

In diesem Kurs soll das Verfassen von kurzen Texten geübt, wie sie z. B. auch bei der Zentralen Mittelstufenprüfung des Goethe-Instituts verlangt werden. Textformen sind dabei persönlicher Brief, offizieller Brief, Leserbrief oder Referat, worin Sie Ihre Meinung ausdrücken oder einen bestimmten Sachverhalt darstellen müssen. Die dazu notwendigen Formen bzw. Redewendungen werden im Unterricht vermittelt und geübt. Als Material werden aktuelle Texte aus Zeitungen oder dem Internet verwendet. Eine schriftliche Abschlußprüfung mache ich nicht, aber die Teilnehmer müssen als Hausaufgabe Texte erstellen, die ich dann bewerte. Keine Angst, die Texte müssen nicht lang sein (bis A4 1 Seite).

#### テキスト：

コピー

#### 参考書：

なし

【04】コミュニケーション・ドイツ語中級 A (2)

【93】ドイツ語表現演習 II A (初級会話)(2)

Konversation für Anfänger

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

#### 授業科目の内容：

初心者のためのドイツ語会話。日常生活に必要なドイツ語を覚えて、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で表現できるようになるのが目的です。

#### テキスト：

Themen aktuell 1, Kursbuch und Arbeitsbuch (Max Hueber Verlag)

【04】コミュニケーション・ドイツ語中級 B (2)

【93】ドイツ語表現演習 II B (初級会話)(2)

Konversation für Anfänger

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

#### 授業科目の内容：

初心者のためのドイツ語会話。

#### テキスト：

**[04] コミュニケーション・ドイツ語上級 A (2)**  
**[93] ドイツ語表現演習 IV A (中級会話) (2)**

経済学部 教授 中山 純

**授業科目の内容：**

2年程度のドイツ語学習歴がある人を対象に、語彙力と表現力の強化を図ります。身近な話題を材料に、まず基本的な語彙を確認しながら覚え、それを一定のダイヤログのパターンに乗せて使ってみましょう。発音やイントネーションが上手にできるようになったら、特定の発話意図を実現できるようにしましょう。単に台詞を暗記するのではなく、自分の考えや意図に基づいてドイツ語を使えるようになることを目標にします。

**テキスト：**

初回の授業にプリントを配布します。

**[04] コミュニケーション・ドイツ語上級 B (2)**  
**[93] ドイツ語表現演習 IV B (中級会話) (2)**

Konversation für die Mittelstufe

訪問講師 (招聘) ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

**授業科目の内容：**

In diesem Kurs soll Deutsch hören und sprechen geübt werden. Auf der Grundlage der Video-Serie "Treffpunkt Berlin" werden Themen aus dem Alltag von Jugendlichen in Deutschland diskutiert.

**テキスト：**

プリントを配布します。

**[04] ドイツ文法研究 (2)**  
**[93] ドイツ語学演習 (2)**

教授 中山 豊

**授業科目の内容：**

既習の文法知識を固めながら、ドイツ語の文法的分析の理論と方法を学びます。詳細については、最初の授業で説明します。

**テキスト：**

プリント

**参考書：**

- ・ Bußmann, H. (Hg.) (2002): Lexikon der Sprachwissenschaft. 3., aktual. u. erw. Aufl. Stuttgart: Kröner.
- ・ Glück, H. (Hg.) (2000): Metzler-Lexikon Sprache. 2. Aufl. Stuttgart: Metzler.

**[04] ドイツ文学史 (4)**  
**[93] ドイツ文学史 I (4)**

教授 大宮 勘一郎

**授業科目の内容：**

「ドイツ文学」という概念の成立する 18～19 世紀初頭から説明を開始します。ドイツ文学の歴史というよりは、歴史の中のドイツ文学についての授業です。

**テキスト：**

柴田翔 (編) 「はじめて学ぶドイツ文学史」(ミネルヴァ書房)

**[04] ドイツ文化史 (4)**  
**[93] ドイツの文学と中世 (4)**

ドイツ中世の文学と思想

講師 香田 芳樹

**授業科目の内容：**

この授業は、中世ドイツを代表する文学作品を、従来とは違った文化的な視点から解説していくことを目的としています。とくに中世を「脱神話化の時代」と位置づけ、作家たちが民族固有の神話的素材をどのように文学へと作りかえていったかをみていきます。またそれと平行して、現代の芸術作品 (ファンタジー文学・音楽・演劇) に中世の英雄叙事詩、恋愛叙情詩、神秘思想が与えた影響についても論じます。できるだけ多くの原典 (翻訳) に当たり、映像資料も使って、

ヨーロッパ文化に今も息づく意識の古層に迫りたいと思います。

**テキスト：**

講義資料のプリントを配布します。

**参考書：**

ヨアヒム・ブムケ『中世の騎士文化』(平尾浩三他訳)

**[04] ドイツ語学研究 (4)**  
**[93] ドイツ語学 (4)**

上級文法の習得と再帰代名詞

経済学部 教授 鈴木 直樹

**授業科目の内容：**

授業形式は講義+講読。対象言語はドイツ語です。各学期とも授業内試験があります。

**テキスト：**

なし。必要に応じてプリントを配布します。

**参考書：**

なし。必要に応じて指示します。

**[04] メディア研究 (4)**  
**[93] ドイツの文学と現代 (4)**

メディアの考古学 — テクノロジーとメディアの前衛

教授 和泉 雅人

**授業科目の内容：**

芸術作品を考察する場合、作品生産美学、作品解釈美学、作品受容美学、作品作用美学、芸術生産者や作品と芸術消費者の間を媒介するメディア美学などといった立場が考えられる。本講義では主にこのメディア美学のあり方を扱うことになる。メディアの定義も多様だが、ここではおおざっぱに上記のように考えておく。本年度は、「主として」19世紀後半くらいからのニュー・メディア・テクノロジーの出現と作品生産・受容の関係にかかわる歴史的事実の検証を基軸におく。また、メディアにおける言説がいかなる特質を帯び、またどのような美学や感性を新たに生み出していくのか、といった点にも注目していきたい。最終的な目標としては、メディア美学とはなにか、メディアと人間とのかわりはどうあるべきか、などの諸点について考察する。

**テキスト：**

資料等はそのつどコピーなどで配布します。詳細なシラバスは、開講時に配布「予定」です。

**参考書：**

開講時に指示する

**[04] ゲーテ時代研究 (4)**  
**[93] スイス・オーストリアの文学と社会 (4)**

「ロードムービー スイス・オーストリア・ドイツ その風景」

教授 柴田 陽弘

**授業科目の内容：**

本講義は映画、マンガ、アニメーションに描かれたたくさんの「ロードムービー」を見ながら風景とは何かを考察するものです。大旅行家だったゲーテをはじめとして、有名無名の多くの旅人たちの精神の軌跡をたどります。

1 旅の歴史 2 遍歴と漂泊 3 ヴィム・ヴェンダース 4 ファスピンダー 5 フォルカー・シュレンドルフ 6 ヴェルナー・ヘルツォーク 7 ニュー・ジャーマン・シネマ 8 SFの旅 9 江戸の旅 10 ロードムービーとはなにか 11 ロードムービーの風景 12 環境と風景 etc.

**テキスト：**

柴田陽弘編著『風景論』(慶應義塾大学出版会)

**参考書：**

柴田陽弘編著『自然と文学』『恋の研究』(慶應義塾大学出版会)

---

**[04] ドイツ文化研究 I (4)****[93] ドイツ文化論 (4)**

「恋の時間 — 映画, マンガ, アニメーション」

教授 柴田 陽 弘

**授業科目の内容:**

恋とはなんだろう。この不可思議な感情の諸相をマンガ、映画、アニメーションを通じて考察する。本講義はいわば「恋の考現学」である。

- 1 恋の定義
- 2 映画の恋
- 3 マンガの恋
- 4 アニメーションの恋
- 5 きみの恋 etc.

**テキスト:**

柴田陽弘編著『恋の研究』(慶應義塾大学出版会)

**参考書:**

柴田陽弘編著『風景論』『自然と文学』(慶應義塾大学出版会)

---

**[04] ドイツ文化研究 II (4)****[93] ドイツの文学と近代 I (4)**

シラー『ヴィルヘルム・テル』とスイス

助教授 桑 川 麻里生

**授業科目の内容:**

2005 年はフリードリヒ・シラーの没後 200 年にあたります。この記念の年にシラーの代表作のひとつである『ヴィルヘルム・テル』を多角的に読んでみようと思います。かつて並び称されることの多かったゲーテと比べると。シラーの放った声は次第に現代に届きにくくなっているようにも感じられますが、たとえば私たちは今なおオペラベンの『第九』や太宰治の「走れメロス」などを通じてシラーの呼吸を感じ続けています。『テル』を読みつつ、シラーの迫力あるドラマ作法を味わう一方で、その理想主義的自由思想の歴史的意義と問題点についても考えてみたいと思います。また、素材となっているスイス建国の伝説や、「アルプス」という舞台、またロシーニによるオペラ化などについても考察してみましよう。

**テキスト:**

F.シラー『ヴィルヘルム・テル』(岩波文庫) \*古書店で買えたら買ってください。入手できない参加者にはコピーを配布します。

<http://gutenberg.spiegel.de/schiller/tell/tell.htm> (ドイツ語原文)

**参考書:**

教室で適宜指示します。

---

**[04] ドイツ文化研究 III (4)****[93] ドイツの文学と近代 II (4)**

ドイツ・ロマン派入門

教授 和 泉 雅 人

**授業科目の内容:**

本年度は、前年度に引き続いて、ドイツ・ロマン派の基礎知識を講義する。教科書的な知識の獲得も重要だが、それだけではなく、あくまでも作品を主体とした認識の獲得を目指すと同時に歴史的背景についても学習する。ドイツ・ロマン派はきわめて多様な現象であり、美学理論的・歴史学的・文献学的・音楽学的・造形美学論的・作品解釈学的・宗教的・神話学的・精神分析学的・象徴論的・哲学的領野を横断しつつ、そこに息づくロマン主義的運動のダイナミズムを観取することが重要である。この講義が目指すのは、第一にドイツ・ロマン派の総体的な布置の概観であり、個々の重要作品に対する明晰な認識の獲得である。これに加えて第二に、美学・哲学・文学における理論的知識の獲得とその運用、さらには個別の芸術ジャンルにかかわる基礎知識と造形作品解釈などを目指すことになるだろう。本年度は後期ロマン派にやや主眼をおいて進めたい。

**テキスト:**

講義内において資料を配布するので、それを参照してください。

**参考書:**

開講時に指示する。

---

**[04] ドイツ文学研究入門 (4)****[93] ドイツの文学理論 (4)**

いかにしてテキストと向き合うか 教授 大 宮 勸一郎

**授業科目の内容:**

いくつかの文学的テキストを用い、それをどのように解読してゆることができるかを参加者の皆さんと一緒に考える授業です。

**テキスト:**

コピーにて配布

---

**[04] 現代ドイツ研究 (4)****[93] ドイツ文学史 II (4)**

戦後ドイツにおける思想的議論の焦点

助教授 桑 川 麻里生

**授業科目の内容:**

第二次世界大戦後のドイツにおいては、政治、思想、文学がしばしば密接に絡み合っただけで複雑な問題圏を形式し、表現してきました。その中には、日本人にとっても極めて本質的な問題提起も少なくありません。本講座では、そういった問題圏のいくつかを取り上げ、戦後ドイツの思想と文学を概論的に紹介したいと思います。

**テキスト:**

コピーで配布します。

**参考書:**

教室で適宜指示します。

---

**[04] 現代ドイツ研究入門 (4)****[93] ドイツの歴史と社会 (4)**

演出演劇

助教授 平 田 栄一郎

**授業科目の内容:**

現代のドイツヨーロッパ演劇では演出家の構想が上演の成否を大きく左右しています。現代演劇は「演出演劇 Regietheater」と換言できるほど、演出家の役割が重要になっています。演出演劇は、ペーター・シュタインやペーター・ツァデックなどの先駆者が登場し始めた 1960 年代以降に顕著になりましたが、その萌芽はすでに 20 世紀初頭のマックス・ラインハルトやスタニスラフスキーの演出に見ることができます。この講義では、演劇学の文献や映像資料などを通じて、演出演劇を歴史的に、様式的に、方法的に検討します。また今年度は日本における「ドイツ年」に当たり、ドイツから現在活躍中の演出家・振付家たち (F.カストルフ、Th.オースターマイヤー、ミヒャエル・タールハイマー、ザーシャ・ヴァルツなど) の客演が予定されています。本講義がこれらの上演を理解する一助になればと思っています。

**参考書:**

Peter von Becker(Hg.): Das Jahrhundert des Theaters. それに以外については授業の折にその都度紹介します。

---

**[04] ドイツ語学文学ゼミナール I (2)****[93] ドイツ語学文学研究会 (I)(2)**

ミヒャエル・エンデとファンタジー

教授 柴田 陽 弘

**授業科目の内容:**

- 1 エンデの『はてしない物語』
- 2 ドイツ語圏のファンタジー作家たち
- 3 ファンタジー映画
- 4 卒業論文作成の技術と実践 etc.

**テキスト:**

Michael Ende: Die unendliche Geschichte. Muenchen 2001

**参考書:**

『エンデ全集』(岩波書店)

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅡ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅱ)(2)

空間論—ドイツ・ロマン派を中心として

教授 和泉雅人

**授業科目の内容：**

本年度は空間論を主題とするが、おもにドイツ・ロマン派を取り扱う予定にしている。ロマン派の文字テキスト・図像テキストを空間という主題から再編成・再解釈していくというのが主眼である。対象とするのは、おもに初期ロマン派および後期ロマン派の諸作品、ロマン派絵画作品などである。とりわけ童話などは好古の題材となるだろう。考察の対象となるのは、しかし、ロマン派関係の作品ばかりではない。ロマン派周辺のピーダーマイアーの諸作品や古典主義の諸作品、あるいは18・19世紀における空間論的観点からみて重要な作品(例えばシンケルらのプロジェクト建築)はすべて視野に入れておきたい。あまり欲張るのはよくないのだが、理想はなるべく高めに設定しておきたいものである。最終的にはゼミの各参加者が、さまざまな作品の基本的な空間分析の手法を、それぞれの参加者の個性に影響されながらも、手に入れ、それを応用できることを目標としたい。そして、このことはさして難しいことではないのである。

**テキスト：**

テキストはコピーで配布する。その他の資料も同じ。ただし、文庫本で購入可能なものは購入してもらいたい。

**参考書：**

開講時に指示する

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅢ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅲ)(2)

休講

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅣ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅳ)(2)

カリオストロ伯爵の謎

教授 斎藤太郎

**授業科目の内容：**

18世紀末のヨーロッパに彗星のように現れ、千里眼術や降霊術や錬金術などの秘術を操って各国上流社会の寵児となった自称カリオストロ伯爵(本名ジュゼッペ・バルサモ)の存在は、作家たちの想像力を刺戟せざしにいなかったらしく現代にいたるまでさまざまな文学作品に形象化されている。アルセーヌ・ルパン・シリーズの『カリオストロ伯爵夫人』や『カリオストロの復讐』、あるいは宮崎駿監督の映画『カリオストロの城』などで名前を聞いたことのある向きも多いだろう。ドイツにおいてもたとえばシラーは小説『見霊者』にカリオストロとおぼしき謎の人物を登場させ、ゲーテもまたカリオストロが関与した「首飾り事件」に取材した戯曲『大コフタ』を書いている。

だが、ゲーテやシラーをはじめとする同時代の作家たちにとってカリオストロとはたんに文学作品の素材として「使える」興味深い素材にとどまるものではなく、思想的に、また政治的に深刻な問いを突きつけてくる、きわめてアクチュアルな「現象」でもあった。この研究会ではカリオストロをめぐる同時代のさまざまな言説を検証しながら、「カリオストロ現象」のアクチュアリティを跡づけてみたい。

**参考書：**

種村季弘：山師カリオストロの大冒険(岩波現代文庫)2003年  
イアン・マカルマン(藤田真利子訳)：最後の錬金術師カリオストロ伯爵(草思社)2004年

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅤ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅴ)(2)

身体論—メディア学・文化学的身體、芸術的身體

助教授 平田栄一郎

**授業科目の内容：**

人文科学において身体論が著しく発展したのは1900年前後からです。それまで身体などの感性的側面は否定的に論じられるか、理性や悟性に従属される範囲内でしか評価されてきませんでした。当ゼミナールはこの歴史的背景を踏まえつつ、身体を芸術・美学・メディア学・文化学などの視点から網羅的に把握することを目的とします。春学期は日本語で読める身体論を取りあげることで身体論の基本的理解を目指します。秋学期は、ゼミ参加者の関心領域に関する文献を日本語やドイツ語のテキストから選んで発表してもらったり、皆でドイツ語文献を輪読しようと思っています。

**テキスト：**

主に以下の書物から抜粋した箇所を取り上げようと思っています。

- ・長谷川章『世紀末の都市と身体』(星雲社)
- ・三宅晶子編『感覚変容のディアレクティク』(平凡社)
- ・石光泰夫『身体 光と闇』(未来社)
- ・大沢真幸『身体の比較社会学』(勁草書房)
- ・市川浩『身体論集成』(岩波書店)
- ・尼々崎彬訳『芸術としての身体』(勁草書房)
- ・ライプチヒ大学 Kaleidoskopien プロジェクト編：Körperinformation (Vice Versa Vertrieb)

**参考書：**

その都度指摘します。

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅥ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅵ)(2)

ハインリッヒ・フォン・クライスト研究

教授 大宮勸一郎

**授業科目の内容：**

クライスト：Penthesilea の輪読です。

**テキスト：**

コピーにて配布。

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅦ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅶ)(2)

ドイツ文化とスポーツ

助教授 桑川麻里生

**授業科目の内容：**

スポーツは一面において、劇場であり、ドラマであり、スペクタクルです。そこでは「物語」が語られ、喜怒哀楽が生み出され、ナショナルイズムやヒューマニズムが醸成されることもあります。また別の面においては、スポーツは身体観の表現であり、身体の遊戯である一方で、身体の組織化と支配でもあります。人間の存在が身体をぬきにありえないとすれば、スポーツについて考察をすることは人文科学の多くの重要な主題と関係してくる作業になります。本研究会では、来年ドイツでワールドカップが開催されるサッカーを中心に、球技、器械体操、格闘技とドイツ文化および日本文化の関係を考えていきます。

**テキスト：**

授業開始に教室で指示します。

**参考書：**

教室で適宜指示します。

【04】ドイツ語学文学ゼミナールⅧ(2)

【93】ドイツ語学文学研究会(Ⅷ)(2)

教授 中山豊

**授業科目の内容：**

ドイツ語学で卒論を作成する専攻生を対象とします。音韻論、形態論、統語論、意味論、テキスト言語学、社会言語学などのドイツ語学

にかかわる様々な領域について概観しつつ、参加者の関心や希望に応じて特殊なテーマについても考えていきたいと思ひます。

**テキスト：**

プリント

**参考書：**

- ・ Bußmann, H. (Hg.) (2002) : Lexikon der Sprachwissenschaft. 3., aktual. u. erw. Aufl. Stuttgart: Kröner.
- ・ Glück, H. (Hg.) (2002): Metzler-Lexikon Sprache. 2. Aufl. Stuttgart: Metzler.

## ○仏文学専攻

### 必修科目

- 【04】フランスの文化と歴史 I (2) (春学期)  
【04】フランスの文化と歴史 II (2) (秋学期)  
【93】フランスの文化と歴史 (4)

フランスの過去と現在をよりよく知るために

教授 小倉 孝 誠

#### 授業科目の内容：

フランスの文化、歴史、社会について、過去から現代までを概観する授業です。どのような分野であれフランスに興味がある、フランスのことを勉強している（あるいはしたい）という人のために、フランスに関する一通りの知識を身につけてもらうことを目的とします。必要に応じてビデオ、DVD、絵画、映画などを見ます。

#### テキスト：

プリントを配布します。

#### 参考書：

都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』（法政大学出版局、2003年）

- 【04】フランス語学演習 I (X) (1) (春学期)  
【04】フランス語学演習 II (X) (1) (秋学期)  
【93】フランス語学演習 I (X) (2)

「悪の華」を読む／フランス詩法入門

講師 高橋 俊 幸

#### 授業科目の内容：

ボードレールの『悪の華』を読みます。およそフランス文学の研究を志す者ならば、一度は読んでおかななくてはならない作品と言えるでしょう。この授業では一行でも、一編でも多く原文を読むことを志します。また、フランス詩法についての入門的な知識も同時に身につけることを同様に行います。

#### テキスト：

「悪の華」抄（第三書房）

- 【04】フランス語学演習 I (Y) (1) (春学期)  
【04】フランス語学演習 II (Y) (1) (秋学期)  
【93】フランス語学演習 I (Y) (2)

教授 荻野 安 奈

#### 授業科目の内容：

形容詞ひとつで、日常の文体が、文学に変身する。そういう現場を細かく指摘していきます。

#### テキスト：

プリントにて配布

- 【04】フランス語学演習 I (Z) (1) (春学期)  
【04】フランス語学演習 II (Z) (1) (秋学期)  
【93】フランス語学演習 I (Z) (2)

フランス語2年目のリーディング 教授 宮林 寛

#### 授業科目の内容：

初級文法の復習をしながら読解力を高めるための演習です。テキストは平易な物語、説明文などを使います。

#### テキスト：

[春学期] Evelyne H. Nakamura. *Bienvenue-variante* (青山社)  
[秋学期] プリント使用。

- 【04】フランス語表現演習 I (X) (1) (春学期)  
【04】フランス語表現演習 II (X) (1) (秋学期)  
【93】フランス語表現演習 I (X) (2)

助教授 片木 智 年

#### 授業科目の内容：

##### I (X)

実用フランス語の基礎づくりを目的にした演習です。急がば回れで、1年次に習ったはずの知識の徹底から始めます。動詞変化の自動化、基礎語彙の知識、聞き取り能力なくしては、当然のことですがコミュニケーションもままなりません。現代フランスの映像、ポップスなどの紹介にも努めて、息抜きのできるようにはいたしますが、学生諸氏の積極的参加と努力が要求されます。

##### II (X) 前期でえた知識をさらに発展させます。

#### テキスト：

プリント

- 【04】フランス語表現演習 I (Y) (1) (春学期)  
【04】フランス語表現演習 II (Y) (1) (秋学期)  
【93】フランス語表現演習 I (Y) (2)

助手 喜田 浩 平

#### 授業科目の内容：

フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳ではなく、フランス語で考えながら自由に文章が書けるようにすることが目的です。

#### テキスト：

教室で指示します。

#### 参考書：

- ・『ラルース・やさしい仏辞典NIVEAU 1』、『ラルース・やさしい仏辞典NIVEAU 2』、駿河台出版社
- ・松原秀治、松原秀一、『フランス語らしく書く』、白水社
- ・原田、萩原、水林、田鶴、『コレクション・フランス語7書く』、白水社
- ・クロード・ロベルジュ（他）、『21世紀フランス語表現辞典』、駿河台出版社

- 【04】フランス語表現演習 I (Z) (1) (春学期)  
【04】フランス語表現演習 II (Z) (1) (秋学期)  
【93】フランス語表現演習 I (Z) (2)

教授 鷲見 洋 一

#### 授業科目の内容：

日常生活、およびやさしい意見表明のフランス語を、日本語から仏訳するという方法をとらず、直接表現するトレーニングです。語彙、文型、位相など、あらゆる角度からフランス語に取り込んでもらいます。

#### テキスト：

コピーを配布し、特定の教科書は使いません。

#### 参考書：

辞書について、最初の授業で指示します。とりわけ Petit Robert の CD-ROM 版をすすめたい。

- 【04】フランス語表現演習 III (X) (1) (春学期)  
【04】フランス語表現演習 IV (X) (1) (秋学期)  
【93】フランス語表現演習 II (X) (2)

講師 ボダン、エマニュエル

#### 授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos…)

L'assiduité aux cours est requise

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

テキスト：  
プリント

- 
- 【04】フランス語表現演習Ⅲ (Y) (1) (春学期)  
【04】フランス語表現演習Ⅳ (Y) (1) (秋学期)  
【93】フランス語表現演習Ⅱ (Y) (2)  
【春】 訪問講師 シモンー及川, マリアンヌ  
【秋】 訪問助教授 ブランクール, ヴァンサン
- 

〔春学期〕 APPROFONDISSEMENT LINGUISTIQUE

授業科目の内容：

Entraînement à l'expression orale et écrite. Conversation, exercices grammaticaux, dictée, rédaction.

テキスト：

Initial 2 (Clé international, 2000).

〔秋学期〕 Initial 2

授業科目の内容：

Nous étudierons le manuel *Initial 2*. Ce cours prend la suite de celui de printemps de Madame Simon-Oikawa. Il a pour but d'aider les étudiants à améliorer et pratiquer leur français à l'écrit et à l'oral.

テキスト：

*Initial 2*, méthode de français, Sylvie Poisson-Quinton, Marina Sola, CLE International, 2000.

参考書：

なし

- 
- 【04】フランス語表現演習Ⅲ (Z) (1) (春学期)  
【04】フランス語表現演習Ⅳ (Z) (1) (秋学期)  
【93】フランス語表現演習Ⅱ (Z) (2)  
講 師 ベリセロ, クリスティアン・アンドレ
- 

授業科目の内容：

CE COURS SERA ORIENTÉ VERS UNE PRATIQUE DE L' ORAL ET DE L'ÉCRIT. LES MATÉRIEAUX SERONT DÉFINIS ULTÉRIEUREMENT.

- 
- 【04】フランス文学史Ⅰ (2) (春学期)  
【04】フランス文学史Ⅱ (2) (秋学期)  
【93】フランス文学史Ⅰ (4) 【春】 教 授 荻 野 安 奈  
【秋】 教 授 宮 林 寛
- 

〔春学期〕

授業科目の内容：

中世から17世紀までの通史です。  
古典を近・現代の作品にぶつけることを繰り返しますので、結果的には全世紀を扱うことになるでしょう。

テキスト：

『新版フランス文学史』(白水社)

〔秋学期〕

授業科目の内容：

19・20世紀フランス文学の通史。

テキスト：

『新版フランス文学史』(白水社)

- 
- 【04】フランス文学史Ⅲ (2) (春学期)  
【04】フランス文学史Ⅳ (2) (秋学期)  
【93】フランス文学史Ⅱ (4)  
【春】 教 授 宮 林 寛  
【秋】 教 授 荻 野 安 奈
- 

〔春学期〕 フランス語圏ベルギーの文学

授業科目の内容：

多言語国家ベルギーでフランス語による近代文学が成立した過程を

概説し、ベルギー象徴派の詩人たちを紹介します。

テキスト：

プリント使用。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

フランス文学における不倫、飽食など、テーマに添った通史を試みたいと思っています。

テキスト：

『新版フランス文学史』(白水社)

---

【04】フランス文学と近代Ⅰ (2) (春学期)

【04】フランス文学と近代Ⅱ (2) (秋学期)

【93】フランス文学と近代Ⅰ (4)

1930年代のフランス文学と社会 助教授 市川 崇

---

授業科目の内容：

1930年代のフランスの社会と文化を多角的に捉えることを目的とした授業です。「危機の時代」と呼ばれるこの「戦後の終焉」(ブラジャック)の時期を、29年の大恐慌に起因する「経済的な危機」、また「国際政治上の危機」、さらには「精神、思想の危機」の三つの観点から検討して行きます。歴史家の研究を参照し、代表的な政治・社会的事件のあらましを捉えた上で、同時代の映画作品を通じ、また当時の文学者、思想家の作品、回想録、日記などを読みながら、「危機」に対する様々な解釈を紹介したいと思います。

テキスト：

授業中にプリントを配布します。

参考書：

Serges Berstein, *La France des années 30*, Armand Colin, 1988, Jacques Kergoat, *La France du Front populaire*, Editions La Découverte, 1986. フランス文学講座5「思想」大修館

---

【04】フランス文学と近代Ⅲ (2) (春学期)

【04】フランス文学と近代Ⅳ (2) (秋学期)

【93】フランス文学と近代Ⅱ (4)

ユートピアと近代 講 師 篠 原 洋 治

---

授業科目の内容：

本講義ではユートピア思想を扱う。一般論からはじめ、とくにフランス18世紀のユートピア文学、19世紀の共同体構想としてのユートピアを分析し、さらに20世紀のユートピア論を再検討したいと思っている。

テキスト：

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

---

【04】フランス文学と現代Ⅰ (2) (春学期)

【04】フランス文学と現代Ⅱ (2) (秋学期)

【93】フランス文学と現代 (4)

経済学部 教 授 林 栄美子

---

授業科目の内容：

- 1) 現代フランス文学がしばしば取り上げ、向き合ってきたテーマのうち、おもに「時間」の捉え方と、「語り手」の機能をめぐって考え、代表的な作品を紹介しつつ、その現代的な意味を改めて考えてみます。
- 2) 文学以外にも視野を広げてみます。ことに19世紀半ばに生まれた写真をはじめとする映像は、極めて「現代」的なジャンルであるだけに、どうしても見過ごせない存在でしょう。時間と記憶、ものの記号化現象といった側面から写真に接近し、文学と写真の関係についても考えてみようと思います。
- 3) 「フランス文学」というジャンルの区切り方を疑ってみましょう。亡命作家やクレオール作家の存在に目をむけ、彼らの作家活動と作品を考察しながら、「フランス文学」に違ったアングルから光をあててみます。
- 4) フランスの隣国ながらもまったく異なる精神風土を持ち、フラン

スを刺激し続けた「スペイン」、そのくせいタリアやドイツに比べると問題にされるのが少ない「スペイン」のフランス語への影響関係を、現代文学の枠内で考えてみます。

---

【04】フランス語学Ⅰ(2)(春学期)  
【04】フランス語学Ⅱ(2)(秋学期)  
【93】フランス語学(4) 助手 喜田 浩 平

---

**授業科目の内容：**

フランス語を一つの研究対象とみなし、さまざまな角度から観察します。初級文法では扱わない高度な文法事項の説明から入り、「文法」の枠を超えた言語学的研究の対象・方法にまで話を広げたいと考えています。今年度のテーマはフランス語の動詞です。

**テキスト：**

プリントを配布します。

**参考書：**

教室で指示します。

---

【04】フランス語学演習ⅢA(1)(春学期)  
【04】フランス語学演習ⅣA(1)(秋学期)  
【93】フランス語学演習ⅡA(2)  
中世フランス語・文学入門 講師 松村 剛

---

**授業科目の内容：**

中世フランス文学とフランス語の概要を解説します。アーサー王物語、宗教文学、武勲詩、叙情詩など多様なジャンルの特色を、具体的にテキストに沿って理解してもらうことが目標です。

**テキスト：**

Albert HENRY, Chrestomathie de la littérature en ancien français(Francke, 1994)

---

【04】フランス語学演習ⅢB(1)(春学期)  
【04】フランス語学演習ⅣB(1)(秋学期)  
【93】フランス語学演習ⅡB(2) 講師 秋元 幸人

---

**授業科目の内容：**

19世紀フランス詩の講読。本年度はBaudelaireから始めます。毎回テキストに直に触れてみることで、名前だけで知ったつもりになっている著名な作家たちの世界を味わいます。履修者には最低2回の発表と、学年末のレポート提出が課せられます。

**テキスト：**

コピーして配布します。

---

【04】フランス語学演習ⅤA(1)(春学期)  
【04】フランス語学演習ⅥA(1)(秋学期)  
【93】フランス語学演習ⅢA(2)  
作家のラヴレターを読む 教授 小倉 孝誠

---

**授業科目の内容：**

恋文(ラヴレター)は書くのも、受け取るのも胸がときめくもの(たぶん…)。現代の若者はEメールや携帯メールで愛を告白したり、恋心を伝えたりするのですが、かつてであれば手紙がそのための重要な手段でした。この授業では主に19、20世紀の作家が書いた恋文(情熱的な恋文、せつない恋文、醒めた恋文、別れの手紙などいろいろです)を、注のついた教科書版で読んでいきます。また時間に余裕があれば、文学作品の中に出てくる恋文、恋文に関する評論も取り上げる予定です。

**テキスト：**

『恋文』(小倉孝誠・小倉和子編)、第三書房。生協で各自購入のこと。

---

【04】フランス語学演習ⅤB(1)(春学期)  
【04】フランス語学演習ⅥB(1)(秋学期)  
【93】フランス語学演習ⅢB(2)  
サルトルの小説を読む 教授 立仙 順朗

---

**授業科目の内容：**

実存主義哲学ジャン＝ポール・サルトルの哲学的原体験を日記体でつづった小説『嘔吐』を読みます。身辺にかすかな異常を発見することからはじめて、ある日公園のマロニエの樹の根っこを見て〈実存〉の真理に目覚めるまで、このクライマックスにいたる過程が一步一步とドラマティックに描かれています。

**テキスト：**

Sartre: La Nausée, 『嘔吐』, 第三書房

---

【04】フランス語学演習ⅦA(1)(春学期)  
【04】フランス語学演習ⅧA(1)(秋学期)  
【93】フランス語学演習ⅣA(2)  
INITIATION A L'ANALYSE DE TEXTES LITTERAIRES  
【春】 訪問講師 シモンー及川, マリアヌ  
【秋】 訪問助教授 ブランクール ヴァンサン

---

[春学期]

**授業科目の内容：**

Le cours a pour but de se familiariser avec le vocabulaire de l'analyse littéraire, et avec les méthodes du commentaire de texte en français: étude de la structure, du vocabulaire, des procédés stylistiques, etc. Il s'appuiera sur des extraits de romans et des poèmes des XIXème et XXème siècles. L'analyse de chaque texte sera suivie d'exercices systématiques (lecture à haute voix, questions), devant aboutir à l'élaboration d'un court commentaire en français.

**テキスト：**

Textes distribués en classe

[秋学期]

**授業科目の内容：**

Dans ce cours, les étudiants auront l'occasion de lire des textes littéraires et journalistiques. Ces textes feront l'objet d'une étude qui privilégiera l'aspect linguistique et qui sera accompagnée d'exercices permettant la maîtrise des expressions et des constructions nouvelles.

Les textes journalistiques seront l'occasion d'une initiation aux techniques de l'argumentation.

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

なし

---

【04】フランス語学演習ⅦB(1)(春学期集中)  
【04】フランス語学演習ⅧB(1)(春学期集中)  
【93】フランス語学演習ⅣB(2)(春学期集中)  
ⅦB フランス文化とファンタジー ⅧB 表象とフランス文化  
【春】 助教授 片木 智年

---

**授業科目の内容：**

ⅦB

フランス文学の歴史に現れるファンタジーを考察します。本年はペローの「サンドリヨンもしくはガラスの小さなスリッパ」に残されているなどを追っていきます。戦後のフェニズム運動の中でも再解釈され、さまざまに変奏され続けるこの人類の文化遺産ともいえるプロットは、本来のフランスの歴史的な文脈でそういう意味をもっていたのでしょうか。文芸伝統、民間伝承の世界にもヒントが見つかるでしょう。あつかうテキストは平易なので、上級生はもとより、やる気のある二年生、他専攻の学生を歓迎します。なお、「サンドリヨンもしくはガラスの小さなスリッパ」は後に「シンデレラ」と英訳されたテキストです。もちろんご存知ですね。

## VIII B

フランスの伝統社会に生きる人々は、成長、恋愛、結婚、死といった人生の基本的問題について、どんな感じ方、考え方をもっていたのでしょうか。旧政体、17世紀の人々に喜ばれたコメディの抜粋をとおして、考えてみましょう。インターネットはいうまでもなく、映画館もテレビもない時代です。どさまわりで演じられるお芝居が今日の「ドラマ」の役割をはたし、時代の風俗を反映すると同時に、時代をリードしていったのです。

### テキスト：

プリント

[04] フランス語表現演習 V A (1) (春学期)

[04] フランス語表現演習 VI A (1) (秋学期)

[93] フランス語表現演習 III A (2)

講師 シャルコフ、スヴェトラナ

[04] フランス語表現演習 V B (1) (春学期)

[04] フランス語表現演習 VI B (1) (秋学期)

[93] フランス語表現演習 III B (2)

仏作文入門

教授 宮林 寛

### 授業科目の内容：

和文仏訳ではなく、最初からフランス語で発想して書くことをめざして演習をおこないます。

### テキスト：

Sylvie Poisson-Quinton-*Expression écrite*.

### 参考書：

仏仏辞典

[04] フランス語表現演習 VII A (1) (春学期)

[04] フランス語表現演習 VIII A (1) (秋学期)

[93] フランス語表現演習 IV A (2)

LECTURE ET REDACTION

[春] 訪問講師 シモンー及川, マリアンヌ

[秋] 訪問助教授 ブランクール, ヴァンサン

[春学期]

### 授業科目の内容：

A partir d'articles de journaux et de textes littéraires, le cours proposera un entraînement systématique à la lecture et à la rédaction en français. Chaque extrait sera accompagné d'exercices d'écriture (dictée, questions, production de textes d'imagination).

### テキスト：

Textes distribués en cours.

[秋学期]

### 授業科目の内容：

Le semestre d'automne sera consacré à l'étude de textes narratifs tirés de la littérature française du XIX<sup>ème</sup> et XX<sup>ème</sup> siècles. Nous mettrons en évidence les différents procédés techniques utilisés par les auteurs (techniques de la description, question du point vue, champs lexicaux, ...). Par ailleurs, des travaux d'écriture mettant en pratique les techniques observées seront proposés aux étudiants de façon régulière.

### テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

### 参考書：

なし

[04] フランス語表現演習 VII B (1) (春学期)

[04] フランス語表現演習 VIII B (1) (秋学期)

[93] フランス語表現演習 IV B (2)

教授 川口 順二

### 授業科目の内容：

フランス語で文章を綴る力を養います。文脈のない和文を仏訳することは文法理解には役に立つものの、フランス語の作文力に直接つながりません。ここでは直接にフランス語で状況に即した文章を書くために練習を重ねます。地道な努力さえすれば必ず作文力をつけることが可能ですが、この授業でその方法を学んでください。

なお宮林先生も同じ教科書で表現演習を担当なさいますが、この授業とは重ならず、相補的な関係を持ちます。

### テキスト：

S. Poisson-Quinton: *Expression écrite, niveau 1* (CLE International)

[04] フランス文学演習 I (1) (春学期)

[04] フランス文学演習 II (1) (秋学期)

[93] フランス文学演習 I (2)

ランボーを読む

講師 宮崎 康子

### 授業科目の内容：

17歳にして「見者の詩法」と言われる独自の詩法を編み出したランボーが、その詩法について友人に書き送った手紙から読み始めて、見者の詩法の絢爛たる開花と挫折の予感を謳い上げた「酔いどれ船」そして挫折の中で自らの青春の彷徨を振り返って綴った散文詩「地獄の一季節」の抜粋、最後にそうした体験を経た後の詩人の目に映った世界の点描風景「イリュミネーション」の幾つかを読みます。

### テキスト：

プリント教材

[04] フランス文学演習 III (1) (春学期)

[04] フランス文学演習 IV (1) (秋学期)

[93] フランス文学演習 II (2)

刑罰の文学史のために

助手 岑村 傑

### 授業科目の内容：

いかにして人を罰するか。古来その問題を巡って議論と試行は尽きず、共同体の秩序を乱す者を更正させるという理想が追求され、あるいは更正しない者は排除するという技術が練磨されてきました。本演習では、刑罰のなかでもその要と言ってよい監獄的を絞って、それが文学作品のなかでどのように描かれ、作品世界にどのように寄与しているのかを考察します。

演習授業ですから、講義のみの授業にはなりません。詩、小説、思想など、様々なジャンルの文章と格闘しながらフランス文学読解の実践力を身につけることも授業の大きな目的です。訳文作成、要約、論述などの訓練を授業時に多く行い、最終的には、年度末に自分で掘り起こした問題についてのレポートをまとめることを目指します。履修者の人数が許せば、レポート集を作成します。

### テキスト：

授業時にプリントで配布します。

### 参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

[04] フランス文学演習 V (1) (春学期)

[04] フランス文学演習 VI (1) (秋学期)

[93] フランス文学演習 III (2)

教授 荻野 安奈

### 授業科目の内容：

今年も Zola にこだわります。

彼の作品自体が一種の創作マニュアル、という観点で、話をすすめます。短篇小说における「オチ」もテーマのひとつです。

テキスト：

プリントにて配布

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

教授 川 口 順 二

授業科目の内容：

フランス語とフランス文化の研究会です。フランス語の冠詞、代名詞などの問題から、フランスの識字問題、民族・宗教の問題など、また中世の文化・歴史などもカバーします。なお秋学期も春学期と同じポリシーで勉強します。

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

履修者全員が自分なりに納得いく卒論を書くことができるように指導します。近代詩、20世紀後半の文字・思想、映画、絵画などに関心のある学生を歓迎します。

テキスト：

プリント使用。

参考書：

授業中に指示します。

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

教授 鷲 見 洋 一

授業科目の内容：

担当者が専門とする18世紀フランス文学・思想のほかに、広く社会史や文化史の領域、あるいは現代アートなどの試みについて、突っ込んだ調査や研究を進めたい学生のためのゼミ。どんなテーマでも驚かないが、唯一の条件はけっしてフランス語を逃げないこと。

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

教授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：

近代(とくに19世紀から20世紀前半)の文学と文化史を学びたい人のためのゼミです。文学はそれが書かれた時代と社会を映し出すという側面をもっているため、文学(とりわけ小説)をつうじて歴史、社会、文化を全体的に読み解こうというのがねらいです。身体、ジェンダー、メディア、絵画と文学などの問題を考えていきますが、受講生には各自の関心におうじて自由にテーマを見つけてもらいたいと思います。ときにビデオ、DVDなどの映像資料を用いている予定です。

テキスト：

プリントを配布

参考書：

都立大学仏文研究室編『フランスを知る』(法政大学出版、2003年)

これ以外は授業時に指示する。

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

教授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

ルネサンス文学から、「文学」の拡大解釈まで。

今年のモットーは「美よりも速く走ること」(コクトー)。

テキスト：

プリントなど

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

フランス19世紀の芸術と文学 教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

主に次のテーマを中心にして自分の研究をしたり、卒論を指導したりしてきました。

- 1) 19世紀後半から20世紀前半にかけての詩(象徴主義、ヴァレリー、シュールレアリスムなど)。この時期の詩と音楽(ドビュッシー、ラヴェルなど)、文学と絵画(マネおよび印象主義)。
- 2) 19世紀後半における文化、芸術、ジャーナリズム、メディア論。
- 3) 20世紀の思想(サルトル、ブランショ)など。

去年は芸術的な香りも高く、バレエと文学との関係などをやりました。今年とりあげるタイトルだけを見ると驚くかもしれません。ロジェ・カイヨワが戦争について書いたフランス語の文章を読みながら議論をします。戦争に社会的にアプローチするものではありません。現代社会で戦争が果たしている一種の祭りとしての役割を考察しながら、相関的に、文学・芸術が果たす役割を割りだしてみたいと思います。

テキスト：

プリントで配布します。

参考書：

ロジェ・カイヨワ『聖なるものの社会学』、ちくま学芸文庫、ほか。

- 【04】フランス語学文学研究会 I (1) (秋学期集中)
- 【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期集中)
- 【04】フランス語学文学研究会 III (1) (秋学期集中)
- 【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期集中)
- 【93】フランス語学文学研究会 (2) (秋学期集中)
- 【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2) (秋学期集中)

研究と論文へのイニシエーション

【秋】助教授 片 木 智 年

授業科目の内容：

わたくしの現在の関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。

- (1) 演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦

(2) 16世紀末から17世紀にかけてのテキストと歴史

(3) 民話, 民間伝承, おとぎばなし, 妖精譚, 幽霊譚

なお, 就職活動・留学に配慮し, 本ゼミは後期集中で週2回開かれます。

**テキスト:**

プリントなど

---

【04】フランス語学文学研究会 I (1) (春学期)

【04】フランス語学文学研究会 II (1) (秋学期)

【04】フランス語学文学研究会 III (1) (春学期)

【04】フランス語学文学研究会 IV (1) (秋学期)

【93】フランス語学文学研究会 (2)

【93】フランス語学文学研究会 (選択必修) (2)

助教授 市川 崇

---

**授業科目の内容:**

20世紀フランスの思想, 批評の問題に関心のある学生を対象とした研究会です。私自身はジョルジュ・バタイユの思想, 文学作品を主な研究の対象としていますが, モーリス・ブランショ, ジャン＝ポール・サルトルといった同時代の批評家, 思想家, また彼らが影響を与えた60年代以降の思想潮流に興味を持つ履修者も歓迎します。

**テキスト:**

授業時間内にプリントを適宜配布します。

**参考書:**

ジュルジュ・バタイユ「内的体験」現代思潮社, 「文学と悪」ちくま学芸文庫, ジャン＝ポール・サルトル「文学とは何か」, 「存在と無」人文書院

## 【04】【93】図書館・情報学基礎(2)(春学期)

【春】教授 細野 公男

## 授業科目の内容：

図書館・情報学の分野における中心的なトピックを取り上げてその特徴を示し、この分野の基本的な概念・考え方を紹介します。

## 参考書：

情報社会を理解するためのキーワード2 (培風館)

## 【04】図書館・情報学原典講読(A)(B)(C)(2)

## 【93】原典講読(A)(B)(C)(2)

(A) 教授 倉田 敬子

(B) 講師 越塚 美加

(C) 講師 須賀 千絵

## 授業科目の内容：

各クラス少人数で、図書館情報学分野におけるトピックを取り上げた英語の雑誌記事を講読します。図書館情報学分野の基礎的な用語や概念の理解と、専門的な文献を読みこなせる英語力の修得を目指します。基本的に、毎回履修者が発表を行い、適宜必要な補足を行う形で授業を進めていきます。

(A)(B)(C)の3クラスでは同じテキストを使い、ほぼ同じ進度で授業をすすめます。試験も共通問題です。各クラスへの振り分けは4月の専攻別ガイダンスの時に発表しますので、各自確認の上、必ず指示されたクラスを履修すること。履修は原則として図書館情報学専攻の学生に限ります。

## テキスト：

- 1) Stubbings, Ruth; Brine, Alan. Plagiarism and the role of the library. Update. vol.2, no.12, 2004, p.42-44.
- 2) Chowdhury, Gobhinda. Classic IR concepts in the internet age. Update. vol.3, no.4, 2004, p.38-39.
- 3) Dempsey, Beth. Cashing in on service: Entrepreneurial ventures make money and extend the library's mission. Library Journal. vol.129, no.18, 2004, p.38-41.
- 4) Russell, Carrie. Fair use under fire. Library Journal. vol.128, no.13, 2003, p.32-34.

これ以降の記事に関しては、授業において指示します。

## 【04】【93】情報サービス基礎Ⅰ(2)(春学期)

社会における図書館の存在意義とその機能

【春】教授 糸賀 雅児

## 授業科目の内容：

この科目は、原則として図書館・情報学専攻2年生の必修科目であり、基礎科目の一つとして各種の図書館における情報サービスの概要と意義を学びます。そして、秋学期に開講される「情報サービス基礎Ⅱ」と一体となって、3年次以降に設置される図書館コースへの入門科目となるように位置づけられています。

## テキスト：

授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んでください。

## 参考書：

- ・井上真琴『図書館に訊け!』(ちくま新書) 筑摩書房, 2004年
- ・菅谷 明子『未来をつくる図書館 - ニューヨークからの報告』(岩波新書) 岩波書店, 2003年
- ・田中共子『図書館へ行こう』(岩波ジュニア新書) 岩波書店, 2003年
- ・辻 由美『図書館であそぼう』(講談社現代新書) 講談社, 1999年
- ・まちの図書館でしらべる編集委員会『まちの図書館でしらべる』柏書房, 2002年

## 【04】【93】情報サービス基礎Ⅱ(2)(秋学期)

図書館・情報サービスの基礎理論

【秋】教授 高山 正也

## 授業科目の内容：

図書館を始めとする検索ベースの情報サービスについて、その概要と基礎的な理論の理解を目指します。このためには受講者の豊富な検索ベースでの情報サービス(図書館以外にも文書館や博物館等でも体験できます)の利用体験が前提になります。授業においても、ビデオによる疑似体験をできるだけ取り入れますが、受講者は図書館等での自主的な利用体験が強く求められます。

## テキスト：

バックランド, M.「図書館・情報サービスの理論」勁草書房, 1990, 324p,

## 参考書：

授業中に適宜紹介します。

## 【04】【93】情報検索基礎Ⅰ(2)(秋学期)

【秋】教授 上田 修一

## 授業科目の内容：

この科目は図書館・情報学専攻2年の必修科目であり、「情報検索演習」で習得しているはずの情報処理技術を用いた課題を出します。

情報と情報システム、情報検索の過程、検索手法、検索の仕組み、検索評価、データベース、牽引、情報検索関連用語、さらに図書館目録、分類など書誌コントロールについての基礎的理解を得ることを目的とした授業内容です。

## テキスト：

日本図書館情報学会『図書館情報学用語辞典第2版』(丸善)  
授業時にプリントを随時、配布します。

## 【04】【93】情報検索基礎Ⅱ(A)(B)(C)(2)(春学期)

【春】(A) 助教授(有期) 色川 進

(B) 講師 石田 栄美

(C) 講師 中島 玲子

## 授業科目の内容：

図書館・情報学の研究に必要な基本技能であるコンピュータの操作および倫理について習熟することを目標として、各種アプリケーションとネットワークの利用を中心に講義と演習を並行して行います。

## 【04】【93】情報メディア基礎Ⅰ(2)(秋学期)

【秋】教授 倉田 敬子

## 授業科目の内容：

図書、雑誌、新聞等の印刷メディアを中心に、情報メディアの特性、生産・流通のプロセスについて概説します。電子メディアに関しても、印刷メディアとの比較を通して触れます。毎回、プリントを配布し、それに基づき授業を進めます。

## 参考書：

その場で適宜、紹介します

## 【04】【93】情報メディア基礎Ⅱ(A)(B)(C)(2)(春学期)

【春】(A) 教授 田村 俊作

(B) 講師 菅野 育子

(C) 講師 杉江 典子

## 授業科目の内容：

目録、書誌、索引というかたちで実現されている資料組織の基本的考え方を学ぶため、目録、主要な書誌・索引類、書誌データベース、参考図書の概説を行うと共に、それらを使った基本的な資料探索の方法の修得を目指します。

## 参考書：

長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブック』新

**【04】【93】図書館・情報学研究法 (2) (秋学期)**

【秋】教授 高山正也  
教授 田村俊作  
教授 糸賀雅児  
教授 倉田敬子  
助教授 原田隆史

**授業科目の内容：**

この研究会は文学部図書館・情報学専攻3年生を対象として開講されます。7月ごろ各自の志望をきいた上で上記の各担当者への割振を行います。

各研究会の内容については春学期中に別途ガイダンスが行われる予定です。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (A) (2)**

教授 上田修一

**授業科目の内容：**

情報メディア、情報検索、大学図書館を中心とした卒業論文指導を行います。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (B) (2)**

教授 糸賀雅児

**授業科目の内容：**

卒業論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (C) (2)**

教授 倉田敬子

**授業科目の内容：**

情報メディアによって実現される情報の生産、流通、利用に関わる諸現象をテーマとする卒業論文指導を行います。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (D) (2)**

教授 高山正也

**授業科目の内容：**

この研究会は図書館・情報学専攻の4年生の卒業論文指導のための研究会です。扱うテーマとしては専門図書館をはじめとする各種図書館のサービス、経営管理の問題として、職員・施設や設備、予算・会計・原価、利用者の問題をテーマとする人が多くいます。

また、一般オフィスや公的組織における業務文書を対象にした文書館（アーカイヴズ）や記録管理・知識管理をテーマとすることも可能です。

空論ではなく実証性に富んだテーマを歓迎します。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (E) (2)**

教授 田村俊作

**授業科目の内容：**

図書館におけるレファレンス・サービスやその他の利用者サービス、図書館史などの図書館に係わる問題、読書・情報探索行動など図書館利用者・利用に関連する諸問題をテーマとする学生のための卒業論文指導を行う。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (F) (2)**

助教授 原田隆史

**授業科目の内容：**

卒業論文の指導のための研究会です。テーマの設定、調査・実験、論文執筆といった卒業論文の作成の各過程での助言を行っていきま

す。情報検索や情報システムに関わるテーマを中心と考えていますが、学生諸君の興味にできるだけ応じたいと思っています。

**【04】【93】図書館・情報学研究会 (H) (2)**

教授 細野公男

**授業科目の内容：**

情報検索や電子図書館などをテーマとし、テーマの設定、資料の収集・評価、調査方法、論文の構成・書き方等についての卒業論文指導を行う。

**選 択 科 目**

**【04】【93】図書館概論 (2) (秋学期)**

生涯学習論の基礎と図書館概説

【秋】教授 高山正也

**授業科目の内容：**

図書館と生涯学習との関係、図書館の種類、機能、業務、サービス等についての総合的な理解を目指します。

特に現代社会の特徴としての情報化・国際化の状況の中で、さらに生涯学習の必要性が説かれる中で、図書館がいかなる社会的役割を果たすことができるかの検討を行います。

**テキスト：**

大堀 哲編. 司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論. 樹村房, 2002, 183p.

**参考書：**

アーカート, D. 図書館業務の基本原則. 勁草書房, 1985, 145p. その他にも若干授業の中で指示します。

**【04】【93】図書館の計画と経営 (2) (春学期)**

図書館経営論

【春】教授 高山正也

**授業科目の内容：**

生涯学習のための社会教育機関として図書館も一つの非営利組織体としての適切な管理・運営が従来にも増して要請されています。また非営利・文化施設としての図書館は永続的で、情報資源の累積性に対応し、知的創造活動にふさわしい機関としての安定した経営とその計画が求められています。

そこで、図書館がその目的や使命を実現するために、どのようにその運営を計画し、経営されるかについて講義します。

**テキスト：**

高山 正也編. 改訂図書館経営論. 樹村房, 2002, 183p.

**【04】【93】コミュニケーション史 (2) (春学期)**

人類の情報活動の発達史

【春】講師 村主朋英

**授業科目の内容：**

科学コミュニケーションの発達史を軸に、人類の情報活動の発達史を概観する。まず、メディア技術（情報・通信技術）、図書館情報サービス機関・情報専門職など情報流通の制度・機構に関わる要因、および情報の蓄積・検索方法の発達過程を講述する。その上で、そうした環境要因に囲まれて、人類が情報や知識をどのように交換し、また蓄積・継承してきたか、展望する。主として科学コミュニケーションを題材とするが、必要に応じて一般的事項（公共図書館やマスメディアなど）に言及する。

**テキスト：**

なし（随時プリントを配布）

**参考書：**

・『歴史のなかの科学コミュニケーション』（勁草書房刊, 2002年, 税別3800円）

・『歴史のなかのコミュニケーション』（新曜社）

ほか、授業で随時紹介

---

**【04】【93】図書館資料論(2)(春学期)**

【春】講師 渋川 雅 俊

---

**授業科目の内容：**

図書館は人びとの知識の獲得と展開をサポートする。その目的の下で図書館は、人びとの知識情報へのアクセスを確保・促進する役割を果たそうとしている。その役割を効果的・効率的に果たすために図書館は、資料をメディア基盤とするシステム（蔵書、施設・設備、サービスメニュー、図書館員によって構成される仕組み）を整える。そして図書館は日常的には資料を収集・組織・蓄積保管し、それらの人びとの必要に応じて提供してきた。いま情報技術の急激な進展の最中ではあるが、図書館はそうした活動をこれからも続けて行く。このコンテキストにおいて本論は、人びとの知識情報資源としての蔵書の構築・展開を中心的なテーマとする。

近年知識情報コンテンツのデジタル化が進み、資料の様態が多様・多重化してきている。その状況は今後ますます進展するものと予測できる。その予測の下ではこれまで印刷資料を基盤としてきた図書館のシステムが変容するものと考えざるをえない。蔵書の構築・展開はこうした変化にどう対応すべきか。これもまた、このコースの重要な課題のひとつである。

**テキスト：**

特に指定しないが、講義シノップスを WWW に上げる。

**参考書：**

参考資料は講義の中で解説し、シノップスに記述する。

---

**【04】【93】資料組織論(2)(春学期)**

【春】教授 上 田 修 一

---

**授業科目の内容：**

この科目では図書館目録の意義、目録規則、目録法、分類、件名、目録機械化、MARC、書誌ユーティリティ、OPAC など図書館目録の業務を中心として扱います。

**テキスト：**

日本図書館情報学会『図書館情報学用語辞典第2版』丸善

---

**【04】【93】レファレンス・サービス論(2)(春学期)**

【春】教授 田 村 俊 作

---

**授業科目の内容：**

図書館のレファレンス・サービスについて、理論と実際を学ぶ。レファレンス・サービスの基本的な考え方、歴史、サービス内容、技術を概観する。講義で得た知識をもとに、レファレンス・サービスの実際の分析を各人が試みる。また、講義と並行して、事例問題によって、問題発生から解決までの調査法の実際を演習し、それを通して調査手順の一般化を試みる。

**参考書：**

- ・長澤雅男『レファレンス・サービス』丸善 1995
  - ・伊藤松彦編『新図書館学教育資料集成 4：参考業務』教育史料出版会 1989
  - ・阪田蓉子編『新編図書館学教育資料集成 4：情報サービス論 補訂版』教育史料出版会 2003
- 

**【04】【93】図書館実習(2)**

図書館・情報学におけるインターンシップ科目

教授 糸 賀 雅 児

---

**授業科目の内容：**

図書館・情報学専攻の学生で、司書資格を取得し、図書館への就職を希望する者のみを対象としたインターンシップ科目です。インターンシップとは「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされています。したがって、この科目では各種の図書館や資料室、メディアセンター等においてインターンとして実務を経験することになります。

実習ガイダンスを3回開催（第1回は4月14日）しますので、履

修者はすべてのガイダンスに必ず出席してください。

---

**【04】【93】図書館活動論Ⅰ(公共図書館)(2)(秋学期)**

公共図書館の活動・サービス・法制度

【秋】教授 糸 賀 雅 児

---

**授業科目の内容：**

「地域の情報拠点」「生涯学習の拠点」としての公共図書館の活動やサービス、そしてそれらを支える法制や基準、政策などを学びます。なお、事例集やスライド、ビデオを教材として併用することで、国内外の公立図書館活動の実態について理解が深まるよう配慮します。

**テキスト：**

『図書館による町村ルネサンス—Lプラン 21』日本図書館協会、2001年

**参考書：**

文部省『2005年の図書館像—地域電子図書館の実現に向けて』2000年  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/12/12/001260.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/12/12/001260.htm))

---

**【04】【93】図書館活動論Ⅱ(大学図書館)(2)(秋学期)**

【秋】教授 上 田 修 一

講師 酒 井 由 紀 子

---

**授業科目の内容：**

大学図書館の運営と実務に関する基礎的知識を扱います。

**参考書：**

- ・岩猿敏生、大城善盛、浅野次郎、大学図書館の管理と運営。東京、日本図書館協会、1992
  - ・Budd, J.M. The academic library. Englewood, Libraries Unlimited, 1998
  - ・Coughlin, C.M. et al. administration of the college library, London, Scarecrow Press, 1997
- 

**【04】【93】図書館活動論Ⅲ(学校図書館)(2)(秋学期)**

【秋】講師 高 鷲 忠 美

---

**授業科目の内容：**

学校図書館には、単に「読書センター」としてでなく「学習情報センター」として機能が期待されている。単なる読書指導のための機関でなく、生涯学習者である子どもたちに一生身につけ活用してもらいたい「情報リテラシー」と「読書力」を学校教育の中で授業と密接に連携して展開するか、という「学習情報センター」として運営するかに重点をおいて説明する。

学校経営の中核に学校図書館を位置づけ、学校内の組織に学校図書館をくまなく組み込み、全ての教員がほとんどの授業で学校図書館を活用している鶴岡市立朝陽第一小学校の学校図書活動を、詳細に述べることで、学校図書館の理念と実際を紹介する。

**テキスト：**

『こうすれば子どもが育つ学校が変わる：学校図書館活用ハンドブック』山形県鶴岡市立朝陽第一小学校編著 高鷲忠美解説 国土社、2003

**参考書：**

『学校経営と学校図書館』古賀節子編 樹村房、2002

---

**【04】【93】図書館活動論Ⅳ(専門図書館)(2)(秋学期)**

専門図書館活動論

【秋】教授 高 山 正 也

---

**授業科目の内容：**

専門図書館という館種は多岐にわたる活動を行う図書館を包含しています。主なものに医学、薬学、農学、科学技術、ビジネス、法律、音楽、美術、文学などがあり、それぞれにグループ（協議会を名のるケースが多い）を形成して、公共図書館や大学図書館等とは異なるサービス原則で活動する図書館が多くあります。

各館種の中では最も情報サービスに特化しており、図書館界の将来をいち早く反映している館種でもあります。一般論を講義し、代表的

専門図書館の事例をそれら図書館の関係者にも講義してもらいます。

**テキスト：**

授業の中で資料を配布します。

**参考書：**

授業の中で紹介します。

---

#### 【04】【93】児童資料論(2)(春学期)

【春】講師 汐崎 順子

**授業科目の内容：**

図書館における「児童資料」とは“心身ともに発達途上にある「子ども」を読者対象とした図書等の資料”として定義づけられます。従って児童資料は、個々の子どもの能力や興味に対応する形で存在し、その内容や分野は多岐に渡っています。また、子ども時代の読書はそれぞれの人格形成に深く関わるものであり、子どもに本を手渡す立場である児童図書館員には、その仕事の前提としてまずそれぞれの児童資料に精通していることが求められます。

講義は子どもに本を提供する最も基本的な機関である公共図書館における児童サービスを中心に進め、様々な分野の児童資料を実際に数多く手にとって紹介し、一次資料そのものの特性と内容をより実質的な理解すること、子どもと本を結びつける効果的な方法について学ぶことを目指します。

また同時に各分野の児童資料の歴史や現状、読者である子どもの現在の読書環境等についても言及し、総合的・多角的な理解を深めることも目標とします。

**テキスト：**

授業時に適宜資料を配布します。

**参考書：**

中多泰子・宍戸宏・汐崎順子共著「改訂版 児童サービス論」樹村房(2004)

---

#### 【04】【93】情報メディア概説Ⅰ(2)(春学期)

【春】教授 上田 修一

**授業科目の内容：**

情報とメディアをめぐる議論、メディアの分類、それぞれのメディアについて歴史、現状、流通と保存、そして、メディア論とメディア批判、ウェブ、情報メディアの電子化を扱います。

**テキスト：**

毎回プリントを配布します。

---

#### 【04】【93】情報メディア概説Ⅱ(2)(春学期)

【春】教授 倉田 敬子

**授業科目の内容：**

社会の中で人間は情報メディアを通して情報を生産し、流通させ、利用するという考え方に立ち、次の3つの観点から情報メディアを総合的に考えます。

- (1) 物理的属性(技術的側面)
- (2) 社会的制度、機能
- (3) 情報メディアを通じて語られるディスコース

**参考書：**

授業時に参考文献リストを配布します

---

#### 【04】【93】情報メディアの構造と分析Ⅰ(2)(秋学期)

【秋】教授 倉田 敬子

**授業科目の内容：**

情報メディアは、独自の物理的・技術的特性および社会的場としての機能を持ち、さらにそのメディアに特定のな方法で情報を伝達しています。個々の情報メディアが固有に持つその形式的・構造的な特性についてまとめるとともに、その特性を分析する方法を概説します。具体的には「新聞および新聞記事」と「写真」「マンガ」を扱います。分析方法の概説の後、実際に新聞記事やマンガ作品を分析してもらいます。

---

#### 【04】【93】情報メディアの構造と分析Ⅱ(2)(春学期)

情報メディアの機能

【春】講師 菅野 育子

**授業科目の内容：**

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説します。

具体的には、新聞(新聞記事)、雑誌(雑誌記事)、図書、特許資料、絵画(美術作品)などを取り上げ、その特徴を概観します。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論します。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

---

#### 【04】【93】情報認識の基礎(2)(春学期)

人間にとって快適な情報環境をデザインするために

【春】教授 糸賀 雅児

**授業科目の内容：**

現代社会には情報が洪水のようにあふれていると言われますが、あふれているのは単に電気的な信号や物理的な記号だけではないのでしょうか？

いまあなたが手にしているこの「講義要綱」にしても、たくさんの情報が載っているように見えますが、よく考えてみると、炭素と水素の化合物である紙の上に、ところどころ黒いインクのシミで何かが描かれているだけにすぎません。それを前にして、あれこれ悩んだりしているのは、ある意味ではきわめて不思議な現象なのです。

人間が信号や記号を入手し、利用し、理解してはじめて、そうしたモノたちは意味を持った情報になります。そう考えると、情報の存在と人間の存在の間には相互作用がはたらくことになります。では、人間にとって記号と情報、メディアの相互関係は、どのように捉えたらよいのでしょうか。さらには、メッセージの意味はどこから生まれてくるのでしょうか、同じメッセージを受け取っても人によって異なった情報を受け取るのはなぜでしょうか、小説や絵画、音楽は本当に情報と呼べるのでしょうか、・・・？

この科目では、こうした人間の情報認識に関わる基本的な問題を提起しながら、学生とともにヒューマンサイズの情報を扱うための本質的な視点を探っていきます。こうした過程を経て、これからの時代にふさわしい、人間の情報環境デザインができる人間を育てたいと考えています。

ですから、単なる note-taking や教科書の理解よりも、常識に対する批判的なまなざしと深い思索、そして何よりもディスカッションへの積極的参加が求められます。

**テキスト：**

授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んでください。事前に読んでこないことには、ディスカッションへ積極的に参加できません。1回の授業で論点を2つずつ、それも事前に示していく予定です。

**参考書：**

- ・渡辺保史『情報デザイン入門』(平凡社新書)平凡社、2001年
- ・池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書)岩波書店、1984年
- ・西垣 通『聖なるヴァーチャル・リアリティ』岩波書店、1995年
- ・西垣 通『こころの情報学』筑摩書房、1999年

---

#### 【04】【93】情報メディア特殊Ⅰ(本)(2)(秋学期)

「モノ」としての書物がもつ表現可能性

【秋】講師 武者小路 信和

**授業科目の内容：**

私たちは本を読んでいるとき、印刷された文章の意味だけを読みとっている訳ではなく、意識してるか否かは別にして、書体、文字組み、紙質、造本構造などからも同時に「読みとっている」はず。この授業では、物理的な「モノ」としての書物がもつ表現可能性について、タイポグラフィ、ブック・デザイン、造本構造などの面から解

説します。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

その都度、授業時に紹介します。

---

**【04】【93】情報メディア特殊Ⅱ（電子媒体）(2)（春学期）**

WWWの情報発信とメタデータの応用

**【春】講師 神崎正英**

---

**授業科目の内容：**

WWWの普及によって、誰もがかつて無い規模の情報にアクセスできるようになったものの、その中から本当に必要な情報を見つけるのは簡単ではありません。また一方で、モバイル、ユビキタス、音声メディアなど利用者の環境の多様化が進むにもかかわらず、特定の対象しか考慮しないコンテンツが氾濫し、有益な情報活用の妨げになっています。

WWWが本来目指していた、異なる環境での情報共有、さらにマシンの力を利用した効率的で的確な情報探索・活用のためには、コンテンツ記述の基本をふまえ、適切なメタデータを用意することが重要になってきます。この講座では、こうした観点で、WWWの基礎からRDFによるメタデータの記述方法とその応用までを取り上げます。

**テキスト：**

授業資料はウェブ上で配布します。

**参考書：**

神崎正英『セマンティック・ウェブのためのRDF/OWL入門』（森北出版）

---

**【04】【93】情報メディア特殊Ⅲ（社会と情報）(2)（秋学期）**

**【秋】講師 中村 功**

---

**授業科目の内容：**

近年携帯電話やインターネットが急速に発達してきたが、こうしたメディアがどのように利用され、どのような影響を与えているのかを実証的に捉えようとするのが情報行動論である。本講義では情報行動論の観点から社会とメディアの関係について考える。

**テキスト：**

未定

---

**【04】【93】情報メディア特殊Ⅳ（科学コミュニケーション）(2)（春学期）**

**【春】教授 倉田敬子**

---

**授業科目の内容：**

科学コミュニケーションは、送り手も受け手も研究者という閉鎖的な集団内におけるコミュニケーションであり、一般のコミュニケーションとは異なる特性をもっています。ここでは研究者たちが科学研究という社会的行為を、科学コミュニケーションを通じていかに実現させているかを検討します。特に現在、科学コミュニケーションにおいては、「電子化」が非常に注目されています。電子化によって、従来の科学コミュニケーションのあり方が、根本的に変容する可能性があるためです。電子化については、いまだ全貌が見えたとはいいがたい状況ではありますが、技術の電子化がいかなる社会的変化を引き起こしているのか、最新の事例をできるだけ交えながら検討していきます。

**テキスト：**

倉田敬子編著『電子メディアは研究を変えるのか』勁草書房 2000

**参考書：**

・岡田編著『科学を考える』北大路書房 1999  
・ガーベイ『コミュニケーション』敬文堂 1981

**授**

---

**【04】【93】情報検索概説Ⅰ（2）（春学期）**

**【春】教授 細野公男**

---

**授業科目の内容：**

情報検索の発展史と基本的な考え方・理論、情報検索に係わる各種

の情報活動・サービスや課題などを解説します。

**参考書：**

情報検索論（丸善）、情報社会を理解するためのキーワード2（培風館）

---

**【04】【93】情報検索概説Ⅱ（2）（春学期）**

**【春】助教授 原田隆史**

---

**授業科目の内容：**

情報検索に関わる様々なトピックについて解説します。具体的には、データ構造、アルゴリズム、マルチメディア情報検索、WWWサーチエンジン、暗号技術、XMLなどについての入門的な説明を行います。また、コンピュータやネットワークに関わる最近の技術動向についても解説します。講義を主体としますが、演習も適宜組み合わせさせて授業を行う予定です。

**テキスト：**

特に指定しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

**参考書：**

・北研二、津田和彦、獅々堀正幹『情報検索アルゴリズム』共立出版  
・Calishain, Dornfest 著、山名監訳『Google hacks — プロが使うテクニック&ツール 100選』オライリー・ジャパン  
・中村正三郎『新版インターネットを使いこなそう』岩波ジュニア新書

---

**【04】【93】情報検索システム（2）（春学期）**

**【春】教授 上田修一**

**講師 安形麻理**

---

**授業科目の内容：**

書誌データベースの作成と資料およびテキストのデジタル化を中心として情報検索システムを取り上げます。具体的には、データベースと情報検索システムの基本的な問題から簡単な文字処理、書誌データベース、画像&テキストアーカイブ作成の演習を行います。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

---

**【04】【93】情報検索研究（2）（秋学期）**

**【秋】教授 細野公男**

---

**授業科目の内容：**

情報検索理論の全体的な特徴と、中心的な考え方・アプローチ・実験環境を歴史的に紹介し、現在抱えている問題点と将来の研究動向を解説します。

**参考書：**

情報検索論：認知的アプローチへの展望（丸善）、情報検索研究（トッパン）

---

**【04】【93】情報探索行動（2）（秋学期）**

**【秋】教授 田村俊作**

---

**授業科目の内容：**

人々がどんなときに、どのようにして情報を求めるのか、それがこの講義のテーマである。人々が情報を求める社会的文脈および情報探索の過程についての検討を中心に、情報リテラシーや探索のスキル等について考えてみる。

**テキスト：**

特に使用しない。適宜プリントを配布する。

**参考書：**

・Varlejs, j. ed. 『情報の要求と探索』勁草書房 1993  
・田村俊作編『情報探索と情報利用』勁草書房 2001  
・Case, D.O. Looking for Information. Academic Press, 2002

---

**【04】【93】データベース検索（2）（春学期）**

**【春】講師 安形 輝**

---

**授業科目の内容：**

卒業論文や各種レポートなどを作成していくなかで、過去の研究を参照するために、各種のデータベースを検索していく必要があります。この授業では、自分でデータベース検索を行うことができる知識と技術の習得を目的とします。パソコン教室で有料データベース検索サービスやインターネット上の情報検索サービスを使った実習を行い、毎回、課題レポートを出します。

なお、パソコン教室を使うために履修人数を早めに確定する必要がありますので、履修希望者は第一回目の授業には必ず来てください。また、原則として図書館・情報学科の学生以外の履修は認めていません。

**テキスト：**

特に指定しません

**参考書：**

特に指定しません

---

**【04】【93】情報処理技術 (A) (2) (春学期)**

【春】 助教授 原田 隆 史

---

**授業科目の内容：**

図書館・情報学分野の学習や研究に必要な基礎技術であるコンピュータの操作を習熟することを目標とし、例題をもとに学習します。講義に加えて、PCを用いた演習を行い、単なる知識だけではなく実践的な能力を身につけることを目指します。

**テキスト：**

特に指定しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

---

**【04】【93】情報処理技術 (B) (2) (秋学期)**

【秋】 助教授 (有期) 色川 進

---

**授業科目の内容：**

学習や研究に必要な基本技能であるコンピュータの操作および倫理について習熟することを目標として、Web ページに関する情報処理技術を中心に講義と演習を並行して行います。

---

**【04】【93】自然言語処理の基礎 (2) (秋学期)**

情報の検索・分類・抽出・要約に必要な自然言語処理技術の基礎を学ぶ  
【秋】 講師 岸田 和 明

---

**授業科目の内容：**

情報の検索・分類・抽出・要約を効果的かつ効率的におこなうための自然言語処理の理論や技法の基礎を学ぶことがこの講義の目標である。例えば、大規模な文献データベースを効果的に検索するには、検索質問や各文献の標題・抄録（または全文）に対する的確な解析が必要であるが、これにはさまざまな自然言語処理の技法が応用される。この講義では、このような目的で文献のテキストを解析するための統計的な方法や、形態素解析・構文解析・意味解析の方法を解説する。さらには、テキストの自動分類、テキストからの情報の自動抽出、テキストの自動要約などにも焦点を当て、そのなかでどのように自然言語処理の方法（統計的方法を含む）が活用されているかを学んでいく。なお、講義においては、統計学や言語学などのごく初歩的な知識から解説していくので、これらについての予備的な知識がなくても受講することは可能である。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

- ・岸田和明著『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998 (図書館・情報学シリーズ 3)
- ・徳永健伸著『情報検索と言語処理』東京大学出版会 1999 (言語と計算 5)
- ・長尾 真編『自然言語処理』岩波書店 1996 (岩波講座ソフトウェア 15)

---

**【04】【93】画像・映像処理の基礎 (2) (秋学期)**

仮想世界の理解にむけて 【秋】 講師 甲 洋 介

---

**授業科目の内容：**

わたしたちは仮想化する現実と現実化する仮想の現在に生きている。ハリウッドではコンピューターグラフィックスがシリコンスターを生み出し、子どもたちは気負うことなくメディアテクノロジーをエンターテインメントとして享受する。その一方で、バーチャルリアリティーをベースとする仮想世界は、わたしたちの常識的な現実感に微妙な影響を与えている。画像処理を始めとするメディアテクノロジーは生活のさまざまな側面に浸透し、この急速な展開の与えるインパクトが「単なる技術的な問題」の範囲を超えているのも事実なのである。

本講義では、まずメディア情報技術の中で特に視覚情報にかかわる画像および映像処理の基礎について学ぶ。ビデオ資料の検討やディスカッション等を積極的に取り入れながら、テクノロジーの側面だけでなく、人間の側面にも言及していく。本講義の狙いは、皆さんがこれらの変容を単なる「お話」としてではなく、われわれの日常生活を構成する基本的かつ現実的課題の一つとして、主体的に考察を始めるきっかけを与えることにある。

**テキスト：**

デジタル画像処理入門 (産能大学出版, 磯博著)  
他、適宜紹介する。

**参考書：**

- ・マルチメディア情報学の基礎 (岩波書店)
  - ・空間型コンピュータ (岩波書店)
- 他、適宜紹介する。

---

**【04】【93】書誌学 I (東洋) (2) (秋学期)**

古書・絵画資料を読む 【秋】 講師 白石 克

---

**授業科目の内容：**

毎時間、日本・東洋の古文献・絵画資料を実際に手にとり、その特性を考察します。

更にこうした資料の整理法を述べます。

古文献等を身近に感じるようになることも、目標の一つです。

**参考書：**

『図書学辞典 (三省堂刊) 昭和 54』長澤規矩也著、『日本古刊本図録』拙稿 (三田メディアセンター) 平成 7~8

---

**【04】【93】書誌学 II (西洋) (2) (春学期)**

【春】 講師 武者小路 信和  
講師 安形 麻理

---

**授業科目の内容：**

物理的な「モノ」としての書物の研究および文献伝達の研究である。分析書誌学 (analytical bibliography) の基礎について概説します。西洋の印刷本を主な対象として、書物の形態、材料、活字、挿絵、製本などの特徴と、本造りの各工程を説明します。さらに、そうした造本工程によって意図的・非意図的に生じる本文の異同についても取り上げます。授業中に、実例として慶應義塾所蔵の貴重書の実物やデジタル画像、活字などの「モノ」の回覧やビデオ鑑賞を行って理解の助けとします。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

授業に持って来たり買ったりする必要はありませんが、できれば適宜参照してください。

- ・Carter, John. 西洋書誌学入門. 横山千晶訳. 東京, 図書出版社, 1994, 428p. (こちらは残念ながら品切れ中です)
- ・高野彰. 洋書の話 (増補版). 東京, 丸善, 1995, 225p.

---

**【04】【93】図書館・情報学特殊 (A) (2) (春学期)**

アーカイヴズ (文書館) と記録管理

【春】 教授 高山 正 也

---

**授業科目の内容：**

情報の文字記録の世界には図書館が扱う出版物 (コピー) の世界と、原則的にはオリジナル原本だけが存在する業務記録の世界があります。国や自治体などの公的な組織から私的な組織までの様々な組織

で、業務の遂行にともない作成される膨大な業務記録は文書館に移管・保存され、歴史資料として、公的証拠資料として、さらには産業上の情報資源としても利用されます。従来、文書館論と記録管理論には接点はなかったが、最近業務文書の作成から、将来における利用までを総合的な展望のもとで捉えるアーカイヴズ論が盛んになっています。各方面での各種アーカイヴズ論が提唱される中で、正統的なアーカイヴズ論の基礎を講義します

**テキスト：**

特に定めず、論文を指定します。

**参考書：**

ベネドン，W. 記録管理システム．勁草書房，1988，284p.

## ○社会学専攻

### 必修科目

【04】【93】社会学概論(4)	教授	平野敏政
	教授	藤田弘夫
	教授	浜日出夫
	助教授	岡原正幸
	助教授	長尾真理
	教職課程センター 助教授	竹林英樹

#### 授業科目の内容：

- I 見えない社会を見るためのレッスン(浜)
- 電車のなかで社会学(1)
  - 電車のなかで社会学(2)
  - 電車のなかで社会学(3)
  - 電車のなかで社会学(4)
- II 家族・村落(平野)
- 1 家族・家・世帯
  - 2 家・同族団・村の理論(有賀・及川・鈴木・喜多野)
  - 3 近代化と家族・村落の変動
  - 4 フェミニズムと近代家族
- III 都市・国家・公共性(藤田)
- 1 近代化と都市化
  - 2 都市の比較社会学
  - 3 伝統国家と近代国家
  - 4 公共性の比較社会学
- IV 社会的不平等と差別(岡原)
- 1 「あなたの階級は？」ということ
  - 2 近代化・「人権」・ジェンダー
  - 3 「弱者」の創出と差別の再生産
  - 4 不平等への態度と「新しい社会運動」
- V 発達と教育の社会学(竹村)
- 1 教育拡大の理論(1)
  - 2 教育拡大の理論(2)
  - 2 学歴社会学
  - 4 発達と社会化
- VI 現代社会と医療(長尾)
- 1 患者の権利
  - 2 先端医療(1)
  - 3 先端医療(2)
  - 4 科学技術と人間

#### テキスト：

各担当者が指示します。

#### 参考書：

ギデンズ『社会学』而立書房 他

#### 【04】【93】社会心理学概論(4)

個人と個人、個人と集団、個人と社会の関係および  
集合行動について論じる 教授 榊 博文

#### 授業科目の内容：

まず、社会心理学の対象と方法、歴史、心理学的社会心理学、社会学的社会心理学について触れ、対人認知、対人魅力、社会的態度、集団と個人、社会的相互作用、集団の構造と機能、流行、デマ、パニック、マスコミ(広告)の効果など集合現象等の、社会心理学の下位分野における主要な概念や理論、及び個々の実証的研究を講義する。

更に、「説得」、集合現象の一部である「普及」、それを説明する「異文化間屈折」理論、「再発明」概念、「あらかじめ屈折」理論等についても言及する。

#### テキスト：

- ・青池・榊編著「現代社会心理学」慶應大学出版会
- ・榊博文「説得と影響—交渉のための社会心理学」ブレーン出版

#### 参考書：

適時指示する。

#### 【04】【93】文化人類学概論(4)(春学期集中)

【春】教授 鈴木正崇

#### 授業科目の内容：

文化人類学(民族学)の基本的な概念や考え方について述べる概論である。最初に文化や民族の概念について検討し、主要な学説や重要な人類学者の学説の検討を行って、各論に入る。個別の主題としては、親族、ジェンダー、宗教、経済、開発などを取り上げる。日本民俗学への目配りもする。一・二限連続の前期集中の講義なので履修に注意すること。

#### 参考書：

- ・関一敏・大塚和夫編『宗教人類学入門』弘文堂、2004。
- ・『文化人類学文献事典』弘文堂、2004。
- ・山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣、1997。
- ・綾部恒雄編『文化人類学最新述語100』弘文堂、2002。
- ・『岩波講座 文化人類学』全13巻、岩波書店、1997~1998。

#### 【04】【93】社会学史(4)

教授 平野敏政  
教授 藤田弘夫  
教授 浜日出夫  
助教授 岡原正幸  
助教授 長尾真理

#### 授業科目の内容：

- I 19世紀の社会と社会学(藤田)
- 1 社会概念化と社会学の誕生 社会主義・社会科学・社会学
  - 2 社会思想と社会の概念 社会有機体説とマルクス
  - 3 社会調査と社会の概念 ブース、ル・プレー、ゲテス
  - 4 日本における欧米の社会思想の受容
  - 5 (付論) アンソニーギデンズとイギリス社会学
- II デュルケム、ウェーバー、ジンメル(浜)
- 1 1890年代の世代
  - 2 理解社会学 M. ウェーバー
  - 3 社会学主義 E. デュルケム
  - 4 形式社会学 G. ジンメル
  - 5 官僚制・アノミー・文化の悲劇
- III 機能主義(平野)
- 1 社会有機体説・規範主義と機能主義
  - 2 初期機能主義理論 マリノフスキー、ラドリク=ブラウン
  - 3 構造・機能主義 パーソンズ(システム・パターン変数・AGIL)
  - 4 構造機能主義批判 マートン・ダーレンドルフ
  - 5 社会システムとシステム概念
- IV フランクフルト学派・ルーマン(長尾)
- 1 批判理論の成立 M. ホルクハイマー W. ベンヤミン
  - 2 近代合理性の行方 Th. アドルノ H. マルクレーゼ E. フロム
  - 3 批判的理性とコミュニケーション J. ハーバーマス
  - 4 社会秩序とシステム N. ルーマン
  - 5 精神医学は社会科学に何をもたらしたか。
- V 象徴的相互作用論・ブルデュー(岡原)
- 1 シカゴ学派と自我論 クーリー、トマス、ミード
  - 2 象徴的相互作用論 現実構成・レイベリング・参与観察
  - 3 ゴフマン 印象管理・自己呈示・アイデンティティの政治
  - 4 ブルデュー 文化資本・象徴暴力・ホモアカデミクス
  - 5 現代思想と社会学 フーコー、イリイチ、サイード

#### 参考書：

- ・コリンズ『社会学の歴史』有斐閣
- ・那須寿編『クロニクル社会学』有斐閣

**授業科目の内容：**

この授業では社会現象や人間行動を実証的に把握、検証するための諸技法について講義を行う。特にサーベイ法を中心に研究問題や調査テーマの設定から、調査票の作成、調査対象のサンプリング、データの収集、集計・分析にいたる一連の過程において必要となる知識や技法について学習する。また社会調査における倫理的な問題についても理解を深める。

**テキスト：**

特に指定しない

**参考書：**

授業中に示す

**授業科目の内容：**

本講義は、社会調査の中でも聞き書きや参与観察を主たる方法とする質的調査の実習を行う。しかし、みんなで野外調査に出かけることはできないので、授業の中で実習を行う。全部で14の実習を予定している。

**テキスト：**

- ・渡辺康磨『自己形成史分析入門』建帛社、1993年
- ・伊藤・榎尾・弓山編『スピリチュアリティの社会学』、世界思想社、2004年

**参考書：**

- ・好井裕明他編『フィールドワークの経験』せりか書房
  - ・榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』、せりか書房、2002年
- その他授業の中で適宜指示する。

**授業科目の内容：**

今日、先端医療技術は、バイオテクノロジーや情報処理技術の発達に支えられ、飛躍的な発展を遂げている。しかし同時に、生命の誕生や死をめぐる問題を含め、従来の社会通念からは予測できない多くの難問が引き起こされている。また、先進諸国での高齢化問題は、「医療資源の運用と配分」とも絡んで深刻さを増している。講義では、こうした現代医療に関わる様々な問題を取り上げ検討する。また、秋学期には、各々の問題関心に基づくグループ・ワーク、研究発表を行う。受講者は、以上の講義形式を了承のうえ受講すること。

**テキスト：**

講義資料・プリントを配布する。

**参考書：**

- ・岩波講座 現代社会学 14『病と医療の社会学』岩波書店 1996年
- ・進藤・黒田編『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社 1999年
- ・加藤・加茂編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998年

**授業科目の内容：**

家族社会学の基本理論と基本概念の理解をもとに、現代日本におけるさまざまな家族問題にアプローチする。前期においては、主に構造・機能主義理論を中心に、世帯経済学や歴史人口学、アナール学派の家族史研究、レギュレーション学派の家族研究などといった家族研究の変遷を学説史的にたどり、家族研究の基本的視点についての理解を作り上げる。後期においては、前期で構築した視点に立って家族における性差別問題を中心に、ジェンダー論やフェミニズム論などを取り上げ、具体的な家族問題を考察する。

**授業科目の内容：**

本授業では、教育社会学を〈教育現象の社会的文脈を解明する学問〉ととらえ、その概要を講義する。社会的文脈の解明といっても、教育現象を〈巨視的にみるのか、微視的にみるのか〉、また、〈機能的にみるのか、解釈的にみるのか〉によって、様々な研究がある。本講義では、なるべく多くの研究成果を取り上げ、研究対象の多様さとその背後にある複数の理論および方法論を示すことに努めたい。

まず、学史からスタートし、対象と方法を概観することでおおまかな見取り図を示した後、各論に入っていく。春学期は、マクロ教育社会学を中心に講ずる。具体的には、社会階層と教育機会の不平等、その家族的背景等をテーマとして取り上げる。秋学期は、教育を担う社会集団（たとえば、家族、学級、学校）、その集団の中の人間関係（教師生徒関係、親子関係等）等を取り上げ、それ自体をひとつの社会としてみて、その教育的特徴を考察する。いわば、ミクロ教育社会学である。両学期を通じて、これらの考察は、現代日本社会を念頭において行われるが、歴史的視点、比較社会的視点も大切にしつつ考察を進める。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

別途指示します。

僕たち、「僕たち」なる集合的な呼称を使用することの政治性は問題にすべきだが、僕たちが生きている「場」についての「語り口」はいくつもあるだろう。

**授業科目の内容：**

【目的】「現代社会」を感情社会学的に記述・分析すること…①、およびこの作業（感情社会学という営み、感情社会学者というアイデンティティ構築）それ自体を再帰的に捉え返し、「ポストモダン」「ポストコロニアリズム」「フェミニズム」「主体の消失と復帰」「表象・代弁の危機」「構築主義」といった主題系の中で自己批判と自己超越をめざすこと…②、この二つを参加者に理解してもらおうのが基本の目的ですが、同時に、この二つの相矛盾する姿をまさに僕自身が参加者に具象的に表現することで、終幕では「他の人について（社会）科学的に語る」事のクライシスを提起したいと思います。

【内容】春学期では、感情社会学概論（以下に掲載）を講義します。感情社会学の歴史、基本的視座や諸概念、社会的事象への感情社会学的な接近などをオーソドックスに講じます。秋学期では、参加者にも「感情的社会学」「実験的、自伝的、フィクション的、マルチメディア的」な自己フィールドワークとその表現を試みてもらいます。そのため初回授業より秋学期開始まで、各人に「感情日記」（毎月一回、各回1000字以上の日記を計6回）をつけてもらいます。また、「知」は論理的言語の集合体である以上に、ひとつの身体表現でもあること、このことに留意していきたいと思います。

**テキスト：**

・岡原・山田・安川・石川『感情の社会学—エモーション・コンシャスな時代』世界思想社

・岡原正幸『ホモ・アフェクトス—感情社会学的に自己表現する』世界思想社

**参考書：**

・安積・岡原・尾中・立岩『生の技法』藤原書店

・S. ネッケル（岡原訳）『地位と羞恥—社会的不平等の象徴的再生産』法政大学出版局

・Ellis/Bochner(ed) Composing Ethnography: Alternative Forms of Qualitative Writing. Altamira

・A. ホックシールド（石川訳）『管理される心—感情が商品になるとき』世界思想社

---

**【04】【93】コミュニケーション学 (4)**

コミュニケーション行為と《文化的》社会関係  
講師 田中義久

---

**授業科目の内容：**

1. 全体として、近代・現代の社会の変動のなかで、コミュニケーションの具体的な展開とそれをめぐる諸問題点を理解できるようにします。
2. コミュニケーション主体としての人間の側に視点を置いて、その自己表現・自己実現の回路としてのコミュニケーション行為の構造が明らかになるようにしたい。
3. コミュニケーション理論、記号論、文化社会学、「言論の自由」論を歴史的な時系列にのせて、理解してもらえるよう説明します。

**テキスト：**

田中義久著『コミュニケーション理論史研究(上)』(勁草書房, 2000年, 4600円)

**参考書：**

田中義久・小川文弥・編『テレビと日本人』(法政大学出版局, 2005年, 近刊)

---

**【04】【93】宗教社会学 (4)**

スピリチュアリティの社会学 助教授 櫻尾直樹

---

**授業科目の内容：**

宗教社会学は、宗教の社会的機能や役割といった宗教と社会との関係性や、「宗教社会」、つまり宗教的コミュニティの実態、および社会の宗教的次元を明らかにする学問である。本講義では、授業中の実習によって、宗教性/スピリチュアリティに関する諸概念を参加者各自が構築するとともに、世界のいくつかの地域の「宗教的現象」を映したビデオを観て、その諸概念を検討するとともに、宗教性/スピリチュアリティの実存的諸問題について理解を深めることを目的としている。

**テキスト：**

- ・櫻尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』せりか書房, 2002年
- ・櫻尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社, 2004年

**参考書：**

- ・井上順孝編『現代日本の宗教社会学』世界思想社,
  - ・井上順孝他編『宗教学を学ぶ』有斐閣,
  - ・橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房,
  - ・島蘭進『現代救済宗教論』青弓社,
  - ・島蘭進『精神世界のゆくえ』東京堂出版など。
- その他は授業の中で適宜指示する。
- 

**【04】【93】対人影響論 (4)**

対人的影響(インターパーソナル・コミュニケーション)だけでなく、社会的影響(集団・マスコミ・広告コミュニケーション)についても扱う。  
教授 榊博文

---

**授業科目の内容：**

説得的コミュニケーションの効果に関する講義をおこなう。説得的コミュニケーションの効果に関する研究は独自の研究の系譜を持っており、その流れに基づいて授業をすすめていく。

まず、説得効果を規定する諸要因、具体的には、説得者の信憑性、類似性、魅力、フットインザドア・テクニック、ドアインザフェイス・テクニック、ローボール・テクニック、EAPHテクニック、恐怖説得、赤頭巾テクニック、ブーメラン説得法、場所換え法、催眠オークションテクニック、限定性の原理、報恩性の限理、同調性の原理、強制的承諾法、役割演技法、心理療法(カウンセリング)の応用テクニック、サブリミナル知覚、その他の多くの説得・影響テクニック、及びこれらのテクニックの有効性を説明をする諸理論を紹介する。またマスコミ効果、広告、宣伝、大衆操作などの問題も扱う。その過程で、従来の諸研究によって既に明らかにされている部分と、未だ解明されていない部分を十分理解する。

---

毎回討議時間を設けるので、受講者は積極的に討議に参加することを期待する。

「説得」はあらゆる人々にとって必要不可欠であり、この講義が学問的知識の習得のためだけでなく、日常生活においても有用であることを確信している。

**テキスト：**

- ・榊 博文『説得と影響—交渉のための社会心理学』ブレーン出版。
- ・榊 博文他『日本列島カルト汚染—何故そこまで騙される? 勧誘と説得の社会心理学—』ブレーン出版。

**参考書：**

適時、提示する。

---

**【04】【93】知識社会学 (4)**

記憶と歴史の社会学 教授 浜日出夫

---

**授業科目の内容：**

人間にとって過去とはなんであるのか、社会にとって歴史とはなんであるのか、人間と時間のかかわり、社会と歴史のかかわりについて社会学的に考察する。春学期は人間と時間の関係について理論的に考察する。秋学期は博物館の展示などを題材として、社会と歴史のかかわりについて具体的に検討する。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

講義時間内に紹介する。

---

**【04】【93】都市社会学 (4)**

教授 藤田弘夫

---

**授業科目の内容：**

都市は言語とともに、人間が創り出したもっとも複雑で偉大な作品である。都市は人間が生み出した最大の便益を、最小の空間に納めるよう文明の産物を凝縮し、時歳して伝達しようとしたものであるこの点で、都市は人びとにとって、未来に向けて汲み尽すことができないほどの「意味」が記号化されている“小宇宙”なのである。

都市はさまざまな秩序を隠し持っている。本講義は社会の多様な姿を都市に焦点をあてて析出するとともに、都市の社会学的分析について基本的な力を身につけることを目的としています。

**テキスト：**

藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣 2000年

**参考書：**

藤田弘夫『都市の理論』中公新書 1993年

---

**【04】【93】日本社会論 (4)**

教授 平野敏政

---

**授業科目の内容：**

日本社会論、日本文化論ではヨーロッパ社会との相違を強調し、日本社会、文化の特殊性を強調する視点がしばしば採用されている。本講義では、なぜそうした特殊性が近代日本社会においても再生産されているのか、という問いに立ち返って、そうした再生産過程の基礎に日本社会におけるイエ的原理の作用が存在しているとの視点に立ち、有賀喜左衛門の「イエ」理論を援用し「全体的相互給付」原理との関連の下に日本社会について考察する。

---

**【04】【93】比較文化論 (4)**

教授 鈴木正崇

---

**授業科目の内容：**

中国の少数民族や漢族のフィールドワークを中心とした民族誌を提示しながら現代に生きるマイノリティの問題やエスニシティについて考察する。総論として西南中国の概況を述べ、貴州省、湖南省、広西壮族自治区などに住むミャオ族やヤオ族の考察を行ない、次第に他の民族や地域との比較に向う。事例研究が主体となるので、極めてミクロな問題を通じて普遍性に至る道筋を求める人に履修を勧める。出席を重視する。

**テキスト：**

『アジア読本 中国』河出書房新社, 1995。

---

**参考書：**

吉原和男・鈴木正崇編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002。星野紘・野村伸一編『歌・踊り・祈りのアジア』勉誠出版、2000。鈴木正崇編『大地と神々の共生』昭和堂、1999。可児弘明・国分良成・鈴木正崇・関根政美編『民族で読む中国』朝日新聞社、1998。

**【04】【93】普及学（4）**

休講

**【04】【93】文化社会学（4）** 教授 藤田 弘 夫

**授業科目の内容：**

本講義の目的は、われわれが社会生活のなかで生み出すとともに、その社会生活を背後から秩序づけている文化の多様な形態を析出することである。この作業を通じて、文化社会学のダイナミックな分析と論理を教授できればと考えています。

**テキスト：**

藤田弘夫・西原和久『現代人の社会学入門』（増補版）有斐閣 2000 年

**参考書：**

藤田弘夫『都市と権力―飽食と飢餓の歴史社会学』創文社 1991 年

**【04】【93】社会学特殊 I（4）**

ローカル・ガヴァナンスと統治様式のシフト

講師 植木 豊

**授業科目の内容：**

「ローカル・ガヴァナンス」をテーマに、講義を行なう。「市場の失敗」「国家の失敗」、さらには「家族の失敗」等、今日の社会は、多くの「制度の失敗」を抱え込んでいる。こうした中、統治の様式は、〈セントラル・ガヴァメントからローカル・ガヴァナンスへ〉という形で、シフトしつつある。以上の問題意識の下で、ローカル・ガヴァナンスという現象・問題設定が浮上した背景を明らかにし、次に、これを、社会理論・政治理論の様々な観点から吟味する（前期）。さらに、ローカル・ガヴァナンスを分析するための枠組みを提示し、日本におけるローカル・ガヴァナンスの実際・課題を議論していく（後期）。

**テキスト：**

特に定めない。

**参考書：**

講義中に提示。

**【04】【93】社会学特殊 II（4）**

ブルデュー社会学で考える現代フランスの問題

講師 佐藤 典子

**授業科目の内容：**

本講義では、ブルデューの「象徴的支配」概念をキーワードとし、私たちの存在している社会が今見えているように存在しているのはなぜなのか、現代フランスの具体的な問題について事例を挙げて検討し、日本における同様のテーマと比較考察します。

**テキスト：**

開講時に指示します

**参考書：**

原山哲編著『日仏社会学会叢書第 3 巻 ブルデュー社会学の冒険』（恒星社厚生閣、2005 年）

**【04】【93】社会学特殊 III（4）**

障害、社会、そして援助について考える

講師 小山 聡子

**授業科目の内容：**

「障害福祉論」のカバーするトピックを通じて、自己を見つめ、社会のあり方を考えることが目的です。

そのために、「社会福祉」の意味や体系について概説した上で、障害者ソーシャルワークの具体的内容に触れます。これらを通じて「援助する人」と「される人」の関係や「個人を変える（治す）こと」を「社会環境に働きかけること」のバランスについて考えます。（障害者の中には高令による障害を持った方も含まれます）講義の他にビデオ視聴、スポット事例をもとにしたディスカッション、具体的援助シーンを想定した面接のロールプレイ等を行う予定。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料、プリントを配布します。

**参考書：**

授業中に紹介します。

**【04】【93】社会学特殊 IV（4）**

東アジアの社会文化創造

講師 渡邊 欣雄

**授業科目の内容：**

文化人類学の主たる対象である「社会」や「文化」は、以前から引き継いできた「社会」や「文化」もむろん存在する。いわゆる「伝統」とほぼ同義の社会文化だが、昨年度「知識論」として講じたように、「伝統」にも時代時代の創意工夫・非伝承・ときの政策などが関与しており、決して「もとのまま」の社会文化ではありえなかった。

本年度は、むしろ社会文化の担い手や外部（政府・資本・ネットワークなど）が社会文化を創造しようとする意図のもとにいま生じている、「社会」や「文化」の東アジアにおける事例を解説しながら、いまだのような社会や文化が生まれつつあるのか、このような社会文化運動をどのように理解すべきか、最近の講師の研究成果の一端を紹介する。

**テキスト：**

用いない。プリントや書画カメラで解説する。

**参考書：**

『沖縄文化の創造』（アジア遊学 53 号）、勉誠出版、2003 年ほか

**【04】【93】社会学特殊 V（4）**

アニメ・コミックス・ベストセラーに表現される現代社会の諸問題と伝統的な智慧の再生および利用

講師 正木 晃

**授業科目の内容：**

この講義では、「風の谷のナウシカ」・「千と千尋の神隠し」などの宮崎アニメをはじめ、「アキラ」・「エヴァンゲリオン」・「GHOST IN THE SHELL」・「イノセンス」etc., あるいは各種のベストセラー本を、現代社会を投影する鏡として、そこに表現されているさまざまな問題を考えていきます。

具体的に取り上げる問題は、不登校・引きこもり、心身症・うつ、カルト（狂信）、自然観・死生観、ドラッグなどを予定しています。

そして問題をただ単に指摘するだけでなく、解決に導く可能性をはらむ視点やコンセプトを伝統的な智慧、とりわけ宗教的な智慧から学ぼうと思います。私が開発した「マンガラ塗り絵」を使って、自分の内面をのぞくことも試みます。

**テキスト：**

正木晃『お化けと森の宗教学』（春秋社、2002 年、1890 円）

**参考書：**

・正木晃『性と呪殺の密教』（講談社、2002 年、1575 円）  
・正木晃『はじめての宗教学』（春秋社、2001 年、1890 円）

**【04】【93】社会学特殊 VI（4）**

演劇の人類学

講師 宮尾 慈良

**授業科目の内容：**

アジアにおいて演劇が果たして来た役割を理解するために、民族社会で演劇がどのような機能を持ってきたかを人類学の視点から考える。前期はインド演劇の芸術論『ティヤシャーストラ』を読みながら、演劇構造、舞台空間、演出法、身体表現などをサンسكريット演劇と舞踊から考える。なお比較演劇の視点から、インド演劇理論書と日本の『風姿花伝』（能）、歌舞伎『役者論語』（歌舞伎）と比較する。

後期はバリ、カンボジア、中国、韓国、日本などに伝承される宮廷舞踊、民族舞踊を通して、人類はなぜ踊るのかを考える。またアジア舞踊（インド・バリ）を身体で実際に学ぶことを考えている。

**テキスト：**

授業時はじめに指示。

**参考書：**

宮尾慈良『アジア演劇人類学の世界』三一書房、『アジア舞踊の人類学』PARCO 出版、『宇宙を映す身体』新書館、『アジアの芸術論』勉誠社など。

Bhara Muni “Natyasastra” trans. by Ghosh

Pronko “Theater East and West” University of California Press

Rachel Van M. Baumer, James Brandon “Sanskrit Drama in Performance” Hawaii University Press

---

#### 【04】【93】社会学特殊 VII (4)

情報社会の企画創出法 講師 山川 悟

**授業科目の内容：**

- ・実務の現場で実践されている創造性開発技法・プランニングメソッドを体験してもらうことにより、企画書作成の基礎を学びます。
- ・生活者の情報行動・消費行動の具体的な事例を採り上げ、社会的知見から考察・分析を行います。また、グループワークを通し、コンシューマインサイトに基いた企画立案作業を実践してもらいます。
- ・以上を通じ、創造的なマーケティングプランニングスキルを取得することが本講義の狙いです。

**テキスト：**

特に指定しません。講義プリントを配布します

**参考書：**

「コンテンツマーケティング～物語型商品の市場法則を探る」(同文館, 2004 年, ¥2400)

---

#### 【04】【93】社会学特殊 VIII (4)

地域社会とイエ・ムラの現代史 講師 原山 浩介

**授業科目の内容：**

本講義では、地域社会、それもとりわけ農村社会の近代化過程を、理論と実態の推移の両面から捉えていく。

農村社会に関する理論枠組みとして、「イエ・ムラ論」がある。これは、農村社会を理解するために蓄積されたものであると同時に、とりわけ太平洋戦争後、日本の社会をどう捉え、方向づけるのかという問題関心に支えられて議論された。「イエ・ムラ論」を捉えなおすことは、とりもなおさず、戦後の日本社会をどのように方向づけるのか、あるいは日本社会そのものをどう理解するのかという当時の議論を見直す作業でもある。これら観点を基底にしなが、ら、「イエ・ムラ論」の講義を進めていく。

また本講義では、地域社会、とりわけ農村社会の現代史も扱う。戦後の農村社会の変容、そこで起こった様々な出来事や社会運動めぐり、今に至るまでの同時代史を紐解きながら、地域社会の形成過程を垣間見ようと考えている。

「現代史」への関心が、今日的な問題を解きほぐそうとする問題意識に支えられることが多い。この講義で扱う事柄は、必ずしも今日の話ではないが、今日の地域社会のありようを理解するための糸口を探る、ひとつの試みである。

**テキスト：**

講義資料を適宜配布する。

---

#### 【04】【93】社会学特殊 IX (4)

メディアとジェンダー 講師 小玉 美意子

**授業科目の内容：**

男女ともに生きやすい社会を作る上でのジェンダー問題をメディアとの関連の中で考察します。

メディアの中で表現される女性・男性のステレオタイプを分析し、ジェンダーバイアスを考えます。さらに、それを生み出す社会および

メディアの構造に言及し、問題点をさぐります。メディアがジェンダーの固定化につながるのか、あるいは変革につながるのか、メディアのあり方と関連づけながら考察していきます。

**テキスト：**

未定

**参考書：**

- ・小玉美意子『新版ジャーナリズムの女性観』学文社
- ・小玉美意子編著『美女のイメージ』世界思想社
- ・村松泰子編訳『新しいコミュニケーションとの出会い』垣内出版
- ・加藤春恵子他編『女性とメディア』世界思想社

---

#### 【04】【93】社会学特殊 X (4)

現代広告論 講師 遠藤 彰郎

**授業科目の内容：**

広告は、さまざまな人がさまざまな創意工夫を凝らして発展してきました。関連する学問領域も多岐にわたり、マーケティング、経営学、経済学、メディア論、コミュニケーション論、社会心理学、社会調査論、法学、社会学などと連携をとりながら新たな地歩を築いています。本講は現代社会と同期をとりながら発展している広告の最前線を通して時代を読み解くリテラシーの向上を図ります。

**テキスト：**

授業時にプリントを配布します。

**参考書：**

藤竹暁編『図説 日本のマスメディア』(NHK ブックス, 2000 年, 1,218 円)

---

#### 【04】【93】社会学特殊 XI (4)

中国および中国人を知る 講師 西園寺 一 晃

**授業科目の内容：**

多くの問題をかかえながらも成長を続ける中国・そしてそこで生きる 13 億人の人々。その人々の思想意識とライフスタイル、およびその変化について考えます。政治・経済・文化・マスメディアと国民・民族意識、消費者意識と消費革命、若者と流行・グローバル化と対日感情など、さまざまな面から検討を加えより実像に迫りたいと思います。21 世紀は米中の時代となるでしょう。日中経済の相互依存関係も深化し続けるでしょう。私たちは中国人との交流・交渉を避けて通ることはできなくなります。そのために役立つような授業内容にしたいと思います。

**テキスト：**

必要に応じて講義資料を配布します。

**参考書：**

未定・必要に応じて指定します。

---

#### 【04】【93】社会学特殊 XII (4) 講師 鈴木 智之

**授業科目の内容：**

社会学における「社会的自己」のとらえかたを学説史に即してたどった上で、そこに残されている理論的な問題を策出し、これを克服していくためのいくつかの道筋を検討していきます。前期は P. ブルデュエの「ハビトゥス」論とその批判的継承をめざしている B. ライールの仕事を中心に、後期は、「自己をめぐる語り」の理論を中心に検討を進めていきます。

**テキスト：**

特に使用しません。必要に応じてプリントを配布します

**参考書：**

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版, 2002 年

---

#### 【04】【93】社会学特講 I (2) (秋学期)

データ分析の概要と実践 【秋】講師 荒 和志

**授業科目の内容：**

調査や実験などの観測データをグラフ化し、データがもつ傾向や性質を、ある程度まで把握することができる。さらに、統計解析の理論

にもとづいたデータ処理をおこなうことによって、探索的に傾向を理解し、確率的に結果の解釈や予測を導くことができる。ここでは、主に統計解析専用ソフトウェア SPSS を使ったコンピュータ実習を通じて、体験的に統計解析の基本を学習すると共に、各専門分野で SPSS を用いた統計解析手法を充分活用でき、処理結果に対して正しい評価ができるような応用力を養うことを目標としている。

講義では、データの整理、ファイルの取り扱い、度数分布表（調査データ集計）、基礎統計量（平均値、分散値、標準偏差など）、各種グラフの作成、t 検定、カイ二乗検定、相関係数とその検定、分散分析など、および多変量解析（因子分析、重回帰分析、主成分分析、数量化理論 1, 2, 3, 4 類、判別分析）など具体的にデータを使用し紹介する。また、表計算ソフトの EXCEL 統計に関しても、その特徴や使用方法を含めて紹介する。

**テキスト：**

講義資料は共有ディレクトリよりダウンロードできます。

---

#### 【04】【93】社会学特講Ⅱ (2) (秋学期)

民族音楽学

【秋】講師 勝村 仁子

**授業科目の内容：**

音楽を根源的に支える要素として「音高」（音の高低）がある。本講義では、世界の様々な音楽様式において「音高」が実際にどのような意味や役割を与えられているかを音や映像資料による具体例を参考にしながら検討し、意識を超えたレベルで「音高」が「音楽」の生成に果たす役割を探る。

「言語をもたない民族がないように、音楽を持たない民族はない」と言われるほど、音楽は多様であり人間の文化にとって本質的なものであるが、本講義はそうした音楽を文化の違いを超えた視点から考える機会を提供することを目的とする。なお導入として、最初の数回の講義で「民族音楽学」について概説を行う。

**テキスト：**

特に使用しません

**参考書：**

必要に応じて授業内に紹介します

---

#### 【04】【93】社会学特講Ⅲ (2) (春学期)

民俗学的儀礼研究による天皇論

【春】講師 岩田 重則

**授業科目の内容：**

近年「女帝論」など天皇をめぐる議論が多い。そこで 2005 年度は民俗学的視点から天皇論にとりくんでみる。

**テキスト：**

授業中指示する

**参考書：**

授業中指示する

---

#### 【04】【93】社会学特講Ⅳ (2) (春学期)

現代アフリカ世界への人類学的アプローチ

【春】講師 坂本 邦彦

**授業科目の内容：**

文化人類学・社会人類学の研究のなかで蓄積されてきた民族誌のなかから主にアフリカをフィールドとするものを取りあげ、文化のコンテキストにそってさまざまなものの考え方を理解していくとはどういうことかを考えていく。これを通じて、多元的様相を呈している現代世界を読み解くための人類学的発想法に触れていきたい。

講義の中心はアフリカに関係することになるが、アフリカに限らずどこかでフィールドワークをやってみたいと考えている学生の受講を期待する。視聴覚資料をできるだけ使用していく予定である。

**テキスト：**

使用せず。講義資料プリントを配布。

**参考書：**

- ・川田順造編著『アフリカ入門』（新書館、1999年、2400円）
- ・宮本正興編著『新書アフリカ史』（講談社、1997年、1400円）

---

#### 【04】【93】社会学特講Ⅴ (2) (秋学期)

民族音楽

【秋】講師 山本 宏子

**授業科目の内容：**

世界のさまざまな地域・民族の音楽から、社会と文化の相互関係を学ぶ。

**テキスト：**

プリントを配布

**参考書：**

山本宏子『日本の太鼓、アジアの太鼓』（青弓社 2002、1600円）

---

#### 【04】【93】社会学特講Ⅵ (2) (春学期)

ナショナリズムの社会学

【春】講師 大谷 栄一

**授業科目の内容：**

現在、世界各地でナショナリズムをめぐる問題や紛争が頻発している。グローバリゼーションの進展によって世界秩序の再編が進む中、国民国家のナショナルな境界のゆらぎが明らかとなる一方、ナショナルな共同性を強化しようとするエスニック・グループや地域集団の動きが活性化している。

この講義では、現代世界における人々の共同性や関係性の問題を「ナショナリズム」という視点から読み解くための基礎知識と最新情報、さらに近年のナショナリズム研究の動向を提供することをめざす。ナショナリズムに対して社会的にアプローチすることで、現代世界に関する理解を深めることが、本講義の目的である。

**テキスト：**

特になし。毎回、資料を配布する。

**参考書：**

授業中に提示する。

---

#### 【04】【93】社会学特講Ⅶ (2) (秋学期)

家族・親族研究の基礎

【秋】講師 吉野 晃

**授業科目の内容：**

この授業は、文化人類学における家族・親族研究の基礎的な知識と見方を習得することを目的とし、そのための講義とトレーニングを行う。もう少し具体的にいえば、文化人類学の専門論文の、少なくとも家族・親族組織に関する部分は十分に理解できるレベルの能力を受講生各自が身につけることを目的とする。そのためには、講義のほかに専門論文の講読と具体的な民族誌の分析が不可欠であり、それを授業を通じて行ってゆく。

産業化が進んだ社会でも、家族や親族といった関係は民俗社会の社会組織の骨格となっている。人間が出生後に文化を学習するのは、まず家族・親族の中においてである。文化の身体化の現場は、そのような集団や組織である。いわば家族・親族といった民俗社会の組織は文化習得の鋳型であるが、この鋳型自体が文化の産物でもあるため、常に変化する。さらに、こうした組織は地域によって大幅な多様性を示している。本講義では、この厄介な、人類の多様な家族・親族組織を分析するための基本的な概念と調査・分析・研究の方法を説明する。一般に、家族とか親族組織といった話題は、難しそうな漢字用語やカタカナ用語が頻出し、且つ○や△の親族関係図が複雑そうで、取っつきにくい印象があるようだが、そのようなことはない。順を追って理解してゆけば、非常に分かりやすい分野でもある。

講義のほかに、課題論文を予め読んで、要旨や疑問点を書いたペーパーを提出して貰い、そのペーパーに基づく解説やディスカッションも併せて行う。社会組織についての知識・視点・分析のトレーニングを行うとともに、専門論文の読み方と、論文・レポートの書き方のトレーニングも兼ねる。受講生の学習歴や研究関心の在り方などを最初に報告してもらい、それに合わせて課題を設定して、無理なく課題をこなせるように工夫してゆくつもりである。

**テキスト：**

特に指定無し。授業中にプリントを配布する。

**参考書：**

- ・原ひろ子（編）『家族の文化誌：さまざまなカタチと変化』弘文堂

- ・綾部恒雄（編）『女の文化人類学』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の民族誌1：アジア篇』弘文堂
- ・綾部恒雄（編）『女の民族誌2：欧・米・中東・アフリカ・オセアニア篇』弘文堂
- ・フォックス, R.『親族と婚姻：社会人類学入門』思索社
- ・前田成文『東南アジアの組織原理』勁草書房
- ・村武精一『家族の社会人類学』弘文堂
- ・伊藤亜人ほか（編）『現代の社会人類学1：親族と社会の構造』東京大学出版会
- ・清水昭俊『家・身体・社会：家族の社会人類学』弘文堂
- ・清水昭俊（編）『家族の自然と文化』弘文堂
- ・福井勝義（編）『近所づきあいの風景：つながりを再考する』昭和堂
- ・吉原一男・鈴木正崇・末成道男（編）『〈血縁〉の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社
- ・レヴィ＝ストロース, C.『親族の基本構造』青弓社  
この他多数。おって授業中に指示する。

## 選 択 科 目

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

教授 平野敏政

### 授業科目の内容：

家族および家の理論の理解を深め、わが国における現代社会の諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとする。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

K-Bros.

助教授 樫尾直樹

### 授業科目の内容：

本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュアリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいう〈スピリチュアリティ〉とは、「自分を超えた何ものかにつながっている感覚、あるいはその何ものかが自分の中で働いている感覚」を意味する。現代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

### テキスト：

樫尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房、2002年  
その他は授業の中で適宜指示する。

### 参考書：

授業の中で適宜指示する。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

休講

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

現代社会とところをめぐる諸問題

助教授 長尾真理

### 授業科目の内容：

現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。これらの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。このように、現代人が日常生活の中で避けることのできない〈ところ〉の問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的に取り組む姿勢が望まれる。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

教育社会学研究

教職課程センター 助教授 竹村英樹

### 授業科目の内容：

3年生の研究会は、教育に関する社会学的研究を行なう。本年度は学歴社会論をテーマとする。まずは、文献研究を中心に進めるが、各自が関心ある研究テーマを見つけ、フィールドを持ち、4年時の卒業論文執筆に向けてスタートができるように、支援していきたい。理論的研究と経験的研究をバランスよく取り上げ、教室だけの勉強にとどまらず、各種の見学・観察を取り入れ、進めていきたい。また、共同研究を課し、三田祭で発表する。三田祭終了後は、社会学の古典を講読する。

### テキスト：

別途指示します。

### 参考書：

別途指示します。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

《アート》と《社会学》

助教授 岡原正幸

### 授業科目の内容：

〈team Oka〉による実験的社会プロジェクトあるいは社会彫刻の実践です。ゼミのWEB, <http://oka.web.infoseek.co.jp> を参考にしてください。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

教授 野村伸一

### 授業科目の内容：

東アジアの地域研究をめざします。主として民俗文化を考えつつ、日本の周辺に自分の思考の拠点を構築することが望まれます。日本を中心としたままで「日本との比較」という座標軸を立てるだけでは視点の限界があります。東アジアという枠組のなかで、「日本を比較の素材」として考える思考こそが求められているといえるでしょう。そのためには現地の言語文化のなかにみずから飛び込む気概が必要です。

ただし、東アジアの文化研究は、従来、朝鮮、琉球、台湾、中国の各地というように縦割りの領域を設定し、他との関連をあまり考慮せずにきた傾向があります。こうした傾向は問題意識の設定の仕方によって変更しうるものです。民俗文化あるいは民衆文化などの枠組のなかでは、互いに関連が生じざるをえないので、視野は必然的に広がるはずですが。どこに拠点を作るかは最終的には個人の作業ですが、大海への船出に当たっての羅針盤作りは共同作業のほうが効果的です。この研究会はそのような場となるはずですが。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

教授 李光鎬

### 授業科目の内容：

本研究会（ゼミナール）は、インターパーソナル・コミュニケーション、マス・コミュニケーション、イノベーションの普及などのコミュニケーション過程について、理論および経験的レベルの両面において研究を行っていく。

3年生は、まず基礎的な研究に重点が置かれるが、順次、より高度な、より専門的な領域における研究活動を行っていく。

### テキスト：

入ゼミ者に対して適宜示します。

### 参考書：

入ゼミ者に対して適宜示します。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

記憶の社会学

教授 浜 日出夫

**授業科目の内容：**

- (1) 共通テーマ  
今年度の共通テーマは「記憶」である。
- (2) サブゼミ  
3～4のサブゼミを設け、共同研究を行なう。
- (3) 個人研究  
自分のテーマについて各自研究を行ない、3年生はゼミ論文(12000字以上)、4年生は卒業論文(40000字以上)を作成する。

**テキスト：**

開講時に指示する。

**参考書：**

講義時間内に紹介する。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

教授 鈴木 正 崇

**授業科目の内容：**

文化人類学を専門とするゼミである。宗教学や日本研究（民俗学を主体とする）も取り込んで構成する。半期ごとに特定の主題を設定して、専門書や論文を報告し討論を行なう。4年生は数度の中間発表を行い卒業論文作成の指導を行なう。

【04】【93】社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

教授 藤 田 弘 夫

**授業科目の内容：**

都市の理論面での研究とともに、古本の町として有名な神田神保町とイギリスのヘイ・オン・ワイの比較研究を行います。

今年度の研究会の進め方については、すでに詳しく説明しておりますので、ここでは繰り返して説明いたしません。出席者は研究会ⅠとⅡの両方を登録してください。一方は必修、もう一方は自由科目です。

**テキスト：**

- ・成田龍一『近代都市空間の文化経験』（岩波書店、2003年）
- ・藤田弘夫・浦野正樹『都市社会とリスク』東信堂2005年。
- ・藤田弘夫『都市と文明の比較社会学—環境・リスク・公共性—』（東京大学出版会2003）

**参考書：**

- ・R. ブース（東訳）『本の国の王様』創元社2001年
- ・川成洋編『世界の古書店』丸善ライブラリー1994年他
- ・『神田神保町古本屋散歩』毎日新聞社ムック2004年。

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

卒業論文指導

教職課程センター 助教授 竹 村 英 樹

**授業科目の内容：**

12月までに最低4回の発表を行なう。

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

教授 野 村 伸 一

**授業科目の内容：**

卒業論文に向けた個人研究発表、報告を中心にします。二、三週間に一度ほどの発表となります。

同時に論文の章立て、体裁について討議します。

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

教授 李 光 鎬

**授業科目の内容：**

本研究会（ゼミナール）における4年生は、3年次における研究活動の成果をふまえ、より専門的研究をすすめ卒業論文を完成させる。

**テキスト：**

ゼミナール4年生適宜示します。

**参考書：**

ゼミナール4年生適宜示します。

【04】【93】社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

講師 石 田 米 一

【04】社会学原典講読（英）(2)

【93】原典講読（英）(2)

講師 仙 田 幸 子

**授業科目の内容：**

本講義では英語で書かれた社会心理学の初歩的な入門書を講読する。学術論文を英語で読む能力の養成と社会心理学のエッセンスの理解を目的とする。

**テキスト：**

初回の授業で提示する。

**参考書：**

- ・社会心理学小辞典（古畑和孝、岡隆編、有斐閣、2002）、
- ・社会心理学用語辞典（吉森護ほか編集、北大路書房、1995）など

【04】社会学原典講読（英）(2)

【93】原典講読（英）(2)

講師 田 中 正 隆

**授業科目の内容：**

社会学、人類学関連の論稿を輪読してゆく。テーマは90年代以降、現在にいたるまで活発に議論が交わされている、地域社会（周辺社会）における近代性 modernity やグローバル化 globalization をめぐる問題である。とくにアフリカを対象としては、いわゆる妖術と近代という表題のもと、続々と論文集が刊行されている。本講座は輪読を通して、固定的な地域、社会、国家という枠組みによる社会把握から、移民や離散民という移動する民、流通するモノから社会を捉え直す視角への転換を果たすことを目標におく。モダニティ、グローバル化、周辺社会といったキーワードに関心をもつ方の参加を専門領域を越えて広く歓迎します。

【04】社会学原典講読（英）(2)

【93】原典講読（英）(2)

『再帰的社会学への招待』

講師 佐 藤 典 子

**授業科目の内容：**

社会学界だけでなく、思想界に広く影響を与え、さまざまな社会運動を牽引してきたピエール・ブルデューですが、彼の理論の中で重要な概念である「ハビトゥス」が最初に示されたとき、分析の対象であったのは、「階級」と「ハビトゥス」の関係でした。やがて、90年代以降、*An Invitation to Reflexive Sociology* の中で「ジェンダー」についても「ジェンダー化されていると同時にジェンダー化する」ことに着目し、「ハビトゥス」概念が日常のさまざまな慣習行動に見出されることを論じました。そこで、ブルデューの基本的な概念について見ていくと同時に、その知の足跡をたどり、内外に彼がもたらした遺産を振り返りながら、今後、フランス社会学が彼の亡き後どのように変化していくのか、ブルデューの著作や彼について論じている英語圏の論文（ポール・ラビノウやエドワード・グラント・アンドリュウなどを取り上げる）を読みながら考えてみたいと思います。

**テキスト：**

開講時に指示します。

**参考書：**

原山哲編著『日仏社会学会叢書第3巻 ブルデュー社会学の冒険』  
(恒星社厚生閣, 2005年)

---

【04】社会学洋書講読 (英) (2)

【93】洋書講読 (英) (2) 助教授 長尾真理

---

**授業科目の内容：**

英語の学術文献を直接読み解くことによって、英文の読解力向上と、的確な論旨の把握をめざす。講義では、あらかじめ割り当てられた担当部分を訳出・要約する。テキスト等については、初回の講義で指示する。

---

【04】社会学原典講読 (独) (2)

【93】原典講読 (独) (2)

ドイツ語圏における社会学分野の古典的な著作を日本語で読む

助教授 岡原正幸

---

**授業科目の内容：**

【目的】社会学およびその周辺領域に関するドイツ語圏の古典／原典を、翻訳文献をつかって緻密に読解します。学術的内容の日本語による理解を至上とし、その限りで場合によってドイツ語原語についての解説を行います。

【内容】ドイツ語圏のみならず、社会学にとっても古典として必須文献であるような書物、たとえば、マルクス、ヴェーバー、ジンメル  
の文献を読み進めたいと思います。文献の選択に際しては翻訳本の手に入れやすさも考慮します。

**テキスト：**

未定ながら、『職業としての学問』『社会学の基礎概念』（ヴェーバー）など。

---

【04】社会学洋書講読 (仏) (2)

【93】洋書講読 (仏) (2)

パリ・モザイク

助教授 榎尾直樹

---

**授業科目の内容：**

本授業は、社会学、人類学に関するフランス語文献の講読を通して、1 フランス語文献の読解の能力の向上、2 フランス語圏の社会学・人類学に関する基本的知識の獲得、3 フランス語圏の社会学・人類学の近年の動向に関する情報の獲得、の3点を目的としている。

**テキスト：**

Michel Pincon & Monique Pincon-Charlot, « Paris Mosaïque », Caimann-Levy, 2001

**参考書：**

授業の中で適宜指示する

## ○心理学専攻

### 必修科目

#### 【04】【93】知覚心理学 I (4)

知覚心理学の基礎

教授 増田 直 衛

##### 授業科目の内容：

知覚心理学における基本的な概念、方法論、事実を紹介しながら、心理学としての知覚研究を理解することにある。

供覧実験や、AV 機器をできるだけ多く用いて、知覚心理学における具体的な事実を体験しながら理解を得られるようにしたい。

##### 参考書：

その都度紹介するが、一般的に参考になるものを以下にあげる。

- ・大山 正 (編)「講座心理学 4 知覚」東京大学出版会
- ・柿崎祐一・牧野達郎 (編)「心理学 1 知覚・認知」有斐閣
- ・松田隆夫 (著)「知覚心理学の基礎」培風館

#### 【04】【93】発達心理学 I (4)

発達科学の基礎と臨床

教授 山本 淳 一

##### 授業科目の内容：

- (1) 発達心理学と発達臨床についての広範囲の知識を得ることを目的とする。まず、「理論」および、それを支えている「事実 (実験、観察、事例)」を理解していく。
- (2) ヒトの心的機能の発達を生み出している要因を、「環境と個体の相互作用」という観点から詳細に検討する。知覚、運動、音声、言語、認知、社会的行動、動機づけ、情動、などの発達を分析していく。そのことで、発達科学 (developmental science) という領域への展開を探っていく。
- (3) 発達過程の中で子どもたちがもつ様々な問題に対して、その原因を「環境と個体の相互作用」という観点から考究する。発達臨床の現場での事例を詳細に分析していくことで、具体的な支援方法を検討していく。

##### テキスト：

バナーワース, G. & ハリス, M. 「発達心理学の基本を学ぶ」ミネルヴァ書房

##### 参考書：

「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房

#### 【04】【93】行動分析学 I (4)

行動の科学的制御とは

教授 坂上 貴 之

##### 授業科目の内容：

行動分析学 (behavior analysis) の方法論の特徴と概念的枠組み、および実験的行動分析によって明らかにされた実験的事実とそれをめぐる最近の理論的展望を中心に講義を行う。

##### テキスト：

メイザー (著) 磯ら (訳)「メイザーの学習と行動 日本語第 2 版」二瓶社

##### 参考書：

- ・広田ら (著)「心理学が描くリスクの世界 — 行動的意志決定入門 —」慶應義塾大学出版会。
- ・佐藤 (著)「行動理論への招待」大修館書店
- ・レイノルズ (著) 浅野 (訳)「オペラント心理学入門」サイエンス社
- ・小川 (監)「行動心理ハンドブック」培風館
- ・スキナー (著) 岩本 (監訳)「人間と社会の省察」勁草書房
- ・スキナー (著) 河合ら (訳)「科学と人間行動」二瓶社

#### 【04】【93】認知心理学 I (4)

認知心理学の基礎と応用

教授 伊東 裕 司

##### 授業科目の内容：

前半では、認知心理学の考え方、研究方法の理解を目指し、記憶、知識表象、思考などに関する基本的な研究を紹介する。後半では、認知心理学の応用的な研究、特に目撃者の記憶に関する研究、広告やブランドに関する記憶に関する研究について論じる。

##### テキスト：

市川, 伊東 (編). (1996). 認知心理学を知る. プレーン出版

##### 参考書：

別途お知らせします

##### 成績評価方法：

試験結果, レポート, 実験の経験による。詳細は初回授業で説明します。

##### 質問・相談：

授業時間内, および email (yitoh@flet.keio.ac.jp)

#### 【04】【93】生物心理学 I (4) [春]

教授 渡辺 茂

[秋] 教授 小嶋 祥 三

##### [春学期]

##### 授業科目の内容：

生物心理学では心を 1) 神経系の機能として, 2) 進化の産物として, 捉えます。そのため最初の何時間かは神経科学の基礎を学びます。その後, 前期は主として動物に関する講義を行います。このなかで, 聴覚に関することと運動系に関することとがらは後期に学ぶこととして前記ではほとんど取り上げません。

##### 参考書：

Carlson “Physiology of Behavior”・Rosenzweig et al. “Biological Psychology”・渡辺茂「ヒト型脳とトリ型脳」

##### [秋学期]

##### 授業科目の内容：

秋学期には, ヒトの脳の研究が中心になる。機能脳画像や脳損傷の研究を通して, 認知機能と脳との関係を理解することを目指す。

##### テキスト：

なし。

##### 参考書：

Gazzaniga et al., Cognitive Neuroscience (2nd ed.) Norton, 2002

#### 【04】【93】心理測定論 (2) (春学期)

「心」の数値化の考え方と方法

[春] 教授 伊東 裕 司

##### 授業科目の内容：

心理学で用いられる測定の中で, 心理的側面を直接数値化する方法について学ぶ。測定の対象としては, 感覚, 知能, 好ましき, 記憶, などを取り上げるが, 測定方法はこれら以外の対象についても応用可能なものである。

#### 【04】【93】心理学史 (2) (春学期)

[春] 教授 渡辺 茂

##### 授業科目の内容：

心理学には長い過去と短い歴史がある, というのが心理学史の講義の枕の定番であるが, 僕に可能な範囲で過去についても言及したい。とはいっても, やはり実験心理学の成立を中心に 1960 年くらいまでの心理学の歴史を勉強することになる。出来る限り原典の一部を読んで一次資料から歴史を考えてみたい。実験科学としての心理学の勉強と歴史科学としての心理学史の勉強は大変異なるもので, 僕自身歴史科学の正規教育を受けていないが, これまた僕のできる範囲で単なる学説の変遷ではなく, 歴史科学としての心理学史の授業を目指してみたい。

##### 参考書：

最初に一覧表を渡します

---

【04】【93】心理統計(4) 助手 大森 貴 秀

---

**授業科目の内容：**

心理学実験や調査に最低限必要と考えられる統計学の論理、技法を習得することを目標とします。春学期は記述統計、秋学期は推測統計を中心に授業を進めていく予定です。

**テキスト：**

山内光哉 1998 心理・教育のための統計法(第2版), サイエンス社 2500 円

**参考書：**

授業内で随時紹介します。

---

【04】心理学原典講読(2)

【93】原典講読(2) [春] 教授 渡 辺 茂  
[秋] 教授 伊 東 裕 司

---

**授業科目の内容：**

この授業では2つのことを目指します。ひとつは実験心理学の論文のフォーマットに慣れて、すばやく正確に必要な情報を得る技能です。そのため、毎週短い実験論文を課題として読んでくれることが求められます。ふたつめは眼光紙背に徹するまでの論文の熟読です。このために古典的なテキストを読み解きます。これによって科学としての心理学の急所が理解できると思います。

**テキスト：**

Tactics of Scientific Research

---

【04】心理学実験 I(4)

【04】心理学実験 II(4)

【93】心理学実験(4) 助手 大森 貴 秀  
助手 梅 田 聡  
講師 石 井 拓  
講師 伊 澤 栄 一  
講師 菅佐原 洋

---

**授業科目の内容：**

心理学の基礎的実験法と実験心理学で研究された基礎的事実についての実験実習を行う。この授業は実験心理学の根幹をなし、且つ卒業実験を行うため為に必須の知識・技術の習得を計るものであるから、受講者はそれなりの覚悟を持って授業に臨まねばならない。心理学専攻の学生以外は履修できない。

---

【04】【93】心理学研究会 I(2)

知覚の心理学 教授 増 田 直 衛

---

**授業科目の内容：**

知覚心理学研究における基本的考え方を身につけることを目的とする。

**参考書：**

- ・柿崎祐一「心理学的知覚論序説」培風館
- ・Goldstein, E. B. Sensation and Perception. Brooks/Cole Publishing Company
- ・Fineman, M. The Inquisitive Eye. Oxford University Press.

---

【04】【93】心理学研究会 I(2)

発達心理学の研究 教授 山 本 淳 一

---

**授業科目の内容：**

- (1) 発達心理学に関する広い範囲での基礎知識を得るために、まず日本語で書かれたテキストを読み、発表し、討議する。その際、特に学術的なレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学んでいく。
- (2) 実験的手法を用いた発達研究、および発達(障害)臨床研究の英語論文を読み、自らの研究に生かせるように、それぞれの研究のレビュー、手続、結果の解析方法、を詳細に検討していく。

- (3) 実際に、子どもたちの発達評価の実習を行う。また、子どもたちを対象にした実験を計画、実施し、その成果を発表し、検討する。

**テキスト：**

資料を配布します。

**参考書：**

資料を配布します。

---

【04】【93】心理学研究会 I(2) 教授 坂 上 貴 之

---

**授業科目の内容：**

実験的行動分析を中心とした論文の発表と、それについての議論を中心に展開する。この授業を受講する者は、心理学研究会IIを続けて受講することが求められる。

**テキスト：**

- ・Pierce, W.D., & Cheney, C.D. (2004).
- ・Behavior analysis and learning (3rd Ed.).
- ・Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

**参考書：**

Catania, A.C., & Himeline, P.H. (Eds.) (1996). Variations and selection: An anthology of reviews. Bloomington, IN: SEAB.

---

【04】【93】心理学研究会 I(2) 教授 渡 辺 茂

---

**授業科目の内容：**

実験データの分析を通じて、1) 文献検索、2) 研究目的 3) 実験計画、4) 実験技法、5) データ解析、6) 論文のまとめ方を学ぶ。

---

【04】【93】心理学研究会 I(2)

人間の認知・記憶研究 教授 伊 東 裕 司

---

**授業科目の内容：**

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、討論する。受講者は各自リサーチクエスチョンを設定し、文献を検索し読み、その内容を他の受講者に紹介し、討論をリードすることを求められる。

---

【04】【93】心理学研究会 I(2) 教授 小 嶋 祥 三

---

**授業科目の内容：**

ヒトを対象とした認知精神科学の基礎を作ることを目指す。主に近赤外分光法(NIRS, 光トポグラフィ)の測定法を習得し、予備的な研究を行う。卒業研究のテーマの指導を行う。

**テキスト：**

Gazzaniga et al. Cognitive Neuroscience (2nd ed.) Norton, 2002.

---

【04】【93】心理学研究会 II(2)

知覚の心理学 教授 増 田 直 衛

---

**授業科目の内容：**

受講生の卒論テーマを中心とした研究論文を精読し、知覚心理学研究としての問題の所在を確かめる。

---

【04】【93】心理学研究会 II(2)

発達心理学の研究 教授 山 本 淳 一

---

**授業科目の内容：**

発達心理学の卒業論文作成のための研究のデザイン発表、中間報告を行い、討議する。また、テーマに関連する論文をレビューし、研究テーマに関する最新の研究動向の発表も行う。

**テキスト：**

資料を配布します。

**参考書：**

資料を配布します。

---

**【04】【93】心理学研究会Ⅱ(2) 教授 坂上 貴之**

---

**授業科目の内容：**

卒業論文の完成を目指し、関連する論文の発表、ならびに研究経過の報告をする。この授業を受講する者は、心理学研究会Ⅰと続けて受講することが求められる。

---

**【04】【93】心理学研究会Ⅱ(2) 教授 渡辺 茂**

---

**授業科目の内容：**

前期はテキストの講読、後期は雑誌論文の講読を行う

**テキスト：**

Alcock “Animal Behavior”

---

**【04】【93】心理学研究会Ⅱ(2)**

人間の認知・記憶研究の実践 教授 伊東 裕司

**授業科目の内容：**

人間の認知・記憶に関する最近の文献を読み、自分自身の研究テーマと関連付けて討論する。各受講者の卒業論文の研究について、随時進行状況を報告し、全員で討論を行う。

---

**【04】【93】心理学研究会Ⅱ(2) 教授 小嶋 祥三**

---

**授業科目の内容：**

卒業論文の実験、とりまとめの指導を中心に行う。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

特になし

---

**【93】心理学概論(4)**

---

休講

## 選 択 科 目

---

**【04】心理学特殊Ⅰ(4)****【93】心理学特殊(4)**

行動薬理学(こころとくすり) 講師 高田 孝二

**授業科目の内容：**

行動薬理学は、薬物の作用機序をヒトや動物の行動を通して捉えようとする一方、薬物効果を通して脳の機能(こころのはたらき)を探る学問領域です。こころのはたらきに影響を与える物質(向精神物質)は治療薬として広く用いられているほか、酒などの嗜好品を介して日常的に摂取され、また乱用など社会問題を生じるものもあります。さらに、われわれは向精神物質を含め、毎日様々な化学物質にさらされており、これら化学物質が生体機能に様々な影響を与えることや、母体を介して次世代の機能にも影響しうることが知られています。本講義ではこれらについて、最新の知見を含め、解説します。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。

---

**【04】心理学特殊Ⅱ(2)(秋学期)****【93】心理学特殊Ⅰ(2)(秋学期)**

聴覚の認知脳科学 【秋】講師 柏野 牧夫

**授業科目の内容：**

聴覚の基本的な役割は、刻一刻と変化する環境の中で、安定してしかも迅速に、どこで何が起きているかを把握し、適切な行動を導くことである。さらに人間の場合、聴覚は言語音声や音楽等によるコミュニケーションにも重要な役割を果たしている。これらは日常何の苦も

なくできることであるが、原理的には大変難しい情報処理課題である。このような情報処理が耳から脳に至る神経系においてどのように実現されているのかについて、錯覚などのさまざまな聴覚現象の実演と分析、最近の神経科学の知見、情報理論的な解析やモデル化等を総合しつつ概説する。また聴覚と視覚や運動制御などとの相互作用についても述べる。

**授**

**【04】心理学特殊Ⅲ(2)(秋学期)**

**【93】心理学特殊Ⅱ(2)(秋学期)**

【秋】助手 大森 貴秀

**授業科目の内容：**

心理測定論に続き、質問紙による測定方法を習得することを目指します。質問紙の作成の仕方から、実施方法、データの分析と解釈の仕方まで、実習を中心として学んでもらいます。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

授業内で随時紹介します。

---

**【04】【93】知覚心理学Ⅱ(2)(春学期)**

問題解決過程としての知覚 【春】講師 吉村 浩一

**授業科目の内容：**

Irvin Rock が展開した知覚は問題解決過程であるとする主張を手がかりに、空間や運動に関する知覚について解説する。Rock はまた逆さめがねの世界への知覚順応についても優れた理論を提出しているので逆さめがね実験から発展する空間知覚をめぐる諸問題についても解説する。

**テキスト：**

吉村浩一著『知覚は問題解決過程 — アーヴィン・ロックの認知心理学 —』ナカニシヤ出版

**参考書：**

吉村浩一著『逆さめがねの左右学』ナカニシヤ出版

---

**【04】【93】発達心理学Ⅱ(2)(秋学期)**

乳幼児期のことばとこころの発達

【秋】講師 林 安紀子

**授業科目の内容：**

本講では、音声言語発達について、主に、生後2年間位の理解面の発達に焦点をあてて、①生物学的要因、②認知的要因、③社会的要因の観点から、国内外の新しい研究知見をもとに解説します。

**テキスト：**

特に指定しません。必要に応じて講義資料を配布します。

**参考書：**

授業中に紹介します。

---

**【04】【93】行動分析学Ⅱ(2)(秋学期)**

教育問題を中心に

【秋】講師 中野 良顯

**授業科目の内容：**

【目的】 応用行動分析の理論と実際を、実験行動分析と理論行動分析との対比において、学習する。

【内容】 応用領域の中から教育を取り上げ、問題の分析と有効な対策の設計の仕方を探究する。

**テキスト：**

手製プリント

**参考書：**

- ・中野良顯(1989) 行動療法(伊藤隆二編『心理療法ハンドブック』福村出版、635-716頁)。
- ・メイザー／磯ほか訳(1996).『メイザーの学習と行動』二瓶社。
- ・スキナー／河合ほか訳(2003).『科学と人間行動』二瓶社。

---

**【04】【93】認知心理学Ⅱ(2)(春学期)**

「使いやすさ」の心理学 【春】講師 原田悦子

---

**授業科目の内容：**

人が人工物(モノ)に対して感じる「使いやすさ、使いにくさ」は人とモノとの相互作用によってもたらされるものです。そこで、「人にとっての使いやすさ」を認知心理学の視点から考え、「どのようにすれば、人にとって使いやすいデザインができるか」を考えていきます。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

原田悦子「人の視点から見た人工物研究」(共立出版, 1997)ほか随時示します。

---

**【04】【93】生物心理学Ⅱ(2)(秋学期)**

動物行動学 【秋】講師 浅井芝樹

---

**授業科目の内容：**

動物の行動を明らかにするには、発達のしかたやその機能など、いくつかの異なったアプローチがあることを学びます。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

特になし

---

**【04】【93】数理心理学(2)(秋学期)**

心理現象の数理解析 【秋】環境情報学部 教授 渡辺利夫

---

**授業科目の内容：**

数理心理学は、数理モデルを構成することによって、心理現象を説明しようとする分野である。本講義では、学習、記憶、性格、知覚の分野をもとに数理モデルがどのように構成され、そして数理モデル構成によってどのようなことがわかってくるのかについて考えてゆく。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

なし

---

**【04】【93】クリニカルワーク概説(4)**

思春期の心理と学校臨床心理学 教職課程センター 教授 伊藤美奈子

---

**授業科目の内容：**

前期：青年期の入り口に当たる思春期の心理的発達に焦点づけながら、生涯発達における青年期(思春期)の意味とその精神病理について講義する。

後期：近年、ますます複雑化・深刻化する子どもの心の問題。学校現場では、そういう問題行動をどのようにとらえ、対処しているのだろうか。本年度は、とくに不登校に重点を置いて、その実情と学校における対応について講義する。スクールカウンセラー制度についても紹介しながら「学校」における教育臨床の現状と課題について考えていきたい。

**テキスト：**

伊藤美奈子著『思春期の心さがしと学びの現場』(北樹出版, 2000年, 1600円)

**参考書：**

伊藤美奈子著『スクールカウンセラーの仕事』(岩波書店, 700円)

---

**【04】【93】パーソナリティ理論概説(4)**

休講

---

---

**【04】【93】認知臨床心理学(4)**

認知行動療法を詳細に解説する 講師 石垣琢磨

---

**授業科目の内容：**

不安、抑うつ、統合失調症などの認知的病理を理解した後、心理学的介入法としての認知行動療法 Cognitive Behavioral Therapy について学びます。

**テキスト：**

「こころが晴れるノート」大野裕著 創元社 1200円 2003年

**参考書：**

「認知臨床心理学入門」ドライデン&レントゥル(編)丹野義彦(監訳)東大出版会 1996年 4000円

---

**【04】【93】発達臨床心理学(4)**

休講

---

**【04】【93】言語障害臨床(4)**

休講

---

## ○教育学専攻

### 必修科目

【04】【93】教育学概論(4) 教授 舟山 俊明

#### 授業科目の内容：

本講義の目的とするところは、これから教育学専攻学生として教育学研究に進みゆく諸君、ならびに教職教養科目ないしは専門選択科目のひとつとして教育学を履修しようとする諸君に対して、「教育問題の科学としての教育学」という考え方、そしてその基礎となる「教育学的な視座」を理解してもらうことを目的として、教育学研究への導入を行うところにあります。その意味で教育学の全領域をカバーする「体系」ないし「構造」を提示することに主眼がおかれているのではなく、いわゆる「入門講義」を展開するものです。

「狭義の近代教育学」は、一般に「教育の世紀」と言われる18世紀に成立したとされています。そしてその際の教育学とは、「教育術」や「教育論」であって、いわゆる「教育科学」ではありませんでした。そしてそこでの教育学的思索は、「どのようにして子どもを善くすることができるのか」という技術的・実践的関心に即したもので、その意味では「教授学」的関心が教育学の中核を形成していたことは言うまでもありません。しかし、それはルソーやカントに見られるように、決して既存の社会への子どもの適応化・組み込みに教育の目標があったわけではなく、むしろ彼らの考察は既存社会に対しては批判的な観点に立った、距離を置いた姿勢と結びついています。すなわち、教育理論の構築においては技術学のメタ理論として「善さとは何か」という反省的思索がセットとなっています。「教育の自律 Autonomie」ないし「教育学の自律性」と言われる事柄は、こうした背景をもつわけです。現在もまた狭義の教育学は、この伝統、すなわち「善さへの省察を内包した技術学」という伝統を引いているはずで

す。しかし現代の教育学研究は、上述した「狭義の教育学」を大幅に超えて、一般的な「社会化研究」の一環に組み込まれた社会科学のひとつとして考えられるようになりました。その際の中心的な推進役が、主として実験心理学や認知科学に依拠した「教育心理学」と実証的な「教育社会学」であったことは明瞭です。科学化への動きは、時代の要請でもあって止められませんが、問題は、こうした流れの中でややもすると「狭義の教育学」の持っていた「子どもを善くする」「善くするとはどういうことか」「そもそも善さとは何か」といった関心や問い、これはずしては教育学的な思索ではなくってしまうはずの問いがどこかに消えてしまい、「教育＝社会化」という論理と、それを前提とした「効率化」の論理で何の疑いもなく進行してしまう事態にあります。ですから、私たちはまずはこうした問題を改めて考えるところから教育学的思索を始める必要があるわけです。

#### テキスト：

田中克佳『教育学』（慶應義塾大学通信教育テキスト）慶應義塾大学出版会 1993

#### 参考書：

授業の中で適宜指示します。

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 教授 松浦 良充

#### 授業科目の内容：

教育実践を扱った下記の英語文献を読む。これは、アメリカの教師の実践記録・自己省察のメモを集成したものである。古い文献であり、かつ文章自体は平易であるが、「教える」―「学ぶ」関係について、近代的な「教育」概念そのものの根本的な再考を迫っている。テキストの内容を具体的な場面に即して正確に把握することをめざすとともに、関連する問題について議論し、各自がもつ「教育」および「学習」概念を再検討することのきっかけにしたい。

#### テキスト：

John Holt, *How Children Fail*, revised and expanded edition, 1984.

#### 参考書：

授業の進行にともなって指示する。

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 講師 山梨 あや

#### 授業科目の内容：

教育史に関する英語文献を読みます。テキストを正確に読み、著者の意図を把握した上で、討論を行います。

#### テキスト：

初回の授業時に提示します。

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 教授 安藤 寿康

#### 授業科目の内容：

教育心理学に関連する英語論文を発表形式で講読する。

#### テキスト：

初回に指示する

【04】教育学原典講読(2)

【93】原典講読(2) 講師 榊原 知美

#### 授業科目の内容：

教育心理学の英語文献を講読する。英語で書かれた学術論文から最新の情報を得ることは、教育心理学の研究を進めていく上で必須といえる。そのための準備として、テキストを正確に読みこなし、心理学の論文構成や専門表現についての基礎知識を得ることをめざす。加えて、論文内容についての討論を通し、教育心理学研究における最新トピックへの理解を深める。

#### テキスト：

初回に指定する。

#### 授

【04】【93】教育史(4)

日本の「近代教育」を考える 教授 山本 正身

#### 授業科目の内容：

「教育」を広く人間の成長を促す働きかけとしてとらえるならば、学校を中心として行われている組織的・計画的な教育は教育全体の一部にすぎず、またその歴史も人類史の中のほんの僅かな期間に認められるだけのものであるにすぎない。だが、今日において教育は学校教育を中心に展開され、学校の問題を抜きに教育を語ることはあり得ないような状況にさえなっている。

本講義では、この学校を中心とする組織的・計画的な教育を国家が主導し、またそれを国家的規模において展開しているものものを「近代教育」としてとらえ、この「近代教育」をめぐる諸問題を日本の事例を通して考察する。その際、考察のポイントは、①「近代教育」はいかなる理由によって、またいかなる経過を通して教育の中心として君臨するようになったのか、②「近代教育」の制度的、思想的特質とは何であるのか、またその特質は広義の教育全般の中にどう位置づけられるものなのか、③「近代教育」を克服するための教育上の視点にはどのようなものがあり得るのか、またその視点からとらえられた教育とはどのようなものとして構想され得るのか、の三点に向けられることになる。

この三点は、それだけに着目するならば、教育史というよりもむしろ教育思想もしくは教育哲学の分野での分析視点であるように見えるかもしれない。だが、本講義はこの三点をとくに歴史的な関心に立って論じようとするものであり、そこに本講義が「教育史」を名乗る所以がある。

それゆえ、本講義は教育を題材として史資料の精密な解説に基づく実証研究の成果を紹介することを主たる目的とするものではない。あるいは、日本の歴史の中に探られた教育に関する事実そのものの確実な把握を受講者に求めることを主眼とするものでもない。受講者には、組織的・計画的な教育、すなわち「積極的な教えることによって人間を形成しようとする」教育をもって唯一絶対の教育と見なす発想

を相対化し、それを克服するための視点を確保することを目指して、日本教育史の事例に思想的格闘を挑まれることを期待したい。

#### テキスト：

特に指定しない。講義の際、資料プリントを配布する。

#### 参考書：

- ・田中克佳『教育史』（慶應義塾大学通信教育教材）慶應通信，1982年。
- ・辻本雅史『「学び」の復権』角川書店，1999年。
- ・村井実『近代日本の教育と政治』東洋館出版，2000年。

---

### 【04】【93】教育学史（4）

助教授 眞壁宏幹

---

#### 授業科目の内容：

この講義では「西洋教育思想史」および「西洋教育学史」を扱います。教育や学校の現実の歴史は、ここで紹介する思想や理論の歴史と完全に一致するものではないので、一年間実践と関係ない概念的思想史・学問史を話していると見られてしまうかもしれません。これは、半分当たっていますが、半分違います。というのも、現実で「教育問題」が生じた時、人はまずそれを考えてみなければなりません。その時、ここで紹介する思想や理論、とりわけそこで使われている術語などが、いわば「思考の道具」として強力に議論の磁場を形成し、更には実践の輪郭にも影響を与えるからなのです（たとえばルソーの教育思想）。近代ヨーロッパの人間形成をめぐる諸表象やディスクールを社会的文化的文脈のなかで歴史的に考察することとは、ヨーロッパの教育の「現実」をよりよく見るための不可欠な回り道だと言えます。更には、この教育の影響を受けてきた近代以降の日本教育の特徴を知覚し、かつ現在日本で教育が論じられる時に作用している表象構造を明らかにする方法のひとつだとも言えます。ですから、この講義は、我々が教育を論じる時、無意識的意識的に参照している「地図」の構造を、いわば「現地」を歩く前または歩きながら解き明かそうという試みであると言い換えてもよいでしょう。

#### 授業の計画：

時代的には、1) ルネサンス・宗教改革・科学革命の16～17世紀、2) 理性と啓蒙の時代の18世紀、3) フランス革命や啓蒙主義がはらむ人間形成論上の問題の克服の試みでもあった19世紀初頭のドイツ新人文主義やロマン主義の時代、4) 「教養主義」や「規律化」の場となった学校教育への批判であった文化批判や新教育運動の時代（19世紀末から20世紀前半まで）、この四つの時代が講義のハイライトになります。春学期は先の二つの時代を、秋学期は後の二つの時代を扱います。講義全体を貫く視座は、ヨーロッパの人間形成論を、自律的理性的主体の形成論、「市民」「国民」への形成論、教養主義の形成論、「創造的」主体の形成論などが織り成す緊張の場と捉える視座であり、近代教育を“Representation”（代表・代理・再現）の原理のもとに捉える視座です。

#### 成績評価方法：

レポートによる評価

---

### 【04】【93】比較教育学（4）

教授 松浦良充

---

#### 授業科目の内容：

「教育」は、すぐれて個別的で具体性の強い活動である。したがって、教育事象を理論化（一般化）する作業には大きな困難が伴う。それどころか、捉え方によっては、教育を一般化・法則化すること自体が大きな矛盾である、と言えるかもしれない。

ただしたとえ完璧な客観化が不可能だとしても、教育にかかわる事象や問題を、学問的により正確に把握し検討するための有効な手段はないのか。その一つが、「比較」の方法である。他の文化や社会・国家あるいは時代（歴史）における教育と比較することで、私たちが現在直面している教育にかかわる事象や問題を「相対化」し、これまで「あたりまえ」と思いこんできたことを見直すための視座を獲得することができるかもしれないのだ。とりわけ国際化・グローバル化が指摘される現代では、教育は、他のさまざまな文化や社会・国家からの影響を受けながら、相互に変貌してきている。その意味では、日本の「教育」のなりたちそのものが「比較教育」的なダイナミクスの産物である、と言うことができる。「比較教育学」は、こうした観点から、教育の「これまで」「いま」「これから」を考える学問である。

とは言っても、比較教育学の方法論や領域は必ずしも確立しているとは言えない。このことは逆に、教育のゆくえがますます見えにくくなっている現在、多くの可能性を秘めている分野であることをも示唆している。

この授業では、こうした背景をふまえて、比較の手法による「教育」の再検討の作業をさまざまな角度から試みる。世界の教育を知ることによって、教育の世界の特徴と可能性および限界を考えよう。

春学期では、「比較教育学の方法」を知ることによって、比較教育学の基礎的諸理論・方法論を検討する。それを通して、西洋近代に発生した「教育」がグローバル化するプロセスを、主として日本を事例として考えることになるだろう。

秋学期には「比較教育学の問題圏」というテーマのもとで、教育に関する各問題領域を国際比較の観点から検討したり、地域別の教育事象の特徴に関して議論する。その際、履修者の発表と討論を中心に進める。個々の事例研究を通して、日本の教育を「相対化」する視点を身につけることができるだろう。

#### 参考書：

- ・新井郁男・二宮皓編著『比較教育制度論』（放送大学教育振興会，2003）。
  - ・石附実編著『比較・国際教育学（補正版）』（東信堂，1998）。
  - ・田中圭治郎編著『比較教育学の基礎』（ナカニシヤ出版，2004）。
  - ・Patricia K. Kubow, et al., *Comparative Education: Exploring Issues in International Context*, Merrill Prentice Hall, 2003.
- その他、授業の進行にともなって適宜紹介する。

---

### 【04】【93】教育心理学概論（4）

教授 大村彰道

---

#### 授業科目の内容：

発達と学習、学習指導に関する心理学の研究の成果を説明する。

また、実際の研究がどのようにおこなわれているのかを理解するために、研究方法についても解説する。

#### テキスト：

大村彰道編「教育心理学Ⅰ：発達と学習指導の心理学」東京大学出版会1996

#### 参考書：

大村彰道編著「教育心理学研究の技法」福村出版2000

---

### 【04】教育学演習Ⅰ（3年）（2）

### 【04】教育学演習Ⅱ（4年）（2）

### 【93】教育学演習Ⅰ・Ⅱ（2）

教授 舟山俊明

---

#### 授業科目の内容：

本年度のテーマは「教育理論の人間学的基礎に関する分析」。近代教育理論を知識論や認識論の観点から考察することを目指します。授業の当初は、テーマに関連し入門的な講義を行います。その後は参加者各自の報告と討議を中心にします。各自が具体的なテーマを設定し、それに関して文献を調査し、報告し、最終的にレポートを作成することになります。

#### 参考書：

授業のなかで適宜指示する。

#### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

### 【04】教育学演習Ⅰ（3年）（2）

### 【04】教育学演習Ⅱ（4年）（2）

### 【93】教育学演習Ⅰ・Ⅱ（2）

教授 安藤寿康

---

#### 授業科目の内容：

各自の関心に従いテーマを設定して心理学的な実証研究を行い、すぐれた卒業論文を作成することを最終的な目的とします。そのために内外のさまざまな文献（特に英語で書かれたもの）にあたり、担当者および他の演習履修者と活発なディスカッションを行い、実験や調査、フィールド・リサーチなどによって一次資料を収集します。履修者はこうした活動を通じて自分の問題意識を深め、その過程で人間の発達と教育に関して証拠に基づいて（evidence based）論理的・科学的

に考えることを学んでほしいと思います。

【04】教育学演習 I (3年)(2)

【04】教育学演習 II (4年)(2)

【93】教育学演習 I・II (2)

言語の認知科学 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

#### 授業科目の内容：

言語の認知科学について、文献を読んだり、議論したりする。どの文献を取り上げるかは未定である。言語教育や科学教育に関する担当者の考えについても議論する。議論好き、あるいは、議論好きになりたい学生をとくに歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者はかならず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、かならず事前に 担当者に連絡のこと。

#### テキスト：

第1回目講義時に提示する。

#### 参考書：

第1回目講義時に提示する。

【04】教育学演習 I (3年)(2)

【04】教育学演習 II (4年)(2)

【93】教育学演習 I・II (2)

美的経験と人間形成

助教授 真壁 宏幹

#### 授業科目の内容：

「美的経験」と人間形成をテーマにします。しかし、まず、教育学自体にかかわるテキストを扱ってから、美的教育、芸術教育に関する古典ないしはテキストに取り組む予定です。

グループ発表と議論を中心に進めていくつもりです。

#### テキスト：

授業で指示します。

#### 参考書：

授業で指示します。

【04】教育学演習 I (3年)(2)

【04】教育学演習 II (4年)(2)

【93】教育学演習 I・II (2)

教授 松浦 良充

#### 授業科目の内容：

この演習は、教育問題を国際・異文化間比較の観点から研究することを目的とする。教育事象や教育システムの成立要因や構造を、「比較」の手法を用いて捉えることによって、各自にとって〈あたりまえ〉となっている「教育」概念を相対化する視座や研究態度を習得することをめざす。

今年度は、教育システムの基礎理論に関する以下の共通テキスト(英文)を読み議論する。

#### テキスト：

Walter Feinberg and Jonas F. Soltis, *School and Society*, (Thinking About Education Series), 4th edition, Teachers College Press, 2004.

#### 参考書：

Wayne C. Booth, et al., *The Craft of Research*, 2nd edition, The University of Chicago Press, 2003.

【04】教育学演習 I (3年)(2)

【04】教育学演習 II (4年)(2)

【93】教育学演習 I・II (2)

教育史研究の技法を学ぶ

教授 山本 正身

#### 授業科目の内容：

本演習は、日本の歴史(近世以降)の中からある教育上のテーマを探り出し、そのテーマに関わる研究を協同で推進することを主要な活動としている。

今年度のテーマは、①日本の植民地教育政策に関するもの、②教育

基本法の成立過程とその評価に関するもの、③戦後における教育方針の変遷に関するもの(中教審や教課審などの答申を中心に)、の三者の中から参加者と相談の上、決定するつもりである。

本共同研究は、必ずしも当該テーマに関する高度に専門的な実証研究の作業を参加者に求めるわけではない。むしろ、教育史研究における最も基本的な作業過程を参加者ひとり一人に体験してもらい、教育史研究技法の基礎を身につけてもらうことを目指している。ただし、最も基本的な作業であるということは、事を簡単に済ませられることを意味するものではない。地道な労力を要する作業を着実に積み重ねていく忍耐強さと誠実さが絶えず求められる、ということをとくに強調しておきたい。

それゆえ、成績評価において最も重視されるのは共同研究に取り組む態度であり、共同研究への貢献度ということになる。その前提として出席が重視されるのはいうまでもない。

なお、共同研究の成果は小冊子にして参加者全員に配布する。

#### テキスト：

特に指定しない。

#### 参考書：

授業時に適宜指示する。

【04】教育学演習 I (2)

【04】教育学演習 II (2)

【93】教育学演習 I・II (2)

教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

#### 授業科目の内容：

教育心理学に関する内外の文献を講読し、討論します。基本的に発表形式で進めていく予定です。使用する文献については、履修者諸君と相談しながら決めていきたいと思います。

常に教育的な問題関心を抱きながら、自らの研究対象を選び取りつつ、それに対する探究を協同的に深めていこうとする姿勢を履修者諸君に期待しています。

【04】教育学演習 II (4年)(2)

【93】教育学演習 I・II (2)

教職課程センター 教授 米山 光儀

#### 授業科目の内容：

本演習は「日本の近代化と教育」をテーマとし、日本の近代のあり方、教育のあり方を批判的に検討することを目的とする。使用文献は履修者と相談して決定する。なお、参考文献は授業中に適宜紹介する。

【04】教育学演習 II (4年)(2)

【93】教育学演習 I・II (2)

教授 大村 彰道

#### 授業科目の内容：

認知科学の成果を解説するスティーヴン・ピンカーの「心の仕組み」(上, 中, 下)を輪読し、学習の基礎となる心の働きを理解する

#### テキスト：

スティーヴン・ピンカー「心の仕組み」(上・中・下3巻) NHKブックス 日本放送出版協会 2003

#### 参考書：

市川伸一・伊東裕司編著「認知心理学を知る」(第3版) プレーン出版 2002

【04】教育学研究会 I (2)

【04】教育学研究会 II (2)

【93】教育学研究会 I・II (2)

教授 安藤 寿康

#### 授業科目の内容：

教育学演習とあわせて、卒論指導を行います。

- 
- 【04】教育学研究会 I (2)  
【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2)

言語の認知科学 言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

---

**授業科目の内容：**

卒業論文の準備作業および作成指導を行う。言語理論、言語獲得(第一言語、第二言語)、言語理解、言語の脳科学、言語教育(母語教育、外国語教育)、科学教育、認知発達などに関心を持つ、意欲的な学生を歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者はかならず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

**テキスト：**

第1回目講義時に提示する。

**参考書：**

第1回目講義時に提示する。

---

- 【04】教育学研究会 I (2)  
【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2) 助教授 真壁 宏幹
- 

**授業科目の内容：**

卒論指導を行ないます。

---

- 【04】教育学研究会 I (2)  
【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2) 教授 舟山 俊明
- 

**授業科目の内容：**

卒業論文指導。3年生は年度末にレポート(400字×50以上)を、4年生には卒論(400字×100以上)を提出するための様々な準備指導を行います。参加者には各自の作業につき年に2回の報告をしてもらい、相互に検討を行います。

---

- 【04】教育学研究会 I (2)  
【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2)

卒業論文指導(日本教育史) 教授 山本 正身

---

**授業科目の内容：**

卒業論文作成に向けての指導を行う。

本研究会として卒業論文作成の要件としていることは、少なくとも、①研究テーマに客観的意義が認められる(単に主観的に「知りたい」というだけではだめ)、②当該分野の先行研究調査が十分になされている、③当該分野の研究課題(未だに明らかにされていないことは何か)を指摘することができている、④研究において独自の視点や論点(内容や方法にまで独自性があれば申し分ない)が提示されている、⑤表現や記述が論理的かつ体系的になされている、の五点である。参加者には、最低限、春・秋学期二度の研究報告と、二度のレポート提出が課せられる。

なお、本研究会は、日本教育史、日本教育思想史に関心のある学生の参加を歓迎するが、広く日本の教育問題を考えたいと希望する学生も受け入れる。ただし、研究方法はあくまでも文献研究を中心とするものに限られる(いわゆる調査研究や実験研究の指導はできない)ことを付言しておく。

**テキスト：**

特に指定しない。

**参考書：**

授業時に適宜指示する。

---

- 
- 【04】教育学研究会 I (2)  
【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2)

教授 松浦 良充

---

**授業科目の内容：**

卒業論文の完成を最終目標とする。論文作成に必要な、テーマ設定の方法、先行研究の検討の仕方、資料の検索・収集・整理・批判、証拠や根拠および証拠にもとづいた議論の展開など、(比較)教育学研究の基礎的手法について学ぶ。具体的には、グループによる共同プロジェクト研究および各自の個人研究の報告と相互検討・討論を行う。

教育の国際・異文化間比較研究、多文化状況における教育問題、大学・高等教育研究、英米語圏における教育の現状および歴史研究、比較教育思想(史)研究のいずれかの領域に関心のある学生を対象とする。

**テキスト：**

授業時に指示する。

**参考書：**

授業時に指示する。

---

- 【04】教育学研究会 I (2)  
【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2)

教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

---

**授業科目の内容：**

卒業論文に向けての指導を行います。具体的には、自らの研究テーマを設定し、先行研究を調べ、適切な研究方法を選択し、結果を分析、考察する一連のプロセスについて、履修者全員が適宜、報告し、相互に意見交換、討論することが中心になります。とりわけ3年次は、研究テーマを設定して先行研究のレビュー論文を仕上げることが目標とします。

---

- 【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2)

教職課程センター 教授 米山 光儀

---

**授業科目の内容：**

卒業論文を書くためのテュートリアルを主とする。論文のテーマ設定の方法、先行研究検討、史料調査など、具体的に指導する。日本教育史・日本教育思想史に関心のある学生を対象とする。

---

- 【04】教育学研究会 II (2)  
【93】教育学研究会 I・II (2)

教授 大村 彰道

---

**授業科目の内容：**

卒業論文作成の指導をする。実証的研究をすすめる上での諸技法を指導する。

**テキスト：**

大村彰道編著「教育心理学研究の技法」福村出版 2000

---

- 【04】【93】教育学特殊 I (4) 【春】助教授 真壁 宏幹  
【秋】講師 杉下 文子
- 

〔春学期〕 美的経験と人間形成

**授業科目の内容：**

美的経験と人間形成の関係について、具体的な実践をとりあげながら、「シンボル生成」、「美的コミュニケーション」、「共通感覚」、「生命性」、「反省性」、「シメーシス」をキーワードにしながら哲学的に考察していきたい。

**テキスト：**

今井/佐藤編『子どもたちの想像力を育む』東大出版会、2004年。

**参考書：**

授業内に指示

---

**【04】【93】教育学特殊Ⅱ(4) [春] 講師 榊原彩子  
[秋] 講師 安治陽子**

[春学期]

**授業科目の内容：**

認知心理学の中で大きなテーマである「創造性」について、講義、演習をおこなう。創造性の定義から、創造的な思考の特徴や技法、さらに、美術や音楽といった芸術を理解する心の働きについて、具体的な研究事例を交えながら、先行理論を紹介していきたい。

基本的に講義形式であるが、創造性に関する認知課題や芸術心理に関する模擬実験を体験するような、演習の内容ももりこむ予定である。テキストは用いず、適宜プリントを配布する。

**テキスト：**

特に指定なし。

**参考書：**

授業時間内に適宜指示する。

[秋学期]

**授業科目の内容：**

社会情緒の発達について、乳幼児期を中心に概説する。人は、他者との関係を体験しながら生きている。そしてそこには様々な情緒が深く関与している。人生の最早期から、他者との関係性がどのように構築されるのか、そこで人はどのような社会的発達を遂げていくのか、またその中で自己はどのように発達するのか、情動(感情)はどのような役割を持ち、いかに発達するのか、といった内容について、発達心理学の知見を紹介する。

テキストは指定しないが、適宜参考文献を紹介し、プリントを配布する。

**テキスト：**

特に指定しない

**参考書：**

適宜授業中に紹介する。

**【04】【93】教育学特殊Ⅲ(4)**

近代日本における読書作為と教育

**[春] 講師 山梨あや  
[秋] 講師 渡辺弘**

[春学期]

**授業科目の内容：**

本講義では、読書という作為が近代日本の教育にどのように位置づけられていったのかを考察します。

明治維新以降、様々な側面で日本の近代化が進展しました。なかでも、読書は学校教育の普及、印刷技術の向上、メディアの発達に根差して普及したものであり、この意味において近代化の所産の一つであるといえます。さらに読書は教育と同様、人々が新たな知識や価値観と出会う契機となるものでした。

このような状況を背景として、1900(明治30)年代以降、読書の人間形成作用に対する関心が高まりを見せ、読者は「教育」の範疇にあるものとして奨励されるようになります。読書という作為は、リテラシーの向上に貢献した学術や国民形成という関心に基づいて読書の人間形成作用にいち早く注目した社会教育の成立と密接に関わりながら普及してきました。本講義では読書作為の普及という視点から、近代日本の教育やその問題を歴史的に問い直したいと考えています。

**テキスト：**

特に指定しません。

**参考書：**

授業時間内に適宜指示します。

[秋学期]

**授業科目の内容：**

本講義では、日本(江戸時代～現代)の教育思想の歴史的特徴及び課題を、特に各時代の主な人物(文学者を中心に)をとり上げながら考えていく。具体的な人物については、授業のガイダンス時に紹介する。

**テキスト：**

未定

**参考書：**

渡邊弘『援助教育の系譜』川島書店、『援助する学校へ』川島書店

**【04】【93】教育学特殊Ⅳ(4)**

国際協力と教育・文化政策

講師 犬塚典子

**授業科目の内容：**

国際協力を視野に入れて、教育と政治との関係について学習します。春学期は、「子どもの権利条約」「アメリカ教育使節団報告書」を読み、プレゼンテーション(個人発表)、ディスカッションを中心に進めます。秋学期は、学生の知的関心・進路希望などを考慮した上で、「開発途上国の教育」「開発とジェンダー」などのテーマについて、グループによる調査研究を行ないます。

**テキスト：**

・村井実『アメリカ教育使節団報告書』講談社学術文庫、1979年。  
・国際協力機構『日本の教育経験—途上国の教育開発を考える—』2003年11月。

([http://www.jica.go.jp/activities/report/field/200311\\_01.html](http://www.jica.go.jp/activities/report/field/200311_01.html) よりダウンロードできます)。

**参考書：**

江原裕美『内発的発展と教育—人間主体の社会変革とNGOの地平』新評論、2003年。

**【04】【93】教育学特殊Ⅴ(4)**

教育の見立てなおし

講師 広石英記

**授業科目の内容：**

「教育」を善きものとして語り、教育問題を「教育」の不備ととらえる従来の教育言説は、どこまでリアルに現実の事態やそれを生起させている状況に迫っているのでしょうか?教育学的まなごしだけで枠付けられてしまう言説(現在の教育様式が自明視される言説)には限界があります。

この講義においては、従来の「教育という意味連関」に様々な諸概念(相互作用・類型的同化作用・自己目的的行為・出来事・意味生成の自由なカリキュラム・協働という学び)という差異を挿入することによって、教育という意味連関の奥行きや幅を自覚的に揺らし、「教育」を異化することが目論まれています。

この見立ての変容によって、私たちは、初めて新たな意味での「教育」を見つめる地平に立つことができるのではないだろうかという見込みを持っているからです。本講義は、私たちが無意識的に抱え込んでいる「教育」や「子ども」といったイメージ(像)を相対化できる様々な解読法を検討することによって、講義参加者の教育や子どもに対する既定の概念を再構成してみるヒントを共に考えていくことを目的としています。

**テキスト：**

適宜、参考になるプリントを配布します。

**参考書：**

『経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か—』市村尚久他編著 2003 東信堂

**【04】【93】教育学特殊Ⅵ(4)**

言語教育の諸問題

言語文化研究所 教授 大津由紀雄

**授業科目の内容：**

言語教育の目的・目標、その方法、言語教育政策などについて多角的に検討する。受講者は毎回かなりの量の作業を求められる。言語学・教育学・心理学などの知識は前提としない。本コースは本年度のみ開講する。

**テキスト：**

文献リストを第1回講義にて配布する。

**参考書：**

文献リストを第1回講義にて配布する。

---

【04】【93】教育学特殊Ⅶ(4) 講師 田中克佳

---

授業科目の内容：

近世日本教育史研究—洋学教育史を中心に—：

近世日本(江戸時代)の代表的学問類型の呼称として儒学・国学とならんで洋学というものがある。それは、南蛮学・蘭学・洋学その他の西洋学術の個別時代的な呼称を包含する類型の呼称であるが、この洋学の伝来、移入、教授・学習などを日本近世教育史研究の関心に立って論述を試みる。

(洋学教育史研究の基本文献『蘭学事始』の履修者全員による会読も試みる予定。)

---

【04】【93】教育学特殊Ⅷ(4) 講師 坂本辰朗

---

授業科目の内容：

本年度の教育学特殊Ⅷはアメリカ大学史を取り上げる。1636年のハーバード大学の成立から19世紀末の「ユニバシティの時代」へ、さらには、世界の center of excellence へと、アメリカの大学は350年余の歴史の中で大きく変貌する中、日本を含む各国の高等教育へ理念的にも制度的にも大きな影響をあたえてきた。本コースでは、比較教育史的な視点をも含め、アメリカにおける higher learning の歴史を辿ってゆくことにしたい。

テキスト：

John R. Thelin. A History of American Higher Education. (Johns Hopkins University Press, 2004).

参考書：

ハンドアウトで指示する。

10) カリキュラム改革—選択制度の導入と知の構造化

11) “アメリカ的”大学院の成立

## 選 択 科 目

---

【04】教育学文献講読Ⅰ(4)

【93】文献講読Ⅰ(4)

休 講

---

【04】教育学文献講読Ⅱ(4)

【93】文献講読Ⅱ(4)

心理学の英語論文の講読

講師 中邑啓子

授業科目の内容：

心理学の様々な分野(発達心理学、教育心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、カウンセリングなど)に関連する英語論文を講読します。実証的な研究論文の読み取り方を論文の形式、解析方法、データの解釈の仕方等の異なる視点から学習します。論文は、現代の心理学の基礎となる必読文献や最近書かれた心理学の注目すべき論文などの中から選択します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

---

【04】教育学文献講読Ⅲ(4)

【93】文献講読Ⅲ(4)

江戸教育思想史研究

教授 山本正身

授業科目の内容：

この授業は、日本近世教育思想史研究に関心をもつ学生を対象として、この分野における基本的文献の読解能力を養うことを目指すものである。

今年度は、いわゆる古義学思想の教育認識を最も体系的な形で論じた伊藤東涯(1670-1736)の『古学指要』を講読する。テキストには、天理大学附属天理図書館古義堂文庫所蔵の『古学指要』東涯手沢本(享保四年、平安玉樹堂発行)、を使用する。

このテキストには、送り仮名と返り点が付されているので、少なくとも、高等学校で漢文学習を経験した学生ならば、読解は可能と思われる。教育思想のみならず儒学思想に関心のある学生の参加も、歓迎するものである。なお、その他必要な資料や参考文献については授業の中で適宜指示する。

テキスト：

上記文献のコピーを配布する。

参考書：

授業時に適宜指示する。

---

【04】【93】教育測定実験(4)

講師 大泉郷子

講師 小林琢哉

授業科目の内容：

この講義は、教育科学研究を実証的に行なうための方法を習得することを目的とします。

講義内容は、1. 教育心理学の検査の理論・方法、2. 実験・調査の2つから成り立っています。具体的には、心理検査や質問紙調査法の理論的背景および実施の仕方、実施後のレポートの作成法を学びます。また、実験および調査の結果をコンピュータ(SPSS, Excel等)により統計的に分析する実習を行います。春学期には、幼稚園児を対象とした知能検査実習も予定しています。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜、講義中に指定します。

---

【04】【93】教育研究法Ⅰ(2)(春学期)

心理教育統計法の基礎

【春】講師 山口陽弘

授業科目の内容：

代表値、散布度などの、ある集団を記述する際に必要な、記述統計学の基礎を完全に身につけてもらいます。それらを基本とした上で、推測統計学の基礎である、t検定などの検定理論を学習することを本講義の目標とします。

テキスト：

服部環+海保博之「Q&A心理データ解析」福村出版

参考書：

・山口陽弘「試験にでる心理学〈心理測定・統計編〉」北大路書房  
・吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房。

---

【04】【93】教育研究法Ⅱ(2)(秋学期)

心理教育統計法の応用

【秋】講師 山口陽弘

授業科目の内容：

前期で学習したことを踏まえて、様々な検定法や分散分析、多変量解析(因子分析)の基礎について解説します。

前期での学習進度に応じて、後期の進度も変わります。

テキスト：

山口陽弘「試験にでる心理学〈心理測定・統計編〉」北大路書房

参考書：

吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房。

## ○人間科学専攻

### 必修科目

#### 【04】【93】人間科学基礎 (2) (春学期)

【春】助教授 小林 ポオル

##### 授業科目の内容：

現代の都市生活者たる私たちのものの考え方や行動パターンには、どのような特徴があるのだろうか。

私たちはまわりの環境と相互作用を行うことで生活しているから、私たちがつくってきた社会・環境は逆に私たちの行動を構造的に規制してものの考えかたに大きな影響を与え、また人間関係のありかたにも影響を与えてきたはずである。

そこで、まず私たちが当然視することで暗黙のうちに私たちの行動を方向づけているものを考察することから始める。そして、それらが生活環境のどのようなメカニズムによってもたらされてきたのかを考える。具体的には、高度産業社会と規定される現代社会が、科学・技術に支えられたその生産システムをどのように作りあげ、私たちの行動をも組み込みながらどのように精緻化してきたのかを見、その中で人間のイメージがどのように変容してきたのかを考える。

しかし見方を変えれば、環境は自己の構造の投影と考えることもできる。それなら、自己の認識構造の基にある言語構造が自己のイメージを形づくりながらどのように成立し、環境世界をどう成立させているのかを考察する必要があるだろう。そこで次に、このプロセスが現代社会のイメージをどのように構造化したのかという経路も考察したい。

これらを通じて現代社会のさまざまなイメージと自己のそれとの相互性を認識するところで、視点の取り方による人間像・世界像の違い、いくつかの視点を総合することの難しさと面白さを経験してほしい。そして各自が人間を理解する道筋を考える出発点としてほしい。

##### 参考書：

随時配布する資料に明示する。

#### 【04】【93】人間科学研究法基礎 (2) (秋学期)

【秋】助教授 織田 輝 哉

##### 授業科目の内容：

人間をその諸活動から総合的に理解しようとすれば、研究手法に応じて異なる相を見せる人間像を統合する努力が不可欠である。現実の人間行動・人間性に対する洞察は、この複数の視点からの分析を統合する過程を通じて可能になる。

したがって、人間科学における研究法とは、それに依拠すれば自動的に研究が進行する便利な手順集ではない。問題解決のためのさまざまな種であり、ひな形である。人間科学を専攻する者は自らの関心・問題認識に応じてそれらを組み合わせ、改変し新たな研究スタイルを産み出しながら、戦略的に研究を進めていかねばならない。

本講義では、これへ向けての履修者の具体的研究の出発点を整備したい。そのために、現代のわれわれの生活を分析する上で有効であろうと思われるいくつかの概念や枠組みについて、また、資料分析技法の基礎概念について学んでもらう。授業は、講義とグループ討議・実習を組み合わせで行う。履修者が課題に関する討議に積極的に参加することで、単に知識や技術の習得に終わることなく、それらに具体的なイメージを持ち、手法の特質や限界・相対性を理解した上で、自分の問題意識の整理に役立てられるようになることを目的とする。

##### 参考書：

随時紹介する

#### 【04】【93】人間科学諸領域 I (2) (秋学期)

【秋】助手 北 中 淳 子

##### 授業科目の内容：

この授業では、現代社会における「心の病」について多元的な視点

から考察する。

第一に「心の病」の歴史的形成をたどり、近代社会において正常・異常の境界線がどのように引きなおされ、精神病として心理学・精神医学の対象となったのかを考える。

第二に、現代社会のさまざまな「心の病」(鬱、ひきこもり、摂食障害、人格障害、自殺等)をとりあげ、個人病理の次元を超えた文化現象としてどのように理解できるのかを探る。また、治療を受け、医学的視点を内面化することによって、実際に人々の経験がどのように変容していくのかについても考察する。「心の病」の分析を通じて、個人・社会・文化の異なるレベルから総合人間科学的に考えることの面白さを学んでもらいたい。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

##### テキスト：

医療人類学研究会編 『文化現象としての医療』 メディカ出版 1992年

#### 【04】【93】人間科学諸領域 II (2) (春学期)

【春】教授 三井 宏 隆

##### 授業科目の内容：

現代社会が直面する諸問題のなかから、(イ)セルフ・アイデンティティの問題、(ロ)スポーツを巡る問題の2つを順次取りあげ、近年の研究動向を社会心理学の立場から紹介する。「学問的研究とは、どういうものか」を、授業のなかで、実感していただきたい。

##### テキスト：

・三井宏隆「ボディ・セルフ・アイデンティティ・セクシュアリティの心理学」(ナカニシヤ出版, 2003年, 2200円)  
・三井宏隆・篠田潤子「スポーツ・テレビ・ファンの心理学」(ナカニシヤ出版, 2004年, 2200円)

#### 【04】【93】人間科学諸領域 III (2) (春学期)

【春】教授 鹿 又 伸 夫

##### 授業科目の内容：

人間と社会、つまり人間の相互影響過程の集積としての社会現象について、どのように理解して説明したら良いのか、社会科学とくに社会学の立場からの基本的な考え方を学んでいく。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

##### 参考書：

授業で指示する。

#### 【04】【93】人間科学諸領域 IV (2) (秋学期)

【秋】教授 宮 坂 敬 造

##### 授業科目の内容：

四つの人間科学諸領域コースのなかのひとつとして、文化要因に係わる人間行動と価値観、文化的相互作用・象徴表現行動と言説・心理特性を扱う。これらに関する諸問題群を理論的・経験観察的・言説分析的にとらえる基本的見方を検討する。文化心理人類学、文化心理学、文化精神医学などにまたがる学際的統合的接近、全体人間科学的理解への基本姿勢を解説する。講義の流れとしては以下となるが、半年コースのかたちなので、一部をとりあげながら全体を示唆するというやりかたになろう。

(1) 序論—グローバリズム状況下、変革期にある現代社会・世界の問題群と学問の関係、(2) パラダイムと方法論—比較法、構造的動態理解、(3) エスノセントリズムと「異文化」、(4) 非言語的文化的コミュニケーション・認知と文化、(5) 経済と文化—越境する移民動態、(6) 社会組織と文化、(7) 文化的自己とアイデンティティ、(8) 宗教と医療、(9) 多文化社会とエスニシティ・適応をめぐる医療人類学の問題、(10) 芸術と文化。

参考文献等は講義時にも指示するが、三田哲学会雑誌『別冊・文献案内』2004年版に、旧コース名「人間科学諸領域 D」を詳しく掲載してあるので参照してほしい。また、面接調査法に関しても、同書の人間科学専攻の欄に、文献もふくめて解説したので参照してほしい。学期なかばに一回もちかえりの宿題提出の課題(レポート用紙数枚程

度：HPにも掲示予定)、基本用語理解度を問う小テストなどがあり、その意味で100人以上の履修者がいる講義とはいえ結果的に平常点が重視される性格の科目である。講義のほか、番外の補講として、土曜日等の時間帯に、「映像をとおしてみる文化の分析」と題して、稀少な価値をもつ映画鑑賞の教養講座機会を二回程度もうける予定。

---

**【04】【93】人間科学研究法(質問紙調査Ⅰ)(4)(春学期集中)**  
**【春】教授 南 隆 男**

---

**授業科目の内容：**

「質問紙調査」って何か、を“アタマ”と“カラダ”で「理解」していきます。既存の実際の『調査事例』のいくつかを“眺める”ことから始めて、現象を記述し、その背後に在るメカニズムを析出して、事実間の相互連関を解析していくその「技術」と「戦略」とを“アタマ”とカラダに教え込んで”いきます。

**テキスト：**

まずは：土田昭司『社会調査のためのデータ分析入門』(有斐閣)。

**参考書：**

随時に紹介します。

---

**【04】【93】人間科学研究法(質問紙調査Ⅱ)(4)(秋学期集中)**  
**【秋】教授 南 隆 男**

---

**授業科目の内容：**

春学期の「質問紙調査Ⅰ」に引きつづく授業です。ちなみに、「質問紙調査Ⅰ」を履修済みの諸君のみがこの「質問紙調査Ⅱ」を継続履修できます。参画者の各人が、問題設定をして、①調査を実行し→②データを収集し→③それを分析・解析して→④「調査報告書」を作成・提出します。

**テキスト：**

『SPSS マニュアル』(SPSS)

**参考書：**

随時に紹介します。

---

**【04】【93】人間科学研究法(観察・実験)(4)(秋学期集中)**  
**【秋】教授 三井 宏 隆**

---

**授業科目の内容：**

特定のテーマのもとに、観察・実験などを行い、実際にデータを収集し、分析する。卒業論文の予行演習を兼ねたものである。

**テキスト：**

三井宏隆「データのとり方・まとめ方」(垣内出版、1992年、1900円)

**参考書：**

三井宏隆「実験・調査の考え方」(小林出版、1991年、1500円)

---

**【04】【93】人間科学研究法(測定と記述)(4)(春学期集中)**  
**【春】助教授 小 林 ポオル**

---

**授業科目の内容：**

意識調査など質問紙による調査を行うことは多い。しかし、これにより得られたデータを解析し、その内容を的確に把握する、ということは必ずしも容易ではない。本講義では、秋学期に開講する「人間科学研究法」(データ解析)とあわせ、調査結果の解析を行うために必要な基本概念を解説する。また、実際にそれらの基本概念を用いた解析を演習することにより、卒論等の研究上実施した調査を解析する技術を履修者が習得することを目的とする。

質問紙により得られたデータは、便宜的に数値として表現されることが多い。しかし、これらの数値の使い方は名目的であり、一般的な意味での尺度を構成しない。つまり、通常行われている統計的手法の適用はかなり制約を受ける。しかし、最終的には、それらカテゴリーカルなデータから意味のある数量を構成し、項目間の関係を把握することが目的になる。

本講義では、ふたつの項目間の関係につき、その関係の記述・関係の強さの表現の方法を検討する。また、これらの方法を多くの項目間

の関係にまで一般化するための基礎概念についても学習する。

---

**【04】【93】人間科学研究法(データ解析)(4)(秋学期集中)**  
**【秋】助教授 小 林 ポオル**

---

**授業科目の内容：**

春学期講義「人間科学研究法」(測定と記述)で得られた知識から出発し、多くの項目から成る調査データの全体像を明らかにすることを目的とする。これを達成するために、単項目の分析・2項目間の関係の分析を繰り返すのは現実的ではない。解析作業が膨大になり、複雑な関係を見誤って間違った解析になる危険がある。このため、解析手段を拡張し、多くの項目から成るデータを一括して視覚的に表現し、全体的構造の把握を容易にする方策を考える。

---

**【04】【93】人間科学研究法(計量と解析)(4)**

助教授 織 田 輝 哉

**授業科目の内容：**

この授業では、主として社会学的研究で必要となるコンピュータの使い方、データの取り扱い方を身につけることを目標とする。具体的な内容は次のようなものを予定している。

- ・表計算ソフトの使い方
- ・社会調査の基礎
- ・統計処理の基礎
- ・データ処理とプレゼンテーション
- ・簡単なシミュレーション

なお、授業の性格上出席は必須であり、また人数も制限する場合があります。詳しくは初回の授業で説明する

**テキスト：**

- ・西平重喜『統計調査法』培風館
- ・馬場浩也『SPSSで学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

---

**【04】【93】人間科学演習(原典講読)(2)**

教授 南 隆 男

**授業科目の内容：**

- ①社会学/社会心理学/文化人類学領域での主要学術雑誌に所載の「学術論文」(academic articles)を講読しながら、「研究する」とはどのようなことか、が“実感できる”ように、まずは、なっていくこと!
- ②研究という行為を支える「戦略」(Research methods and methodology)を、一年間の授業のなかで、“身につけていく”こと!  
以上ふたつのことの実践がこの授業での目的です。

**テキスト：**

最初の授業時に指示します。

**参考書：**

授業の進展に合わせて、随時、紹介します。

---

**【04】【93】人間科学演習(文献講読)(2)(春学期集中)**

英語論文を読む

【春】教授 三井 宏 隆

**授業科目の内容：**

英語論文の講読を通して、心理学関連の学術用語の理解、さらには心理学的な物の見方、考え方を習得する。

**テキスト：**

三井宏隆・中島崇幸(編)「キーワード検索による社会心理学研究案内」(ナカニシヤ出版、2002年、1700円)

---

**【04】【93】人間科学演習(洋書講読)(2)**

教授 宮 坂 敬 造

**授業科目の内容：**

人間科学諸領域Ⅳ(文化心理人類学、文化心理学、文化精神医学)に係わる学際的人間科学の地平から、基礎的英語専門論文を読解討論する訓練コース。専門論文の読み方、専門用語・発想・理解背景・調

査方法・観察事例等について各論文にそくして解説・討論する。教材は、医療人類学者 Allan Young 著. “Bruno and the Holly Fool,” 2004, および, “Self-traumatized perpetrator.” 2001, をまず用いていくが、詳細は講義時に指示する。演習は日本語でおこなうが、一、二回程度は、英語母国語の研究者をまじえて討論する機会をもうける予定。英会話・英語読解が得意というよりも専門論文を深く読む必要性を自覚した学生のための履修科目。日本語でこの種の論文を読んで知識を深めていく態度と同じ姿勢がまず必要であろう。小クラス形式で、平常点重視（出席発表が不可欠）。

---

**[04] [93] 人間科学演習（モダンデザインと情報化）(2)**

助教授 小林 ポオル

---

**授業科目の内容：**

モダンデザインに関する文献講読と討論を通じて、合理性基準の適用による環境の徹底的な改変、その人間への際限のない応用＝進歩という価値観の検討を行い、それに代わる指針の可能性を考察する。

**参考書：**

- ・ Baudrillard, J. 1983. *The Ecstasy of Communication*. In Foster, H.(Ed.) *The Anti-Aesthetic*. Bay Press.
- ・ Norman, D.A. & Draper, S.W.(Eds.)1986. *User Centered System Design*. LEA.
- ・ Norman, D.A. 1988. *The Psychology of Everyday Things*. BasicBooks.
- ・ 柏木 博 2002『モダンデザイン批判』岩波

---

**[04] 人間科学特殊（意思決定論）(2) (秋学期)**

**[93] 人間科学特論（意思決定論）(2) (秋学期)**

【秋】講師 山岸 候彦

---

**授業科目の内容：**

意思決定は、散文と似ている。ひとは特に意識せずに日々散文を口にして、意思決定を行う。にもかかわらず、よい散文を作ること・よい決定をすることは簡単ではない。本講から諸君に伝えたいことは、「よい決定は、なぜ難しいのか」ということである。履修者は、認知科学の入門書程度の知識があることが望ましい。

**テキスト：**

特に指定しない。

**参考書：**

- ・ 広田・坂上・増田（著）. (2002). *心理学が描くリスクの世界*. 慶応義塾大学出版会.
- ・ Plous, S. (1993). *The Psychology of Judgment and Decision Making*, McGraw-Hill.

---

**[04] 人間科学特殊（インタフェース論）(2) (秋学期)**

**[93] 人間科学特論（インタフェース論）(2) (秋学期)**

【秋】助教授 小林 ポオル

---

**授業科目の内容：**

本講義では、われわれが外界の事物・システムに対して持っている環境イメージと、人間—環境の相互作用の場であるインタフェースとを分析対象として考察を進める。

情報機器がブラックボックス化・高機能化するに伴い、機器が情報を一方的に送って使用者の論理的理解により作業達成を促進し、使用者は形式化された記号操作の系列で意思を効率的に転送するというインタフェースデザインは行詰まり、使用者の作業意欲を低下させている。機器の操作を、わけのわかった動きだけで構成すると、明確な目的が定まっている場合にはそれに効率的に近づける。しかし、「わけがわかる」ことは言語ないし言語代替の抽象記号の系列で表現できることだから、これを志向するインタフェースは正しい操作と間違いの対比が明確で、無駄のない整合的な論理応答が可能だが、遊びがなく、面白くない。操作を他の状況と結び付けて有機的関係を作る契機がなく、使用者はイメージの広げようがないので、機器操作は単なる義務的手続きになってしまう。これは安直であるが無味乾燥な環境の出来をもたらしている。

また、制御の自動化によりさまざまな作業から不安・危険を取り除

けば、日常生活の面白さも同時に消滅する。これは同時に、記号的に整除されない実環境の先の見えないことに対抗してリアルタイムに何とかする訓練の機会の消失でもある。機器操作とは本来人間が環境に働きかけ、その結果に応じてその場でさらにやり方を考えるという相互作用それ自体の心地よさ・面白さに基盤を置くものはずである。

人間の環境への働きかけを利便性向上のために単一化するのではなく、その本来的な多様性を尊重し、実環境の両義性に積極的に対処するリアルタイムの相互作用をインタフェースデザインにどう結実させるかを考察しながら、履修者が『快適な』『豊かな』環境を考えることの広がりを実感し、さらに現代環境に対する自らの問題意識を明確化することを本講義の目的とする。

---

**[04] 人間科学特殊（芸術と人間）(2) (春学期)**

**[93] 人間科学特論（芸術と人間）(2) (春学期)**

近代日本における芸術場の形成

【春】講師 田中 秀隆

---

**授業科目の内容：**

本年度は、ピエール・ブルデューの「芸術場」の概念を使って、近代日本を具体的に分析する。方法としては、岡倉天心にスポットをあて、彼の多様な活動を、近代日本の「芸術場」を創りだしていくための闘いとして理解する中で、近代日本で形成された芸術制度の特色を浮き彫りにする。本講義では周道的に思われている芸術制度に関して積極的に取り上げていきたい。

**テキスト：**

茨城大学五浦美術文化研究所監修『岡倉天心アルバム』中央公論美術出版

他に講義資料プリントを適宜配布します。

**参考書：**

P.ブルデュー 石井洋二郎訳『芸術の規則』1・2 藤原書店

---

**[04] 人間科学特殊（現代日本人のライフスタイルⅠ）(2) (春学期)**

**[93] 人間科学特論（現代日本人のライフスタイルⅠ）(2) (春学期)**

【春】講師 林 光

---

**授業科目の内容：**

企業が生活者とコミュニケーションを図ろうとするとき、生活者の価値観やライフスタイルなどを把握していれば有効なコミュニケーションを果たすことが出来る。広告コミュニケーションも、いまや一方的な情報発信ではこと足らず、マルチな手段と多角的な内容が求められている。生活者研究を20年続けてきた立場から、生活者把握の多様な方法とその分析手段から表現方法まで、具体的な例を交えながら考察していきたい。

**テキスト：**

特になし

**参考書：**

特になし

---

**[04] 人間科学特殊（現代日本人のライフスタイルⅡ）(2) (秋学期)**

**[93] 人間科学特論（現代日本人のライフスタイルⅡ）(2) (秋学期)**

ライフスタイルの多様化 【秋】講師 本庄 美佳

---

**授業科目の内容：**

本講義では、女性の社会進出によるライフスタイルの変容と、若い世代のライフスタイルの動向に焦点を当てて、ライフスタイルの多様化について考えてます。就職・結婚・出産・育児など若い世代のライフスタイルに大きな影響を与えるトピックについて、小学生の子どもを育てつつ、両立支援関連の業務もしている自分自身の経験も生かし、さまざまな素材を提供していきたいと思います。また、そういうライフスタイルの多様化がもたらす、社会全体の変化の潮流も一緒に考えたいと思います。

**テキスト：**

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

特に指定しません。講義の際に随時紹介します。

---

**[04] 人間科学特殊 (コミュニティ心理学) (4)****[93] コミュニティ心理学 (4)** 講師 久田 満**授業科目の内容：**

コミュニティ心理学は、伝統的臨床心理学に対するアンチテーゼとして誕生した。わが国では臨床心理学の下位分野として位置づけられてはいるが、近年欧米では、独立した1分野として、産業・組織心理学、公衆衛生学、精神腫瘍学、医療人類学等との連携を深めながら、その地位を確立しつつある。この授業では、「一つの見方」としてのコミュニティ・アプローチの実践例をできるだけ多く紹介し、このアプローチのわが国における応用可能性について論議したい。取り上げる例は、スクールカウンセリング、企業の風土改革、ドメスティック・バイオレンス、ホスピス病棟での終末期医療、大都市虚弱老人への介入戦略などである。

**テキスト：**

特に指定しない。

**参考書：**

授業中に適宜、紹介する。

**授**

---

**[04] 人間科学特殊 (仕事と人間 I) (2) (春学期)****[93] 人間科学特論 (仕事と人間 I) (2) (春学期)**職業適性と能力開発 【春】教授 南 隆 男  
講師 外 島 裕**授業科目の内容：**

仕事と人間 I では、組織で期待される職務行動と個人の特性の把握、および能力開発をテーマとする。

職業適性の概念を整理し、個人差の把握の諸方法について紹介する。その具体的な場面として、採用および管理職登用をとりあげる。次に、能力開発について、人事諸制度との関連で述べる。仕事との接点で自己を理解し、開発する方向を提示したい。

**テキスト：**

外島裕・田中堅一郎 (編著) 『増補改訂版 産業・組織心理学エッセンシャルズ』ナカニシヤ出版、2004年

**参考書：**

必要に応じ紹介する。

---

**[04] 人間科学特殊 (仕事と人間 II) (2) (秋学期)****[93] 人間科学特論 (仕事と人間 II) (2) (秋学期)**動機づけ・リーダーシップと職場のメンタルヘルス。  
【秋】教授 南 隆 男  
講師 外 島 裕**授業科目の内容：**

仕事と人間 II では、組織成員の相互作用および組織の制度や風土からの個人行動への影響をテーマとする。

動機づけのメカニズムを整理し、職務の設計と自己決定の重要性を考える。さらに、リーダー行動の諸説と組織変革を紹介し、集団における相互作用ならびに問題解決の必要性を理解する。また、職場ストレスの観点から健康な組織について提言する。組織のなかでの関係性をふまえて、仕事と自己実現の課題を提示する。

**テキスト：**

外島裕・田中堅一郎 (編著) 『増補改訂版 産業・組織心理学エッセンシャルズ』ナカニシヤ出版、2004年

**参考書：**

必要に応じ紹介する。

---

**[04] 人間科学特殊 (社会システム論) (2) (春学期)****[93] 社会システム論 (2) (春学期)**相互連関のシステムとしての社会  
【春】講師 杉 野 勇**授業科目の内容：**

行為・予期・規範・制度などの相互連関を重視しつつ、様々な社会

学的テーマをオムニバス形式で学習し、基本的な考え方を習得する。

**テキスト：**

特に指定しない。

**参考書：**

授業中適宜紹介する。

---

**[04] 人間科学特殊 (精神病理学) (2) (秋学期)****[93] 精神病理学 (2) (秋学期)**

精神医学の基礎 【秋】講師 古 茶 大 樹

**授業科目の内容：**

精神病理学・精神症候学を中心に、精神医学の基礎について学びます。

**テキスト：**

特に指定しません。講義プリントを配布します。

**参考書：**

濱田秀伯著「精神症候学」弘文堂 ¥8,000-

---

**[04] 人間科学特殊 (都市生活と景観 I) (春学期) (2)****[93] 人間科学特論 (都市生活と景観 I) (春学期) (2)**自然・人間・都市  
(人間と自然との相互作用としての景観について)  
講師 高 山 啓 子**授業科目の内容：**

「都市の時代」といわれる現代において「景観」は大変重要な課題となっているが、人間にとって景観は、文明の発展、社会の形成などの面で、大変重要な意味を持っていた。

景観建築 (Landscape Architecture)、景観計画 (Landscape Planning)、景観工学 (Landscape Engineering) など景観にかかわる学問は、自然科学、社会・人文科学、芸術、工学などさまざまな分野と関連した「境界領域」(interdisciplinary field) の学問であり、総合的あるいは包括的な (holistic) 分野として、注目されている。現代の世界は、高度な文明の発達段階にあるものの、私たちの住む都市の環境に目をやると、このような文明が私たちの幸福の増進にかならずしも貢献しているとは限らないということに気づく。「景観とは何か」、「人間はどのようにして景観を造ってきたか」、「未来の景観づくりはどうあるべきか」について人間と環境との相互作用としての景観という視点から、欧米などの都市景観の変遷、東京都内のフィールドスタディなどを行いながら都市の環境・景観について実践的に学び、考えていく。

**テキスト：**

アーバンエコシステム (自然と共生する都市) : A. スパーン著、高山啓子訳、(環境コミュニケーションズ刊 4,300円)

**参考書：**

- ・ヒューマニティ&エンヴァイロメント : I.G. シモンズ著、高山啓子監訳、信山者サイテック刊。I. マックハーグ著、下川辺淳監訳、デザインウィズネイチャー。
- ・I. マックハーグ共生への哲学、緑の読本 Vol.56 環境コミュニケーションズ刊。他 (授業の進行に合わせて紹介)

---

**[04] 人間科学特殊 (都市生活と景観 II) (秋学期) (2)****[93] 人間科学特論 (都市生活と景観 II) (秋学期) (2)**21世紀の景観創造と新たなライフスタイルの構築  
自然との共生、快適性、歴史性・文化性に配慮した都市環境の創造  
講師 高 山 啓 子**授業科目の内容：**

現在の都市景観は、さまざまな気候風土を舞台とした人間と自然との相互作用の結果であるが、文明のパラダイムが大きく変化する中、都市景観形成の思想、目標の見直しが迫られている。このような状況下での都市環境ならびに景観形成のあり方について、水と緑など都市の自然環境、インナーシティ、郊外、近郊の田園及び自然地域の景観の保全と形成など、具体的な事例を取り上げながら、時間・空間など様々な角度から考えていく。さらに、これとともに社会・文化的環境と景観、安全性・健康性・快適性と景観などについて、新しい都市づ

くりの視点を取り上げて検討する。テーマ：「都市の森と広場」「インナーシティ」「郊外」「都市近郊林」など。2 回程度のフィールドスタディ（大名庭園，都市再開発など）を実施する予定。

**テキスト：**

景観の言語（A.W. スパーン著）環境コミュニケーションズ（7 月発刊予定）

**参考書：**

- ・ 社会文化史に見る都市の自然と公園緑地（連載）「緑の読本」：高山啓子著，環境コミュニケーションズ刊 Vol49, 51, 52, 53, 55, 57, 58, 60, 61。
- ・ アーバンエコシステム（自然と共生する都市）：A. スパーン著，高山啓子訳，環境コミュニケーションズ刊。ヒューマニティ & エンヴァイロメント：I.G. シモンズ著，高山啓子監訳，環境コミュニケーションズ刊。

**[04] 人間科学特殊（パーソナリティ研究）(4)**

**[93] パーソナリティ研究（4）**

パーソナリティ心理学の理論と方法

講師 岩熊史朗

**授業科目の内容：**

われわれは，家族や知人のそれぞれを他の誰とも違う唯一無二の個人として認知し，それぞれの“人となり”を多少なりとも理解した上で生活をともにしています。このような個人の「人となり」「個性」「性格」などは，心理学において「パーソナリティ」という概念のもとに研究されてきました。この講義では，パーソナリティに関する主要な理論，研究方法，診断・評価技法を概観し，パーソナリティを把握するための視点についての理解を深めます。また，「人間が人間を理解する」ということの意味についても，社会心理学的な視点あるいは認識論的な視点から言及していく予定です。

**テキスト：**

指定しません。

適宜ハンドアウトを配布します。

**参考書：**

- ・ 本明寛（編）「性格心理学新講座 1 性格の理論」（金子書房，1989 年）
- ・ 杉山憲司・堀毛一也（編集）「性各研究の技法」（福村出版，1999 年）
- ・ クラーエ，B.（堀毛一也編訳）「社会的状況とパーソナリティ」（北大路書房，1996 年）
- ・ ミッセル，W.（訖摩武俊監訳）「パーソナリティの理論 — 状況主義的アプローチ —」（誠信書房，1992 年）
- ・ バー，V.（田中一彦訳）「社会的構築主義への招待 — 言説分析とは何か —」（川島書店，1997 年）

**授**

**[04] 人間科学特殊（比較文化関係論）(4)**

**[93] 比較文化関係論（4）**

「文化を比較する」ということ

講師 中村 淳

**授業科目の内容：**

「比較文化」は，きわめて日常的な行為である。他人のふるまいを自己と比較した際に感じる違和感は，社会に生きるわれわれの誰にとっても身近なものである。と同時に，その行為の本質について突き詰めようと思えば困難にもぶつかる。違和感の正体はなんなのか？「われわれ」と「かれら」の差異はどこにあるのか？それはどのような文脈で「文化」に帰結するのか？

以上のような問題関心を，講師のバックグラウンドである文化人類学・民俗学の視点から切り分け，整理しながら，「文化」と「比較」という概念について解説・検討してゆく。文化人類学ないし民俗学に関する基本的な知識を持っていることは，講義理解に役立つが必須ではない。

**テキスト：**

授業中に適宜指示する。講義で配布するプリントは，下記授業用ホームページ上に掲載する。

**参考書：**

山下晋司編『文化人類学 — 古典と現代をつなぐ 20 のモデル』（タ

イトルは仮題，弘文堂より 2005 年 3 月刊行予定)

**[04] 人間科学特殊（米国の多民族社会と文化）(4)**

**[93] 人間科学特論（米国の多民族社会と文化）(4)**

米国におけるアフリカ系およびカリブ系アメリカ人の表現文化にみる多文化的状況

講師 三吉美加

**授業科目の内容：**

米国において「黒人」とされる人びとを対象に，彼／女らの表現文化にみる社会的文化的多様性を理解しながら，エスニシティや人種に関する問題を考察していきます。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。

**[04] 人間科学特殊（臨床心理学）(4)**

**[93] 臨床心理学（4）**

個人援助と家族援助の視点から

講師 若島孔文

**授業科目の内容：**

臨床心理学の中でもとりわけ心理援助と問題解消のためのアプローチについて論じる。具体的に事例を提示し，心理援助とは何であるのかを学んでいただく。心理援助の視点から人間について学び，また，他の学問領域のパラダイム（例えば社会学・言語学など）から臨床心理学的援助について解説を加える。

**テキスト：**

若島孔文 2004 脱学習のブリーフセラピー（金子書房）

**[04] 人間科学特殊（トランス文化過程とコミュニケーション）(2) (春学期)**

**[93] 人間科学特論（トランス文化過程とコミュニケーション）(2) (春学期)**

【春】教授 宮坂敬造

講師 クレマー，モニカ

**授業科目の内容：**

「トランス文化」とはまだこなれない言葉だが，transcultural を意味する。とくに，グローバリゼーション時代に交錯する多文化接触状況に特徴的にあらわれるコミュニケーションを検討課題とし，その枠組みのなかで異文化接触とコミュニケーションの問題をみつかる（さまざまな下位項目をもつが，今回は，総論のあとで，「ディアスポラ集団にかかわる異文化間コミュニケーションを主題としてすすめる」）。

講義でとりあげる話題は，以下を各二回程度のみやすとして組織。

- (1) グローバリゼーションとトランス文化の位相
- (2) 非言語的コミュニケーションと文化
- (3) 異文化間コミュニケーション論の最近の展開の批判的検討と，ヨーロッパドイツにおけるあたらしい枠組みの展開
- (4) ディアスポラ集団にかかわる異文化間コミュニケーション — 理論，ドイツ人と日本人の事例検討
- (5) 移民の不適応と多文化間コンサルテーション
- (6) 異文化経営への接近

なお，この履修案内執筆時にはまだ未決定であるが，なんらかのかたちで，学期中來日予定のドイツからの文化人類学者（異文化間コミュニケーション論）M・クレマー研究員の協力をえて，一部ワークショップ形式をとり入れるかたちで組む予定。同研究員をまじえて一部英語を使用する場合もある。多様な背景をもった学生もふくめて履修者が集まることを希望するが，ワークショップ形式が可能な範囲内に人数を絞ることになる。こうした枠組みのため，毎回参加重視の平常点科目となる。参考文献等は講義時に指示するが，その一部は，三田哲学会雑誌『別冊・文献案内』2004 年版に，人間科学専攻の欄に宮坂担当科目の一項目に掲げてある。履修の要領については，初回の講義時に詳しくガイダンスする。

---

**【04】人間科学卒業研究 (2) (秋学期)****【93】人間科学特論 (卒業研究) (2) (秋学期)**

【秋】教授 鹿又伸夫  
助教授 織田輝哉

---

**授業科目の内容：**

この科目は、コースA（「人間科学研究会Ⅱの履修と卒業論文提出」を卒業要件としないコース）を選択した人間科学専攻4年生の必修科目である。

具体的な内容・評価の基準等を説明するので、第1回目の授業に必ず出席すること。また、この科目に関する掲示は必ず確認すること。

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅰ(2)**

教授 南 隆 男

---

**授業科目の内容：**

わたくしの担当するこの「研究会」は、旧来の「学問の区分け」上の用語に照らせば、広くは「行動科学」と呼ばれていた領域、より限定的には「社会行動論」「組織行動論」「ライフコース論/生涯キャリア発達論」（その「中核的」イシューのひとつでもある「セックス・セクシュアリティ」をも含みます）と呼ばれる研究領域をカバーするべく「位置付けられて」います。ですが、そのなかで、どのような事象・問題を具体的にとりあげるかは、履修する学生諸君の意向・興味・関心との関係もあり、「これを」というふうには、現時点（2004年12月時点）では、決めていません。「決めている」のは『研究会』を、教師のわたくしを含めて「われ疑う、ゆえに、われ在り」の『時空間』へと、がんばって近づけて行こう！ということ。

蛇足ですが：よっぽど気をつけないと（教師はもちろんだが学生の諸君も気張らないと）「研究会」（“ゼミ”）って呼ばれる授業は「アタマもダレて来てカラダもナエてくるだけの時空間」に成りがちだ。ゆえに、共に頑張りヤルコトをやり抜きましょう！いつもの通り、一年間の「研究会」活動を通して、三年生は「自己の研究課題」を明確にしてゆくことに、四年生は「卒業論文」を完成させることに、努力を傾注・集中させていきます。

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅱ(2)**

教授 南 隆 男

---

**授業科目の内容：**

- ① 人間科学研究会Ⅰ（南）と、基本的には同じ、です。
  - ② この「研究会Ⅱ」のほうは、四年生用—「卒業論文」完成への対応・指導—ということですが、三年生諸君も同席し、“つき合い”ます。
- 

**【04】【93】人間科学研究会Ⅰ(2)**

教授 三井宏隆

---

**授業科目の内容：**

研究会Ⅰでは、卒業論文作成の準備段階として、社会心理学の基本的な物の見方、考え方を学習する。具体的には、新聞記事を題材として、それらをどのように学問的に料理するかを考えるなかで、研究のノウ・ハウを習得していくことが期待される。

**テキスト：**

三井宏隆・中島崇幸（編）「キーワード検索による心理学研究案内」（ナカニシヤ出版、2001年、1800円）

**参考書：**

三井宏隆「レポート・卒論のテーマの決め方」（慶應義塾大学出版会、2004年、1500円）

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅱ(2)**

教授 三井宏隆

---

**授業科目の内容：**

研究会Ⅱは、ゼミの4年生が履修する卒論コースである。

履修者は、各自の研究テーマに基づいて卒論をまとめることになるが、年度の途中で何回かの中間発表を求められる。

**テキスト：**

三井宏隆ほか「心理学・卒論マニュアル」（垣内出版、1999年、1600円）

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅰ(2)**

教授 宮坂敬造

---

**授業科目の内容：**

人間科学としての比較文化研究（文化人類学・心理人類学・記号論・医療人類学・20世紀末のパラダイムのゆらぎを念頭に置きながら）に関係した諸問題を扱い、ゼミ討論し、問題の見つけ方、発想の立て方、記号・分析総合の方法の一部を相互に訓練する。ある文化における小規模集団の象徴行動やそれが表象されたものをどう観察収集するのか、それに基づいてその文化の価値観、心情、アイデンティティを社会関係と関連させながらどう理解していくか—一人々の言行を観察すると言ったが、それは「観察者」と「観察される人々」の間に進んでいく関係性に条件づけられるのではないか（更にいえば、社会経済的關係にも影響されながら前者後者の文化同士を背負った間文化的關係の場の中で互いに接触している—そのことを考えねばならぬのでは？）。このような問題意識を中心にもち、また構造論・現象学的視点・全体システム論の立場をからませた視点と、相互作用分析（象徴的コミュニケーション分析）、文化テキスト・ディスコース内容分析の方法意識を背景に置く。具体的には、比較文化に関連するサブテーマ（他者のイメージ・異文化理解・文化とアイデンティティ・文化と認知・感情・危機と通過儀礼・危機における象徴的行動・文化摩擦・文化と精神病理・身振りや空間の象徴的意味・芸能・絵画・舞踏と文化・サブカルチャー・大衆文化・小規模社会・ポスト現代の多民族複合社会・医療人類学など）等の問題領域の一部を取り上げてゆく。参考書はその都度指示。

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅰ(2)**

教授 鹿又伸夫

---

**授業科目の内容：**

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

**テキスト：**

授業で指示する。

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅱ(2)**

教授 鹿又伸夫

---

**授業科目の内容：**

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

**テキスト：**

授業で指示する。

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅱ(2)**

助教授 小林ポオル

---

**授業科目の内容：**

我々を取りまく様々な事物はその表面的な現れ・機能とは別の働きかけを人間に対して行っている。もちろんそれらの事物—現代の環境—を作ってきたのは人間の側であるが、当初想定された機能と環境に組み込まれた現実のそれとは往々にして一致していない。現実には、ほとんどの環境は結果として形成されたものであって、比較的小さな個別的な変化が集積されることにより全く異質の機能を獲得したものである。

このような環境は単に科学技術のみの力によって形成されて来たわけではない。むしろ現代に至る科学技術の発展の原動力となったものが、この環境の変化をも支えてきたと考えるのが妥当であろう。そこでこれがどのような機制によって変遷を遂げて来たのか、またこの過程でおこった人間の側の反発・抵抗がどのような形で現れたかということを探ることからこの原動力と科学技術・現代の環境の間の関係を認識し、その上で我々にとっての人間的な環境を追求することを課題とする。

---

**【04】【93】人間科学研究会 I (2)**

助教授 織田輝哉

---

**授業科目の内容：**

この研究会では、社会的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会 I (3 年次) では、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、社会的行為理論・ゲーム理論・社会ジレンマ研究・マイクロ・マクロ問題・秩序問題等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会 II (4 年次) では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

---

**【04】【93】人間科学研究会 II (2)**

助教授 織田輝哉

---

**授業科目の内容：**

この研究会では、社会的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会 I (3 年次) では、社会学における合理的選択アプローチの基礎と応用について、社会的行為理論・ゲーム理論・社会ジレンマ研究・マイクロ・マクロ問題・秩序問題等の課題を取り上げながら学習していく。

研究会 II (4 年次) では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

---

**【04】【93】人間科学研究会 I (2)**

助手 北中淳子

---

**授業科目の内容：**

この研究会では、現代社会における健康と病 (特に「こころの病」) に関連した事象を、医療人類学的視点から分析していく。前半では医療人類学の基本的な文献を取り上げ、その報告と討論を中心に行う。後半では、各自が選んだテーマについて文献・フィールド調査を行い、発表・討論を重ねていきたい。

**テキスト：**

授業で指示する

---

**【04】【93】人間科学研究会 I (2)**

身体文化論 理工学部 教授 石井達朗

---

**授業科目の内容：**

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとして場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアニズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

**テキスト：**

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役にたつ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

**参考書：**

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』(以上、新宿書房)
- ・石井達朗『アウラを放つ闇』(パルコ出版)
- ・石井達朗『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』(以上、青弓社)
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』(筑摩書房)
- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)
- ・市川雅『行為と肉体』(田端書店)、『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

---

**【04】【93】人間科学研究会 II (2)**

身体文化論 理工学部 教授 石井達朗

---

**授業科目の内容：**

卒業論文の計画と作成が主な作業である。以下の内容は、研究会 I と同じである。

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミはお互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとして場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアニズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

**テキスト：**

共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキスト、役にたつ情報、適切な方法論とは何かを探求するために、時間を費やしてほしい。

**参考書：**

- ・石井達朗『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』(以上、新宿書房)
- ・石井達朗『アウラを放つ闇』(パルコ出版)
- ・石井達朗『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』(以上、青弓社)
- ・ラリィ・マキャフリィ『アヴァン・ポップ』(筑摩書房)
- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)
- ・市川雅『行為と肉体』(田端書店)、『シリーズ 性を問う』全5巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

---

**【04】【93】人間科学研究会 I (2)**

メディア・コミュニケーション研究所 教授 萩原 滋

---

**授業科目の内容：**

本研究会では、2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期に社会心理学のテキストを講読して基礎的な知識を習得した後、秋学期には各自が関心のあるテーマを選んで、関連する文献を選んで発表を繰り返し、それに関する議論を通じて卒業論文の準備を進める。

**テキスト：**

社会心理学のテキストを2冊ほど指定する

**参考書：**

研究法に関する文献を指定する

---

**【04】【93】人間科学研究会Ⅱ(2)**

メディア・コミュニケーション研究所 教授 萩原 滋

---

**授業科目の内容：**

本研究会では、2年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期には、3年生を中心に社会心理学のテキストを講読することになるが、4年生は、昨年度からの研究テーマを掘り下げて、卒業論文制作の準備を具体的に進め、適宜、進行状況を発表する。

**テキスト：**

社会心理学のテキストを2冊ほど指定する

**参考書：**

研究法に関する文献を指定する

---

**【93】現代家族論(4)**

---

休講

---

**【93】精神分析学(2)(秋学期)**

---

休講

---

**【93】組織行動研究(4)**

---

休講

---

**【93】対人行動学(4)**

---

休講

---

**【93】人間科学諸領域A(4)**

---

休講

---

**【93】人間科学諸領域B(4)**

---

休講

---

**【93】人間科学諸領域C(4)**

---

休講

---

**【93】人間科学諸領域D(4)**

---

休講

---

**【93】人間—環境系論(4)**

---

休講

---

**【93】人間関係学(4)**

---

休講

---

**【93】文化と精神病理(4)**

---

休講

---

**【93】ライフコース研究(4)**

---

休講

---

# 全専攻共通科目

現在、文学部は5学科17専攻を擁する。そのため、そのいずれかに所属する学生諸君はともすれば狭い専門分野にとらわれて、知識や学問に対する広い展望を見失いがちである。そうした不足を補い、学生諸君がより自由で柔軟な知的態度を身につけることができるようにと文学部が考え設置したのが全専攻共通科目である。特定の専攻分野に属さないもの、あるテーマを専攻横断的に扱うもの、諸種の語学、記念・寄附講座として設置されているものなど内容は多岐にわたるが、この多様と混沌にこそ、ある意味では文学部の真骨頂があり、さらには人間そのものの本質があると言えるのではないだろうか。学生諸君はどうかアンテナの数を増やし、感度を高めて、これらの科目の中からこれはというような発見や出会いや感動を拾い出していきたいと思う。

## 【04】教育学概論(学芸員)(2)(秋学期)

### 【93】教育学概論(学芸員コース)(2)(秋学期)

おとなの学びについて考える

【秋】講師 村越純子

#### 授業科目の内容：

国際化・高齢社会におけるおとなの学びについて考えていきます。海外のU3Aの動きなどを紹介しながら、今後の日本の教育課程について考えていきます。

#### テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

#### 参考書：

授業中に紹介します。

## 【04】【93】生涯学習概論(2)(秋学期)

教育問題の創造

【秋】講師 白石克己

#### 授業科目の内容：

- ① 生涯にわたる学習をライフワイド(生活)、ライフタイム(一生涯)、ライフウェイ(生き方)という三つの視点で分析できる。
- ② 生涯にわたる学習機会を通学方式、遠隔方式、寄宿方式、広場方式に分け、その支援のあり方がわかる。
- ③ 生涯にわたる発達を青少年期、成人期、高齢期に分け、その特徴に応じた支援のあり方がわかる。
- ④ 生涯にわたって「善く生きる」ための支援のあり方がわかる

#### テキスト：

白石克己編著『生涯学習論—自立と共生』実務教育出版1997

#### 参考書：

- ・白石克己著『生涯学習と通信教育』玉川大学出版部1990
- ・白石克己編著『生涯学習を拓く』ぎょうせい2001
- ・白石克己編著『ITで広がる学びの世界』ぎょうせい2001

## 【04】【93】視聴覚教育メディア論(2)(秋学期)

画像ドキュメンテーションからメディア・リテラシーまで

【秋】講師 波多野宏之

#### 授業科目の内容：

本講義では、写真、ビデオ、CD-ROM等の視聴覚資料を見て感じることを重要視する。まず情報伝達手段、視聴覚資料・機材の歴史と現状を概観した後、画像の収集から利用に至る一連の過程、すなわち画像ドキュメンテーションの主要課題について検討する。第一に写真を中心とした画像資料の管理から画像データベースの構築に至る諸問題、Visual Resourcesキュレーターの任務を考える。第二に画像の記述や分類、インターネットなどによる画像へのアクセス、デジタル画像の複製・表示や知的財産権について考察する。第三に画像情報の利用を容易にする画像索引からビジュアル・カルチャーの分析に至る〈方法としての画像〉の諸問題を考え、音声情報・音声メディアにつ

いての考察、メディアの理解と活用を図る〈メディア・リテラシー〉の検討でまとめとする。

#### テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

#### 参考書：

- ・波多野宏之『画像ドキュメンテーションの世界』(第2刷)勁草書房、1995
- ・波多野宏之編著『デジタル技術とミュージアム』勉誠出版、2002

## 【04】【93】博物館学(4)

講師 西田宏子

#### 授業科目の内容：

- ・博物館とは何かを、各自が体験する年間25~30回の見学を義務とします。
- ・見学したら、レポートを書いてもらい、これを、毎週行います。
- ・講義は、その年の展覧会を中心に、博物館学としての必要なところを、話してゆきます。

#### 参考書：

展覧会の図録、博物館の紀要など。

## 【04】【93】博物館学実習 I A (3)

### 【93】博物館学実習 A (3)

教授 阿部祥人  
助教授(有期) 櫻井準也  
講師 西田宏子

#### 授業科目の内容：

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習Aを履修する者と同Cを履修する者とに分ける。この振り分けの詳細な説明は4月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外は履修は認められない。

## 【04】【93】博物館学実習 I B (3)

### 【93】博物館学実習 B (3)

助教授 佐藤孝雄  
助教授 安藤広道  
助教授(有期) 櫻井準也  
講師 西田宏子

#### 授業科目の内容：

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが



**参考書：**

伊藤寿朗・森田恒之編著『博物館概論』学苑社，1978年。

[秋学期]

**授業科目の内容：**

良き学芸員になるための実践的博物館学  
・美術館・博物館における常設展・企画展などの企画・運営について、多面的に検討する。とくに、近年注目されている美術館教育の実状や課題、展望なども考察したい。  
・秋学期には、博物館の3大機能を「団子3兄弟」にたとえて解説することから始め、「保存」と「展示」の矛盾（2男団子と3男団子の喧嘩）の解決役としての学芸員（クラトール＝ケアする人）の役割について考察します。展覧会出品交渉術や真贋問題への対応などを説明し、問題解決能力のある学芸員養成を目指します。採用試験対策も指導します。

**参考書：**

石森秀三著『博物館概説』（放送大学教材 85551-1-9911，1999年）

**[04] [93] 漢文講読 I (2)**

伝記や批評を読み、唐詩について考える

講師 今原和正

**授業科目の内容：**

すでに英語を学んでいる皆さんにとって、漢文の語法はそれほど難しいものではありません。漢文読解の難しさは、ひとつひとつの語の意味を吟味することにあります。授業では、返り点のうってない文章に「語釈」を付け、それにもとづいて文意を読みとり、自分で返り点をうつ練習をします。また、あわせて唐詩全般についての知識を身につけるとともに、通説にとらわれずに詩の解釈をするおもしろさを味わってもらおうと思っています。伝記資料としては「全唐詩小伝」、批評資料としては「唐詩鏡」の評語が主となります。とりあげる作品は初唐から晩唐までの比較的有名なものとなりました。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布します。

**参考書：**

- ・『唐詩鑑賞辞典』（前野直彬編）
- ・『漢文まとめと要点』（森野繁夫等・白帝社）
- ・『唐代の詩人一その伝記』（小川環樹編・大修館書店）

**[04] [93] 漢文講読 II (2)**

講師 伊藤晋太郎

**授業科目の内容：**

思想・歴史・小説・エッセイなど様々なジャンルの文章から何篇か選び、精読します。受講者数にもよりますが、なるべく受講者参加型の演習形式で授業を進めたいと考えています。

**テキスト：**

プリントを使用します。

**[04] [93] 応用情報処理 I (テキスト処理) (2) (秋学期)**

[秋] 講師 中島玲子

**授業科目の内容：**

我々の日常生活において、PCや携帯電話などで文字を読み書きすることはもはや当たり前のことである。しかしその仕組みや、より有効な処理方法については意外と理解されていない。この授業では、コンピュータおよびインターネットで扱うテキスト、つまり文字列についての様々な問題を扱い、コンピュータで文字を扱うとはどういうことかについて理解を深める。その上でPerlプログラミングの基礎を含め、テキスト処理の方法やツールについて概説し、受講生諸君のレポートや卒論の作成にも役立てられるような文字列処理の基礎を、演習を通して習得することを目標とする。前半は文字コードおよびフォント、漢字コード、特殊文字や文字化けなどのさまざまな問題について学び、後半は各種のアプリケーションソフトやツールを用いた文字列処理、単語の切り出しや出現頻度の集計、分析などを行う。ほぼ毎回課題を出題する。

受講者は「基礎情報処理」を履修済みであることを前提とする。Windowsおよびメールソフトの基本操作に習熟していないと授業への参加は困難である。WordやExcelなどのアプリケーションソフトの使い方を学ぶ講義ではないので注意すること。

**テキスト：**

オンラインで資料配布

**参考書：**

- ・深沢千尋『文字コード「超」研究』ラトルズ，2003。
  - ・林竜生ほか『インターネット時代の文字コード』共立出版，2002。
- その他授業中に適宜紹介

**[04] [93] 応用情報処理 II (Excel) (2) (秋学期)**

Excelを使ったデータ処理とWordを使った論文作成

[秋] 講師 新居雅行

**授業科目の内容：**

基礎情報処理を履修したレベルの学生を対象に、データ処理や論文作成につながる表計算ソフトやワープロ利用について説明します。特に、Excelを利用したデータ処理や統計的な処理について、全体の7割近くの時間を割く予定です。Excelについての基本的なワークシート作成ができることと、統計の知識を前提とします。Excelの基本操作の復習、データの扱いの基本、関数を利用した統計処理、グラフ作成、相関、検定について説明します。また、応用的な事例としてアンケートの集計やシミュレーションのようなものも扱います。ワープロは論文を書くということに絞って操作方法等を説明します。ワープロや表計算の基本操作ができ、統計についてある程度は知っているか勉強をする意志があることが望ましいでしょう。

**テキスト：**

Web ページで用意します。

**参考書：**

講義中に示します。

**[04] [93] 応用情報処理 III (情報社会の光と影) (2) (春学期)**

[春] 助教授 原田隆史

DMC 教授 福原美三

講師 中村正三郎

**授業科目の内容：**

IT (情報技術) の革新は、社会・経済環境に大きな影響を及ぼしてきました。情報のデジタル化がもたらす情報流通の高速化によって、あらたな産業が生まれ、情報の使い方で社会が動く時代になってきたのです。特に、最近ではバイオテクノロジー、ナノテクノロジーなどの新しい技術もうみだされ、我々の社会に大きなインパクトを与え続けています。この講義では、これらの技術の光と影の両面に焦点をあて、我々の社会のこれからについて考えていく。

**テキスト：**

必要に応じて、適宜文献を指定したり、プリントを配布します。

**[04] [93] 応用情報処理 IV (情報技術) (2) (秋学期)**

[秋] 助教授 (有期) 色川 進

**授業科目の内容：**

現在、社会や生活の至る所にコンピュータやネットワークを利用する技術が浸透しています。これら情報技術そのものがどの程度安全でどのくらい危険なのか、仕組みを理解した上でわきまえて利用するとブラックボックスのまま利用するのではその意識には雲泥の差があります。この授業ではコンピュータの動作、通信やネットワークの仕組みの基本的な知識を解説し、各種情報技術を展望します。

**[04] [93] 応用情報処理 V (プログラム言語) (2) (秋学期)**

Javaによるプログラミングの基礎

[秋] 講師 新居雅行

**授業科目の内容：**

コンピュータを動かすために必要なソフトウェアを作成することを

プログラミングと呼んでいます。この講義では、Java という言語を使ってソフトウェアを作成する方法を解説します。パソコンについての基本的な知識や、ファイルの作成や一般的な操作ができるという前提で、講義は進めます。また、インターネットを含むネットワーク利用についての基本知識もあるものとして解説を行ないます。特にテキストファイルを含めた、ファイル処理については、きちんと理解した上で受講してください。ただし、プログラミングそのものについては、初歩から解説します。

まず、プログラミングの概念と、知っておきたいことをまとめます。そして、プログラミングに必要なパソコンの操作を説明します。その後、実際にいろいろなプログラムを作成するといった流れで講義を進めます。テキストは以下のものを利用しますが、Web ページでのレジュメや補足も利用します。

#### テキスト：

「チャレンジ! Java JBuilder 編 Win 版」(ローカス, 角川書店, 2800 円)

#### 参考書：

講義中に示します。

---

### 【04】【93】応用情報処理 VI (ネットワーク技術) (2) (春学期)

【春】講師 林 貞孝

#### 授業科目の内容：

ネットワークについて、その基盤技術から順を追ってインターネットの基本技術である TCP/IP やネットワークサービス、ネットワークセキュリティについて学びます。

#### 参考書：

参考文献については授業時に適宜紹介します

---

### 【04】【93】応用情報処理 VII (WWW 技術) (2) (秋学期)

【秋】講師 安形 輝

#### 授業科目の内容：

この授業では、膨大な情報量を背景として急速に普及してきたメディアである World Wide Web (以下ウェブ) における、サーバ側のさまざまな知識と技術について、演習を通じながら取得することを目的としています。ただし、膨大なウェブサーバ側の技術について限られた時間のなかで扱うのは困難であるため、個人あるいはグループごとに、実際のウェブサービスを作成し、運用する演習を行います。そのなかで、ウェブに関する知識や技術を自ら積極的に学んでいくことを期待します

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

特に指定しません。

---

### 【04】【93】情報と職業 (2) (秋学期)

【秋】助教授 原田 隆史

#### 授業科目の内容：

現在の企業活動では「情報」が重要な役割を果たしていると言われます。これは、いわゆる「情報産業」において重要であるだけでなく、すべての産業分野において「情報」を効果的に利用することが必要不可欠となってきているのです。この科目では、情報産業に従事される方を中心に、各種の産業で「情報」を取り扱っておられる方々をお呼びして、「情報化」の実態をお話していただく予定です。

実際に塾外から招く講師の方々は、未定ですが、2004 年度は厚生労働省、ソニーテクノクリエイト、松下電器産業、(株)ハーティネス、米国 IBM、日経 BP、角川書店の方々にお願いいただきました。

#### テキスト：

特に指定しません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

---

### 【04】倫理学の課題 II (2)

【04】【93】情報と倫理 I (2)

【93】生活と倫理 (2)

【秋】講師 中川 雅博

倫理学専攻参照

---

### 【04】【93】情報と倫理 II (2) (秋学期)

【秋】助教授 (有期) 色川 進

#### 授業科目の内容：

情報は「人が作り出す」ものです。「情報そのもの」や「情報の扱い」には元来から人間の「意志」や「意識」が大きく関わっており「情報」と「倫理」は切り離すことはできません。この授業では「情報」にまつわる様々な「倫理性」をできるだけ具体的な事例を対象に考察し、「情報」と「人の意思・意識」との関係を提起・意識できるようにします。

---

### 【04】中国語会話特殊 I (2)

【93】中国語会話 III (2)

広東語初級

講師 八木 麗媚

#### 授業科目の内容：

発音、会話を中心に広東語の基礎を学びます。基本的な文法事項を習得し、簡単な日常会話ができることを目標とします。

#### テキスト：

初回の授業で指示します。

---

### 【04】中国語会話特殊 II (2)

【93】中国語会話 IV (2)

閩南語 (台湾語)

講師 小松 嵐

#### 授業科目の内容：

入門・初心者向けの閩南語 (台湾語) 会話クラスです。

「閩」は福建省の古名で、閩地方東南部に分布する言語は閩南語と称されます。同系の閩南語が福建省外及び東南アジア、台湾にも分布しております。台湾では住民の 60 % 以上が閩南語を話すことができることから、台湾第二の公用語とも言われます。本授業は閩南語の音声体系をはじめ、教会ローマ字表記法及び簡単な日常会話をおぼえ、閩南語のことわざや歌も取り入れたいと思います。

#### テキスト：

樋口靖『台湾語会話』(東方書店)

---

### 【04】【93】西洋古典学 (4)

「ギリシア喜劇の世界」

教授 西村 太良

#### 授業科目の内容：

アリストパネスに代表される古代ギリシア喜劇は、悲劇と比較しても従来、上演される機会が少なく、翻訳もあまり読まれることはなかった。その理由は喜劇を成立させている笑いそのものの理解が不可欠である点が大いと思われる。その結果、やや近づきたい印象を与えてきたとも言えるだろう。この講義ではまず、ジャンルとしての喜劇の歴史的、宗教的背景、作品形式、言語、上演方法などについて概観し、次いで個々の作品をとりあげて、それぞれの持つ喜劇としての特質について考えてみたい。参考文献などは授業中に随時紹介するが、基本的にはプリントを配布する。

---

### 【04】西洋古典研究会 (2)

教授 西村 太良

法学部 教授 マクリン、ニール

経済学部 教授 パティエー、ロジャー

#### 授業科目の内容：

古代ギリシア・ローマあるいは東地中海地域の歴史、文化に関心を持つ人を対象として、基本的なリソースについて説明、紹介すると共

に、個々の受講者の関心を持つテーマに応じて演習形式で授業を進めていく。従来、言語学、文献学、文学、歴史、考古学、美術史などに細分化されてきた領域を全体的な視野のもとで考えていくことを目的としている。

ギリシア語、ラテン語の知識は必ずしも不可欠ではないが、最終的にはテキスト、資料を直接扱えるようにしたいと考えている。新しく出来た授業なので受講者の人たちと話し合っ進めていきたいと思う。

---

**【04】古典ギリシア語文献講読 I (2)**

**【04】古典ギリシア語中級 (2)**

**【93】古典ギリシア語 (中級) (3 年生以上) (2)**

教授 西村 太良

---

**授業科目の内容：**

古典ギリシア語の初等文法を既に学んだ人を対象として古典ギリシア語のテキストを講読する。今年度はメナンドロスの「デュスコロス (へそ曲がり)」を読む予定。メナンドロスは紀元前 4 世紀の新喜劇の代表的な作家で、ローマ喜劇にも多大な影響を与えたが、その作品は長く失われた状態にあった。19 世紀末からパピュルスの断片が多く発見され、この中でも 1962 年に公刊された「デュスコロス」はほぼ完全な形を留めている。内容的にはアテナイ郊外のピュレーを舞台にした若い男女の恋愛劇で、韻文ではあるが日常会話に近い平易な言葉が用いられており、文法的にもさほどの困難はない。参考文献は最初の授業で説明するが、当面はプリントを配布する。

**テキスト：**

W. G. Arnott: *Menander I* (Loeb classical library) 1979

**参考書：**

注釈：E. W. Handley: *Dyskolos* Cambridge UP 1965 (repr. あり)

---

**【04】古典ギリシア語文献講読 II (2)**

**【93】古典ギリシア語 (上級) (2) 講師 小池 和子**

---

**授業科目の内容：**

・散文で書かれた作品を読みます。  
・扱うのは歴史家の著作です。複数の作家を扱いますので、それぞれの作家の特徴や違いを感じ取ってもらえればと思います。

**テキスト：**

こちらで用意します。

---

**【04】現代ギリシア語講読 I (2)**

**【93】現代ギリシア語 (上級) (2) 教授 西村 太良**

---

**授業科目の内容：**

受講者のレベルに考慮しつつ現代ギリシア語のテキストを講読していく。テキストについては受講者と相談の上、決めることとしたい。

---

**【04】ラテン語文献講読 I (2)**

**【93】ラテン語 (上級) (2) 講師 平田 真**

---

**授業科目の内容：**

初等文法を終えた人のための原典講読クラス。年度によって、散文か詩文を読む。

散文の場合は、キケロ、カエサル、タキトゥス等から、詩文の場合は、オウィディウス等から一作品を選んで原典講読。本年は、オウィディウスの“*Metamorphoses XI*”の予定。

**テキスト：**

テキストはこちらで用意する。

**参考書：**

久保正彰著『OVIDIANA—ギリシア・ローマ神話の周辺』(青土社)

---

**【04】ロシア語文献講読 (2)**

助教授 ナコルチェフスキー、アンドリイ

---

---

**【04】【93】イタリア文学演習 (2) 教授 白崎 容子**

---

**授業科目の内容：**

イタリア文学史の概要を把握するところから始めます。

作品そのものにも部分的にふれていきますが、その際、イタリア語原文と日本語訳を併用します。また、狭義の「文学」にこだわらず、映画や音楽の分野も視野におさめながら授業をすすめる予定です。文学の側面からとらえるイタリアとはどのようなものか、この授業をきっかけに、イタリアのさまざまな側面への関心が広がっていくことを目指します。

**テキスト：**

プリント

**参考書：**

- ・『イタリア文学史』東京大学出版会
  - ・『カルヴィーノの文学講義』朝日新聞社
  - ・I. カルヴィーノ『水に流して』朝日新聞社
  - ・I. カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』みすず書房
  - ・『文学の子どもたち』慶應義塾大学出版会
- 

**【04】【93】スペイン語圏文化研究 (2)**

現代スペイン文化 教授 坂田 幸子

---

**授業科目の内容：**

20 世紀初頭から現在に至るまでのスペインを対象とし、社会と文化に関する豊富な資料に接し、それらを比較・検討する作業を通じて、現代のスペインで進行しつつある文化的事象について考え、理解を深めます。

---

**【04】【93】ライフサイエンス (4)**

---

休講

---

**【04】自然科学研究会 I (2)**

先端生命技術を考える 教授 中島 陽子

---

**授業科目の内容：**

生命科学の成果は、医療技術として私たちの生活に直結するようになりました。インフルエンザの特効薬はその一つの例です。しかし、それを喜ばしいこととだけでは済ませられない側面もあります。子どものできないカップルは「どうして不妊治療を受けないの」という外野の声に、悩みは一層つものことになるでしょう。[それを望む人がいて、それに応える技術があるとき、関係ない第三者がとやかく言うことはできない。自己決定に任せるべきだ]という考え方があります。現在の日本で自己決定権は本来の意味で機能しているのでしょうか。果たして自己決定権にすべてを託してよいのでしょうか。たとえば生まれてくる子の質を選ぶことも可能になっています。これが広く行われるようになると、そのような社会は「個人に選択を委ねた優性政策」とをとっているということになりかねません。

先端生命技術の実態は何なのか。それをどのように受け止めていったらよいのか。自己決定権の意味するものは何なのか。そこに社会としての規範は必要ないのか。など、私自身が考え悩んでいるテーマについて、一緒に勉強し、考えていきたいとおもっています。

**テキスト：**

使用しません

**参考書：**

- ・『現代生命科学入門』小比賀正敬・中島陽子 (慶応大学出版) 2001 (生命科学の基礎知識紹介として)
- ・『優性学と人間社会』米本昌平他 (講談社現代新書) 2000
- ・『脳死と臓器移植の医療人類学』マーガレット・ロック (みすず書房) 2004
- ・『自己決定権は幻想である』小松美彦 (洋泉社) 2004 そのほか適宜紹介します

---

【04】自然科学研究会 I (2) 教授 高山 博

---

**授業科目の内容：**

人類学（自然人類学，化石人類学），進化学（形態レベル），自然史分野に関わる卒論補助または卒論作成に役立つような演習形式の講義。初年度なので，具体的には人類学，進化学の基礎知識の習得，基礎的文献の探索と講読を行う予定。

**テキスト：**

指定しません。

**参考書：**

指定しません。

---

【04】自然科学研究会 I (2)  
化学物質と人間社会との関わり 教授 大場 茂

---

**授業科目の内容：**

物質の概念あるいは化学物質に関連した問題を研究します。課題として取上げるテーマは履修者の希望にそって設定しますが，例えば次のような分野が考えられます。科学史における転機とその時代背景，化学物質と環境問題，自然科学でまだ未解決な問題（地震予知など）。

**テキスト：**

必要に応じてプリントコピーを配布します。

---

【04】自然科学研究会 II (2)

---

休講

---

【04】自然科学研究会 II (2)

---

休講

---

【04】自然科学研究会 II (2)

---

休講

---

【04】【93】カウンセリング概論 (4)  
講師 平野 学

---

**授業科目の内容：**

心の時代と言われる現代，カウンセリングは様々な点から注目されている。本講ではまず，(1) カウンセリングがどのようなものなのか，歴史的な流れも踏まえつつ，具体的にお話しした後，(2) その訓練手法としてよく用いられている“ロールプレイ”も交えて，話を聴く練習を若干試みたい。そして，(3) 実際に病院や保健所，学生相談，教育相談等でカウンセラー（臨床心理士）として働いている方々，及び精神科医や HIV・エイズ関係者，脱カルト関係者等もゲストとしてお招きし，現場に即したカウンセリングのあり方や資格・訓練等の問題についても考えてみたい（VTR やスライドも多く使用したい）。尚，全体を通し“臨床心理学入門”といった趣きもあろうが，受講者自身が自らを見つめ，各々の成長に役立つ時間になるよう心がけたい。同時に，カウンセリングという視点から現代社会のあり方や人間としての生き方等についても考えるきっかけとしたい。

**テキスト：**

乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』（ペリかん社）

**参考書：**

- ・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』（東京大学出版会）
  - ・河合隼雄『カウンセリングを語る（上・下）』『カウンセリングを考える（上・下）』（共に創元社）『心理療法学序説』（岩波書店）
  - ・小此木啓吾他編『精神分析セミナー（I 巻）精神療法の基礎』（岩崎学術出版社）
- 

---

【04】【93】カウンセリングワークショップ (4)  
講師 平野 学

---

**授業科目の内容：**

現代社会にあつては，知的なものが重視・評価されやすく，何かとアタマでっかちになりやすい風潮がある。我々自身も，とかく自らの心や身体，そして体験をぞんざいにして過ごしがちではなからうか。ここではこうした認識のもと，『カウンセリング概論』単位取得者（状況によっては履修中の者も認める可能性あり）に限定して，実習や体験学習を中心とするワークショップを行いたい。具体的には (1) カウンセリングの実際をデモンストレーションや VTR で見たり，小グループに分かれてロールプレイを行いつつ，じっくり自由な討議を重ねたい（事例検討も試みたい）。加えて (2) 自己理解を深めるための様々なエクササイズ（描画，感受性訓練，心理アセスメント，ヨーガ，サイコドラマ，箱庭，コラージュ他）を体験してもらおう中，自らをバランス良く高めるきっかけを提供したい。本講は内容的にカウンセラーや臨床心理士，福祉職，教師等，人とかかわる仕事に関心を有する学生諸君向けのものとなろうが，それ以外の諸君にとっても“対人コミュニケーション”のあり方等を，学び考えるきっかけにしてもらえたらと思っている。

**参考書：**

- ・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』（東京大学出版会）
  - ・乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』（ペリかん社）
- 

【04】【93】名著研究 I (独) (2) 講師 針谷 寛

---

**授業科目の内容：**

1830～40 年代ドイツの初期社会主義の理論的文献を読む。テキストは受講希望者と会ってから決めるが，ヴァイトリングやヘスの著作の中から選ぶ予定。そこで使われている言葉がその時代の中でもっていた意味を手繰りながら読むことに留意する。

---

【04】【93】名著研究 II (仏) (2)

---

休講

---

【04】【93】比較文学 I (4)

---

休講

---

【04】【93】比較文学 II (4)

---

小説はどのように書かれているか 講師 菅原 克也

---

**授業科目の内容：**

小説を，その思想やメッセージの側からでなく，「かたち」の側から読んでいくとどのようなことが分かるか，あるいは，小説とはどのような書かれ方をしているのか，ということを考えてみる。テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ，具体的な小説作品を読みながら，小説の「かたち」を読み解いてみる。便宜的にナラトロジーに関する理論書に従って講義を進めるが，異なる立場からの理論的枠組みをも参照し，また日本の小説からの引例をふんだんに盛り込むことで，より広い視野から小説の書かれ方を考えることにする。

【春学期】はじめに文学的テキストと文学的レトリックに関する基本概念の紹介を行い，テキストの構造を分析する際に必要とされる概念的枠組みの解説を行う。構造主義以来の様々な文学理論の成果を生かしながら，主に日本近代文学と英米文学から例を引きつつ，具体的に考えてゆきたい。

【秋学期】春学期の講義の流れを受けて，小説の「かたち」に関する議論を，ナラトロジーの枠組みから紹介してゆく。春学期同様，主に日本近代文学と英米文学から例を引きつつ，具体的に考えてゆきたい。

**テキスト：**

適宜，プリントを配布する。

---

参考書：

- ・ Meike Bal, *Narratology: Introduction to the Theory of Narratives*. University of Tronto Press, 1997.
- ・ George Hughes, *Reading Novels*. Vanderbilt University Press, 2002.

【04】演劇の歴史 I (2) (春学期)

【04】演劇の歴史 II (2) (秋学期)

【93】演劇史 (4)

滅亡した日本演劇の歴史 [春学期]

西洋演劇の流れ [秋学期]

[春] 教授 石川 透  
[秋] 理工学部 助教授 小菅 隼人

[春学期]

授業科目の内容：

現在、世界各地には、さまざまな種類の演劇が伝えられ、演じられている。しかし、これまでの歴史の中で、埋もれてしまい、現在演じられていない演劇も数多く存在している。本講義では、それらのうち、特に日本の古典の作品を取り上げ、いかに作られ、いかに滅んだか、あるいは、どのように、それが再現されるのかを、現存する演劇や資料と関わらせて考えてみたい。

[秋学期]

授業科目の内容：

演劇の世界では日々新しい上演が生み出されつつ、同時に、各地域に過去の文化的財産として戯曲や上演伝統が残されています。しかし、どのようなものであっても劇が演じられる時は、常に、目の前に繰り広げられるイベントとして「観客」は舞台の構成要素となります。劇場には、戯曲と俳優と観客が常に同時に存在しているのです。また、演劇においては、言語芸術の要素が舞踊・音楽・美術の要素と半ば整然と、半ば乱雑に混じりつつ総合芸術となります。したがって、演劇史は劇文学の歴史であると同時に、上演と鑑賞の歴史ともなります。この考え方に立って、秋学期の講義では、主として西洋演劇の流れを言語や地域の枠に限定せず、総合的に扱います。演劇のドラマとしての側面は、映画・テレビ・オペラ・ミュージカルなど様々な芸術と理念を共有するはずですし、パフォーマンスとしての側面は政治・経済・法律・社会・スポーツにおいても見出せるでしょう。その意味では、演劇を知ることは、世界の見方を知ることでもあります。狭い意味での演劇に限らず、広く演劇的な現象に興味を持つ学生諸君の受講を歓迎します。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

講義中指示します。

【04】英書講読 (A) (2)

【93】洋書講読 (A) (2)

〈戦場のメリークリスマス〉講読 助教授 足立 健次

授業科目の内容：

南アフリカ生まれの英国籍作家 Laurens van der Post (1906~1996) の作品を読みます。その著作活動は、主として彼が生まれ育ったアフリカの大地、第二次世界大戦中の日本軍捕虜としての体験、さらには心理学者カール・ユングとの出会いによって支えられていると言えます。その中から今回は映画「戦場のクリスマス」の原作を取り上げ、第一部を読む予定です。

テキスト：

Laurens van der Post, *The Seed and the Sower* (Penguin Books)

【04】英書講読 (B) (2)

【93】洋書講読 (B) (2)

助教授 高橋 宣也

授業科目の内容：

有名なピアニスト・指揮者のバレンボイムと思想家のサイードによる対話集です。ユダヤ系のバレンボイムとパレスティナ系のサイード

が、両民族の歴史的、民族的確執を克服する道と音楽の有用性について、縦横に語っています。その知的で活発なやり取りを感得することを第一に目指し、そこから二人が行動に向けて指し示す指針について考える機会としたいと思います。

テキスト：

Daniel Barenboim and Edward W. Said, *Parallels and Paradoxes: Explorations in Music and Society* (2002; London: Bloomsbury, 2004)

参考書：

E・W・サイード『音楽のエラボレーション』大橋洋一訳 (みすず書房, 1995)

【04】論文フランス語 (初級) (2)

【93】論文フランス語入門 (初級) (2)

読解のフランス語

教授 川口 順二

授業科目の内容：

1年間でフランス語文法を学習して、フランス語の論文を読む実習の「論文フランス語 (中級)」の準備をします。

テキスト：

- ・ 鹿島晃一著 *Règles élémentaires du français*
- ・ フランス語の基本ルール〈文法の手引き〉駿河台出版社

【04】論文フランス語 (中級) (2)

【93】論文フランス語入門 (中級) (2)

中級フランス語読解

教授 立仙 順朗

授業科目の内容：

昨年度の論文フランス語 (初級) の履修者をはじめとして、初級フランス語文法を修得した者を対象として、中級フランス語の各種テキストを読みます。履修者の専攻に応じて初歩的な論文が読めるようになるためのトレーニングをします。

テキスト：

文学、美術、社会科学等の論文を抜粋コピーしたものを配布します。

参考書：

鷲見洋一『翻訳仏文法〈上〉』、『翻訳仏文法〈下〉』、ちくま学芸文庫。

【04】【93】比較精神史 (4)

英語によるディスカッション

助教授 納 富 信 留

助手 吉 田 恭 子

助手 北 中 淳 子

助手 高 橋 勇

授業科目の内容：

授業では英語のみを用いますが、帰国子女ではない学生を対象とします。自分たちの問題意識を英語で表明し (プレゼンテーション)、討論を行なうことによって、英語の能力を鍛えることを目指します。必ずしも英語が得意でなくても、英語の運用と英語による意見の発信に関心のある方の参加を期待します。哲学、人間科学、アメリカ文学、イギリス文学を専門とする各教員が、それぞれ関心のあるテーマを設定するので、種々の問題について多角的に考えるよい機会となるでしょう。

テキスト：

授業のガイダンス時に指定します。

【04】【93】環境問題と大学 (2 単位) (2) (秋学期)

[秋] 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

近年、地球環境は劣化の一途をたどり、しかもその好転の兆しは全く見えない。環境問題は、自然科学のみならず、政治や経済といった社会科学、また人間の精神に関わる人文科学など、様々な分野からのアプローチが可能であり、またそれらを統合することによって解決の道も探り得るようになる。この講義では、塾内外のそれぞれの分野で環境問題に関心を寄せる講師陣が、正面から環境問題に考察を加

え、大学が環境問題にどう取り組んだらよいかについて、議論を深める。講義は聞いて考えてもらうことを主眼とするので、成績を平常点で付ける。

一方、近年アフガニスタン、イラクなど、世界規模の戦争が多発している。今年度からは、環境問題とともに戦争や平和の問題を講座の対象としたい。戦争の現状認識を深めると同時に平和を希求する手がかりにしていきたい。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

『環境学事始め』（慶応義塾大学出版会 2400 円＋税）、『自然と文学』（慶応義塾大学出版会 3000 円＋税）

---

**【04】【93】イタリア語文献講読（2）**

教授 白崎容子

---

**授業科目の内容：**

さまざまな分野の文献をテキストに、読解力の涵養をはかります。正確な読解とあわせて、「量」を読みこなすこともめざします。

対象は、必修語学「イタリア語Ⅱ」を履修した3、4年生、昨年度の「特別イタリア語」履修者およびそれに準ずる学生です。「初級」で文法を学んだばかりの学生でも、たとえば他のロマンス系言語の知識やイタリア語読解への熱意、頑張る気力を備えていれば、受講可能です。

**テキスト：**

開講時に教室で指示します。

---

**【04】【93】日本演劇論（4）**

休講

---

**【04】【93】文章と表現（4）**

文学の現場からの報告

講師 加藤宗哉

---

**授業科目の内容：**

プロの文章とアマチュアの文章には違いがある。プロの書き手たちは暗黙の約束ごとに従って文章を書いている。その約束ごとを本講では説明する。文章は才能で書くのではなくテクニックで書く。具体的には「漢語・和語・外来語の使い分け」「オノマトペ・常套語・記号の危険性」に始まり、「いかに書き隠すか」まで、文学の現場でつねに問われる問題を紹介したい。

**テキスト：**

コピーを配布します

**参考書：**

・季刊文芸誌「三田文学」  
・「三田文学名作選」

---

**【93】ロシア語（上級）（2）**

講師 金沢大東

---

**授業科目の内容：**

日本人に不得意な《移動の動詞》の用法、数詞の格変化、副動詞、形動詞の作り方と用法を中心に授業を行う。

**テキスト：**

ロシア語教程Ⅱ（東京ロシア語学院、1999年、1800円）

---

**【93】ロシア語（特級）（2）**

【春】講師 金沢大東

【秋】助教授 ナコルチェフスキー、アンドリィ

---

〔春学期〕

**授業科目の内容：**

上級よりも幾分複雑で高度な内容の、口頭での露文和訳、和文露訳、及びロシア語作文を行う。

**テキスト：**

プリント

## 言語学関係講座について

本塾文学部には、現在のところ言語学専攻科はないが、文学部共通科目の枠内で、以下のように、言語学関係の科目が設置されている。それは、講座の種類・質・講師陣といった角度からみて、他大学の言語学専攻科に十分に匹敵する（あるいは、それ以上に充実した）内容をもっているといえる。したがって、専攻の如何にかかわらず、言語学に関心をもつ学生は、これらの講座を履修することによって、言語学の専門的な知識を身につけることができるであろう。なお、ここでいう「言語学」は、言語の諸相をあるがままに記述することばかりでなく、「なぜ言語はかくあるのか」という問いに対する解答を与える説明的理論（例えば生成文法理論）の構築をも目標としている学問であることを強調しておきたい。それは言語をめぐる隣接諸科学（心理学、哲学、論理学、コンピュータ・サイエンス、認知科学など）と密接にかかわりをもつものであり、その意味で学問に対する現代的要請に応えるものである。言語学関係の講座は次のようなカリキュラムのもとに構成されている。

・日吉設置講座：いずれも言語科学入門の役割を果たしている

「言語」（通年）[文]

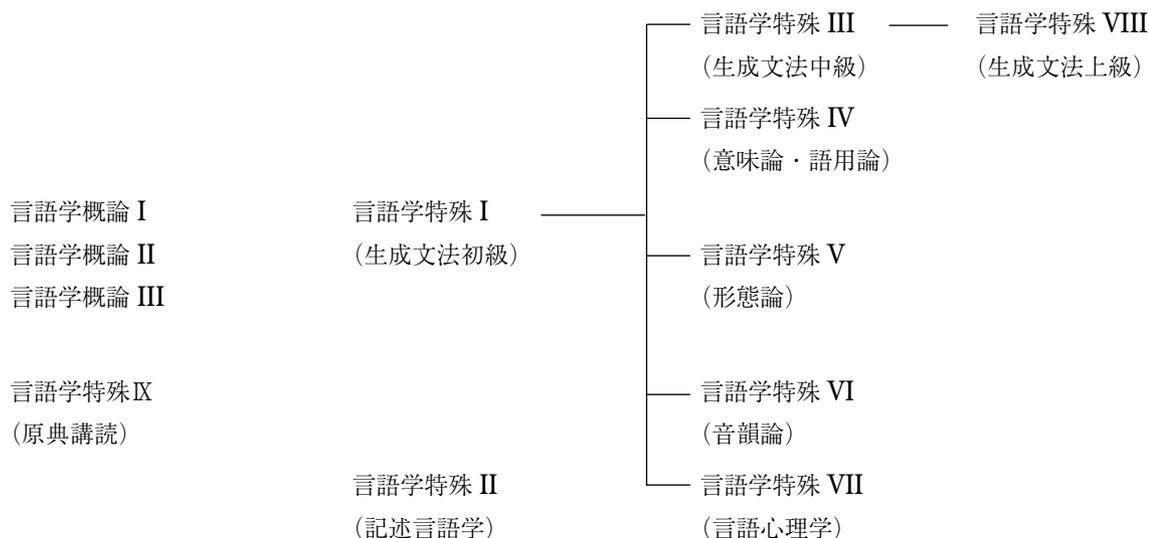
「言語学Ⅰ」（春学期）[文・経・商 共通]

「言語学Ⅱ」（春学期）[文・経・商 共通]

・三田設置講座

2年次での履修が望ましい

3, 4年次での履修が望ましい



なお、言語学関連科目として、英文学、仏文学、国文学、独文学、中国文学の各専攻科目に設置されている個別言語の研究（たとえば、英語学、フランス語学、国語学など）、および、哲学専攻科の「哲学倫理学特殊Ⅳ」（言語哲学）などもあわせて履修されたい。言語学に関して、履修上の問題をはじめ、さまざまな問題が生じた際には、遠慮なく以下の講座の担当者に相談されたい。

---

**【04】【93】言語学概論 I (4)**生成言語学への招待 経済学部 助教授 星 浩 司

---

**授業科目の内容：**

この授業では、我々人間を人間たらしめている重要な属性の一つである「言語」とは何かという問題を科学的に考えていく。具体的には、「言語」とは何かという根本的問題から出発し、自然言語に共通して観察される諸特徴を概観した後、各論へと進んでいく。各論では、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論等の基礎を学んでいく。全体を通じて、是非、科学的言語観を理解してもらいたい。

**テキスト：**

井上和子、原田かづ子、阿部泰明共著「生成言語学入門」(大修館書店、1999、2300円)

---

**【04】【93】言語学概論 II (4)**

言語へのアプローチ (春学期)

そしてさまざまな自然言語 (秋学期)

教授 川 口 順 二

---

**授業科目の内容：**

私たちは言語を使ってコミュニケーションを行い、また言語に支えられて精神生活・社会生活をおくっています。これほど重要な言語ですが、余りに身近な存在なので特別な場合を除いては余り意識することなく、当たり前存在として、深く考えることもそれほどありません。しかし人間や社会を考える時には言葉についての考察を抜かすことは不可能です。

この講義では春学期に言語について客観的に語るために必要なメタ言語を学び、それをういて秋学期にはさまざまな自然言語についてテーマを設けて語っていきます。色々な言語理論に接することは、言語へのアプローチがいかに多様であるかを知る機会となり、1つの特殊な理論のみで言語を考えることの危険を意識することにつながります。さまざまな自然言語に接することは、一般に目にするいくつかの言語、特に日本語と英語だけの狭い世界から抜け出すことで逆に自分の閉じこめられている言語世界を客観的に眺めることが可能になります。

**テキスト：**

地図、系統図、解説など適宜プリントで配布します。

**参考書：**

言語学大事典 (全 6 巻) : The Encyclopedia of Language and Linguistics (10 vol.).

---

**【04】【93】言語学概論 III (4)**経済学部 助教授 松 岡 和 美

---

**授業科目の内容：**

このクラスは初学者を対象に、言語学では「言語の何を」「どう扱うのか」についておおまかな理解が得られるように構成されている。言語の研究のツールとして提案されている概念や方法論を紹介し、それがもたらす新しい知見を、世界の様々な言語データの分析を通して理解することを目的とする。各学期末試験においては、知識だけではなく、授業で扱った考え方をういてデータや問題を「どう説明するか」という能力の評価に重点を置いた設問が課される。主な内容：語彙論、音声学、音韻論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、歴史言語学、心理言語学、脳と言語、母語の獲得、手話学、バイリンガリズム他。

**テキスト：**

三田メディアセンターリザーブブック (図書館旧館 3 階) に配架予定の資料を予習文献として使用する。

**参考書：**

順次、授業支援用ホームページ (URL 後述) に掲載。

---

**【04】【93】言語学特殊 I (4)**生成文法入門 言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

---

**授業科目の内容：**

子供は、生まれて 4~5 年のうちに、民族や人種に一切関係なく、生育する環境で話されている言語を、明示的な説明なしに獲得してしまう。子供の言語に関する経験は極めて限られたものであるのに、なぜ、かくも多くの言語知識を獲得できるのか。この問いに答えることが、生成文法理論の目標である。本講義では、生成文法理論が採択する「原理とパラメータ」のモデルの「基本概念及び指導仮説を中心に議論する。

**テキスト：**

開講時に指示する。

**参考書：**

開講時に指示する。

---

**【04】【93】言語学特殊 II (4)**東南アジアの言語言語文化研究所 教授 三 上 直 光

---

**授業科目の内容：**

東南アジア諸言語の諸相を一般的な見地から観察、分析する。取り上げるテーマとしては、系統と分布、文字、音韻・形態・統語などの特徴、言語と文化、言語問題、言語政策などを予定している。授業は、講義と履修者の発表を交えながら進めていく。

**テキスト：**

特に指定しない。

**参考書：**

その都度指示する。

---

**【04】【93】言語学特殊 III (4) (春学期集中)**

生成文法中級

【春】言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

---

**授業科目の内容：**

普遍原理とパラメータに基づく生成文法理論の最近の研究は、脳に内在する言語器官の最適性とも言うべき性質を明らかにしつつある。ミニマリスト・プログラムと呼ばれるこの研究プログラムでは、言語器官とそれに隣接するシステムの関係、隣接システムが言語器官に課す最低条件、その最低条件を最も適切に満たす言語器官の性質などが議論されている。本講義では、ミニマリスト・プログラムに集約された生成文法理論の枠組みを詳細に議論する。

**テキスト：**

開講時に指示する。

**参考書：**

開講時に指示する。

---

**【04】【93】言語学特殊 IV (4)**

日本語の意味論と語用論

言語文化研究所 教授 西 山 佑 司

---

**授業科目の内容：**

言語学的に重要な日本語の構文について、意味論的・語用論的観点から考察する。まず、文中に登場する名詞句の意味と解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から論じる。次に「象は鼻が長い」「カキ料理は広島が本場だ」「辞書は新しいのが良い」「主役は君だ」「君が主役だ」「父が買ったのは、これだ」「花が咲くのは 7 月頃だ」といった日本語学でしばしば論じられてきた構文をとりあげ、従来の分析の問題点を指摘する。「非飽和名詞句」や「変項名詞句の非指示性」という観点からこれらの構文にたいする再分析を試み、「ハ」と「ガ」の区別に関する新しい分析を提示する。この講義を通して、現代言語学における意味論と語用論の位置付けをも説明する。

**テキスト：**

西山佑司『日本語名詞句の意味論と語用論 ― 指示的名詞句と非指示的名詞句 ―』(ひつじ書房 2003 年)

---

**[04] [93] 言語学特殊 V (4)**

---

休講

---

**[04] [93] 言語学特殊 VI (4)**

---

音声と音韻

講 師 本 間 猛

---

**授業科目の内容：**

日本語と英語の音声構造と音韻構造の相違点および共通点を探ることを通して、音声学・音韻論の基本概念を学ぶ。また、分析方法の基礎を理解し、応用できることを目指す。言語研究における音声・音韻の研究の位置付けを概観した後、言語音の産出のしくみを学ぶ。さらに、音素、音節、モーラ、語アクセント、文アクセント、リズム、イントネーションなどの音韻現象とその理論的側面について考察する。また、最近の理論である最適性理論 (Optimality Theory) についても解説する。

授業方法：講義にて基礎的な知識や基本概念を扱い、さらに、練習問題で理解を深めるようにする。

**テキスト：**

窪菌晴夫著 日英語対照による英語学演習シリーズ『音声学・音韻論』くろしお出版

**参考書：**

- ・窪菌晴夫著『語形成と音韻構造』くろしお出版
  - ・窪菌晴夫・太田聡著『音韻構造とアクセント』研究社
  - ・窪菌晴夫・本間猛著『音節とモーラ』研究社
- 

---

**[04] [93] 言語学特殊 VII (4)**

---

言語心理学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

---

**授業科目の内容：**

言語の認知科学について講ずる。主なトピックは、言語理論と認知科学、言語獲得、言語理解、言語の脳科学である。受講希望者は第一回目の講義にかならず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

**テキスト：**

なし

**参考書：**

適時指示する

---

---

**[04] [93] 言語学特殊 VIII (4) (秋学期集中)**

---

生成文法上級

**[秋]** 言語文化研究所 助教授 北原 久嗣

---

**授業科目の内容：**

ミニマリスト・プログラムが提供する研究上の指針には、(記述的装置のクラスを最小限にするよう求める)「最小設計」指針、及び(演算の操作上の複雑性を縮小するよう求める)「単純演算」指針と呼ぶものがあるが、本講義では、「単純演算」指針に幾分焦点をおき、操作上の複雑性の縮小と言語のミニマリスト的設計の問題を考えてみたい。具体的には、これら二つの指針に関係する基本概念及び指導仮説を検証し、徹底した派生主義の観点から、操作上の複雑性を縮小する提案の再定式化を試みる。

**テキスト：**

開講時に指示する。

**参考書：**

開講時に指示する。

---

---

**[04] [93] 言語学特殊 IX (4)**

---

講 師 外 池 滋 生

---

**授業科目の内容：**

今年度は he, his, him のような人称代名詞, himself のような再帰代名詞などの英語の代名詞の分析の変遷を、生成文法の初期から、時系列的に辿ることにより、生成文法理論自体の枠組みに変遷と、今後の代名詞の扱いの方向性を探ります。

**テキスト：**

プリントを配ります。

**参考書：**

参考文献としては『新言語学辞典』(研修社), 『チョムスキー理論辞典』(研究社), 外池他『入門ミニマリスト統語論入門』(研究社)

## 遠山記念音楽学講座について

1985年、音楽評論家で(財)日本近代音楽館(元遠山音楽財団)理事長であるとともに、東京文化会館館長、新国立劇場副理事長などを歴任された遠山一行氏から、当時の遠山音楽財団附属図書館に蒐集された中世・ルネサンス、現代の音楽に関する資料が寄贈された。資料には、図書ばかりでなく楽譜、レコード、マイクロフィルム等が含まれ、慶應義塾図書館(旧館)で「遠山音楽文庫」の名のもとに公開されている。また遠山記念音楽研究基金も慶應義塾に寄贈された。それを記念して開講されたのがこの講座である。

欧米においては、音楽学は総合大学で研究教育されており、遠山氏の寄贈は、我が国においても音楽学の研究教育が総合大学を中心におこなわれるべきとの信念にもとづいたものであった。氏は、慶應義塾こそそれに最もふさわしい大学であると判断された。遠山音楽文庫の開設によって、我が国の総合大学のなかで最大の音楽資料を有することになった慶應義塾は、音楽学に関する講座を充実するために、本講座を設置した。美学美術史学専攻には、すでに西洋音楽史を中心にした一連の講座が開設されているが、それを拡充するものであるとともに、音楽学および関連諸学を専門とするための基礎的スキル獲得のための内容も盛り込まれている。

### 【04】【93】音楽学Ⅰ(4)

音楽理論と分析入門

講師 小鍛冶 邦 隆

#### 授業科目の内容：

春学期は簡易なピアノ小品を題材に音楽理論の基礎を学ぶ。  
秋学期はさらに歴史的様式にもとづく分析を行なう。

#### テキスト：

コピーで配布。

#### 参考書：

中井正子・小鍛冶邦隆 バッハ・二声インヴェンション奏法と分析  
(ショパン社刊)

### 【04】【93】音楽学Ⅱ(4)

音楽研究入門

＝さまざまな領域と文献・資料 音楽関連情報検索の実習

教授 美 山 良 夫

商学部 助教授 佐 藤 望

講師 平 尾 行 蔵

講師 石 多 正 男

#### 授業科目の内容：

音楽で卒業論文を書こうと考える人のための(1)音楽研究のさまざまな領域と研究方法の包括的な紹介、(2)西洋音楽史を中心にした個別領域の事例紹介と研究の現在、(3)資料・文献検索の実際(実習ふくむ)を軸にしています。これまで音楽学について学んだことがないひと履修可能ですが、そのジャンルはともあれ音楽で卒論を書くことを視野にいれている人に限定します。受講の際の注意、詳細内容などは初回の授業で説明しますが、欠席者は受講ができません。

#### 参考書：

- ・日吉メディアセンター編『情報リテラシー入門』慶應義塾出版会 2002
- ・ウィンジェル『音楽の文章術』春秋社 1994(リザーブブックにあり)

# 文化財科学

昭和 54 年財団法人松永記念館は、慶應義塾に文化財研究の振興と普及を計る目的で、松永記念文化財研究基金を寄贈された。本講座は、その主旨を記念し、義塾における文化財研究の普及と発達に資するために、昭和 62 年度より開設されたものである。

## 【04】【93】文化財科学 I (4)

文化財資料を科学の目で見ると 講 師 富 沢 威

### 授業科目の内容：

考古遺物や美術資料の化学組成の特徴や、製造の歴史や技法について講義する。また、最近の研究で得られた成果である鉛同位体分析について紹介する。授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについて述べる。

### テキスト：

テキストは、特に指定しない。

### 参考書：

授業の際に紹介する。

## 【04】【93】文化財科学 II (4)

文化財資料を科学の目で見ると 講 師 富 沢 威

### 授業科目の内容：

年代測定法や DNA 解析法、アイソトープ食性解析法など、最近の進歩のなかから得られた成果について紹介する。

授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについても述べる。

### テキスト：

テキストは特に指定しない。

### 参考書：

授業の際に紹介する。

## 芸術と文明

戦後の我が国で、学問の学際化の必要が叫ばれて久しい。

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学（trivium すなわち文法、修辞、論理—— trivial という英語の形容詞はここから生まれた）と四学（quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学）を修得すれば、修士号（Magister Artium：現在の M.A.）が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は17の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較〇〇学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。また文学部でも、大学の外から一流講師を招いて、「現代芸術」「詩学」と銘打った講座が設けられて来た。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学部共通の専門科目として、設置されている。文学部の専任教員を中心に、場合によってはテーマを絞り、しかも扱う分野としては文学、歴史、音楽、美術、映画などの人文学（いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けを借りて）を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術と文明」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

### [04] 芸術の現在

教授 前田 富士男  
理工学部 助教授 熊倉 敬聡

#### 授業科目の内容：

基本テーマは、「21世紀的ライフ・リテラシーを求めて」です。われわれの感性や生活世界は、ますますグローバル化する超情報資本主義に覆われつつありますが、そうした状況に全面的に優されることなく、またある意味では、その何がしかの恩恵に浴しつつも、「もう一つの」ライフ・スタイルを、根源的な生のデザイン＝アートという視点から検討します。その際に、ライフ・リテラシーの探究を①非西洋的知の復権、②身体知の称揚、③「喜捨」の経済学、という観点から行う予定です。前田富士男が導入部を担当し、以後を熊倉敬聡が担当します。

以下の思想家、作家たちを扱う予定です：フランシスコ・ヴァレラ、ジル・ドゥルーズ／フェリックス・ガタリ、ルドルフ・シュタイナー、ミシェル・ド・セルター、グレゴリー・ベイトソン、ミヒャエル・エンデ、ジョルジュ・バタイユ、鈴木大拙、井筒俊彦、野口三千三、大澤真幸、中沢新一など。

#### 参考書：

- フランシスコ・ヴァレラ他『身体化された心』（工作舎）。
- 大澤真幸『文明の内なる衝突』（NHK ブックス）。
- 中沢新一『愛と経済のロゴス』（講談社選書メチエ）。
- 同『対称性人類学』（同）。
- 鈴木大拙『禅』（ちくま文庫）。
- ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』（ちくま学芸文庫）。
- 井筒俊彦『意識と本質』（岩波文庫）。
- グレゴリー・ベイトソン『精神と自然』（新思索社）。
- ジル・ドゥルーズ／フェリックス・ガタリ『アンチ・オンデンプス』（河出書房新社）。
- ルドルフ・シュタイナー『シュタイナー経済学講座』（筑摩書房）。
- H・マトゥラーナ／F・バレーラ『知恵の樹』（ちくま学芸文庫）。
- ミヒャエル・エンデ『エンデの遺言』（日本放送出版協会）。
- ミシェル・ド・セルター『日常実践のポイエティック』（国文社）。
- 野口三千三『原初生命体としての人間』（岩波現代文庫）。
- 熊倉敬聡『美学特殊C』（慶應義塾大学出版会）。

### [04] 芸術と文明 (2)

### [93] 芸術と文明Ⅱ (2)

休講

## 久保田万太郎記念講座

本講座は、慶應義塾の生んだ大文学者、故久保田万太郎がその全著作権を本塾に寄贈されたことを記念して、文学部に設置された科目である。目的とするところは、従来のアカデミズムの枠にとらわれぬ、きわめて自由な発想のもとに、塾生諸君のなかに文学芸術への情熱の火を点ずることである。

それゆえ、本講座の講師には、制度としての大学内の学究にとどまらぬ、幅広い文学・芸術諸分野の第一級の有識者が、伝統的に選定されてきたのだった。本講座は「詩学」と「現代芸術」の二科目にわかれているが、前者は斯界の最高峰、後者は斯界の中堅有力者が担当する建前となっていたが、現在ではこの区分はかならずしも厳密に守られていない。従ってこれら両科目の名称はかなり便宜的なものとして解していただきたい。

幸いにして、本講座は義塾内外のまことに輝かしいお名前をお迎えしつづけてきた。その一部をあげるだけで、本講座の伝統の重みを塾生諸君に理解してもらえらると思う。本講座は制度上は文学部に設置されているけれども、真に文学芸術を愛する塾生であるならば、在籍する学部は問うところではない。昭和三九年度第一回の講師として佐藤春夫が登壇して以来、西脇順三郎、土岐善磨、小泉信三、高橋誠一郎、河上徹太郎、山本健吉、河盛好蔵、吉川幸次郎、五所平之助、等々、わが国において文学芸術界や思想界の最高をきわめた、ほんとうにまぶしいような高名が大山脈のごとく連なっていることに、諸君は気づくだろう。塾生諸君の熱心な受講を期待してやまない。

### 【04】【93】現代芸術 I (2)(春学期)

映像論 [春] 講師 平野 共余子

#### 授業科目の内容：

19世紀末に創始され「20世紀の芸術」といわれる映画が、どのような歴史をたどり映像表現として21世紀にはどのようにさらなる発展をするのか考察します。一映像作家の表現として企画されたアイデアが、脚本、撮影、美術、編集等様々な分野での協力者を得て共同作業としての映画作品として完成されるまで、また作品が配給、広報等の部門での協力を重ね上映というかたちで観客の手に届くまでの映画の多角的プロセスを実践的側面から検証します。また、検閲・商業的配慮といった映画を取りまく社会的・文化的・政治的・経済的環境についても考えていきます。

#### テキスト：

必要に応じてプリント或いは資料を配布。

#### 参考書：

『天皇と接吻 アメリカ占領下の日本映画検閲』平野共余子著、草思社；『ビデオで世界を変えよう』平野共余子著、草思社。

### 【04】【93】現代芸術 II (2)(秋学期)

[秋] 講師 川澄 哲夫

#### 授業科目の内容：

江戸時代の日本では、「鯨一頭捕れば七浦が栄える」と云われていました。井原西鶴の『日本永代蔵』（一六八八）には、紀州太地浦の天狗源内という鯨捕りが、網取式捕鯨法によって大金持ちとなった話がでてきます。鯨はそれほど豊かな生活資源であったのです。

一方、アメリカにおいては、鯨と移民との関係が、メイフラワー号と共に始まり、一六九〇年頃になって、捕鯨業として発展します。

やがて、アメリカの捕鯨船が、南アメリカの南端ホーン岬を周わり、太平洋に出て、抹香鯨を追って、どんどん日本に近づいてきます。ペリーの黒船艦隊が来航した当時、数百隻の捕鯨船が、北太平洋—日本漁場で、鯨を追いかけていました。その鯨の海で、アメリカの鯨捕りと日本の漂流民が遭遇することになります。こうして、鯨が媒介となり、日本の封建社会は崩れていったのです。福沢諭吉が歴史の舞台に立つきっかけをつかんだのも、鯨のお陰であった、ということが出来ます。

それから七〇年余り、日本はアメリカと戦争して負けてしまいます。敗戦直後、日本人は極端な食料不足に苦しんでいました。その時、南氷洋の鯨が日本人を餓死から救ってくれたのです。今日鯨を食べたいという人たちは、鯨の恩を忘れていたのではないのでしょうか。

このような人間と鯨の関係を、大昔にまで遡り、とりわけ日・米の鯨文化について、その歴史を辿りながら、話を進めていきます。鯨の

種類、鯨の用途、鯨捕りの生活、捕鯨業の盛衰とその原因などに触れながら。

この鯨と人間の問題には、だれもが関心があり、一家言をもって語る筈です。それで、皆さんは、身近にある鯨の話題を手にして、教室においでになれば、この講義はより興味深いものとなり、自分自身のものとする事ができると考えます。

#### テキスト：

テキストは使用しません

#### 参考書：

- ・久保田万太郎『春泥・三の西』（講談社）文芸文庫
- ・幸田露伴『いさなとり』岩波文庫
- ・宇能鴻一郎『鯨神』中公文庫
- ・津本 陽『深重の海』新潮文庫
- ・吉村 昭『鯨の絵巻』新潮文庫
- ・小川鼎三『鯨の話』中央公論
- ・『熊野の太地鯨に挑む町』熊野太地浦捕鯨史編纂委員会 平凡社
- ・小沢一郎、川澄哲夫、阿川尚之『ジョン万次郎とその時代』広済堂
- ・川澄哲夫『黒船異聞』有隣堂
- ・大村秀雄『鯨を追って』岩波新書
- ・大隅清治『クジラと日本人』岩波新書
- ・Alexander Starbuck, *History of the American Whale Fishery*
- ・Elmo Paul Hohman, *The American Whaler*
- ・Edouard A. Stackpole, *The Sea - Hunters*
- ・Herman Melville, *Moby Dick*

### 【04】【93】詩学 I (2)(春学期)

永井荷風とラグタイム／ドビュッシーの彼方へ

[春] 講師 末延 芳晴

#### 授業科目の内容：

日本近代文学が生んだ最初の「非戦」の文学者として、明治、大正、昭和と日本が戦争へ戦争へと傾斜し、民族滅亡の破局に突入して行った時代を通して、頑強に「反国家」の生涯を貫いた永井荷風は、今から100年前の1903年秋、アメリカに渡り、ほぼ4年の歳月を費やして、シアトル、タコマ、セントルイス、シカゴ、ワシントン、ニューヨークとアメリカ大陸を横断。その間、セントルイスの万博会場やニューヨークのタイムズ・スクエアやコニーアイランドで、黒人音楽と白人音楽が出会い、統合することで生まれたアメリカ最初の国民音楽、すなわちラグタイムの洗礼を浴びることで、大衆音楽が鳴り響く社会の底辺、あるいは周辺的な空間に低く生きる姿勢を確立していく。

荷風は、また、ワシントンのポトマック河河畔のラグタイムが鳴り響く酒場で知り合った娼婦イデスと深く性愛の関係を結ぶことを通して、「娼婦」と「性」という、荷風文学を貫く主題を掴み取る。さら

に、ニューヨークでワーグナーのオペラに出会い、深く感動しながら、ワーグナー・オペラの偽善性を鋭く嗅ぎ取り、ワーグナーを乗り越える形でフランス印象派の作曲家、ドビュッシーの管弦楽音楽、特に『牧神の午後への前奏曲』に出会っていきることによって、作家的感性と精神の拠点を見定めていく。

さらにフランスへ渡り、フランス的な感性美学の真髄に目覚めた荷風は、日本帰国後、自らを「性欲」のシンボルとして、地中海オシチリア島の海辺でニンフを追い掛け回すギリシャ神話の半獣神「牧神(パン)」に擬し、浅草や銀座、玉の井など東京の周辺に生きるニンフ(娼婦)を追い求め、そこに結実したロマンスを小説に昇華させることで、日本近代文学において、最初の「性」の作家として、特異な地位を確立していく。くわえて、あの昭和の大戦争の時代にあって、小林秀雄や河上徹太郎らがジャズを「衰弱」、あるいは「頹廢」の音楽として斥ける中、荷風一人は、カフェやダンスホール、浅草オペラなどジャズの鳴り響く空間に身を置き、低く生きる「女」と「性」をよりどころに、「非戦」の文学的姿勢を貫き通していく。そうした意味で、永井荷風は、今から100年前、セントルイスやニューヨークの場末の酒場でラグタイムを聞くことを通して、自身の文学的立脚点を見定めたと言えよう。

本講義では、今から100年前のアメリカにあって、荷風がどのようにしてラグタイムやワーグナーの楽劇、ドビュッシーの管弦楽音楽と出会い、それらのエッセンスを吸収することを通して、自らの文学的拠点を見定めて行ったか、そしてそれらの異世界音楽体験をいかにして文学的記述に昇華されていったか、そのプロセスを、『あめりか物語』や『西遊日誌抄』などを基礎テキストに、徹底的に追求・解明していくことにしたい。講義を進めるに当たっては、その当時録音されや音源やアンティーク絵葉書、立体写真、ビデオ映像などを視聴覚的資料としてフルに活かし、マルチ・メディアでかつクロスオーバーなアプローチを通して、学生諸君とテキストを読み解く快感を共有したい。

#### テキスト：

永井荷風『あめりか物語』+『西遊日誌抄』

#### 参考書：

- ・末延芳晴『永井荷風が見たあめりか』(中央公論社)
- ・同上『荷風とニューヨーク』(青土社)

---

### 【04】【93】詩学Ⅱ(2)(秋学期)

ゴシック・カルチャー(暗黒と戦慄の詩学)

【秋】講師 風間賢二

---

#### 授業科目の内容：

大衆文化における(特に小説・映画・コミックスなど)グロテスクなものや恐ろしいものを通して表象されるモンスター=他者について解説します。

#### テキスト：

特に指定しません。資料プリントを配布します。

#### 参考書：

- ・『ホラー小説大全』風間賢二(角川ホラー文庫)
- ・『ジャンク・フィクション・ワールド』風間賢二(新書館)

---

### 【04】アート・マネジメント(4)

### 【93】芸術運営論(93学則)(アート・マネジメント)(4)

教授 美山良夫  
DMC教授 岩瀬潤子  
講師 南条史生

---

#### 授業科目の内容：

展示系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

第1部：変貌する文化装置：制度としての「美術館」と脱美術館  
文化展示の多様な様態(日本および欧米における多様な文化展示とその目的)、美術館という「制度」の成立、空間の文化装置化：その多様な仕掛け(オルタナティブ・スペースなど)

#### 第2部：美術品の流通と交流

美術品の特性と画廊の仕事、最近の美術市場・美術館の問題点、オークションの仕組みと社会的役割、アート・フェアの役割・仕組み、古美術品の流通システムなど

#### 第3部：美術展の企画と諸制度

美術をめぐる文化政策、芸術支援(企業による事例の紹介と基本的な考え方)、美術展の企画から開催まで、美術品と著作権、保険

#### 第4部：美術をめぐる活動のひろがり

美術館の活動のひろがり — 研究・情報・修復・美術館教育・ボランティア、市民による活動事例

#### テキスト：

- ・「アート・マネジメント入門」(慶応大学出版会)

#### 参考書：

- ・「美術から都市へ」(鹿島出版会)

## 文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金

福沢諭吉は、「国光発於美術」と書いたことがある。国の光は芸術によって発するというわけである。現在、日本では芸術が大量に消費されている。だが、自由な創造活動を取りまく状況は厳しい。この矛盾を解決して、芸術創造を社会に解放してゆくためには、アーティスト、行政、企業、そして大学などの教育研究機関が、新しいパートナーシップを構築しなくてはならない。そのなかから、新しいアート・シーンを築き、本当に価値のあるものを後世に残すことを、実践的に考えるのが、この講座の目標である。

そのために、講師の他に、芸術とかかわりながら、各セクターで多くの問題を抱えつつも第一線で活躍中の人々がゲストとして登場、いま現在の問題を語る。それは講師との討論に発展することもある。

この種の講座が日本の大学に開設されたのは、慶應義塾が最初である。平成3年、本講座が開講されるや、企業、行政等も含め多くの人々がこの講座に強い関心をよせた。なかでも大日本印刷株式会社 (DNP) は、慶應義塾におけるアート・マネジメントの研究と教育の発展のために「慶應義塾大学文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金」を寄贈された。本講座はこの基金を活用して運営されている。

履修しようとするものは、最初の授業時に年間授業計画、レポート、受講についての詳しい説明をおこなうので必ず出席すること。

【04】アート・プロデュース (4)

【93】芸術運営論 (93 学則) (アート・プロデュース) (4)

教授 美山良夫  
DMC 教授 金子哲理

### 授業科目の内容：

上演系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

第1部：変貌する文化装置：制度としての「劇場」と脱劇場

日本のホール — その歴史と現状、劇場運営の基本、空間の文化装置化：その多様な仕掛けなど

第2部：文化装置のマネジメント

公立ホールの運営、民間のホール運営、劇団の運営とマーケティング (劇団「四季」を例に)、舞台芸術の国際交流

第3部：芸術及び芸術家 (団体) をめぐる制度と支援

日本の文化政策と芸術支援・概説、財団の芸術支援とその課題、舞台芸術の市場規模と今後、イベントと保険

第4部：上演芸術をめぐる活動のひろがりと市民

企画づくりの実際：コンサート・ホールを例に、アートとNPO、ボランティアなど

### テキスト：

・「アート・マネジメント入門」(慶応大学出版会)

【04】【93】翻訳の世界 (2) (秋学期)

【秋】教授 西村太良

### 授業科目の内容：

文学部からはこれまで多くの優れた翻訳そして翻訳家が生まれてきているが、この講座では今日、第一線で活躍している翻訳家の方々をお呼びして、様々な言語の現場の状況、あるいは翻訳をめぐる諸問題について自由にお話ししていただくことを目的としている。将来、翻訳を志している諸君、あるいは翻訳に関心を持っている諸君にはぜひ受講していただきたい。講師と講座内容については後日、掲示の形でお知らせする。

## 極東証券寄附講座

本年度は極東証券の寄附により、以下の2科目が開講されることになった。

### 【04】【93】古文書の世界（2）（秋学期）

教授 西村太良

#### 授業科目の内容：

今日、書物あるいはテキストなどのメディアのデジタル化が急速に進みつつあるが、その一方で古文書、写本などの一次資料に直接触れる機会は稀になりつつある。この講座は三田メディアセンターなどに収蔵されている貴重な資料を中心に代表的なものを選び、それぞれについて実物を目の前において内外の専門家の方々に古文書、写本などの手ほどきをしていただくことを目的としている。講座の性質上、受講生の数は30名ほどに限らせていただくこととなる。講師と講座内容については後日、掲示の形でお知らせする。

## 教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

## 言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

〔参考〕平成 17 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリットⅠ（初級）	土田龍太郎	通年 2 単位
サンスクリットⅡ（中級）	土田龍太郎	
アラビア語Ⅰ（基礎）	尾崎貴久子	
アラビア語Ⅱ（現代文講読）	稲葉隆政	
アラビア語Ⅱ（古典）	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語Ⅰ（初級）	春日 淳	
ヴェトナム語Ⅱ（中級）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語Ⅰ（初級）	関 喜房	
ペルシア語Ⅱ（中級）	岩見 隆	
タイ語Ⅰ（初級）	三上直光	
タイ語Ⅱ（中級）	ポンシー，ライト	
トルコ語Ⅰ（初級）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語Ⅱ（中級）	ヤマンラール，アイドゥン	
朝鮮語文献講読	野村伸一（春学期） 李 泰文（秋学期）	
カンボジア語Ⅰ（初級）	三上直光	
ヘブライ語Ⅰ（初級）	笈川博一	
ヘブライ語Ⅱ（中級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅰ（初級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅱ（中級）	笈川博一	
アッカド語Ⅰ（初級）	高井啓介	
アッカド語Ⅱ（中級）	高井啓介	

## サンスクリット I (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

### 授業科目の内容：

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

### テキスト：

・ヤン・ホンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』(春秋社)  
・辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

### 参考書：

なし

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## サンスクリット II (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

### 授業科目の内容：

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

### テキスト：

参加者の希望で決める。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## アラビア語 I (基礎)

言語文化研究所 講師 尾崎 貴久子

### 授業科目の内容：

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

### テキスト：

・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1800円)  
・必要に応じて説明補助プリント, 練習問題を配布します。

### 参考書：

David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

### 授業の計画：

1. アラビア語(文語と口語, 文字と発音)について
2. アルファベットのつづり方
3. 名詞の性・格・複数
4. 人称代名詞と前置詞
5. 日常会話練習と練習問題
6. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(1)
7. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(2)
8. 練習問題
9. 名詞文の構造(1)
10. 名詞文の構造(2)
11. 日常会話練習と練習問題(1)
12. 練習問題(2)
13. 動詞完了形
14. 動詞未完了形
15. 名詞文復習と練習問題
16. 動詞文復習と練習問題
17. 受動態・分詞・動名詞・場所名詞
18. 練習問題
19. 不規則動詞
20. 不規則動詞練習問題
21. 関係代名詞
22. 練習問題
23. 派生形(1)
24. 派生形(2)

25. 練習問題

26. 総復習

### 履修者へのコメント：

アラビア語の文法はテキストを読むだけでは理解できない部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

### 成績評価方法：

試験の結果による評価(小テスト, 期末試験, 平常点で評価する。)

## アラビア語 II (現代文講読)

言語文化研究所 講師 稲葉 隆政

### 授業科目の内容：

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。

### テキスト：

プリントを配布します。

### 授業の計画：

- I. 講義 1 回目-3 回目 母音記号がついた極めて平易な短文の講読。
- II. 講義 4 回目-8 回目 母音記号がついた平易な文章の講読。
- III. 講義 9 回目-13 回目 母音記号がついたやや程度の高い文章の講読。
- IV. 講義 14 回目-18 回目 要所のみにも母音記号がついた文章の講読。
- V. 講義 19 回目-26 回目 母音記号がついていない文章の講読。

### 履修者へのコメント：

辞書は Hans Wehr: 「Arabic-English Dictionary」を使用して下さい。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## アラビア語 II (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

### 授業科目の内容：

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みはどう生かすかを課題としてやります。

### テキスト：

・Brünnow-Fischer: Arabische Chkestomathie  
・プリントで配ります

### 参考書：

井筒俊彦：アラビア語入門，慶應出版社 1950.

### 授業の計画：

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

### 履修者へのコメント：

少くとも規則動詞原型の完了，未完了の変化は完全に頭へたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

## アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

### 授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

### テキスト：

受講者と相談して決めます。

### 参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. press, 1962

### 授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

### 履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずありますから、そのつもりで来て下さい。）

## ヴェトナム語 I（初級）

ヴェトナム語入門 言語文化研究所 講師 春日 淳

### 授業科目の内容：

ベトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能なる程度を目指す。

### テキスト：

『ベトナム語入門 I』（慶應義塾外国語学校）

### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. 概要：ベトナム語の類型的特点、方言などについて概説する
3. 発音の解説、練習、あいさつの表現（計3回）
4. 動詞文(1)：動詞、形容詞を述語に持つ文
5. 繋詞のある文(1)
6. 名前を言う表現
7. 動詞文(2) 基本的な動詞で練習
8. 職業、場所をいう表現
9. 存在・所有を表す文
10. 類別詞、指示詞
11. 繋詞のある文(2)
12. 場所を表す句と存在を表す文
13. 数詞、時刻の言い方
14. これまでの復習
15. 方向動詞(1)
16. 方向動詞(2)
17. 年月日、年齢、序数、曜日
18. 数詞を用いた表現の練習
19. 動詞文(3) 基本的な動詞、形容詞で練習
20. 可能、受身の表現(1)
21. 可能、受身の表現(2)
22. これまでの復習 (計2回)
23. 試験

## ヴェトナム語 II（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

### 授業科目の内容：

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

### テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

### 参考書：

初回に指示する。

### 授業の計画：

初回に指示する。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

### 授業科目の内容：

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。

### テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

### 参考書：

初回に指示する。

### 授業の計画：

初回に指示する。

### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

## ペルシア語 I（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

### 授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

### テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

### 参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

### 授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

### 履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

### 成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

## ペルシア語 II（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

### 授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

### テキスト：

受講する人と相談して決めます。

### 参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

### 授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

### 履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

---

**タイ語 I (初級)** 言語文化研究所 教授 三上直光
 

---

**授業科目の内容：**

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

**テキスト：**

開講時に指示します。

**授業の計画：**

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

**履修者へのコメント：**

活気のある授業にしましょう。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

**質問・相談：**

授業中・授業後に受け付けます。

---

**タイ語 II (中級)** 言語文化研究所 講師 ボンシー、ライト
 

---

**授業科目の内容：**

このクラスでは、主にタイの小学校二年生の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの工場を目指します。

更に、スピーキング・リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

**テキスト：**

特に指定しません。  
講義資料プリント配布します。

**授業の計画：**

- ・テキストを使用してのリーディング、リスニング、ライティング
  - ・用意されたトピックスでのスピーチ練習
1. ガイダンス
  2. レッスン 1 (計 2 回)
  3. レッスン 2 (計 3 回)
  4. レッスン 3 (計 3 回)
  5. レッスン 4 (計 3 回)
  6. テスト
  7. レッスン 5 (計 3 回)
  8. レッスン 6 (計 3 回)
  9. レッスン 7 (計 3 回)
  10. レッスン 8 (計 3 回)
  11. 学期末テスト

**履修者へのコメント：**

- ・あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい
- ・あらかじめスピーチでのアウトラインをタイ語で書いてきて下さい
- ・診断書なしでの 8 回以上の欠席は認めません

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**トルコ語 I (初級)**

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

---

**授業科目の内容：**

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

**テキスト：**

プリント使用

**授業の計画：**

第 1 - 2 回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。

- 第 3 - 7 回 “～は～です” の構文、助詞 (格)、副詞、形容詞
- 第 8 - 13 回 動詞 (現在・単純過去・超越などの時制)
- 第 14 - 17 回 動詞 (伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第 18 - 21 回 分詞
- 第 22 - 24 回 動名詞
- 第 25 - 26 回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安と考えてください。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**トルコ語 II (中級)**

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

---

**授業科目の内容：**

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

**テキスト：**

プリント使用

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**朝鮮語文献講読**

文学部 教授 野村伸一 (春学期)

言語文化研究所 講師 李泰文 (秋学期)

---

**授業科目の内容：**

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、画像、写真、映像などを解説します。対象とする時代は特に限定しませんが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。一冊の本を選択し講読するかたちになります。

**テキスト：**

開講時に指定します。

**授業の計画：**

後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが一点にしばれない場合はこちらから提案します。

**履修者へのコメント：**

受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違おうとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

**カンボジア語 I (初級)**

言語文化研究所 教授 三上直光

---

**授業科目の内容：**

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

**テキスト：**

開講時に指示します。

**授業の計画：**

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

**履修者へのコメント：**

活気のある授業にしましょう。

**成績評価方法：**

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

**質問・相談：**

授業中、授業後に受け付けます。

---

## ヘブライ語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者を想定している。

### テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

### 参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

### 授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## ヘブライ語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

### テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

### 参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

### 授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## 古代エジプト語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者を想定している。

### テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

### 参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

### 授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## 古代エジプト語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

---

### 授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

### テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

### 参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

### 授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

### 履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

### 成績評価方法:

試験の結果による評価

### 質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

---

## アッカド語 I (初級) 言語文化研究所 講師 高井 啓介

---

### 授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

### テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

### 参考書:

開講時に指示します。

### 授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) — コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計四回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計二回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計二回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計二回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど — テキストを読みつつ文法事項を確認します (計九回)

### 履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

### 成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

---

## アッカド語 II (中級) 言語文化研究所 講師 高井 啓介

---

### 授業科目の内容:

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

**テキスト：**

テキストはプリントを準備します。

**授業の計画：****講義計画**

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

**履修者へのコメント：**

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

**成績評価方法：**

平常点：出席状況および授業態度による評価

## メディア・コミュニケーション研究所

### 【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所 (Institute for Media and Communications Research) は、昭和 21 年 (1946 年) に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成 8 年 (1996 年) に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行う研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていましたが (当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます)、今日では実習的な側面よりも研究生 (新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます) にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成 8 年 (1996 年) には、研究所 50 年の記念式典を行い翌平成 9 年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア (とくにコンピュータ・メディア) をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成 11 年 (1999 年) 10 月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム (MWR)」を開設しました (本格的稼働は平成 12 年 4 月より)。今ではインターネット放送をはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www. ....> に慣れてください。学生との連絡に Eメールも利用しています。

1996 年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の 50 年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名 (2~4 年生) の教育を行いつつ、新たな研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

### ◇カリキュラム

#### 1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外 (2 年生以上) でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2 年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）  
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）  
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）  
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）  
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

## 2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

## 3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
- ・研究会 8 単位以上※
- ・特殊研究 4 単位以上
- ・基礎演習 2 単位以上
- 合 計 28 単位以上

※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

## 平成17年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

\*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講 師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	北田 暁大
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	寫 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	木下和寛・伊藤高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	萩原 滋

\*研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	大石 裕

\*特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ	春2	藤森 研
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅱ	秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	寫 信彦
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ・Ⅳ（メディアのグローバル化と文化市民権）	春2/秋2	岩淵 功一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎・伊藤高史
三田設置科目	メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ	春2/秋2	金山智子・菅谷実

\*基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 勉
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

## 【基礎科目】

### マス・コミュニケーション論 I (春学期) 大石 裕

マス・コミュニケーションと政治

#### 授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

#### テキスト：

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

#### 参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

#### 授業の計画：

- 1回 コミュニケーションとは
- 2回 コミュニケーションの類型
- 3-4回 大衆社会モデル
- 5-6回 限定効果モデル
- 7-8回 強力効果モデル
- 9-10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

#### 履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

#### 成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。
- ・レポートによる評価。

### マス・コミュニケーション論 II (秋学期) 大石 裕

ジャーナリズムとメディア言説

#### 授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

#### テキスト：

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房：近刊）

#### 参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・小川浩一編『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版

#### 授業の計画：

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定とメディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理想的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

#### 履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

#### 成績評価方法：

学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

### マス・コミュニケーション発達史 I (春学期) 大井 眞二

近代化の位相とマス・コミュニケーション

#### 授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本

の近代史をメディア史のパースペクティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったのかを考察する。

#### テキスト：

- 特に指定しない。
- 適宜資料を配布する。

#### 参考書：

大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

#### 授業の計画：

以下の項目に関して、講義数にして2~3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- (1) 近代メディア空間  
(瓦版、ニュースシート、福沢諭吉の新聞観など)
- (2) 明治初期の言語政策：奨励策  
(御用新聞、買い上げ政策、新聞縦覧所など)
- (3) 民権運動と言語政策の転換  
(新聞紙条例、讒謗律など)
- (4) 独立紙の位相  
(時事新報、国民、日本など)
- (5) 大衆紙の成立と日本的ジャーナリズム  
(報道新聞、万朝報、二六新報など)

#### 履修者へのコメント：

日本の近代史のある程度の知識が必要となるので、留意されたい。

#### 成績評価方法：

学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

#### 質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

### マス・コミュニケーション発達史 II (秋学期) 大井 眞二

デモクラシーとマス・メディア

#### 授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

#### テキスト：

講義の際に指示する。

#### 参考書：

大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

#### 授業の計画：

以下の項目に関して、講義数にして2~3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- (1) 帝国と植民地  
(コミュニケーションの機能、言論空間など)
- (2) 国家建設とメディア  
(憲法修正第一条、建国の父たちのメディア論など)
- (3) 政党紙と大衆紙  
(フェデラリスツ、リパブリカンズ、ペニープレスなど)
- (4) 公共圏とメディア  
(ハーバーマス、市民社会、パブリックサービスなど)
- (5) 革新主義のジャーナリズム論  
(革新主義、マックレーキング、プロフェッショナルリズムなど)

#### 履修者へのコメント：

マス・コミュニケーション発達史 I（春学期）の履修。

#### 成績評価方法：

学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

## 質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

---

## 国際コミュニケーション論 I (春学期) 伊藤 英一

---

### グローバル化とメディア

#### 授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓から見た景色とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたくも、『星』になった諸君が、丸い地球から見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

#### テキスト：

必要な資料は、その都度、配布・案内します。

#### 参考書：

- ・福沢諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）

#### 授業の計画：

- (1) 地球と世界地図
- (2) 国際コミュニケーション論の理論的傾向
- (3) グローバル化とメディア／コミュニケーション
- (4) フランス革命と情報インフラ
- (5) 大英帝国と情報通信
- (6) ロスチャイルドの築くネットワーク
- (7) ロイター通信の創業からサバイバルまで
- (8) 福沢諭吉の『伝信』事情から、日本海海戦まで（2005年5月27日海戦100周年）
- (9) アバ通信 vs. ロイター通信
- (10) ヴェネチア映画祭 vs. カンヌ映画祭
- (11) パルム・ドール vs. オスカー賞
- (12) CNN vs. Al Jazeera
- (13) コミュニケーションの本質

#### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

#### 質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

---

## 国際コミュニケーション論 II (秋学期) 伊藤 英一

---

### 国境を越えるコミュニケーション

#### 授業科目の内容：

21世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、国境を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの多様な担い手をケース・スタディの題材として取り上げながら、多彩に展開される情報戦略の妙を、諸君と共に、探ってみます。

#### テキスト：

その都度、配布します。

#### 参考書：

福沢諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）

#### 授業の計画：

- (1) メディアとコミュニケーション
- (2) 国際コミュニケーション論と6つの潮流
- (3) 福沢諭吉の文明論とメディア・コミュニケーション

(4) ルパート・マードックのメディア・ビジネス観

(5) “Trust me, I’m British” — BBCの信頼性

(6) カナダのバランス感覚

(7) 米国とグローバル・×××××

(8) フランスのコミュニケーション戦略

(9) CNN vs. Fox

(10) 米国と中近東のメディア地図

(11) ハリウッド vs. アジア — 映画産業

(12) 情報の流れに抗して — GPS vs. ガリレオ計画

(13) 国際コミュニケーションを俯瞰する。

#### 成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

#### 質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

---

## メディア社会論 I (春学期)

---

北田 暁大

#### 授業科目の内容：

1970年代以降の若者文化・サブカルチャーとメディアとの関係史を考察する。

併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャーとメディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境（映画、電話など）にも論及する予定。

#### テキスト：

・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊  
・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

#### 授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) メディア文化と若者文化の現在（3回）
- (3) 70年代と「メディアの思想」（3回）
- (4) メディアアイロニズムの生成 — 80年代とテレビ（3回）
- (5) 「メディア論」の視座 — マクルーハンからキッターへ（3回）

#### 成績評価方法：

試験の結果による評価。

#### 質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

---

## メディア社会論 II (秋学期)

---

北田 暁大

#### 授業科目の内容：

1980年代～現在に至る若者文化・サブカルチャーの変容とメディア文化変容の関係史を考察する。併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャー／メディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境にも論及する予定。

#### テキスト：

・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊  
・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

#### 授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) アイロニズムの変容 80年代から90年代へ (3回)
- (3) インターネットの政治社会学 (3回)
- (4) メディアとしての都市空間 「渋谷」と「秋葉原」 (3回)
- (5) 「メディア論」の射程 (3回)

#### 履修者へのコメント：

「メディア社会論 I」と併せて受講して欲しい。

#### 成績評価方法：

試験の結果による評価。

#### 質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

---

メディア法制 I (春学期) 林 紘一郎

---

情報の発信・受信の自由と規律

**授業科目の内容：**

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナル・コミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法律学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

**テキスト：**

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会、近刊）を予定

**参考書：**

松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

**授業の計画：**

- (1) イントロダクション (1回)
- (2) メディア関連法の体系と系譜 (計2回)
- (3) 言論の自由、思想の市場、二重の基準論など (計2回)
- (4) 名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害、猥褻情報など (計4回)
- (5) 情報公開、アクセス権、マスメディアの特権など (計4回)

**履修者へのコメント：**

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

**成績評価方法：**

レポート及び平常点

**質問・相談：**

hayashi@iisec.ac.jp まで

---

メディア法制 II (秋学期) 林 紘一郎

---

情報の発信・受信の自由と規律

**授業科目の内容：**

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マスコミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナルコミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法律学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

**テキスト：**

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会、近刊）を予定

**参考書：**

松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

**授業の計画：**

- (1) 情報メディア基本法 (1回)
- (2) 資源配分規律法 (2回)
- (3) 設備・サービス規律法 (計3回)
- (4) コンテンツ規律法 (1回)
- (5) 事業主体法・規制機関法・産業支援法 (合わせて1回)
- (6) デジタル環境整備法 (1回)
- (7) ケーススタディ (計3回)
- (8) 解釈論と立法論 (1回)

**履修者へのコメント：**

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

**成績評価方法：**

レポート及び平常点

**質問・相談：**

hayashi@iisec.ac.jp まで

---

ジャーナリズム論 I (春学期) 伊藤 高史

---

記事作成の論理と実習

**授業科目の内容：**

メディアリテラシーを高めるため、記事に求められる倫理や、新聞記事や雑誌記事の構造などについて、記事の模擬執筆の実習を行いつつ講義する。実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論(後期)と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

**テキスト：**

花田達朗ニューズラボ研究会『実践ジャーナリスト養成講座』（平凡社、2004年、2,200円）

**参考書：**

澤田昭夫『論文の書き方』（講談社、1977年、480円）

**授業の計画：**

- (1) オリエンテーション
- (2) 記者の倫理 (計2回)
- (3) ストレートニュース記事の形式について (計4回)
- (4) 誤報とニュースソースの問題について (計3回)
- (5) 情報公開制度 (計2回)
- (6) まとめ

**履修者へのコメント：**

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論(後期)と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

**成績評価方法：**

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

---

ジャーナリズム論 II (秋学期) 伊藤 高史

---

表現の自由と社会理論

**授業科目の内容：**

ジャーナリズム論Iの内容をふまえて、ジャーナリズムを理論的、法的に考える。講義形式での授業を考えているが、随時、作業をしてもらいながら理解を深めてもらうつもりである。そのため、遅刻は認めない。成績は平常点でつける予定だが、出席者の人数によって変更する可能性がある。

**参考書：**

山田健太『法とジャーナリズム』（学陽書房、2004年、3,000円）

**授業の計画：**

- (1) オリエンテーション
- (2) マスメディア産業概論 (計4回)
- (3) 社会理論とジャーナリズム (計2回)
- (4) ジャーナリズムの法律的問題 (計5回)
- (5) まとめ

**履修者へのコメント：**

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

**成績評価方法：**

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

---

世論 I (春学期) 小川 恒夫

---

世論の機能と形成メカニズム

**授業科目の内容：**

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

**テキスト：**

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

**参考書：**

使用しません／随時授業内で資料を提示します。

## 授業の計画：

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口こみ）
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

## 履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

## 成績評価方法：

学期末試験の結果による。

## 質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

---

## 世論Ⅱ（秋学期）

小川恒夫

---

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

## 授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、①どのような性格が争点か、②誰によって、③どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、④なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、⑤どのような社会的問題が発生し、⑥それに対する対策の可能性、を順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理念的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

## テキスト：

使用しません。

## 参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

## 授業の計画：

- (14) ガイダンス
- (15) 戦争報道と世論
- (16) 犯罪報道と世論
- (17) 科学報道と世論
- (18) 経済報道と世論
- (19) 海外報道と世論
- (20) 民族間報道と世論
- (21) 政治報道と世論
- (22) 法的規制の危険性と可能性
- (23) ジャーナリスト教育と、メディアリテラシー教育の可能性
- (24) オンブズマン制度の可能性
- (25) 残された課題
- (26) 全体のまとめ（質問受付）

## 履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

## 成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

## 質問・相談：

授業終了時に受け付けます。

---

## 情報行動論Ⅰ（春学期）

福田充

---

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

## 授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容

に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎論である。

## テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

## 参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

## 授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：情報行動とは何か
- (2) 情報行動論の理論と思想
- (3) 社会調査から見える情報行動
- (4) 情報リテラシーとメディアリテラシー
- (5) 現代の情報環境・環境化する情報
- (6) 職場の情報行動と家庭の情報行動
- (7) メディアと情報行動：①映像メディア
- (8) メディアと情報行動：②音声メディア
- (9) メディアと情報行動：③活字メディア
- (10) メディアと情報行動：④通信メディア
- (11) メディアと情報行動：⑤ゲームメディア
- (12) 情報行動の変容と人間心理
- (13) 情報行動の理論的総括

## 履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

## 成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

## 質問・相談：

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

---

## 情報行動論Ⅱ（秋学期）

福田充

---

ユビキタス社会における情報行動の変容

## 授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

## テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

## 参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

## 授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：現代の情報行動の特性とは
- (2) デジタル化がもたらす情報行動の変容
- (3) 多チャンネル化とチャンネルレポートリー
- (4) ネットワーク・コミュニティにおける情報行動
- (5) CMCの諸問題
- (6) バーチャル・リアリティと情報行動
- (7) モバイルコミュニケーション
- (8) 同時並行的情報行動（ながら利用とダブルスクリーン）
- (9) ユビキタス社会と情報行動
- (10) GISとハイパー監視社会
- (11) デジタル・ディバイドがもたらす諸問題
- (12) ロボティクスと情報行動
- (13) 情報行動とは何か

## 履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思

想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

**成績評価方法：**

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

**質問・相談：**

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

---

**異文化間コミュニケーション（秋学期）** 浅井 亜紀子

---

**授業科目の内容：**

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式（価値観や行動パターン）に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

**参考書：**

- 箕裏康子『子供の異文化体験』思索社
- その他 授業中に指示。

**授業の計画：**

- (1) 授業内容説明，異文化間コミュニケーションの背景，文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化（計2回）
- (4) イメージとステレオタイプ（計2回）
- (5) 言語コミュニケーション（計2回）
- (6) 非言語コミュニケーション（計2回）
- (7) 異文化適応（計3回）

**履修者へのコメント：**

海外経験に関心のある学生，異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

15分以上の遅刻は欠席とします。

**成績評価方法：**

- 授業出席・参加度 30%（3分の1以上の欠席者には単位を出さない）
- 小レポート類 30%
- 期末テスト 40%

---

**メディア文化論Ⅰ（春学期）** 鳥 信彦

---

**授業科目の内容：**

テレビ，新聞，ラジオなど各種メディアの相違と影響力を具体的事例で検証し，毎週発生するニュースについて情報の読み解き方を講義。ジャーナリズム40年の体験に基づき，学生たちに構想力，考える力をつけてもらう。

**テキスト：**

講義資料プリントを配布。

**参考書：**

- 鳥信彦『ニュースキャスターたちの24時間』（講談社α文庫）ほか

**授業の計画：**

- 各種メディアの特質とその影響（テレビ，新聞等）を直近の事例から具体的に検証
- メディア報道の変質と政治的社会的影響
- テレビ，新聞，ラジオ制作等の舞台裏とその体験論
- メディア・リテラシーの重要性
- 情報の読み方と自らの構想力，表現力の向上訓練
- 海外メディアの情報戦略競争
- <http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/> を参照
- 主な講義内容  
テレビ報道史，メディアの表現法，21Cのメディア，鳥の目と虫の目，情報の分析法，情報収集法，現場主義の意味，世論の作られ方，歴史の定点観測と時代の読み方，文化的視点，自分軸の持ち方，権力・人権問題との距離のとり方—ほか

**履修者へのコメント：**

- 情報の読み解き方を通じて「考える力」をもちたい学生を期待。
- 自己表現力を高めるための意見表明や小感想文を提出。
- 遅刻，授業中の私語，携帯電話の使用を認めず。

**成績評価方法：**

毎回の授業課題について提出する小感想文（200～400字程度）と授業内試験により評価。

**質問・相談：**

メディアの制作現場の視察などに応ずる。

---

**メディア文化論Ⅱ（秋学期）** 白水 繁彦

---

メディアのイメージ形成力：モノ，観光地，集団のイメージ形成

**授業科目の内容：**

この授業では実際の映画や番組，広告，広報ビデオを分析しながら送り手の意図を読み解き，送り手にとっても受け手にとっても重要なメディアリテラシーの能力を高めます。

**テキスト：**

なし（パワーポイントなどで画像，テキストなどを提示します。）

**参考書：**

授業中に指示します。

**授業の計画：**

- 第1回 メディアの機能，擬似環境についての理論
- 第2回 同上
- 第3回 ハワイの観光地イメージの形成とメディア，観光産業（～第4回）
- 第5回 広告とイメージ形成 広告の理論
- 第6回 広告とイメージ形成 説得的コミュニケーションの理論
- 第7回 感性に訴える広告の手法とその分析法
- 第8回 ワークショップ（実際の広告を見ながら分析してみる）
- 第9回 各自の分析の報告
- 第10回 受け手の分析 マーケットのとらえ方
- 第11回 広報の手法
- 第12回 広報の分析
- 第13回 まとめ

**履修者へのコメント：**

画像を用いたり，事例を提示するわかりやすい授業を心がけますが，毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

**成績評価方法：**

基本的に，何回か書いてもらうレポートや授業中の小作文をもとに評価します。

**質問・相談：**

授業の後や e-mail で受け付けます。

---

**メディア産業と政策Ⅰ（春学期）** 菅谷 実

---

映像コンテンツ産業論

**授業科目の内容：**

前半は映像コンテンツ産業を理解するために必要な基礎理論。後半は同産業の歴史および各国の映画産業構造，振興策などの比較検討をおこなう。

**テキスト：**

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善，2002年

**授業の計画：**

- オリエンテーション (1)
- I 基礎理論 (5)
  - (1) ネットワーク理論
  - (2) ウィンドウ戦略
  - (3) メディア融合
- II 映像コンテンツ産業 (6)
  - (4) 映像コンテンツと映画
  - (5) 映画産業の発展
  - (6) 映像振興政策（欧州，米国，日本）

### Ⅲ まとめ (1)

#### (7) メディア融合とコンテンツ

#### 履修者へのコメント：

コンテンツ産業に興味のある学生の履修を歓迎します。

#### 成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

---

### メディア産業と政策Ⅱ (秋学期)

菅谷 実

メディアの融合と制度変容

#### 授業科目の内容：

前半は、ネットワーク産業の基礎理論と電子メディア産業の生成を紹介する。後半は、ネットワーク技術の変容が制度と産業構造に与えた影響を米国、日本などの具体的事例から学ぶ。

#### 参考書：

菅谷実『アメリカのメディア産業政策』中央経済社、1997年

#### 授業の計画：

オリエンテーション (1)

#### I 総論 (4)

- (1) ネットワーク理論
- (2) 電子メディア産業の生成

#### II 各論 (7)

- (3) 放送政策理念、ローカリズム原則とあまねく原則
- (4) 通信政策におけるユニバーサル・サービス
- (5) 放送内容規制
- (6) ケーブル・テレビ産業の発展と社会的ステータス
- (7) インターネット・ガバナンス
- (8) メディア融合
- (9) デジタル・コンテンツ

### Ⅲ まとめ (1)

#### 履修者へのコメント：

メディアの産業構造、制度に興味ある学生の履修を歓迎します。

#### 成績評価方法：

期末テスト。

---

### 情報産業論Ⅰ (春学期)

宿南 達志郎

メディア産業概論

#### 授業科目の内容：

メディア産業について、産業、企業、利用者などの観点から、これまでの発展の経緯と今後の課題などについて概要を学びます。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

- ・電通総研編『情報メディア白書2004』ダイヤモンド社、2004年
- ・総務省編『情報通信白書 平成16年度』ぎょうせい、2004年

#### 授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) メディア産業の歴史 (2回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
  - コンピュータ業界 (2回)
  - 通信業界 (2回)
  - 放送業界 (2回)
  - 新聞業界 (1回)
  - 出版業界 (1回)
  - 音楽業界 (1回)
- (4) まとめ (1回)

#### 履修者へのコメント：

メディア産業に関心のある学生を歓迎します。

#### 成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

#### 質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

---

### 情報産業論Ⅱ (秋学期)

宿南 達志郎

インターネットビジネス論

#### 授業科目の内容：

インターネットが伝統的ビジネスにどのような影響を与えてきたか、インターネットによる新たなビジネスモデルはどのように発展しているかを学びます。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

- ・(財)インターネット協会(編著)『インターネット白書2004』インプレス、2004年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム—インターネット・ビジネスモデル』共立出版、2004年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

#### 授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) インターネットの歴史 (2回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの変化 (3回)
  - 金融業界
  - 流通業界
  - 旅行業界
- (4) インターネットビジネスの企業研究 (7回)
  - Amazon
  - Yahoo
  - eBay
  - Dell
  - 楽天
  - 松井証券
  - アスクル
- (5) まとめ (1回)

#### 履修者へのコメント：

インターネットビジネスによる起業あるいは就職を考えている人を歓迎します。

#### 成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

#### 質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

---

### ジャーナリズム総合講座Ⅰ (春学期)

木下 和寛

伊藤 高史

朝日新聞寄付講座

#### 授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されている方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

#### 授業の計画：

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成16年度前期の授業概要は以下のとおり。

- (1) オリエンテーション
- (2) 新聞業界とは何か
- (3) 必要とされる人材と育成について
- (4) 文章作法
- (5) 社論の形成
- (6) 現場からの報告
- (7) 政治記者の仕事
- (8) テーマ解説「私の外務省論」
- (9) 社会部記者の仕事
- (10) テーマ解説「報道と人権」
- (11) 国際報道の仕事
- (12) テーマ解説「私のアメリカ論」

(13) 調査報道の原点

**履修者へのコメント：**

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

**成績評価方法：**

平常点とレポート。

---

**ジャーナリズム総合講座 II (秋学期)**

木下和寛

伊藤高史

---

朝日新聞寄付講座

**授業科目の内容：**

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されている方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

**授業の計画：**

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

なお、平成16年度後期の授業概要は以下のとおり。

- (1) レポート講評
- (2) 経済部記者の仕事
- (3) テーマ解説「私の日本経済論」
- (4) 科学記者の仕事
- (5) 新しいメディアの開発
- (6) 新聞とテレビ
- (7) スポーツ記者の仕事
- (8) 整理部記者の仕事
- (9) 雑誌作りの仕事・知識人論
- (10) 校閲記者の仕事
- (11) 映像部記者の仕事
- (12) 自由討論・レポート提出

**履修者へのコメント：**

出席者は、よく新聞を読み積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

**成績評価方法：**

平常点とレポート。

---

**マス・コミュニケーション論 I (春学期) (日吉)**

川端美樹

---

マス・コミュニケーションと社会

**授業科目の内容：**

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

**テキスト：**

大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

**参考書：**

授業時に必要に応じて指示する。

**授業の計画：**

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

- (1) マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
- (2) マス・コミュニケーションの発達と社会
- (3) マス・コミュニケーションとその影響

**履修者へのコメント：**

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

**成績評価方法：**

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

---

**社会心理学 I (春学期) (日吉)**

萩原 滋

---

社会的認知と対人行動

**授業科目の内容：**

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることにする。

**テキスト：**

使用しない。

**参考書：**

適宜、指示する。

**授業の計画：**

- ガイダンス (1回)
- 社会心理学の研究方法 (1回)
- 社会的認知の研究領域概観 (1回)
- 印象形成の古典的実験 (1回)
- 帰属理論と実証的研究 (3回)
- 認知的一貫性の諸理論 (1回)
- 認知的不協和理論と実証的研究 (3回)
- 対人行動の基礎 (2回)

**履修者へのコメント：**

特になし。

**成績評価方法：**

学期末に筆記試験を行う。

**質問・相談：**

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

---

**社会心理学 II (秋学期) (日吉)**

萩原 滋

---

メディアとコミュニケーション

**授業科目の内容：**

秋学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

**テキスト：**

使用しない。

**参考書：**

適宜、指示する。

**授業の計画：**

- 対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション (1回)
- 説得的コミュニケーションと態度変容 (2回)
- 説得の技法 (1回)
- テレビのメディア特性 (1回)
- 日本におけるテレビ放送小史 (1回)
- テレビの社会的影響概観 (1回)
- テレビの視聴効果 (1)：暴力や反社会的行動への影響 (3回)
- テレビの視聴効果 (2)：現実の社会認識への影響 (3回)

**履修者へのコメント：**

特になし。

**成績評価方法：**

学期末に筆記試験を行う。

**質問・相談：**

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

## 【研究会】

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 萩原 滋

メディアと社会行動

### 授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

### テキスト：

萩原滋・国広陽子編著 (2004) 『テレビと外国イメージメディア・ステレオタイプ研究』, 勁草書房  
(もう1冊, 概論書のようなものを追加する予定)

### 参考書：

特になし

### 授業の計画：

#### (1) 春学期

まず昨年度からの在籍者(2, 3年生)を中心に、昨年度の研究成果の発表を行う。(計3回)

その後はテキストを全員で輪読する。(計10回)

夏休み中の合宿で新入生の研究テーマ、関連論文の発表を行う。

#### (2) 秋学期

2, 3年生を中心に毎回数名ずつ研究発表を行う。(10回)

4年生の修了論文の中間報告を行う。(3回)

### 履修者へのコメント：

研究会の運営の仕方は、履修者数によって変わらざるを得ないが、各自が自由にテーマを選んで発表する自由研究、個人研究のスタイルが定着してきている。履修者の希望があれば何らかの形で共同研究を行うこともありうるが、本研究会では個人研究を基本とすることにした。

### 成績評価方法：

研究会の場での発表や積極性などの平常点、出席率に基づく。ただし三田祭や年度末にレポートの提出を求めることになるので、その評価も加味される。

### 質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 菅谷 実

メディア産業論

### 授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディアの産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究(2004年度は、「メディアとスポーツ」)、4年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアコムホームページ

([www.mediacom.keio.ac.jp](http://www.mediacom.keio.ac.jp))を参照のこと。

### 授業の計画：

#### (1) 春学期

2・3年：ゼミ員の発表形式により、共同研究に必要な基礎知識を学習する

4年：夏合宿での中間発表に向けた修了論文の準備

#### (2) 秋学期

2・3年：三田祭共同研究発表にむけて、グループ単位の調査・研究活動

4年：終了論文の作成

なお、授業計画の詳細については、春学期の第1回目の授業時に紹

介するので、受講希望者は1回目の授業に出席すること

### 成績評価方法：

平常点による採点

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 宿南 達志郎

情報メディアの発展に関する研究

### 授業科目の内容：

メディアの進化について研究します。インターネット、ケータイ、デジタル放送などにより、メディアがどのように変容し、メディア産業がどのように発展しているのかを実証的に研究します。

### テキスト：

・情報通信総合研究所(編著)『情報通信アウトック2005』NTT出版, 2005年

・塚本潔『ドコモとau』光文社新書, 2004年

### 参考書：

・総務省(編)『情報通信白書 平成16年版』ぎょうせい, 2004年

・林紘一郎『電子情報通信産業』コロナ社, 2002年

### 授業の計画：

「メディアの連携・融合に関する研究」をテーマとする。ブロードバンドサービス、とりわけ光サービスによる映像配信、携帯における音楽配信、デジタル放送における双方向サービスなどについて、産業政策、経営学、社会学の観点から研究を行う。

春学期は、メディア産業の動向についての概要を研究し、秋学期は、個別企業の経営戦略(NHK, NTT, KDDIなど)を詳細に研究する。

### 履修者へのコメント：

マスメディア、携帯電話、ブロードバンドなどメディアの電子化に関心のある学生を歓迎します。

### 成績評価方法：

・授業出席、研究会活動への貢献度で評価します。

・研究会IVは修了論文で評価します。

### 質問・相談：

いつでも研究室にお越しください。

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 金山 智子

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する。

### 授業科目の内容：

今日、私達を取り巻くメディア・コミュニケーション環境は情報・通信技術の発達により、ますます多様化、複雑化しながら拡張を続けています。印刷技術、無線技術、ラジオ、テレビ、コンピュータ、インターネット、そして携帯電話など、メディア・コミュニケーション技術の普及と社会との関係はますます強まり、これらの技術が私達の生活にとって不可欠なものになっているのが現実です。このような中、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで、メディア・コミュニケーションに関わる学術的な考察が求められていると言えるでしょう。メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのかについて、本研究会では、グループや個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。また、研究会では、理論的な考察だけでなく、社会の一線でメディア・コミュニケーションの活動やイベントに関わる人々の実践を積極的に取り込むことを奨励しています。これに関連して、メディア業界で活躍している方々をゲストに迎え、メディアと社会・文化について、現場の生の声を聞き、また意見交換会を開催します。

### テキスト：

特に指定しません。

### 参考書：

適宜関連文献資料やウェブサイトを指示します。

### 授業の計画：

春学期は、個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定、調査実施、データ分析、報告、そして発表といった一連の研究プロセスを、担当教員との個別コンサルティングなども交え

ながら、ステップ・バイ・ステップで身につけられるよう指導します。夏から秋学期に調査を実施し、研究成果を三田祭で発表してもらいます。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導する予定です。

#### 《春学期》

- 研究するということ
- 研究ステップ1：研究テーマ
- 研究ステップ2：文献調査
- 研究ステップ3：研究課題または仮定の設定
- 研究ステップ4：調査方法
- 研究ステップ5：研究計画書

#### 《秋学期予定》

- 研究ステップ6：調査の実施
- 研究ステップ7：調査結果の分析
- 研究ステップ8：調査報告書の作成
- 研究ステップ9：研究発表（三田祭）4年生修了論文発表

#### 成績評価方法：

出席、レポート、研究論文を総合して評価します。

---

### 研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤 高史

---

ジャーナリズムと「表現の自由」

#### 授業科目の内容：

ジャーナリズムと「表現の自由」をテーマにしたゼミナール形式の授業です。まずは、ジャーナリズム関連の書籍を輪読し、ある程度、理解の共通化を図ります。夏前からは、学生自身にテーマを設定してもらい、三田祭への発表を目指して、研究発表などを行っていきます。秋は、三田祭発表に向けて学習を進めてもらい、その後は、修了論文にむけた研究発表をしてもらいます。なお、昨年は三田祭発表に取材を取り入れました。今年も同様のスタイルにしたいと考えています。

#### テキスト：

なし（授業中に指定します）

#### 参考書：

なし（授業中に指定します）

#### 授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2)～(8) 指定したテキストの輪読
- (9)～(17) 三田祭に向けた研究発表
- (18)～(26) 修了論文に向けた研究発表

#### 履修者へのコメント：

履修を考えている学生は、平成16年度に履修した学生からよく話を聞いておくとよいでしょう。

#### 成績評価方法：

平常点

---

### 研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤 陽一

---

情報化と近代化

#### 授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

#### テキスト：

伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館、1999年

#### 参考書：

- ・秋山哲『本と新聞の情報革命』ミネルヴァ書房、2003年
- ・金原左門『近代化の論の転回と歴史叙述』中央大学出版部、1999年

#### 授業の計画：

- 第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告①
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告②
- 第4回 以降については未定部分が多いが、特に何も無い時は指

定された本の輪読・講読を行う。

#### 履修者へのコメント：

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。

#### 成績評価方法：

- ・三田祭参加論文
- ・学期末レポート
- ・平常点（出席、授業における発言の頻度と質）

#### 質問・相談：

随時受け付けます。

---

### 研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 大石 裕

---

ジャーナリズムを考える

#### 授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

#### テキスト：

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

#### 参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

#### 授業の計画：

〔前期〕

- 1～2回 基本的な文献の講読。
- 3～13回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

- 1～10回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議
- 11～13回 4年生の修了論文発表

#### 履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

#### 成績評価方法：

平常点による。

### 【特殊研究】

---

### 放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 安倍 宏行

---

テレビニュースは何が出来るか？

#### 授業科目の内容：

テレビニュースはどう制作されているのか。テレビ報道記者はどう取材しているのか。記者、特派員、キャスターの経験から、テレビニュースの問題点とその在り方を考察する。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### 参考書：

特に指定しません。

#### 授業の計画：

- 前期 1～2回 ガイダンス・テレビニュースと新聞の違い
- 3～4回 ニュース番組はどうオンエアされているのか（テレビ局見学）
- 5～6回 テレビ記者の仕事—取材の実態
- 7回 特派員の仕事
- 8回 キャスターの仕事
- 9回 プロデューサー、PD、ディレクターの仕事
- 10～11回 ニュース原稿の書き方・実践
- 12～13回 ニュース制作・実践—リポート制作・発表
- 後期 1～2回 視聴率とやらせ
- 3～4回 政治報道・選挙報道の問題点
- 5～6回 戦取材の問題点
- 7～8回 人権侵害と報道倫理
- 9回 テレビ報道の危機管理
- 10回 検証報道の実態

11回 テレビジャーナリズムの今後

12～13回 企画制作実践・発表

#### 履修者へのコメント：

将来、テレビ報道記者になりたい人、ニュース番組制作に関わりたい人を歓迎します。

#### 成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加状況による評価）

### 新聞特殊講義 I（春学期）

藤 森 研

「ニュース」はどうつくられるのか

#### 授業科目の内容：

新聞は日々、どのようにつくられているのかを実践的に解説し、その限界や意義、ジャーナリズムとは何かを学びます。

#### テキスト：

資料を配布

#### 参考書：

- 『市民社会とメディア』（リベルタ出版、2000年、原寿雄編）
- 『報道の自由と人権救済』（明石書店、2001年、原寿雄・田島泰彦編）

#### 授業の計画：

その時々のニュースや、戦前からの新聞記事を題材に、下記のようなテーマを考えます。

- ・新聞は、なぜ必要なのか
- ・記者の失敗とスクープ
- ・社説の生理
- ・戦争と新聞
- ・プライバシー、個人情報と新聞・メディア
- ・人権と新聞（たとえばハンセン病報道の影と光と、空白）
- ・天皇報道と戦後社会
- ・憲法と新聞と社会

#### 履修者へのコメント：

メディアだけでなく、戦後社会に関心のある学生の参加を期待します。

#### 成績評価方法：

平常点とレポート

### 新聞特殊講義 II（秋学期）

河 原 理 子

取材する側と、取材される側

#### 授業科目の内容：

現在と過去の、主な記事の各紙比較に触れながら、記者の仕事、新聞をどう作るかを解説します。取材する側と取材される側の関係、取材して正確に書く上で大切なこと、新聞の限界と社会的意義について学びます。

#### テキスト：

資料を配布。

#### 参考書：

- 『新聞力』（東京新聞出版局、青木彰）
- 『〈犯罪被害者〉が変える報道』（岩波書店、高橋シズエ・河原理子）

#### 授業の計画：

松本サリン事件やその時々のニュースを題材に、下記のようなテーマを考えます。取材される側の視点、情報を得る側の視点からも、より良い報道を探ることを目標にします。

また、記者は生身の人間に接する職業であり、信頼関係が基本です。人の話を聞く基本を学んだら、できればゲストを招いて話を聞きます。何を準備して、どう聞くのか、自ら考えてください。

- ・「事実」と「真実」
- ・取材相手との距離～「権力」の監視
- ・速報と長期的な報道
- ・過去の新聞を読む（だれの視点から書いているか）記者の視点と差別
- ・意味ある「スクープ」とは？
- ・プライバシーと公益
- ・報道被害とその対応
- ・声なき者に声を～被害者の取材と報道

・「広場」としての新聞

#### 履修者へのコメント：

日々の新聞を、ざっとでも読んでいることを、授業の前提にします。

#### 成績評価方法：

平常点とレポート

### 広告特殊講義 I・II（春学期・秋学期）

吉 田 望

広告とブランドづくり

#### 授業科目の内容：

ブランドについて語ります。日本型ブランド。ブランドと広告。広告産業の成り立ち。

#### 参考書：

- ・「ブランドI」宣伝会議社
- ・「ブランドII」宣伝会議社

#### 授業の計画：

ガイダンス（自己紹介・自分のあだ名を考える）

ブランド概論

- 好きな雑誌の商品広告を持ってくる。

広告概論

- 新しい商品ブランドを考えてみる（グループ別・ケーススタディ実習）

広告産業概論

- 付録 秘録元電通調査部長

様子を見て一～二回宴会をやりたいと思っています。

#### 履修者へのコメント：

ブランド＝（計算＋志）×驚きです。計算か志か驚きのある人を期待します。

#### 成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・（出席状況および授業態度による評価）

### メディア特殊講義 I（春学期）

境 真 良

デジタルコンテンツの経済学へ～技術、制度、社会心理～

#### 授業科目の内容：

コンテンツの産業現象を、消費心理学、産業心理学を踏まえつつ、経済学的視点から考察していきます。最終的にiTMSや2ちゃんFLASH祭りを始めとしたデジタルコンテンツを巡る様々な活動が今後果たすべき役割を考えていきます。

#### テキスト：

初回講義時に資料集を配布する他、各回講義時に適宜資料を配布します。

#### 参考書：

- ・『図解でわかるコンテンツビジネス』（2002、日本能率協会マネジメントセンター）
- ・『映像コンテンツ産業論』（2002、丸善）
- ・『動物化するポストモダン』（2001、講談社）

#### 授業の計画：

- (1) 商品としてのデジタルのコンテンツ  
～コンテンツ産業史の視点から～
- (2) 文化的価値と経済的価値  
～コンテンツと政策を翻弄する二元論～
- (3) デジタルコンテンツの産業と政策  
～基礎知識として、映画を例にして～
- (4) 再生産を支える産業基盤  
～知的財産制度の矛盾と補完の方向性～
- (5) コンテンツ産業のビジネスモデル  
～メジャーとインディーズ～
- (6) デジタルネットワーク流通を巡る力学を解析する  
～音楽、映像、ゲーム～
- (7) デジタル環境のコンテンツ産業はどこへ行く

#### 履修者へのコメント：

授業では、アイドルビジネス、キャラクタービジネスについて多くふれます。アイドルやキャラクター、音楽、映画、漫画などに造

詣の深い諸君と一緒に現在進行形の産業現象を議論していきたいと思えます。

**成績評価方法：**

レポートによる評価を中心とします。

---

**メディア特殊講義 II (秋学期) 鷹 信 彦**

---

テレビ・新聞などメディアの現場の現実と問題点を検証

**授業科目の内容：**

毎週発生しているニュースのTV、新聞報道の裏側と本質を見抜く力をつけるよう講義したい。学生同士のディベート、グループ研究及び実地体験なども踏まえて学び、情報の解明力をつける。

**テキスト：**

プリント、毎日の新聞、TV報道。

**参考書：**

鷹信彦『ニュースキャスターたちの24時間』(講談社α文庫)ほか、鷹のH.P.

**授業の計画：**

- 前期のメディア文化論をある程度前提にしたうえで、毎週発生する政治、経済、国際情勢、社会事件などについて、各メディアの報じ方と読み解き方を学生と一緒に論じあう。
- この過程で、人権、差別、送り手側のメディア戦略、テレビや新聞などの制作現場の実情、やらせ、権力の介入、視聴率主義、報道・論説姿勢の形成のあり方、経営・広告と報道の相克、メディアの歴史と闘い、表現の自由、取材のあり方、など一諸問題を考える。現場で仕事をしているキャスター、記者などもきってもらう予定。
- 実際の取材、制作なども考慮。

**履修者へのコメント：**

- ・毎回、小感想文(200~400字程度)を提出。
- ・意見表明、グループ討議などを随時行なう。
- ・受講の際には基本的マナー、品性を大事にすること。

**成績評価方法：**

小感想文を主とし、授業内試験も期末に実施

**質問・相談：**

- ・現場視察、ジャーナリズム研究などの相談に応ずる。
- ・<http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/>

---

**特殊研究 I・II (春学期・秋学期) 小 川 浩 一**

---

日本の近代化とマス・メディア

**授業科目の内容：**

明治維新後の日本が近代化を目標とした中で、その一翼を担ったマス・メディアのあり方と、戦後の近代化を担ったマス・メディアがいずれも、大政翼賛的存在となり、体制側となっていた事情を批判的に考察したい。

**授業の計画：**

- 1 ガイダンス
- 2~4 明治維新と近代社会
- 5~8 明治期新聞と言論人の背景
- 9~12 国民社会とマス・メディア
- 13~16 戦後日本社会と民主化
- 17~20 近代化としての民主化とマス・メディア
- 21~24 大衆社会とメディアのポピュリズム
- 25~26 まとめ

**履修者へのコメント：**

基本的に演習形式で行います。日常的に乱読の姿勢を保持することを期待します。

**成績評価方法：**

平常点及びレポート

---

**特殊研究 III (春学期) 岩 淵 功 一**

---

メディアのグローバル化と文化市民権

**授業科目の内容：**

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

**テキスト：**

毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。

- ・伊藤守(編)『メディア文化の権力作用』(セリカ書房)
- ・岩淵功一・多田治・田仲康博(編)『沖縄に立ちすくむ』(セリカ書房)

**参考書：**

クラスにて指示する。

**授業の計画：**

前期は主に、日本における多様な社会的・文化的背景を持つ集団・人々の存在と関心がメディアをとおしてどのように表現されているのか(あるいは、いないのか)を具体的に検証する。授業内容の詳細は最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

**履修者へのコメント：**

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

**成績評価方法：**

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

---

**特殊研究 IV (秋学期) 岩 淵 功 一**

---

メディアのグローバル化と文化市民権

**授業科目の内容：**

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

**テキスト：**

毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。

- ・岩淵功一『トランスナショナル・ジャパン』(岩波書店)
- ・毛利嘉孝(編)『日式韓流』(セリカ書房)

**参考書：**

クラスにて指示する。

**授業の計画：**

後期は主に、メディア文化をとおして、どのような国境を越えるつながりや対話が生まれているのかについて、東アジア地域を中心に具体的に検証する。授業内容の詳細は、最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

**履修者へのコメント：**

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

**成績評価方法：**

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

---

**メディア産業実習 I・II (春学期・秋学期) 宿 南 達志郎  
伊 藤 高 史**

---

インターンシップ

**授業科目の内容：**

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習IIに登録し、インターンシップに参加することができる。

**授業の計画：**

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論(新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等)

## まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

## (2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

## 履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

## 成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

---

## メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ（春学期・秋学期） 金山 智子 菅谷 実

---

## インターンシップ

### 授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅳを登録し、インターンシップに参加することができる。

### 授業の計画：

#### (1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移动通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

#### (2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

## 履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅲを履修し本年度Ⅳを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

## 成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

## 【基礎演習】

---

## 時事英語Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 小林 雅一

---

英語で学ぶ世界情勢

### 授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

### テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

### 参考書：

特に指定しません。

### 授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
  - (2) 国際報道を読む
  - (3) 経済報道を読む
  - (4) 政治報道を読む
  - (5) 社会報道を読む
  - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下、2～6の繰り返し

### 成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

---

## 文章作法Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 升野 龍男

---

目から鱗（ウロコ）が落ちる授業です。

### 授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の日撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、その何故に対する仮説（ひょっとしたら、こうではないかな？）を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流ティーチング・メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人であつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

### テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキストです。

### 参考書：

- ・野口悠紀雄著『超文章法（中公新書）』780円
  - ・鹿島茂著『勝つための論文の書き方（文春新書）』700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

### 授業の計画：

〈春学期〉

- (1) 「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階＝目撃・観察法の体得。
  - ① 目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
  - ② 目撃・観察のための方法論＝オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
  - ① VTR、DVD、印刷物、ネットなど、私秘蔵の優良コンテンツを使用した、情報組み立て、表現方法の体得。
  - ② アウトプットした作品の評価方法の取得
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法の体得

〈秋学期〉

- (1) 「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習＝利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法＝自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
  - ① 目撃・観察から「何故」を發する行為の体得＝取材、一步踏みこむ
  - ② 「何故」を解く仮説設定方法の体得＝「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方＝目撃・観察・洞察・発見の重要性和、「謎解き情報設計」の体得

論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。

したがって最後は論文提出です。

#### 履修者へのコメント：

文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが好きな人も歓迎します。学期終了時に、驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を発見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を発見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

#### 成績評価方法：

出席 40%、演習課題 40%、テスト 20%。

#### 質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

---

### メディア・コミュニケーション実習 I (春学期)

金山 智子

映像を通して伝える。

#### 授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになっていきます。本講義では、(1) 映像メディアコンテンツの批評と (2) 制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズン (Media Citizen) としての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。

#### テキスト：

特に使いません。

#### 参考書：

関連資料を配布します。

#### 授業の計画：

講義は大きく3つの部分から構成されています。

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。  
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読み解く。  
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。  
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

#### 履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツの制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

#### 成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (40%) レポート (20%)

---

### メディア・コミュニケーション実習 II (秋学期)

金山 智子

映像制作を通して理解する。

#### 授業科目の内容：

マスメディアが伝えられないような、身近な世の中の出来事、キャンパス周辺で生活する人々、或いは社会的な問題などを、自分達の疑問意識をもとに独自の視点でとらえ、これを映像コンテンツとして加工して、地域社会に還元してゆくことは、大変意義のあることです。出来

上がった作品についての最終評価はもちろんですが、映像コンテンツの制作過程において、さまざまな人たちと関り、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスはもっと大切です。授業では、自分たちに身近な話題をテーマに、10分間のミニ・ドキュメンタリー作品を制作することにより、映像制作におけるコミュニケーションのあり方についての実践を集中的に学びます。また、「撮るもの」と「撮られるもの」といった二分法感覚ではなく、受講生とともに、撮る人と撮られる人が一つになったオムニバス映像コンテンツの制作を実現したいと思います。

#### テキスト：

特に使いません。

#### 参考書：

関連資料を配布します。

#### 授業の計画：

講義は大きく2つの部分から構成されます。

- (1) 映像コンテンツの撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。  
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) ドキュメンタリー作品を制作する。  
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、編集といった一連の映像制作過程を通して、映像によるコミュニケーションを学びます。また、テーマによっては、制作過程にその問題に関わる人の参加や協力をしてもらいます。

#### 履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション実習 I の事前履修が望ましい。また、映像の制作は時間と労力を要するので、授業時間外に自主的な作業が必要となります。

#### 成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (50%) レポート (10%)

---

### 電子ネットワーク調査法 I・II (春学期・秋学期) (日吉)

金山 智子

ネットの世界を探究する。

#### 授業科目の内容：

インターネット（ネット）の普及は、人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。多種多様な情報をスピーディに検索・収集する上で、ネットはもはや不可欠なツールと言えるでしょう。また、ネットを活用した調査やマーケティングもますます重要になっています。人々がネット上で繰り広げるコミュニケーション行動や情報行動、ヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを対象とした研究も今後増えていくでしょう。本講義では、主に下記の4点を学びます。

- (1) ネットを活用した情報検索・収集方法
- (2) ネットを活用した調査方法
- (3) ネット上のコミュニケーションやメディア内容を対象とした調査
- (4) ウェブを活用した成果発表

#### テキスト：

講義資料プリントを配布します。

#### 参考書：

電子ネットワークに関する調査事例及び関連ウェブサイトを指示します。

#### 授業の計画：

春学期では、(1) と (2) に重点をおき、電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。個人（またはグループ）で研究計画書を作成します。

- ・研究テーマの決定
- ・ネットの活用した文献資料の検索・収集
- ・電子ネットワーク調査方法について（優位性や問題点、質問調査、内容分析、参与観察など）

秋学期では、(3) と (4) に焦点をあて、春学期で作成した研究計画書をもとに調査を実施し、ウェブを活用して成果報告を行っていただきます。

- ・調査の実施
- ・ネットを使って研究成果を報告
- ・ネットの新しい現象や問題についてディスカッション

#### 成績評価方法：

平常点 (20%)，レポート (30%)，および研究報告 (50%) を総合して評価します。

### 映像コンテンツ制作 I (春学期) (日吉)

### 映像コンテンツ制作 II (秋学期) (日吉) 金山 勉

映像メディア・コミュニケーションの実践

#### 授業科目の内容：

本講座では、映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツの中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考えてもらいます。クラスでは番組制作を編成し、企画提案から番組制作まで、実践について個別に指導します。

#### テキスト：

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房 (2005 年)

#### 参考書：

授業時に紹介する。

#### 授業の計画：

映像コンテンツ制作実習は基本的に I と II が連動するように計画されています。まず映像コンテンツ制作 I では、映像コンテンツ制作のための基礎能力習得と初歩的な番組制作実践について取り組み、さらに映像コンテンツ制作 II では編集加工された取材コンテンツ映像 (編集 VTR) を活用して、社会情報番組の企画と収録に取り組みます。

全体の流れは以下の通りです。

#### 映像コンテンツ制作 I (前期)

- 映像メディア・コミュニケーションへの招待 (2 回)
- 映像コンテンツ加工のための基礎能力習得 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

#### 映像コンテンツ制作 II (後期)

- 映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて (2 回)
- フィールドプロダクションとスタジオプロダクション入門 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

#### 履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 I，および II では、受講生の発想や自主性を最大限尊重します。同時に、制作プロジェクトは受講生間の連携が重要になるため、無断欠席しないよう心がけてください。

#### 成績評価方法：

映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60 パーセント)，出席と平常制作準備活動の評価 (40 パーセント)

#### 質問・相談：

授業終了時，および電子メールで受け付けます。

### 時事英語 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 小林 雅一

英語で学ぶ世界情勢

#### 授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

#### テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

#### 参考書：

特に指定しません。

#### 授業の計画：

- (1) ガイダンス，序
  - (2) 国際報道を読む
  - (3) 経済報道を読む
  - (4) 政治報道を読む
  - (5) 社会報道を読む
  - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下，2～6 の繰り返し

#### 成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

### 文章作法 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 栗田 亘

#### 授業科目の内容：

文章を磨き、企業などの競争試験に備える。

#### 参考書：

『書き上手』(栗田亘/五月書房)

#### 授業の計画：

毎週、課題を示し、次週までに 800 字 (400 字詰原稿用紙 2 枚，B5) 以内で文章を書かせる。提出された文章を添削し、受講者の合評のあと、講師が講評する。

秋学期は、授業時間中に、その場で書くトレーニングもおこなう。すべて、社会に出て役に立つ実践的な文章の書き方の練習だ。

#### 履修者へのコメント：

休まずに繰り返し書くことが上達への道。春学期最初の時間に 400 字詰め原稿用紙 (B5 判) を持参すること。

#### 成績評価方法：

毎時間提出する文章の評価

#### 質問・相談：

授業時間内に。

# 体 育 科 目 [三田設置]

## (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に、日吉設置科目については、体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が、8 科目（テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

### 1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

### 2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

- (1) 体育学講義 (2 単位) …… 「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位) …… 講義 + 実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位) …… 「身体活動」実技 A～D の 4 段階評価。  
ウィークリー・スポーツ  
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技 B (1 単位) …… 「身体活動」実技 P (合)・F (否) (Pass/Fail) の 2 段階評価。  
ウィークリー・スポーツ  
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ …… 週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ …… 夏季休業中（7 月～9 月）または春季休業中（2 月）の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

### 3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

### 4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

#### (1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4 月 7 日（木）1 限 および 2 限 522 番教室（西校舎、いずれの時限も同じ内容です。）

#### (2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください（制限内容の記載のあるもの）。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重）	視力	検尿	血圧
胸部 X 線	ヘルスチェック	内科（指示された者）	心電図（同 左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9:00～11:00	13:00～15:30	受付時間		9:00～11:00	13:00～15:30
4月8日	金	女子(10時開始)	男子	4月14日	木	女子	男子
9日	土	男子	男子	15日	金	男子	男子
11日	月	男子	女子	16日	土	女子	女子
12日	火	男子	男子	18日	月	男子	女子
13日	水	男子	女子	19日	火	男子	男子

- \* この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- \* 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に出してください。
- \* 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（金）から14日（木）の12:30から14:00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。
- (ウ) 履修申告期間に学事 Web システムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事 Web システムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 履修者数の調整

体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

調整結果発表 4月22日（金）

9:00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10:30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、落選した科目については定員に余裕のある体育実技および体育学演習を追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

※ 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

日吉設置科目

受付日時	受付場所
4月25日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 26日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所(陸上競技場側)
4月27日(水) から5月修正申告期間終了まで (平日) 8:45~17:00(最終日16:00終了)	日吉学事センター7番窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は、必ず25・26両日中に体育研究所許可証を取得してください。  
27日以降は取得できません。

三田設置科目

各授業で行います。

② 修正申告(学事センター)

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①, ②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式6科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

<p>実技費用納入科目</p> <p>アウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット</p>
--------------------------------------------------------------

① 実技費用納入日時

4月25日(月)~28日(木) 8:45~17:00

② 実技費用納入場所(証紙貼付)

日吉学事センター7番窓口(納入用紙交付)

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます(実技費用納入順, 前(5)項参照)。

# 体育実技実施要項 [三田設置科目]

## 体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

### <球技>

#### 体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

##### 〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

##### 〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

##### 〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

##### 〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド  
ストローク

30 サーブ, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サーブ・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1~3 週: 腕の振り

4~6 週: 身体のバランス

7~10 週: 足捌き (フットワーク)

11~13 週: 総括および戦術

##### 〔雨天時の対応〕

室内講義の場合あり。

##### 〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 개국以上で普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

##### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

#### 体育実技 A (テニス)

(初級)

村松 憲

##### 〔授業の目的〕

テニスを楽しむために必要な技術, エチケット, ルールを身につけます。

##### 〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

##### 〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

##### 〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更

する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サーブ, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

##### 〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

##### 〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけど基礎を確認したい, という方も歓迎します。

##### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

##### 〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → [mura@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:mura@hc.cc.keio.ac.jp)

#### 体育実技 A (テニス)

(中級)

村松 憲

##### 〔授業の目的〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。また, エチケット, ルールを再確認します。

##### 〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

##### 〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

##### 〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~3 回目 サーブ, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等の基礎的技術の確認と練習

4~6 回目 回転をかけるサーブ, 大きく踏み込んで打つボレー, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでサーブからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

##### 〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

##### 〔履修者へのコメント〕

このクラスでは, 「技術レベルがどこまで到達したか」(どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールをだしてくれた場合)」ことが難しい方には初級クラスをおすすめします。

##### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

##### 〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → [mura@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:mura@hc.cc.keio.ac.jp)

#### 体育実技 A (テニス)

(初中級)

加藤 大雄

##### 〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

### 〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート

### 〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

### 〔授業の計画〕

2回をセットとして, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。

3回の技術力テストを行う。

### 〔雨天時の対応〕

当日の朝, 掲示する。

### 〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し, その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 体育実技 A (テニス)

(中上級)

加藤 大雄

### 〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得ならびに, テニスにおける戦術の指導。

### 〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート

### 〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

### 〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, ボレー, スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。

### 〔雨天時の対応〕

当日の朝, 掲示する。

### 〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し, その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 体育実技 A (バレーボール)

野口 和行

### 〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して, 個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら, 相互のコミュニケーションを促進する。

### 〔実施場所〕

網町グラウンド バレーボールコート

### 〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装, 屋外シューズ

### 〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上 (4回)  
パス, スパイク, ブロック, サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解 (4回)  
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践  
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め, ゲームを楽しむ。  
ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

### 〔雨天時の対応〕

室内でのパス練習等, 個人のレベルアップ。ビデオを用いてフォーメーション等の理解を図る。

### 〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり, 技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し, その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 体育実技 A (フットサル)

(初心者, 経験者問わず)

須田 芳正

### 〔授業の目的〕

フットサルの技術, 戦術を習得し, ゲームの中でフットサルの魅力, 楽しさを体験することを目的とする。

### 〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

所在地: 港区芝 5-36-7 札の辻パーキング 2F

JR「田町駅」三田口 (西口), 都営地下鉄「三田駅」より徒歩 3分

### 〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装とシューズ

### 〔授業の計画〕

- 1回 ガイダンス  
(場所は, 銀座 de フットサル 田町スタジアム)
- 2~4回 技術練習とゲーム形式  
テーマ: ボールフィーリング・パス&コントロール, シュート。
- 5~8回 戦術練習とゲーム形式  
テーマ: 3対1, 4対1。
- 9回以後 ゲーム形式  
テーマ: チームを固定してのリーグ戦。

### 〔雨天時の対応〕

ビデオ鑑賞。

### 〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し, その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

## 〈武道〉

### 体育実技 A (合気道)

藤平 信一

### 〔授業の目的〕

合気道の実技を通じて, 心と身体の正しい使い方を学ぶ。  
心身統一を, 日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

### 〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館

### 〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル (汗をふくため)
- ・Tシャツ (女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

### 〔授業の計画〕

- 半期前半
- ・合気道基本技
  - ・心が身体を動かす (心身一如)
  - ・正しい姿勢 (自然に安定した姿勢)
  - ・安全な受身と間合い
  - ・日常のコミュニケーションに活かす

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大事な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

※ 春学期と秋学期ではテーマは同じですが内容は異なります。

#### 〔履修者へのコメント〕

基礎から一歩ずつ進むので、初めての方も安心して学べます。半期で一通り学ぶことも出来ますが、修得には通年の履修をお奨めします。

合気道（日吉）を履修した方も歓迎します。

#### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

### 体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

#### 〔授業の目的〕

弓術ウィークリースポーツの授業は、和弓に親しみながら、射法、射術の習得を目標とします。一般にスポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対する対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることになります。

#### 〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（正己弓道場）

#### 〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの）。靴下または足袋を必ず持参すること。

#### 〔授業の計画〕

和弓に対する理解をする。

基本の技の習得。

立居振舞いや武道としての礼法、心構えを学びます。

的前で実際に矢を射る行射を通して心のあり方を学びます。

諸道具についての知識を習得します。

経験者については、的前練習を中心に、技術、知識の向上を目指します。

#### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

### 体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

#### 〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するため、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

#### 〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

#### 〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）手ぬぐい

※ 剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

#### 〔授業の計画〕

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 1 ガイダンス        | 剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎 |
| 2 素振りのバリエーション  | 五行の構え 対人的足さばき              |
| 3 基本の復習        | 日本剣道形の導入・1本目               |
| 4 日本剣道形 1~2 本目 | 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方     |
| 5 日本剣道形 1~3 本目 | 基本的な技の打ち方 防具の着け方           |

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 6 日本剣道形 1~4 本目     | 手の内の冴えについて 正中線の意味 切り返し |
| 7 日本剣道形 1~5 本目     | 一本打ちの技                 |
| 8 日本剣道形 1~6 本目     | 連続技（二・三段打ちの技） 払い技 捲き技  |
| 9 日本剣道形 1~7 本目     | 応じ技（すり上げ技・返し技）         |
| 10 日本剣道形 1~7 本目    | 応じ技（抜き技・打ち落とし技）        |
| 11 日本剣道形小太刀 1~3 本目 | 出頭技                    |
| 12 日本剣道形復習         | 試合規則の確認 試合形式の実践        |
| 13 紅白試合            | まとめ                    |

#### 〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

#### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

#### 〔質問・相談〕

E-mail: yytaisho@hc.cc.keio.ac.jp まで

### 体育実技 A (柔道)

(初心者、経験者を問わない~男女共習)

安藤 勝英

#### 〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。

更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

#### 〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

#### 〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

#### 〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）。
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）。
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）。
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

#### 〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

#### 〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

### 〈個人種目〉

### 体育実技 A (ダンス)

「ボールルームダンス」(入門及び初級)

篠原 しげ子

#### 〔授業の目的〕

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり、組んで踊るので相手の動きも理解し、協力して動けるようになる。

**【実施場所】**

綱町グランド 武道館（剣道場）

**【定員】**

男性 10名 女性 10名

**【授業の計画】**

金曜 2春・入門（スタンダード） 金曜 2秋・入門（ラテン）

金曜 3春・初級タンゴ 金曜 3秋 初級ワルツ

入門（ラテン）・ジルバ ルンバ チャチャチャ

入門（スタンダード）・ブルース ワルツ タンゴ

の三種目の基礎を身につけるためにそれぞれ3~4週ずつ行う。

初級・ワルツ タンゴ

それぞれの種目のベーシックフィギュアを半期通して行う。

1~3週 種目の特徴・リズム 姿勢 ホールドを理解する。

4~8週 数種類のフィギュアを繋げて踊る。

9~12週 更にフィギュアの数を増やすと共に正確な踊りを目指す。

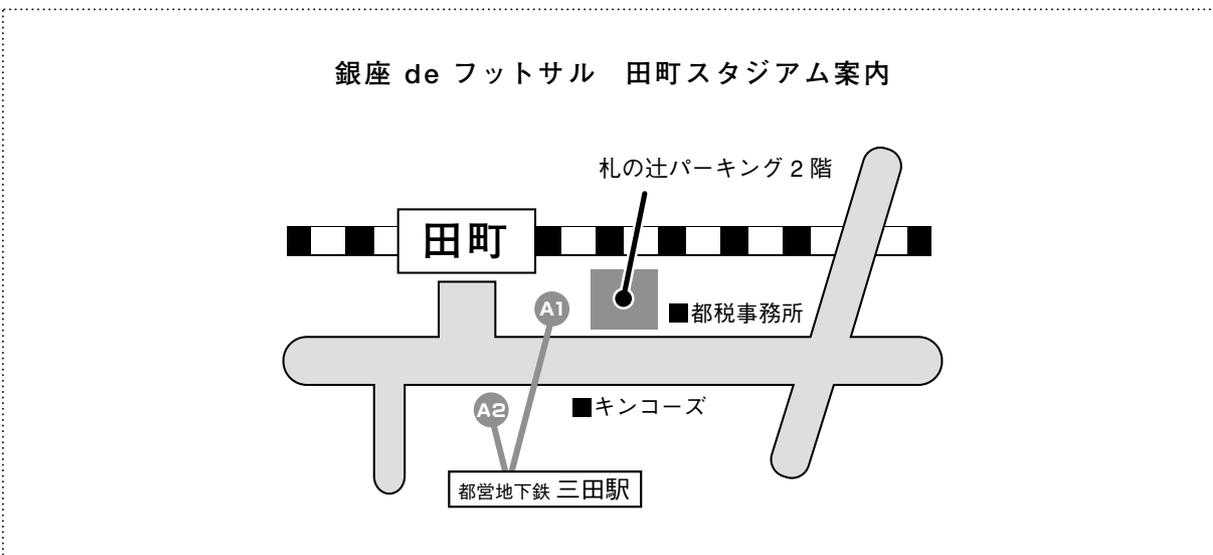
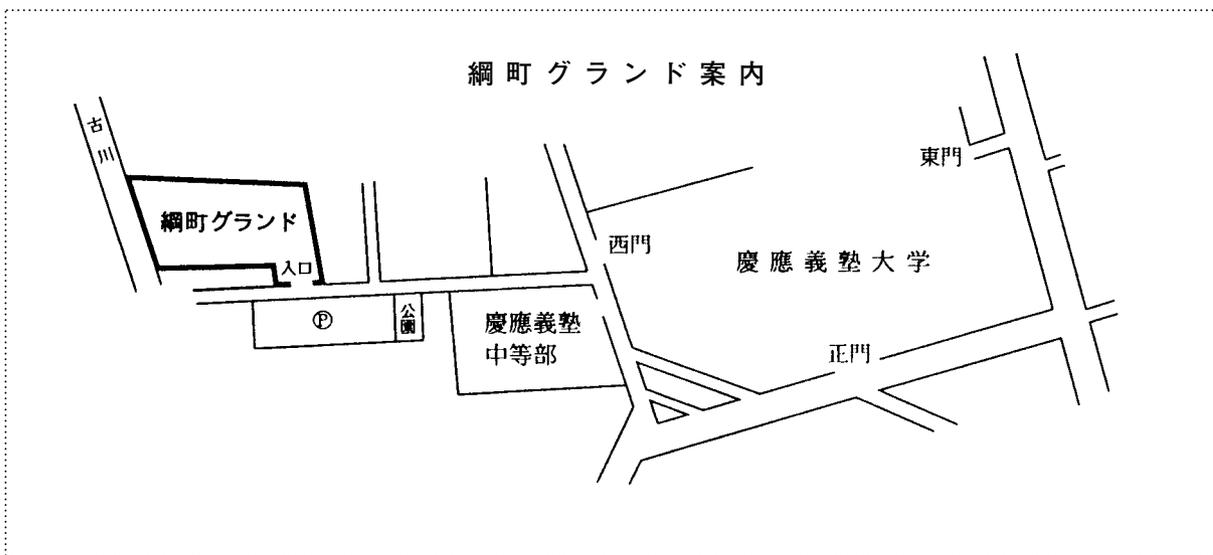
13週~ 各自好きなフィギュアを繋げて踊れるように工夫する。

**【履修者へのコメント】**

第一週目に種目のビデオを見ながら特徴を説明します。内容を良く知って選択しましょう。

**【成績評価方法】**

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。



## 福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（全員塾内研究教育部署との兼任）、10名の顧問、27名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の4講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

### 近代日本研究 I (春学期) 2 単位

—『学問のすゝめ』とその時代—

コーディネーター：(教 授) 小室 正紀

担当者：(教 授) 岩谷 十郎

(名誉教授) 坂井 達朗

(教 授) 米山 光儀

#### 授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

#### テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

#### 参考書：

- ・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)
- ・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

#### 授業の計画：

第1回の講義の時にシラバスを配布するが、以下のように進める予定。

第1回	はじめに
第2～4回	初編～4編(明治5年2月～7年1月)
第5～7回	5編～8編(明治7年1月～7年4月)
第8～10回	9編～12編(明治7年5月～7年12月)
第11～13回	13編～17編(明治7年12月～9年11月)

#### 履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

#### 成績評価方法：

試験と平常点。

試験方法については、第1回の講義で説明する。

#### 質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

## 近代日本研究Ⅱ（秋学期）2単位

（助教授）西澤 直子

### 授業科目の内容：

福澤の論説には100年を経た今もなお、今日的な命題が含まれている。福澤論吉が近代社会に求めた「独立自尊」とは何か、それは日本社会にいかにか根付いたのか、根付かなかったのか。この課題について1) 福澤と中津士族社会との関わり 2) 慶應義塾の教育 3) 福澤の男性論女性論および家族論の3つの視点から考える。

### テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

### 参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』（岩波書店、2001～2003年）
  - ・『福澤論吉著作集』（慶應義塾大学出版会、2002～2003年）
- 他は適宜授業中に紹介する。

### 授業の計画：

- 1 序論：①授業テーマの説明 ②福澤論吉の略歴
- 2 中津士族社会との関わり：①中津市学校の役割 ②旧中津藩主奥平家資産運用と士族授産 ③「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
- 3 慶應義塾の教育：①「慶應義塾社中之約束」の成立 ②実学重視と実業者の育成 ③モラルサイエンスと教育
- 4 男性論・女性論・家族論
- 5 まとめ：それまでの授業を通して考えてきたことに基づく討論

### 履修者へのコメント：

知識の授受ではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

### 成績評価方法：

学期末試験（論述形式）

### 質問・相談：

授業後に受け付ける。また進度に余裕があれば、授業時間内に質問の時間を設ける

## 近代日本研究演習Ⅰ（春学期）2単位

（教授）寺崎 修

### 授業科目の内容：

この演習では、福澤論吉の政治思想を学ぶため、明治11年に刊行された『通俗民権論』と『通俗国権論』を併せて読むことにしたい。授業の進め方は、輪読を基本とするが、必要に応じて時代背景、関連事項の解説をする。

### テキスト：

『福澤論吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2600円＋税）

### 参考書：

授業中に適宜紹介する。

### 授業の計画：

以下の各章をとくに注目しながら、順次検討をすすめる。

1. 官民職分之事（通俗民権論）
2. 知識見聞を博くする事（通俗民権論）
3. 品行を脩る事（通俗民権論）
4. 諸力平均之事（通俗民権論）
5. 国権を重んずる事（通俗国権論）
6. 約束を大切にすること（通俗国権論）
7. 内外の事情を詳にする事（通俗国権論）
8. 外戦止むを得ざる事（通俗国権論）

### 履修者へのコメント：

履修条件は、毎時間出席できる者。質疑応答や討議の時間をとるつもりなので、積極的な学生諸君の受講を希望する。

### 成績評価方法：

平常点と課題レポートによる。

### 質問・相談：

随時

## 近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）2単位

福澤書簡の研究

（名誉教諭）松崎 欣一

### 授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について、「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

### テキスト：

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）

### 参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
- ・『福澤論吉著作集 第12巻（福翁自伝・福澤全集緒言）』（慶應義塾大学出版会刊）
- ・富田正文『考証福澤論吉』上・下（岩波書店刊）

### 授業の計画：

- 1) 福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討…『福澤論吉全集』と『福澤書簡集』における書簡発信年月日の異同は300通をこえる。『書簡集』新収書簡が約450通あることもあわせて、『全集』第21巻所収の「福澤論吉年譜」は見直しを迫られている。新たな「福澤年譜」編成の基礎作業としての検討を行う。
- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討

福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。

### 5) 書簡の読解演習

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

### 履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

### 成績評価方法：

レポート（予定）

### 質問・相談：

随時。

設置講座案内 (三田)

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語およびアラビア語の 8 外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修および高校生

から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募集する予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日(水) 16:30～ 531 番教室  
定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

外国語教育研究センター設置科目一覧 (三田)

- \* 科目名に (a) (b) と表記されている科目は春 (a)・秋 (b) をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- \* 科目名に (I) (II) と表記されている科目は春 (I) と秋 (II) のどちらかひとつを履修してもあるいは両方履修することも可能です。
- \* 英語アカデミックライティング [三田] は「半期終了科目」です。春または秋のどちらかの履修しかできません。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語 (a)	横川 真理子	春	木・2	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語 (b)	横川 真理子	秋			半期	1
	英語翻訳 (a)	アーマー, アンドルー	春	木・2	15	半期	1
	英語翻訳 (b)	アーマー, アンドルー	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEFL (I)	中村 優治	春	水・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL (II)	中村 優治	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (I)	バロウス, リチャード	春	火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (II)	バロウス, リチャード	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (I)	和田 朋子	春	火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (II)	和田 朋子	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (I)	横川 真理子	春	木・1	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC (II)	横川 真理子	秋			半期	1
	英語経済・金融 (I)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融 (II)	日向 清人	秋			半期	1
	英語法律・法務 (I)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務 (II)	日向 清人	秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション (I) (初級)	ファロン, ルース	春	月・5	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション (II) (初級)	ファロン, ルース	秋			半期	1
	英語アカデミックライティング	和田 朋子	春 秋	火・1	25	半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法4(b) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法5(b) (中・上級文章表現法)	ドゥッベル=タカヤマ, メヒティルド		秋			半期	1
フランス語	フランス語表現技法2(I) (DELFL第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法2(II) (DELFL第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル		秋			半期	1
	フランス語表現技法3(I) (DELFL第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法3(II) (DELFL第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル		秋			半期	1
	フランス語表現技法4(I) (DALFL対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・ アンドレ	春		木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法4(II) (DALFL対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・ アンドレ		秋			半期	1
	ロシア語	ロシア語表現技法1(I) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期
ロシア語表現技法1(II) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)		熊野谷 葉子		秋	半期			1
ロシア語表現技法2(I) (ロシア語で発信しよう)		宮澤 淳一	春		木・4	25	半期	1
ロシア語表現技法2(II) (ロシア語で発信しよう)		宮澤 淳一		秋			半期	1
中国語	中国語聴解2(I)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・3	25	半期	1
	中国語聴解2(II)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦		秋			半期	1
	中国語表現技法2(I)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法2(II)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明		秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法3(I)(上級)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法3(II)(上級)	安藤 万奈		秋			半期	1

2005 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月					英語経済・金融(I) フランス語 表現技法 2(I) ドイツ語表現技法 4(a)	日向 ルカルヴェ 三瓶	英語法律・法務(I) フランス語 表現技法 3(I)	日向 ルカルヴェ	英語オーラル・ プレゼンテーション (I)(初級) 中国語表現技法 2(I)(最上級)	ファロン 蔣
火	英語 アカデミックライティング	和田	英語テスト対策 TOEIC(I)	和田			ドイツ語 表現技法 5(a)	ドゥッベル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(I)	ハロウス
水			英語テスト対策 TOEFL(I)	中村	中国語聴解 2(I)(最上級)	山下				
木	英語テスト対策 TOEIC(I) フランス語 表現技法 4(I)	横川 ベリセロ	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語翻訳(a)	横川 アーマー			ロシア語 表現技法 2(I)	宮澤		
金					ロシア語 表現技法 1(I)	熊野谷	スペイン語表現技法 3(I)(上級)	安藤		
土										

2005 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月					英語経済・金融(II) フランス語 表現技法 2(II) ドイツ語表現技法 4(b)	日向 ルカルヴェ 三瓶	英語法律・法務(II) フランス語 表現技法 3(II)	日向 ルカルヴェ	英語オーラル・ プレゼンテーション (II)(初級) 中国語表現技法 2(II)(最上級)	ファロン 蔣
火	英語 アカデミックライティング	和田	英語テスト対策 TOEIC(II)	和田			ドイツ語 表現技法 5(b)	ドゥッベル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC(II)	ハロウス
水			英語テスト対策 TOEFL(II)	中村	中国語聴解 2(II)(最上級)	山下				
木	英語テスト対策 TOEIC(II) フランス語 表現技法 4(II)	横川 ベリセロ	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語翻訳(b)	横川 アーマー			ロシア語 表現技法 2(II)	宮澤		
金					ロシア語 表現技法 1(II)	熊野谷	スペイン語表現技法 3(II)(上級)	安藤		
土										

## 慶應義塾大学 在外研修プログラム

慶應義塾大学では、全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季休業中に海外で在外研修プログラム「慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を開講します。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、現地研修には本学の教職員が同行します。

また、現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、環境をめぐるテーマを扱い、講義やディスカッションだけでなく豊かな自然環境を活かした体験学習旅行を含むワシントン大学でのプログラムを今年度から開設します。

このほか、春季休業期間中には、パリ政治学院の講師陣による EU に関する講義のほか、フランス語会話のクラスや EU の諸機関の訪問も含む「パリ政治学院春期講座」についても引き続き実施することを計画しています。

これら 2 つのプログラムについては国際センターのホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(月) 三田 528 教室 13:00~14:30

4月5日(火) 藤沢 Ω12 教室 15:45~17:15

4月6日(水) 矢上 14-201 教室 13:00~14:30

4月6日(水) 日吉 J11 教室 17:00~18:30

### ①慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

原 田 隆 史 文学部助教授

柏 崎 千佳子 経済学部助教授

### 授業科目の内容：

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は 1693 年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

### 単位数：

4 単位

※ 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

### 教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

### 授業の計画：

現地研修期間：2005 年 7 月 29 日(金)～8 月 16 日(火)(予定)

4 月下旬より事前研修(6 回程度)、また、帰国後には事後研修(2 回程度)を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：40 名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)、②学習計画書(日本語及び英語。各 A4 一枚程度)、③最新の学業成績表のコピー(3 月中旬に保証人宛に送付されるもの)、④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)、⑤RESEARCH PROPOSAL(所定用紙)書類選考後、グループ分けの時に利用します。

(4) 募集期間：4 月 7 日(木)～4 月 14 日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

**成績評価方法：**

事前・事後研修の出席，中間発表，現地研修期間中の活動，Final Presentation，日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

②慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

中野 誠彦 理工学部助教授  
スネル，ウィリアム 文学部助教授

**授業科目の内容：**

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導に当たります。講座期間中は，専門分野の知識を深めるだけでなく，ダウニングコレッジ内での寮生活や，ケンブリッジ大生が企画する諸活動に積極的に参加することで，幅広い異文化交流を体験することができます。

**単位数：**

4単位

※ 本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

**教科書：**

現地での開講科目の参考文献を，国際センター作成の募集要項に記載しています。また，事前研修時にリストにして配布します。

**授業の計画：**

現地研修期間： 2005年8月8日(月)～9月7日(水)

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程： 第1週：

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：

Ancient Greece and Western Civilization, Genetics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：

English Literature, The Science of Chaos

第4週：

Society and Politics in Contemporary Britain, Astronomy: Unveiling the Universe

9月6日(火) Closing ceremony

第2週から第4週までは，各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択，合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため，事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容： ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答(午前)

ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)，②学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)，③最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)，④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)，⑤履修希望科目申告表(所定用紙)

(4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

**成績評価方法：**

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生
2. 単位 各科目2単位  
(なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

### 3. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

## 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

---

オーストラリアのビジュアルアート

(春学期) (Spring)

### AUSTRALIAN VISUAL ARTISTS: AN INTRODUCTORY COURSE

ニコルズ, クリスティーン 国際センター講師 (東京大学客員教授)

Christine Nicholls

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

---

#### **Course Description:**

In this topic Dr Nicholls will introduce students to a selection of (mainly) contemporary Australian visual artists, and their work. Approximately half of the artists whose work will be discussed in the course will be Aboriginal. This will necessitate an introduction to the religious basis and underlying philosophy of Indigenous artistic production. In addition to powerpoint presentations introducing the class to the work of individual artists, the class will view and then discuss a number of films showing the artists' approach to their work. The course will also introduce cultural theory required for understanding contemporary art: postmodernism; cultural hybridity; simulacra; theories of "the gaze"; "the spectacle" and Judith Butler's ideas about gender and performativity

#### **Text Books:**

Nicholls, Christine, 2003, Art, Land, Story, Working Title Press, Adelaide, Australia, ISBN 1 876288 41 8 , price \$13.00 Australian (about 1200 yen) and Nicholls, Christine, 2003, Art, History, Place, Working Title Press, Adelaide, ISBN 1876288434 Australian price \$13.00 Australian (about 1200 yen)

Note that I will also be using handouts, so that students can avoid buying more expensive books. Text materials can be downloaded from the following Website <http://seekbooks.com.au>

#### **Reference Books:**

Andrew Sayers, Publisher: Oxford University Press, ISBN: 0192842145

Format: Paperback AUD\$39.95

#### **Grading Methods:**

Reports, and some oral presentation in class. Attendance, Participation will also be taken into consideration.

#### **Questions, Requests:**

The two text books can be purchased on <http://www.seekbooks.com.au> at a very reasonable rate (less than \$12.00 Australian dollars)

---

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

### CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

#### **Sub Title:**

Looking for the hidden roots of cultural difference

#### **Course Description:**

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

#### **Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

#### **Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

**Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

**Message to those taking this Course:**

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

**Grading:**

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

---

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

---

**Sub Title:**

Understanding Contemporary & Historical Aspects

**Course Description:**

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

**Text Books:**

None. Handouts will be given from time to time.

**Reference Books:**

Several books will be suggested during the class.

**Class Schedule per week:**

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

**Message to those taking this Course:**

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

### **Grading Methods:**

In class Exams, Attendance, Participation

### **Questions, Requests:**

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

---

現代中国の国家と社会

(春学期) (Spring)

STATE AND SOCIETY IN CONTEMPORARY CHINA

ワンク, デイビッド 国際センター講師 (上智大学教授)

David L. Wank Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

---

### **Course Description:**

#### Overview

This course assumes no prior knowledge about contemporary China, or about communist social and political organization. It is designed to provide a historical and thematic overview of post-1949 authority relations and patterns of politics in China. The first half of the course looks at the distinguishing features of state and society, such as central economic planning and one-party rule, that took shape during the first decade of the People's Republic in the 1950s. The second half of the course looks at the ensuing patterns of politics and conflict and how they have evolved over time. The course readings include original documents, autobiographies, and writings by sociologists, as well as political scientists and anthropologists.

#### Organization

Each class meeting will consist of a lecture. The lectures are a historical narrative of economy, society, and politics from 1949 to present. They are coordinated with the readings, which illustrate specific themes mentioned in the lectures. In addition we will see one Chinese movie.

### **Text Books:**

#### Readings

All readings listed in the course outline are required of all students. All readings are available online except for the following three books which are available for purchase.

GAO Yuan. *Born Red: A Chronicle of the Cultural Revolution*. Stanford University Press, 1987.

Shu-min HUANG. *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*. Westview Press, 1998 (second edition),

Andrew G. WALDER. *Communist Neo-Traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*. University of California Press, 1986,

### **Class Schedule per week:**

#### INTRODUCTION

##### Unit 1

Lecture on the "state and society" concept in political sociology

Reading on models of state and society for China

Wank, "State and Society in American Studies of Contemporary China"

#### HISTORICAL BACKGROUND

##### Unit 2

Lecture on historical background

Reading on the origins of the party-state

Mao, "The Role of the Chinese Communist Party in the National War"

##### Unit 3

Lecture on communism in China and the Chinese Communist Party, 1917-1949

Reading on defining features of the party-state

Huang, *The Spiral Road*, chps. 1-5

Movie: To Live (directed by Zhang Yimou)

#### THE NEW ORDER, 1949-1957

#### Unit 4:

Lecture on stabilization immediately after the revolution, 1949–1953,

Readings on the party as an organization and status group

Vogel. “From Revolutionary to Semi-bureaucrat”

P. Link (ed.). “What if I Really Where?”, “A Bundle of Letters”, and “The Tyrant Bids Farewell to His Mistress”

Liu, “People or Monsters”

#### Unit 5

Lecture on building a centrally planned economy

Readings on the “corporateness” of social institutions

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, chps. 2,4,8,9,12.

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps 1-3.

#### Unit 6

Lecture on the bureaucratic administration of state and society

Readings on social inequality

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, ch. 3

Unger. “The Class System in Rural China”

#### DEEPENING THE REVOLUTION, 1958–1976

#### Unit 7

Lecture on the Great Leap Forward, 1958–1960

Readings on careers and social mobility;

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, ch. 4

Shirk. *Competitive Comrades*, pp. 63-178.

#### Unit 8

Lecture on economic retrenchment and competition within the elite, 1961–1965

Readings on the personalization of authority

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 5, 8

Oi. “Comunism and Clientelism: Rural Politics in China”

#### Unit 9:

Lecture on the Cultural Revolution

Readings on the conflict and instability in the polity

Gao. *Born Red*, entire

#### CHINESE SOCIALIST MODERNIZATION, 1979–

#### Unit 10

Lecture on the interregnum and further elite conflict, 1974–1979

Readings on the commercialization of power

Huang. *The Spiral Road*, chps. 6-12

Oi. “Market Reform and Corruption in Rural China”

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 6-7

Shirk. “The Decline of Virtuocracy in China”

#### Unit 11

Lecture on marketization and new patterns of conflict, 1979–1989

Readings on the Democracy Movement

Han. *Cries for Democracy: Writings and Speeches from the 1989 Chinese Democracy Movement*. pp. 5-16, 28-33, 36-44, 50-57, 59-62, 72-81, 83-91, 97-111, 118-126, 134-187, 197-208, 217, 221, 231-241, 246-251, 255-280, 285-295, 299-318, 335-349, 355-367

Saich. *The Chinese People's Movement: Perspective on Spring*, 1989, pp. 25-49, 83-163.

#### Unit 12

Lecture on the deepening of marketization and new conflicts

Readings on new social movement

Mallee, "Migration, Hukou, and Resistance in Reform China"

Zweig. The Externalities of Development"

### **Grading Methods:**

A. Short writing assignment (15 percent of final grade)

There will be a short writing assignment based on the movie. It will be graded Excellent, Satisfactory, Poor. If you miss the movie you will be asked to finish readings the Spiral Road and write a 1,000 word review of by the following class.

B. In-class exams (45 percent of final grade)

There will be two in-class exams of short identification and/or multiple choice answers based on the lectures. They will be graded on the regular A-F scale.

C. Final writing assignment (40 percent of final grade).

This will be graded on an A-F scale. As this assignment is considered a take-home final, failure to hand it results in an "F" grade for the entire course regardless of your grades on the other course assignments).

D. Attendance is expected of all students enrolled in course. Attendance will be taken.

---

グローバルヴィレッジ構築に向けて：日本とサブ・サハラ アフリカ地域

(春学期) (Spring)

### **BUILDING THE GLOBAL VILLAGE**

高橋良子

環境情報学部教授

Yoshiko Takahashi

Professor, Faculty of Environmental Information

フリードマン デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environmental Information

---

### **Sub Title:**

Perspectives on Japanese Policy in Sub-Saharan Africa

### **Syllabus:**

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to be combined in order to offer a fuller world view.

This course will focus on geo-political areas that stand outside the "global economy" (at this point) and issues that such areas face as they plan to integrate their economies and cultures into the "global village."

As the countries of Sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) a major part of its international policy. Last year, for example, at the third TICAD (Tokyo International Conference on African Development), Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged US\$1 billion for education and health care in Africa, which made Japan as one of the largest aid donors to Africa. Yet despite these official policies, Japanese trade with some Sub-Saharan countries has actually dropped, and the Japanese public remains distantly aware of Sub-Saharan Africa and the forces that have shaped its present situation and the role of the Japanese government in Sub-Saharan countries.

This course will help deepen students' understanding of the contemporary Sub-Saharan African nations and their socio-political and cultural issues which affect global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the African Union (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

### **Texts (tentative recommendations):**

- 1) <http://web.africa.ufl.edu/asq/v5/v5i2a4.htm> (African Studies Quarterly Japan-Emerging Trends in Japan-Africa Relations: An African Perspective)
- 2) Dynamics of Japan's Relations with Africa: South Africa, Tanzania and Nigeria By: Ampiah, Kweku Published By: Routledge

### **Tentative Course Schedule (this schedule is subject to change due to the availability of various Ambassadors and embassy officials.):**

Class 1 Introduction and Organization: A short discussion of Japan's involvement in Sub-Saharan Africa and the organization of student research group based on country.

Class 2	A Short History of Africa: Overview lecture on African histories
Class 3	Sub-Saharan Africa and Japan: Overview lecture by an official of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
Class 4	Sub-Saharan African Aid and the Bretton Woods System: An examination of early aid projects to the newly independent African states and constraints by the prevailing economic theories of the Bretton Woods system; NEPAD's responses to some of the issues arisen from this system
Class 5	"Mediated" Africa: The effect of the "classic" media images of African societies on policy, perceptions and tourism *Ambassador of Kenya *Ambassador of Tanzania
Class 6	The African Response to AIDS: An examination of policies adopted to address the social and economic issues of AIDS pandemic. *Ambassador of Uganda *Ambassador of Zambia
Class 7	Mid-term Review: Discussion of the students' ideas for their individual final papers, and work with their research group on their presentation.
Class 8	African Issues and Solutions: An examination of the some of the issues of the post-colonial legacy *H.E. Dr. B. Nugbane, Ambassador of the Republic of South Africa *Ambassador of the Republic of Zimbabwe
Class 9	Models of Development for Micro-Economies: Policy options pursued by smaller African nations with non-integrated economies *Ambassador of Botsawana *Ambassador of Malawi
Class 10	African Policy and Japanese Scholarship : An intermediary role played by academic research and exchange between policy development and application. *Ambassador of Angola
Class 11	Symposium (tentative) In case of scheduling problems with the symposium this class will be a concluding lecture covering such topics as African Resources: Eco-tourism, spiritualities and communitas-the possibilities of non-material resources in development.
Classes 12 & 13	Final group project presentations and class summary

### **Evaluation:**

As this class is based on the talks given by the guest speakers and the students response attendance is of the UTMOST importance. Daily participation will account for 45% of the final grade. Group work both in hosting the guest speaker from the group's chosen country and the final oral group presentation will account for a further 20% of the evaluation. A final individual research paper of 5 page minimum (single space, 12 pt font) with a separate bibliography will account for the final 35% of the grade.

### **Note to Interested Students:**

1. Students interested in this course, please be present at the first meeting and have researched the following sites:  
①<http://www.mofa.go.jp/region/Africa/> 2) and ② <http://www.jica.go.jp/English/activities/regions/09afr.html>
2. Although the class will take place in 4th period, there will sometimes be an opportunity for interested students to spend sometime after the class period with the visiting Ambassadors of that day. Please consider this when planning your schedule

---

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

---

### **Sub Title:**

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

### **Subject of the class:**

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

**The principal book:**

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3<sup>rd</sup> ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

**Assignments:**

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding  
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

**Comment on the Class:**

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

**Grading Policy:**

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

**Office Hours:**

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

---

世界政治におけるラテンアメリカ	(春学期) (Spring)
LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	
アントリネス, マリオ	国際センター講師
Mario Antolinez	Lecturer, International Center

---

**Course Description:**

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general

remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

### **Text Books:**

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

### **Reference Books:**

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.  
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.  
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.  
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.  
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.  
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.  
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.  
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.  
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.  
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.  
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.  
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.  
Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.  
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

### **Class Schedule per week:**

#### PART I

- Session 1: Introduction  
Session 2: The Actors  
Session 3: The Inter-American System  
Session 4: Latin American Integration and Association  
Session 5: Economic Outlook  
Session 6: International Relations  
Session 7: Latin America and the United States

#### PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants  
Session 9: Cuba: The Socialist Way  
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery  
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy  
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution  
The Caribbean: Colonies and Micro-states  
Session 13: Final Exam

### **Grading:**

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

---

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

### **Course Description:**

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business

strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

### **Text Books:**

Leading the Revolution by Gary Hamel  
Supplementary Reading Materials and Case Studies  
Additional Book To Be Assigned

### **Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

### **Class Schedule per week:**

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy
- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

### **Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

### **Grading:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

### **Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

---

現代ロシア研究

(春学期) (Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

---

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike,

what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

---

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

(春学期) (Spring)

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer, International Center

---

### **Sub Title:**

American History, Culture and Foreign Policy

### **Rationale:**

After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation and democracy to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

### **Course Outline:**

The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: ‘Old’ and ‘New’ immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock’ n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865–1917): Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920–2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war against terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?

### **Aims:**

The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue independent thinking

### **Reference Books:**

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

———, *The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

———, *Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvestan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

### **Class Schedule per week:**

- |                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 <sup>st</sup> Week:  | Shopping                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 2 <sup>nd</sup> Week:  | Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's <i>The Conquest of America</i> ; Sollors, <i>Theories of Ethnicity</i> ; de Tocqueville, <i>Democracy in America</i> ,                                                                                                                                       |
| 3 <sup>rd</sup> Week:  | 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian-Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues                                                                                                                                                                                                                                   |
| 4 <sup>th</sup> Week:  | Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."                                                                                                                                      |
| 5 <sup>th</sup> Week:  | A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, <i>The Lonely Crowd</i> ); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation. |
| 6 <sup>th</sup> Week:  | Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.                                                                                                                                                                           |
| 7 <sup>th</sup> Week:  | World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 8 <sup>th</sup> Week:  | Readings form speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, <i>Representation</i> ; Taylor and Appiah, <i>Multiculturalism</i> .                                                                                                                                                                         |
| 9 <sup>th</sup> Week:  | American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's <i>The Clash of Civilization</i> .                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 10 <sup>th</sup> Week: | Henry Kissinger and others on American Foreign Policy                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 11 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 12 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 13 <sup>th</sup> Week: | End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

### **Message to those taking this Course:**

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

### **Grading Methods:**

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. An end-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participasion 10% credit.

---

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期) (Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

---

### **Sub Title:**

The meaning of modernity and crises in Africa

### **Course Description:**

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of movement of people in contemporary Africa. Migration is an important feature of the lives of a large number of African. Contrary to a conventional view that African villagers never see the outside world, they often move away from their villages without severing their ties with homes. It is a practice of *longue durée* as well as experiencing contemporary transformations. However, movement does not merely refer to geographical movements of people but more importantly to social and cultural shifts. People commonly move between groups (therefore change their personal identities), between works, between religious faiths, between medical practices and lots more, which presupposes considerable social and cultural plurality.

Using wide range of academic disciplines, we will explore geographical movements, and social and cultural shifts in contemporary Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) urban-rural migration, (2) multiplicity of identities and their changes, (3) diversification of occupations and jobs, (4) situational changes in religious and medical practice, (5) crisis situations attributable to such movements and plurality. The course will highlight movement as modernity in Africa.

### **Text Books:**

Texts will be distributed in due course.

### **Reference Books:**

1. Trager, L. 2001. *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner.
2. Kondo, H. 2003. "Illness in Between". *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

### **Message to those taking this Course:**

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

### **Grading Methods**

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

---

国際開発協力論

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

長谷川 純一

国際センター講師 (東京大学客員教授)

Junichi Hasegawa

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

---

### **Sub Title:**

Framework for Poverty Reduction in Developing Countries

### **Course Description:**

70% of the world population live in developing countries. Discussions will be provided for the students who are expected to live and work in the global world. The main topics of the class are: 1) nature of developing countries and development strategies; 2) actual practice and methodology of aid; 3) public opinion on ODA, national interest and international society; and 4) international organizations, bilateral aid agencies and history of development cooperation.

### **Text Books:**

Printed materials will be provided for the actual cost.

### **Reference Books:**

Todaro, Michael and Stephen C. Smith, *Economic Development 8<sup>th</sup> Edition*, Harlow/Boston, Pearson Education/Addison-Wesley, 2002  
Easterly, William, *The Elusive Quest for Growth Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics*, Cambridge: The MIT Press, 2001

### **Class Schedule per week:**

1. Introduction to International Development Cooperation
2. Economies of Developing Country
3. Evolution of Development Economics
4. Actual Practices of ODA
5. ODA, Governing Law and National Interest
6. Japanese ODA and Public Opinion
7. 50 Years of ODA and Thoughts behind It
8. Aid Organizations
9. What is the Role of NGOs?
10. Pursuing Effective Aid
11. Current Topics in Donors' Circle
12. Is Aid Effective? <Micro Macro Paradox>
13. (TBD)

### **Message to those taking this Course:**

Let us think about Development! No prior knowledge is required, but your active participation is strongly encouraged.

### **Grading Methods:**

One Term Paper will be requested. Evaluation will be made based on active class participation (50%) and Term Paper (50%).

### **Inquires**

mailto:j-hasegawa@jbic.go.jp

---

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

### **Sub Title:**

Human relations in the new global community

### **Course Description:**

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

### **Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

### **Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
- 2) Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

### **Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact — Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture — the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning — sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development — the three reactions
7. The roots of prejudice — Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism — Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond — Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

### **Message to those taking this Course:**

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

---

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期) (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

---

### **Course Description:**

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

### **Message to those taking this Course:**

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

### **Grading Methods:**

Grading Criteria: A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

---

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 所長

Aftab Seth

Director, Keio University Global Security Research Center

---

### **Sub Title:**

A view from a practitioner

### **Course Description**

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post

which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

**Text Books:**

象は痩せても象である—英語版・“Even if an elephant gets thin, it is still an elephant”

**Reference Books:**

- Leadership in an interdependent world by Ghita Ionescu, Longman
- Reconciliation in the Asia Pacific edited by Yoichi Funabashi, US Institute of Peace Press
- Peace and security in the Asia Pacific region edited by Kevin Clements, UN University Press
- Contemporary Conflict Resolution, Hugh Miall, Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse by Polity Press
- South Asia in the world edited by Ramesh Thakur and Oddny Wiggen UN University Press
- The debate over Vietnam by David W. Levy, Johns Hopkins, University Press
- Origins of the Cold War edited by Melvyn P Leffler and David S Painter Routledge publishers
- Beyond the Judgement of Civilisation by Ushimura Kei Translated by Steven J Ericson by International House of Japan, Japanese title Bunmei no sabaki o koete.
- Is Japan still number one, Ezra E Vogel Pelanduk Publications 2000
- Victor's Justice Tokyo War Crimes Richard H Minear Princeton University Press
- Japanese Higher Education a Myth by Brian J McVeigh published by ME Sharpe 2002
- The Journal of Oriental Studies: Special Series The Spirit of India VOL 13 2003, by the Institute of Oriental Philosophy
- The Man who Harvests Sunshine by Andras Erdelyi: the Modern Gandhi: MS Swaminathan (to be continued)
- Ten Years of the Sasakawa South East Asia Cooperation Fund by Sasakawa Peace Foundation
- Innovation and Change selected essays and Christianity in the Arab World by Prince El Hassan bin Talal of Jordan published by Majlis El Hassan Amman Jordan 2003 and SCM Press London respectively.
- Bulletin of the Royal Institute for Inter-Faith Studies Vol 5 Number 2 Autumn/Winter 2003 printed by the Institute in Amman Jordan

**Class Schedule per week:**

- 1) Introduction
- 2) & 3) India and Japan in a resurgent Asia-2 lectures including the role of an embassy
- 4) Cross fertilization in civilizations. A shared past
- 5) The Cold War, origins and demise
- 6) Asian Integration: Economic and Cultural
- 7) Conflict Prevention, Management and Resolution
- 8) South Asia-Perspectives and prospects
- 9) Leadership-its role in diplomacy: governance and inner peace
- 10) Regionalism, Multiculturalism and Multilateralism
- 11) Vietnam: perspective and prospects
- 12) Europe-Unity-Peace
- 13) Role of NGO's in international relations a case study: the MS Swaminathan Foundation, Institute of Satya Sai Education, Sasakawa Peace foundation, Toyota Foundation, The Royal Institute for Inter-Faith Studies

**Message to those taking this Course:**

There will be an attempt to invite guest speakers who will be Ambassador from other countries. This may lead to some changes in the titles of the lectures and the structure. The aim is to share experiences in the craft of diplomacy, the practical aspects of conducting international relations, including bilateral relations between 2 countries. Students from all faculties are welcome.

**Grading Methods:**

- Written Exam
- Graded on the basis of participation in class and group discussions and regular attendance.
- There will also be an oral interview for meritorious students

## VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

**Text Books:**

A partial list of films on the course syllabus:

*CEDDO* (SENEGAL, 1978)

*HEARTS AND MINDS* (U.S.A., 1975)

*THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN* (W. GERMANY, 1979)

*QUILOMBO* (BRAZIL, 1984)

*SANS SOLEIL* (FRANCE, 1982)

*TANGO* (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

*WALKER* (U.S.A., 1987)

*Last Samurai* (U.S.A., 2003)

**Grading Methods:**

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

## DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

**Sub Title:**

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

**Course Description:**

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively “unknown” world, and so doing, to reconsider such questions as what is “development” and what is “prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

**Text Books:**

give you hand-out

**Reference Books:**

倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

**Class Schedule per week:**

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

**Message to those taking this Course:**

read several books on developing countries in Southeast Asia

**Grading Methods:**

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance, Participasion (requires 70% attendance)

---

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期) (Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

**Text Books:**

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

**Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

**Class Schedule per week:**

- Introduction
- How to Succeed in Asian Markets
- Asian Market Leaders
- Hybrid Management Styles
- Leading Foreign Firms Successfully
- Local Company and Country Trends
- Country Information Presentations
- Pan-Asia Strategy
- Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
- Political and Economic Risks in Asia

Executive Development and HR  
Challenges in Asia  
Competition with Family Businesses  
Business in Frontier Markets  
Company Presentations

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

**Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

**Evaluations:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

**Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

---

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

(秋学期) (Fall)

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

林 秀毅

経済学部非常勤講師 (新光証券商品企画部部长・グローバルストラテジスト)

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, General Manager Financial Products Planning Department Shinko Securities Co., Ltd)

---

**Course Description:**

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

**Text Books:**

Julie Gilson, "Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century", Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

**References:**

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

**Class Schedule (Subject to change):**

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

### **Message to Those Taking This Course:**

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

### **Evaluation:**

Exam. Reports. Attendance.

### **Questions and consultation:**

Anytime during the class, also by e-mail.

---

産業史各論（科学技術政策史）

（春学期）（Spring）

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

---

### **Course Description:**

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

### **Reference Books:**

Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.

Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.

Penely, Constance. 1997. *NASA/Trek: popular science and Sex in America*. Verso.

Samuels, Richard J., 1994. *Rich Nation, Strong Army*. Cornell University Press.

加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000

中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

### **Class Schedule per week:**

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

### **Evaluation:**

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

### **Inquiries:**

Jonathan\_lewis@mac.com

<http://www.lewis.soc.hit-u.ac.jp>

# 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1—日本のコミュニケーションパターンから見た場合—

(春学期) (Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

## **Sub Title:**

Seen from Japanese communication patterns

## **Course Description:**

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

## **Text Books:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

## **References:**

*Japanese culture and behavior: selected readings* by Takie Lebra & William Lebra

*Japanese patterns of behavior* by Takie Sugiyama Leba

*An introduction to intercultural communication* by John C. Condon & Fathi Yousef

*Intercultural communication :a reader* (6th edition) by L. A. Samovar & R. E. Peter

## **Course Schedule:**

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. *Amae* psychology: prototype of *Amae* and definition of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi, Enryo and Honne* vs. *Tatemae*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2
14. Wrap-up

## **Message to Those Taking This Course:**

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

## **Evaluation:**

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper based on group project.

**Inquiries:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期) (Spring)

**JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION**

キンモンズ, アール H. 国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

---

**Course Description:**

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

**Recommended Reading:**

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction to the course — “Whose images of which Japan?”
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation — Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation — progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching — the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother — the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment — rational choice versus revisionism in the American view of Japan’s “bubble economy”
13. “Comfort Women” and “The Rape of Nanking” — American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state — American images of “post bubble Japan”

**Message to Those Taking This Course:**

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

**Evaluation:**

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

**Inquiries:**

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

## CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ

国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba

Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

**Sub Title:**

Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

**Course Description:**

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student’s own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

**Recommended Readings:**

Will be advised at the beginning of the course.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

**Message to Those Taking This Course:**

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

**Evaluation:**

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student’s own initiative.

**Inquiries:**

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

## THE AWAKENING

アーマー, アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

**Course Description:**

Japanese prose literature of the modern period will be discussed in this lecture course. In “Journey Through the Floating World” last summer, we covered the pre-modern literature of the Tokugawa period, an era that came to an abrupt end with the Meiji Restoration of 1868. The resulting political and social upheaval had a traumatic effect on many aspects of Japanese life, and literature was no exception. Some savored the sharp break with the past, while others looked back on their own cultural heritage for inspiration and continuity. We will focus on the development of the modern novel through the works of such writers as Natsume Soseki, Mori Ôgai, Akutagawa Ryûnosuke, Kawabata Yasunari, Tanizaki Junichirô and Mishima Yukio. Modern film adaptations will also be introduced

**Text Books:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/mezame.htm](http://www.armour.cc/mezame.htm))

**Recommended Reading:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

**Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

**Message to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

**Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

## JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘 商学部助教授

Mitsuhiro Umezu Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description:**

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

**Recommended Reading:**

TBA

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

**Message to Those Taking This Course:**

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

**Evaluation:**

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

---

美術を「よむ」－日本美術史入門

(春学期) (Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

---

**Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Modernity was first and foremost articulated through the construction of the nation state “Japan.” Visual arts played a central role in providing the modern nation with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider broader issues such as commodity consumption, gender, and imperialism in the context of visual representation.

**Requirements:**

1. Short paper (4-5 double-spaced pages)
2. Take-home midterm exam
3. Take-home final exam
4. Two field trips to museums in the area

## Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be put on reserve.

## Proposed Syllabus:

1. *Introduction*
2. *Constructing "Japanese Art"*  
READING: Ellen Conant, "Refractions of the Rising Sun: Japan's Participation in International Exhibitions 1862-1910," (1991); Christine Guth, "From Temple to Tearoom," (1993).
3. *From Edo to Meiji: Takahashi Yuichi and Kanô Hôgai*  
READING: Tôru Haga, "The Formation of Realism in Meiji Painting: The Artistic Career of Takahashi Yuichi," (1971); Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," (1995).
4. *Body and the Nude*  
READING: Norman Bryson, "Yôga and the Sexual Structure of Cultural Exchange," (1994).
5. *Okakura Kakuzô and the Aesthetic Ideology of Asia*  
READING: Excerpts from Okakura Kakuzô, *The Ideals of the East*, (1903) and *The Book of Tea*, (1906); Emiko Usui, "National Identity, the Asiatic Ideal, and the Artist: Okakura Presents the Nihon Bijutsuin in Boston," (1999).
6. *The Modern Artist, Urban Spectacle and the Modernist Vision*  
READING: John Clark, "Artistic Subjectivity in the Taisho and Early Showa Avant-Garde," (1994); Miriam Silverberg, "Constructing the Japanese Ethnography of Modernity," (1992).
7. *Orientalism, Nativism, and Traditionalism*  
READING: Alexandra Munroe, "Circle: Modernism and Tradition," (1994); Yoko Kikuchi, "Hybridity and the Oriental Orientalism of *Mingei* Theory," (1997).
8. *Images After Ground Zero*  
READING: John Dower, "Japanese Artists and the Atomic Bomb," (1993); Yamanashi Emiko, "Painting in the Time of 'Heavy Hands'," (1997).
9. *Action and Expression: the Gutai Association*  
READING: Sin'ichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," (1998).
10. *"Anti-Art" in the 60s*  
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," (1994).
11. *The Postwar Unconscious: Performance and Photography*  
READING: Mark Holborn, "The Object Eye," "Junin-no-me," and Eikoh Hose," (1986); Susan Klein, "The Origin and Historical Context of Ankoku Butô," (1988).
12. *Architecture and the Public Space*  
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," (1986).
13. *Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond*  
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," (1996); Yuko Hasegawa, "Pachinko, Mandala and Merry Amnesia," (1997); Alexandra Munroe, "*Hinomaru Illumination*: Japanese Art of the 1990s," (1994).

## Bibliography:

Bibliography will be distributed at the first class.

---

日本の近代思想：福澤諭吉と丸山真男

(春学期) (Spring)

JAPANESE TRADITION OF MODERN THOUGHT: FROM YUKICHI FUKUZAWA TO MASAO MARUYAMA

坂本 達哉

経済学部教授

Tatsuya Sakamoto

Professor, Faculty of Economics

---

## Sub Title:

Seminar for reading and discussing some key texts from the works of the two most influential thinkers

## Course Description:

This course aims to introduce students to a long and complicated history and its unique characteristics of Japanese modern thought as best represented by the works of Yukichi Fukuzawa, the founder of Keio University, and those of Masao Maruyama, the most single influential thinker in the post-war Japan.

**Text Books:**

No particular text book will be used, but excerpts from the central writings by Fukuzawa, Maruyama and other great Japanese thinkers will be provided as the course develops.

**Class Schedule per week:**

A feature of the course is its seminar style presentation. It uniquely attempts to include ample opportunities for an exchange of opinions between instructor and students and between students. Every class will be divided into three parts. First, an introductory lecture by the instructor will be made to highlight the historical and intellectual backgrounds of the relevant texts to be discussed every time. This is followed by a prepared essay presentation by students. The rest of the class will be devoted to a class discussion. The first half of the entire course will deal with the works of Fukuzawa and the second those of Maruyama.

**Message to Those Taking This Course:**

This course is intended for international as well as Japanese students who eagerly wish to learn the wealth of Japanese intellectual tradition from Fukuzawa to Maruyama in English.

**Grading Methods:**

Grading will be based on attendance, in-class presentations and a short term paper.

---

日本人の心理学 (1)	コンフリクト・マネイジメント	(春学期) (Spring)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)		
手塚 千鶴子	国際センター教授	
Chizuko Tezuka	Professor, International Center	

---

**Sub title:**

Conflict Management

**Course content:**

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict in the West claims that it is inevitable yet not necessary bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts at any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological backgrounds, and the challenges for both Japanese people and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some social psychological measures for self-understanding.

**Textbooks:**

no designated textbook and handouts will be distributed.

**References:**

*Conflict in Japan* edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

*Japanese Culture and Society: model of interpretation* edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Frantz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

**Course schedule (subject to change)**

1. Orientation to the course and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs Conflict Model of Japanese society and orientation to writing conflict episode journals
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi and Gaman* in Japanese Work Place
5. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
6. How Japanese express anger
7. Comparison of conflict management between Japan and U.S.A.
8. Intercultural conflict around the *Ehimemaru* Incident in Jan, 2001

9. Intercultural conflict between Japanese teachers and int'l students
10. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori
11. How to make use of our own anger creatively
12. Wrap-up session

**Messages to students:**

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions. Active participation in pair-work, group work and class discussion is a must.

**Evaluation:**

Overall grade will be based on attendance, essays, participation in class, final presentation, and its resultant final paper. .

**Questions and consultation:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

**Course Description:**

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

**Textbooks:**

No specific textbook will be used.

**Recommended Readings:**

The reading list will be given at the beginning of the term.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

**Evaluation:**

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

## INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

**Sub Title:**

Identity of Japanese sojourners

**Course Description:**

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

**Textbooks:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**Recommended Reading:**

*Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

*The White Plum: a biography of Ume Tsuda* by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

*Intercultural Communication: reader 5<sup>th</sup> ed.*, Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

*Japanese Culture and Behavior (revised edition)* ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

*Japanese Patterns of behavior* ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

*Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness* ed by Ray

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment I: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world
14. Wrap-up

**Messages to Those Taking This Course:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

**Evaluation:**

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

**Inquiries:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or

---

日本キリスト教史

(秋学期) (Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ボールハチエット, ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet

Professor, Faculty of Economics

---

**Sub Title:**

A case study of cross-cultural contact

**Course Description:**

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to about 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, students will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

**Recommended Reading:**

There will be a selection of assigned readings for each class (in Japanese, English and occasionally in other European languages or Chinese). Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

**Class Schedule per week:**

1. Orientation and overview
2. The background: Christianity missionary activity and religion in Japan
3. Jesuit approaches to Japan
4. Japanese approaches to Christianity
5. Christianity and Japanese politics
6. Christianity in Tokugawa Japan (1) Government policies
7. Christianity in Tokugawa Japan (2) Responses to government policies
8. The return of Roman Catholic missionaries and the 'hidden' Christians
9. Christianity and social change in Japan 1859-1945
10. Christianity and patriotism in Japan 1859-1945
11. Christianity in Japan in the second half of the twentieth century
12. Christianity in Japan today
13. Concluding remarks

**Message to those taking this Course:**

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

**Grading Methods:**

Oral presentations (30%), Reports (At least one short and one long) (50%), Attendance and Participation (20%)

**Questions, Requests:**

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>)

多民族社会としての日本

(秋学期) (Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. *Zainichi* Koreans: past and present
5. *Zainichi* Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

**Message to Those Taking This Course:**

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

**Evaluation:**

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定、歴史的記憶、人種から見る明治期日本外交

(秋学期) (Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor Josai International University)

**Sub Title:**

Decision-making, historical memory and race

**Course Description:**

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

### **Text Books:**

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

### **Reference Books:**

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

### **Class Schedule per week:**

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations
4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

### **Message to those taking this Course:**

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

### **Grading Methods:**

The final exam will be given based on the lecture. A short term paper on one of designated questions will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

---

日本の文学

(秋学期) (Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー, アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

---

### **Course Description:**

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

### **Texts:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/jlit.htm](http://www.armour.cc/jlit.htm)).

### **Recommended Readings:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

### **Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

### **Messages to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

### **Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

---

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(秋学期) (Fall)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside

Professor, Faculty of Law

---

### **Course Description:**

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20<sup>th</sup> century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki.

### **Reference Books:**

Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

*English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour*

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

*English Translation: A strange Tale from East of the River*

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』、『地獄変』、『河童』

*English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa*

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』、『蓼喰う虫』

*English Translation Naomi; Some Prefer Nettles*

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渴き』、『憂国』

*English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"*

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

*English Translation Silence*

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

*English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!*

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

*English Translation Hard-boiled Wonderland*

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

### **Grading Methods:**

Reports

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Sub Title:**

The slow pace of economic reform

**Course Description:**

This course aims to help the student to understand the Japanese economic system, the style of economic regulations/deregulations and how the central/local government's involvement in many areas of the economy differs from other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) show several illustrative videos and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries. There will also be some special one-off guests who will talk about their experiences in dealing with regulations in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English).

**Text Books:**

Edward, J. Lincoln, Arthritic Japan: the slow pace of economic reform, Brookings, 2001.

(Now available in Japanese translation (Nippon-hyoron-sha, 2004))

**Reference Books:**

Additional materials will be provided during some sessions as necessary.

**Class Schedule per week:**

(Subject to some changes):

Session 1 guidance and introduction

Session 2-4 the Japanese postwar economic system and related theories

Session 5-6 industrial policy and government involvement in the economy

Session 7-8 the bubble economy and macroeconomic policies

Session 9 the arguments about the current "structural reform" issue

Session 10-11 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system

Session 12-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform and deregulation

**Message to those taking this Course:**

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles (such as those from the Japan Times) as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures.

**Grading Methods:**

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

**Questions, Requests**

The lecturer's contact address is [noriko@fbc.keio.ac.jp](mailto:noriko@fbc.keio.ac.jp)

---

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

---

**Sub Title:**

'Amae' Reconsidered

### **Course content:**

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

### **Textbooks:**

no designated textbook and handouts will be distributed.

### **References:**

*The Anatomy of Dependence* by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

*The Anatomy of Self* by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

*Dependency and Japanese Socialization* by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

### **Course schedule:**

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan
11. Functions of healthy *Amae*: social support?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples
14. Wrap-up session

### **Messages to students:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

### **Evaluation:**

Overall grade will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

### **Questions and consultation:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

---

日本の宗教：救済の探求

(秋学期) (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

---

### **Course Description:**

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

---

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

---

**Course Description:**

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

**Text Books:**

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

**Class Schedule per week:**

1. Introduction  
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" Foreign Affairs, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press, 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"  
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp, 2003.  
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".  
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"  
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment  
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"  
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".  
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"  
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"  
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press, 1997  
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".  
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth  
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"  
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".  
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.  
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way

out”.

Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.

11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.

Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”

Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete?

Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”

Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,

Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”

Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000

Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.

13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”

Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

### **Message to Those Taking This Course:**

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

### **Evaluation:**

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

---

家族の近代

(秋学期) (Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド

経済学部助教授

David M. Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

---

### **Course Description:**

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

### **Text Books:**

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

### **Grading Methods:**

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, essays, and a final paper.

---

日本の金融ビッグバン

(春学期) (Spring)

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師

Graham Harris O.B.E.

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

---

### **Course Description:**

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

### **Text Books:**

Current materials will be used.

### **Class Schedule (Subject to change):**

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign

and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established — many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the current and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

**Evaluation:**

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation

---

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期) (Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

---

**Course Description:**

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

**Recommended Readings:**

“Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

**Message to Those Taking This Course:**

Active participation by students strongly desired.

**Evaluation:**

Report and in-class exam

## 情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

### 1 ガイダンス

4月4日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

### 2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(金) 9:00~16:00

4月11日(月) 9:00~16:00

4月12日(火) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

### 3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

### 4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

### 5 平成17年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料(12,000円)が必要です。なお文学部、経済学部、法学部、商学部生が当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目(文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報リテラシー基礎)を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ(パソコンによる情報整理学)」を申し込む場合には受講料は免除されます。申込み方法は変更ありませんが、学生証を提示してその旨申し出てください。

#### 平成17年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12A	藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13B	江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14A	田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32A	鴻巣 努			5,000円	

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

#### 参考：平成17年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	C言語によるプログラミング入門	11A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
		11B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	コンピュータグラフィックス	31A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

## 情報処理概論Ⅱ (Java) (通年) 4 単位

Java 言語によるプログラミング入門

藤 村 光

### 授業科目の内容:

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

### テキスト:

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

### 参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

### 授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

### 担当教員から履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

### 成績評価方法:

- ・レポートによる評価 (春秋各学期末に実施。上記授業計画の 9. と 15. に該当)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 (各講義の最後に、その日の講義に関する簡単なレポートをメールで送信する)

### 質問・相談:

fujimura-java@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48 時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

## 情報処理概論Ⅲ (通年) 4 単位

パソコンによる情報整理学

江 島 夏 実

### 授業科目の内容:

コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出てからも役立たせることが目的である。

### テキスト:

Computer System Workbook「日本語文書処理」、同「表計算1」、(株)コンピュータ教育工学研究所

### 参考書:

Computer System Textbook「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

### 授業の計画:

[春学期] 情報の表現力を中心に

- ・実践的な文書表現力 4 回
- ・効率的な文書表現 2 回
- ・視覚に訴える表現力 4 回
- ・コンピュータならではの機能の利用 3 回

[秋学期] 情報の収集・加工を中心に

- ・情報の収集・加工の基本=作表 3 回
- ・関数を利用した情報の加工 3 回
- ・視覚に訴えるための情報の加工 4 回
- ・大量データの効率的処理 3 回

### 担当教員から履修者へのコメント:

ワープロソフトや表計算ソフトの基本的操作を習得していることを前提に、演習問題を通して徹底的なパソコンの活用技術の向上を目指す。教科書はバラエティに富み、かつ、分野に偏らない演習を豊富に用意してあるので、パソコン活用の幅を広げ、大学生活や社会人としての活動に役立つ基礎を身につけてほしい。

### 成績評価方法:

- ・レポートによる評価 (春学期、秋学期それぞれ条件に叶う作業を課題として与え、その成果により評価)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席の採否と、平常授業において作成したファイルを提出させ、その状況を評価)

### 質問・相談:

メール等を利用した質問を受け付ける。メールアドレス等については授業開始時に伝達する。

## 情報処理概論Ⅳ (春学期) 2 単位

COBOL

田 窪 昭 夫

### 授業科目の内容:

ビジネス (業務処理) を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理 (業務処理) のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

### テキスト:

大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 -JIS 1992 年版準拠- サイエンス社

### 参考書:

### 授業の計画:

主な学習項目は次の通り。

1. COBOL 言語の仕組み
2. データの入出力とファイル
3. ファイル処理の基本アルゴリズム
4. 並び替え (ソート) 機能を使ったプログラム

### 担当教員から履修者へのコメント:

コンピュータやデータ処理に関する予備知識は必要としない。パソコン実習の課題 (3~4 題) で評価し、試験は実施しない。

### 成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

### 質問・相談:

メール (arttech@sie.dendai.ac.jp) にて受け付けます。

## 情報処理応用Ⅱ (統計解析) (春学期) 2 単位

SPSS による統計解析および多変量解析の実習

鴻 巢 努

### 授業科目の内容:

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得

られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

**テキスト：**

室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

**参考書：**

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

**授業の計画：**

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定, ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析, 重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

**担当教員から履修者へのコメント：**

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

**成績評価方法：**

平常点および期末レポートによって評価する。

## 知的資産センター設置講座（平成 17 年度開講）

### 1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、起業の支援と拡大しています。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品を生み出しています。さらに、バイオ分野を中心にベンチャー企業のスタートアップも相次いでいます。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

### 2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

### 3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―  
(ナテグリニド特別講座)

知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

#### 授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

#### テキスト：

講義資料を配布します。

#### 参考書：

「知的創造時代の知的財産」 清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」 竹田著 ダイアモンド社

「著作権の考え方」 岡本著 岩波新書

#### 授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み

- 3 著作権の仕組み
- 4 商標ブランドの価値
- 5 マルチメディアに関する知的財産
- 6 キャラクタービジネス
- 7 音楽に関する著作権問題
- 8 企業における知的財産戦略
- 9 知的財産に関する世界の動向
- 10 知的財産の紛争処理
- 11 ベンチャー・起業の仕組み
- 12 知的財産ビジネス
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

**履修者へのコメント：**

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

**成績評価方法：**

平常点及びレポートによる評価

**質問・相談：**

授業の最後に質問の時間を設けます。

## 日本語・日本文化教育センター設置講座

### 日本語教育学講座

外国人における日本語教育が一つの専門分野として確立されている現在、日本語教育に携わる者には、言語教育に関する専門的かつ体系的な知識ならびに教授法上の技能が要求されています。また、今後はさらに本塾内外における国際交流が活性化し、外国人留学生に対する日本語教育プログラムの必要性は高まることが予想され、それに伴い優れた日本語教員を養成することが本センターの重要な使命となっています。本講座は、かかる時代の要請に応えるべく設置されています。

学部学生は、所定の条件を満たした場合、本講座の基礎科目（全6科目）を受講することができます。受講資格、選考試験、受講料、単位等についての詳細は以下のとおりです。また、本講座の募集要項を本センター事務室で配布しています。（募集要項の内容は、<http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/jp/tjf/index.html>でも公開しています。）

#### 受講資格

慶應義塾大学学部在籍学生で、文学部設置科目「日本語学Ⅰ」または「日本語学Ⅱ」から1科目、および「日本語教授法Ⅰ」または「日本語教授法Ⅱ」から1科目の合計2科目を履修し、単位を修得した者。かつ、日本語・日本文化教育センターが実施する所定の選考試験に合格した者。

#### 募集人員

若干名

#### ガイダンス

新規出願者は、所定のガイダンス（2005年度は4月7日（木）16:30～ 教室は434教室）に必ず参加してください。参加できない場合は、事前に日本語・日本文化教育センターに必ず連絡をしてください。

#### 手続方法

所定の選考試験を受けて合格した場合、受講が認められます。

履修申告以外の諸手続は、全て日本語・日本文化教育センター事務室にて行ってください。

- ・ 出願手続：2005年4月8日（金）9:00～16:00 日本語・日本文化教育センターにて必要書類および審査料
  - ・ 志願書（所定用紙）
  - ・ 履歴書（用紙は任意。カラー写真1枚を必ず貼付のこと。）
  - ・ 成績証明書（最新のもの）
  - ・ 審査料 3,000円
- ・ 選考試験：2005年4月8日（金）18:10～ 教室は日本語・日本文化教育センター掲示板で発表
- ・ 合格者発表：2005年4月11日（月）午後（予定） 日本語・日本文化教育センター掲示板
- ・ 受講手続：2005年4月15日（金）9:00～16:00 日本語・日本文化教育センター「履修届（所定用紙）」および受講料（1単位15,000円）が必要。
- ・ 履修申告：以上の手続を終えた後に、学事センターにて必ず履修申告を行ってください（履修申告期間に注意）。なお、履修登録番号は、合格発表時にお知らせします。  
履修申告にあたっては、春学期開講科目だけでなく、秋学期開講科目についても行ってください。

#### 単位の取り扱い（文学部生）

文学部において、本講座基礎科目の単位は、「専門教育科目（選択科目）」の単位として取り扱われます。必ず学事センターで履修申告をしてください。

#### 受講方法

基礎科目はどの科目から受講しても構いません。専門科目は、学部学生は受講できません。

## 受講料 (2005年度)

受講料 (1単位) 15,000円 (1科目 30,000円)

## 2005年度 日本語教育学講座時間割

	科目名	単位	担当者名	開講学期	曜日・時限	教室
基礎科目	日本語教育学 1	2	野澤 素子	春	火・5	131C
	日本語教育学 2	2	市川 保子	春	月・5	131B
	日本語教育学 3	2	田中 妙子	秋	水・5	131B
	日本語教育学 4	2	松岡 弘	秋	火・5	131C
	日本語教育学 5	2	村田 年	春	木・5	131C
	日本語教育学 6	2	村田 年	秋	木・5	131C

## 問い合わせ先

慶應義塾大学

日本語・日本文化教育センター (国際センター内)

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL: 03-5427-1614

FAX: 03-5427-1638

URL: [http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/j\\_index.html](http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/j_index.html)

## 日本語教育学 1 日本語の音声

野澤 素子 国際センター教授

## 授業科目の内容:

本講義では、日本語学習者の音声における誤りの発見と適切な矯正を行なうため、日本語教師に求められる日本語の音声の知識と技能について、演習を交えながら概観する。

## 教科書:

担当者作成

## 参考書:

『日本語の音声』窪蘭晴夫著 岩波書店

『日本語概説』加藤彰彦他編 おうふう

## 授業の計画:

1. ガイダンス (1回)
2. 日本語音声の基礎知識
  - 2-1 音声学の専門用語 (計2回)
  - 2-2 音声記号 (計2回)
  - 2-3 実音声の記号化 (計2回)
  - 2-4 日本語の韻律 (アクセント・イントネーション) (計2回)
3. 音声教育の基本技能
  - 3-1 学習者の音声の諸問題 (1回)
  - 3-2 学習者の音声における音素・異音等の指摘 (1回)
4. 音声教育の実践
  - 4-1 教材作成演習 (1回)
5. 最終発表とレポート提出 (1回) 以上計 13 回の予定

## 履修者へのコメント:

なるべく遅刻・欠席のないようにしてください。4回以上欠席した場合は、単位を出さない可能性があります。

## 成績評価方法:

平常点 (出席と参加度)、期間中の課題提出、最終発表および最終レポートによる総合評価

## 質問・相談:

オフィスアワー (授業中に指示) に受け付けます。

**授業科目の内容：**

- ・「外国人に対する日本語教育のための日本語文法」とは何か、どうあるべきかについて実例を通して学びます。
- ・日本語文法の体系的なとらえ方とともに、個別の文法項目についても学習します。
- ・日本語文法に対する理解を深めるとともに、日本語教育の指導に結びつけていくための、基本的な力を身に付けることが本講義の目標です。

**教科書：**

『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子著 スリーエーネットワーク、2000円＋税  
2005年3月発行予定。初回の授業で入手方法等を説明します。

**参考書：**

『日本語誤用例文小辞典』凡人社  
日本語教育指導参考書 22『日本語教育のための文法用語』国立国語研究所

**授業の計画：**

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス、日本語のとらえ方・文（名詞文・形容詞文・動詞文）について
2. 助詞
  - 2.1 格助詞について
  - 2.2 取り立て助詞・「は」と「が」・その他の助詞について
3. 動詞
  - 3.1 活用
  - 3.2 動詞のいろいろ
4. 「い形容詞」「な形容詞」
5. テンス・アスペクト
  - 5.1 ～た・～ている
  - 5.2 時を表すその他の形式
6. ヴォイス（可能形、受身形、使役形、使役受身、使役やりもらい）
  - 6.1 可能形・受身形、
  - 6.2 使役形・使役やりもらい
7. ムード（モダリティ）
  - 7.1 ～（し）よう・～たい等
  - 7.2 ～そうだ・～ようだ・～らしい等

**履修者へのコメント：**

問題意識を持って、積極的に学ぶ学生を歓迎します。

**成績評価方法：**

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業における積極的な発言を評価します。）
- ・その他（授業での課題の発表、及び、作成レジュメを評価します。）

**質問・相談：**

ホームページを通じて適宜行います。

「日本語レッスン（ヤスコの日本語ハウス）」<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>

**授業科目の内容：**

日本語の会話に関する諸問題を概観した上で、日本語教育における会話能力の育成について、特に初級段階での指導内容・指導方法の検討、教材の分析等を行う。また、実習として会話指導のための教材を作成する。さらに、待遇表現についての基礎的知識、指導上の問題点についても触れる。

**教科書：**

担当者作成教材

**参考書：**

開講時に指示

**授業の計画：**

次の内容について講義・実習を行う。

- 1 会話研究の概要
- 2 待遇表現
- 3 表現意図から見た会話
- 4 初級段階における会話の指導
- 5 実習：会話指導のための教材作成

**成績評価方法：**

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他（実習）

日本語教育学 4

松 岡 弘 国際センター教授

**授業科目の内容：**

本講義は、実際に日本語教育にたずさわるに際して求められる、基本的な知識を提供することを目的とする。日本語教育におけるいわば、教師論、教育方法論、教授過程論、教材教具論である。ある言語教育学者の本のタイトルを借りれば、言語教育には 2500 年の歴史があるが、この間、人は外国語または第二言語としてのことばをどのように教え、かつ学んできたか、そして今、どのように教え学んでいるのだろうか。もちろん大きく変化した大胆に改革された部分もあれば、流行とは関係なく、基本的な前提ないしは方法として維持されてきたものがある。そこでこの科目では、言語教育の方法、教授過程、教科書のあり方や作り方、その他教材・教具・絵教材の使い方といった基本的な事柄を、時に歴史的視野に立ち、必ずしも日本語教育だけに限定せず、理論面と実践面の双方から考えてみたい。また、現代のように学習者が多様化した多文化社会での、学習目的別や専門分野別の教育・教材などについても論ずることにしたい。

**教科書：**

プリントを適宜、授業時に配布する。

**授業の計画：**

開講時に説明する。

**成績評価方法：**

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価

**質問・相談：**

授業終了時に受け付ける。

日本語教育学 5

村 田 年 国際センター教授

**授業科目の内容：**

直接日本語教授法の実践的能力の養成を目標とする。大学レベルの学習者を対象とする初級教材の分析を通じて、言語要素の構築方法ならびに当該レベルの指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、句型教育を柱とした授業の方法、教材・教具の扱い方を学ぶ。この科目では、初級レベルの前半段階（第 1 課～第 12 課あたりまで）に焦点を当てる。

**教科書：**

『初級日本語』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

**参考書：**

『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

**授業の計画：**

次の講義計画で授業を進めます。

初回 ガイダンス、直接日本語教授法について

2 回目以降の授業では、テキストの課にそって担当者が教案を 1 課ずつ作成し、それに対して学習項目の確認を行うと同時に、指導上の問題点をとり上げ、解説を行う。

**履修者へのコメント：**

毎回の出席を求めます。また、継続して秋学期の日本語教育学 6 を履修するようにしてください。

**成績評価方法：**

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・学期末レポートによる評価

**質問・相談：**

授業終了後に受け付ける。

**授業科目の内容：**

日本語教育学 5 の内容を踏まえた上で、初級後半レベルの教材分析を行い、言語要素の体系的な構築方法ならびに直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を通じて、文型教育を柱とした授業の展開方法、教材・教具の扱い方を学ぶと同時に、中・上級レベルへとつながる問題点を考える。この科目では、初級レベルの後半段階（第 13 課～第 28 課）に焦点を当てる。

**教科書：**

『初級日本語』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

**参考書：**

『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

**授業の計画：**

次の講義計画で授業を進めます。

初回 序 学習段階別の到達目標の明確化と授業方法の段階的な変化について

2 回目以降は、日本語教育学 5 に引き続き、テキストの課にそって担当者に教案を 2 課ずつ作成してもらい、その文型項目についての検討を中心に、当該学習段階における指導上の問題点を取り上げ、解説を行う。

**履修者へのコメント：**

毎回の出席を求めます。この科目は原則として日本語教育学 5 を修了した者を対象とします。

**成績評価方法：**

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・学期末レポートによる評価

**質問・相談：**

授業終了後に受け付ける。